

SYLLABUS

就実大学経営学部

Faculty of Business Administration
Department of Business Administration



SHUJITSU UNIVERSITY

平成30年度
2018

目 次

総合教養教育科目	1
外国語教育科目	81
経営学 科	137
医療 秘 書	259
索引	275

綜合教養教育科目

科目名 人権の現代的課題 a・b		担当者 平 松 正 臣
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 人権（Human Rights）の現代的課題の基礎理解を図る。		
【授業の概要】 現代社会における，様々な領域における偏見や差別に原因を歴史や事例を通して学ばせる。		
【到達目標】 学生に個の尊重，尊厳の重視という根源的な課題に気付く感性を育むことを通して，人権を正しく理解し偏見や差別の解消に結びつける。		
【授業計画】 1. 人権の尊重・平和の概念 2. 人権の尊重・平和の実現 3. 人権とは何か 4. 人権の思想Ⅰ 5. 人権の思想Ⅱ 6. リベラリズム 7. 自己決定権Ⅰ 8. 自己決定権Ⅱ 9. 幸福追求権 10. 女性に対する差別 11. 女性に対する人権侵害 12. 宗教と差別 13. ハンセン氏病と差別 14. 身分差別 15. 差別の解消		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 講義中に適宜紹介する。		
【授業外学習】 【授業外学習】 Homework 次回の授業範囲について，図書館等で予習しておくこと。		
【成績評価の方法】 定期試験60%，授業態度20%，レポート20%		

科目名 法学		担当者 俣野英二
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 「法的」に考えるための基礎を学ぶ。		
【授業の概要】 法学における基礎知識を概説した後、憲法、民法、刑法の特徴を見た後、著名な論点を使用して、各法の解釈の特徴、複数の法の視点から考える法解釈を考える。		
【到達目標】 身近な法律上の紛争を法的三段論法を使用して考えることができる。		
【授業計画】 1. ガイダンス、法の適用と解釈 2. 条文の構造等、条文の解釈 3. 各法分野における法解釈の特徴 4. 法解釈と利益衡量論、解釈の対象となる法 5. 法解釈総論まとめ1（小テスト1）、民法1（物権的請求権） 6. 法解釈総論まとめ2（小テスト1講評）、民法2（権利概観法理） 7. 民法3（瑕疵担保責任）、刑法1（財産犯と民事法） 8. 刑法2（過剰防衛）、刑法3（不信性不作為犯） 9. 憲法1（衆議院の解散） 10. 憲法2（人権の限界に関する解釈論の「型」） 11. 法解釈各論まとめ1（小テスト2）、広島市暴走族追放条例事件1（憲法の視点） 12. 法解釈各論まとめ2（小テスト2講評）、広島市暴走族追放条例2（刑法の視点） 13. 立川テント村事件1（刑法の視点）、2（憲法の視点） 14. 利息制限法と司法（民法の視点）、2（憲法の視点） 15. 法解釈各論まとめ3（2つの視点から考える法解釈）		
【テキスト】 山下純司、島田聡一郎、宍戸常寿『法解釈入門——「法的」に考えるための第一歩 補訂版』（有斐閣、2018年）ISBN 978-4-641-12601-5		
【参考図書・参考資料等】 中川淳編『市民生活と法〔第4版〕』（法律文化社、2014年）ISBN 978-4-589-03617-9		
【授業外学習】 準備学習：テキストを読み、新出の法律用語の定義を覚える。意味を知らない言葉を辞書で調べる。（約30分） 復習・自主演習：講義終了後、講義で行った論点の整理及び質問の解答を文章化して整理する。（約1時間）		
【成績評価の方法】 期末試験60％、小テスト2回20％、授業ごとに提出するレポート20％。 課題図書のリポート（任意）は、20％の範囲内で上記素点に加算する。		

科目名 日本国憲法 a・b		担当者 俣野英二
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 日本国憲法に関する基本原理及び基礎知識を学ぶ。		
【授業の概要】 日本国憲法の基本原則を概説する。身近な問題を取り上げ、憲法の基本原理から憲法上の問題の本質を分析し、見解の対立の背景を明らかにする。授業は、テキストや身近な事例を素材に、ソクラテス・メソッド及び小テストを使用して、学生各自の憲法的思考の習得を目指す。		
【到達目標】 憲法の基本原理を理解し、その原理及び資料データを活用して身近な憲法問題を考えることができる。		
【授業計画】 1. ガイダンス、法律を学ぼう 2. 憲法とは何か、憲法の特質 3. 立憲主義と現代国家、法の支配 4. 基本的人権の原理、憲法総論まとめ1（第1回小テスト） 5. 憲法総論まとめ2（第1回小テスト講評）、基本的人権の限界1（公共の福祉） 6. 基本的人権の限界2（私人間効力等）、包括的基本権と法の下での平等 7. 校則と生徒の自己決定権、精神的自由権（思想良心の自由、学問の自由） 8. 精神的自由権2（表現の自由）、経済的自由権 9. 受益権、参政権、社会権、人権まとめ（第2回小テスト） 10. 人権まとめ2（第2回小テスト講評）、権力分立 11. 国会、内閣 12. 裁判所、憲法訴訟 13. 地方自治、統治機構まとめ1（第3回小テスト） 14. 統治機構まとめ2（第3回小テスト講評）、いじめと人権1（いじめの定義） 15. いじめと人権2（人権侵害と関係者の法律関係）		
【テキスト】 伊藤真『伊藤真の憲法入門 第6版』（日本評論社、2017年）ISBN 978-4-535-52304-3 現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権 第3版』（法律文化社、2017年）ISBN 978-4-589-03871-5		
【参考図書・参考資料等】 西原博史、斎藤一久『教職課程のための憲法入門』（弘文堂、2016年）ISBN 978-4-335-35652-0		
【授業外学習】 準備学習：テキストを読み、新出の法律用語の定義を覚える。意味を知らない言葉を辞書で調べる。（約30分） 復習・自主演習：講義終了後、講義で行った論点の整理及び質問の解答を文章化して整理する。（約1時間）		
【成績評価の方法】 期末試験50%、小テスト3回30%、授業ごとに提出するレポート20%。 課題図書レポート（任意）は、20%の範囲内で上記素点に加算する。		

科目名 社会学の世界と歴史		担当者 中 塚 朋 子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 社会学は、社会のしくみや人間関係について探究する学問である。そして、社会的な関係が個人の振る舞いに与える影響について考える。社会学の基礎的な概念や理論について理解を深め、現代社会における人間関係の諸相を多角的にとらえる視点を学ぶ。</p>		
<p>【授業の概要】 社会は、人間と人間の関わりから成り立ち、一人ひとりの人間に還元できないかたちで現れる。一方、一人ひとりの人間は、そうした人間と人間の関わりの中で社会的な存在となっていく。社会学の概念や理論について概説するとともに、身近に観察できる日常的な現象から社会問題まで幅広く取り上げ、人びとの相互行為や社会の変化について考察する。</p>		
<p>【到達目標】 日常の出来事から時事問題まで、社会で起きている現象について情報を整理・把握し、その特徴や変化・変動の過程について論理的・実証的に検討する能力を養う。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学とは何か 2. 社会的存在としての人間 3. 個人・集団・社会 4. 社会的行為とその意味 5. 相互行為を可能にするメディア 6. 自己と他者 7. 地位と役割 8. 役割演技と役割距離 9. 印象管理と儀礼的無関心 10. ステイグマ、偏見と差別 11. 社会規範と逸脱、ラベリング 12. 社会問題の構築 13. 物語るという行為 14. 行為と社会構造 15. カテゴリー化実践、相互行為における秩序 		
<p>【テキスト】 テキストは指定しない。随時、関連する資料を配布する。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 日本社会学会社会学事典刊行委員会編，2010、『社会学事典』丸善。 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編，2017、『社会学の力—最重要概念・命題集』有斐閣。 松田健，2008、『テキスト現代社会学〔第2版〕』ミネルヴァ書房。 現代位相研究所編，2010、『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる社会学』現代位相研究所。</p>		
<p>【授業外学習】 ・普段から時事問題に触れる機会を持ち、日常生活で起きる現象を観察し、社会的な視点から考察すること。 ・授業時間中の小レポートについて振り返りを行い、復習を行うこと。 ・e-learningシステムに授業に関する情報を提供するので、随時確認しておくこと。</p>		
<p>【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢および小レポート（20%）、期末レポート（80%）によって総合的に評価を行う。</p>		

科目名 社会学概論 A (ジェンダーと社会)		担当者 中 塚 朋 子
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ジェンダー研究の視点から、多様化する人びとの生と社会の関係について考える。とくに、家族、労働、医療とのかかわりに焦点をあてながら、現代社会における性をめぐる現象について理解を深める。		
【授業の概要】 ジェンダー、家族、労働、医療に関する研究分野の基本的概念や理論をふまえ、個人と社会が取り結ぶ関係とその変化について学習する。おもに、多くのひとびとが経験する傾向にあるライフイベント（恋愛、就職、離家、結婚、妊娠、出産、育児、再就職、離婚、介護など）を中心に、ライフコースの時間軸に沿って関連する諸現象について分析する視点を学ぶ。 その一方で、平均的なライフコースが帯びる規範性や、生き方の多様性を模索する人びとの存在と社会の関係についても焦点をあて、「あたりまえの生き方」や「ふつうの生き方」といったイメージや常識を再考できる視点を獲得する。授業のテーマに合わせて映像資料を視聴することもある。		
【到達目標】 日常の出来事から時事問題まで、社会で起きている現象について情報を整理・把握し、その特徴や変化・変動の過程について論理的・実証的に検討する能力を養う。		
【授業計画】 1. 授業の進め方、社会学とは何か 2. ジェンダーの視点 3. ジェンダーと性別二元社会 4. ジェンダーと規範 5. ジェンダーをめぐる社会運動 6. ジェンダーをめぐる研究動向 7. ジェンダーとセクシュアリティ 8. ジェンダーと教育 9. ジェンダーと労働 10. ジェンダーと家族 11. ジェンダーとライフコース 12. 恋愛と結婚 13. 離婚・再婚 14. 妊娠と出産 15. 生殖補助医療と子をもつこと		
【テキスト】 テキストは指定しない。随時、関連する資料を配布する。		
【参考図書・参考資料等】 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著、2013、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房。 加藤秀一・海老原暁子・石田仁、2005、『図解雑学ジェンダー』ナツメ社。 加藤秀一、2017、『はじめてのジェンダー論』有斐閣。 千田有紀・中西祐子・青山薫、2013、『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。 江原由美子・山田昌弘、2008、『ジェンダーの社会学入門』岩波書店。 岩上真珠、2007、『ライフコースとジェンダーで読む家族〔改訂版〕』有斐閣。 落合恵美子、2004、『21世紀家族へ〔第3版〕』有斐閣。		
【授業外学習】 ・普段から時事問題に触れる機会を持ち、日常生活で起きる現象を観察し、社会的な視点から考察すること。 ・授業時間中の小レポートについて振り返りを行い、復習を行うこと。 ・e-learningシステムに授業に関する情報を提供するので、随時確認しておくこと。		
【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢および小レポート（20%）、期末レポート（80%）によって総合的に評価を行う。		

科目名 基礎経済学（＝経済と生活）		担当者 大 崎 泰 正
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 経済と金融に関する基礎的な知識と考え方を習得する。		
【授業の概要】 私たちの生活行動，つまり衣食住から，勉強，余暇などほとんど全ての活動は，お金や市場経済に密接に関わっている。このため，お金の働きや経済の仕組みについて理解を深めることは，この先一人一人が「よりよく生きる」ための大きな力になり得ると思われる。身近な話題を取り上げながら社会生活に必要な「経済知力」「金融知力」を修得する。		
【到達目標】 ①お金の役割，市場経済の仕組みについての基礎的な知識を身につける。 ②日常的な経済記事や報道の内容が大筋で理解できるようになる。		
【授業計画】 1. 経済学とは何か 2. 経済学思考の基本 3. 経済学思考の基本 4. 市場機能と貨幣の役割 5. 市場の限界と政府の役割 6. マクロ経済のとらえ方 7. GDP，物価などマクロ経済の重要視表の見方 8. 景気循環と経済成長（短期的視点と長期的視点） 9. マクロ経済における政府の役割 10. 貨幣と金融機関の役割① 11. 貨幣と金融機関の役割② 12. 現下の日本経済 13. グローバリゼーションと日本経済・地域経済 14. 危機的な財政状況と日本経済・地域経済 15. 少子高齢化の経済への影響		
【テキスト】 教科書は指定しない。資料を配付する		
【参考図書・参考資料等】 随時，紹介する		
【授業外学習】 経済に関する新聞記事やテレビ報道等に関心をもって接し，それらを経済学的に考える習慣を身につけること。		
【成績評価の方法】 定期試験（60%），及び講義ないで実施する小テスト・講義への取組姿勢（40%）で評価する。		

科目名 基礎経営論		担当者 野本 明成 他
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 経営学は、企業、学校、政府、自治体、病院等の様々な組織体の経営を対象としています。経営学においては企業の経営が取り上げられることが多く、基礎経営論においても企業の経営を取り上げ、経営史を俯瞰しつつ企業目的の達成のために、どのような組織を構成し、維持、運営していくかについて学習します。		
【授業の概要】 授業は次の7つのテーマで構成され、それぞれのテーマについて事例等を通して理解しやすく説明します。 ①経営史、②経営組織、③マーケティング、④流通、⑤経営統計⑥マーケティング・リサーチ、⑦会計。		
【到達目標】 企業は、大企業から零細企業までさまざまな規模の企業があり、また製造業からサービス業までさまざまな業種・業態まで幅広く設立・運営されていますが、経営の機能には相違はありません。さまざまな企業の経営を行うための各種の役割を理解し、習得することを目指します。 「専門的知識や技能を習得し、地域や国際社会で活用することができる」および「社会人として必要となる社会人基礎力や応用力を育成する」事を目指します。		
【授業計画】 1. イントロダクション (野本) 2. 経営史 (1) (大崎) 3. 経営史 (2) (大崎) 4. 経営組織 (1) (三浦) 5. 経営組織 (2) (三浦) 6. マーケティング (1) (加賀美) 7. マーケティング (2) (加賀美) 8. 流通 (1) (青山) 9. 流通 (2) (青山) 10. 経営統計 (1) (大倉) 11. 経営統計 (2) (大倉) 12. マーケティング・リサーチ (1) (野本) 13. マーケティング・リサーチ (2) (野本) 14. 会計 (1) (真田) 15. 会計 (2) (真田)		
【テキスト】 『ゼミナール経営学入門』伊丹敬之・加護野忠雄著、日本経済新聞社、ISBN：9784532132477。		
【参考図書・参考資料等】 1. 『経営学入門 (上・下)』榊原清則著、日経文庫、ISBN：4-532-10853-5。 2. 『経営入門』高村寿一著、日経文庫、ISBN：4-532-10944-2。 3. 『入門経営学』亀川雅人・鈴木秀一著、サイエンス社、ISBN：9784883841707。 4. 『1からの経営学』加護野忠雄・吉村典久編著、中央経済社、ISBN：9784502696107。		
【授業外学習】 授業中に資料等を配布するとともに、小テスト、小レポートを課しますので、復習してください。		
【成績評価の方法】 授業中に課す小テスト・小レポート等に基づいて総合的に評価する (100%)。		

科目名 コラボレーション学修2（＝生活に役立つ統計）		担当者 毎熊 隆誉 他
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 日常で遭遇する様々な数字は、読む者の捉え方によって異なった印象を生む。本講義では、情報社会を豊かに生活していくために、数値データの集まりをどう表現するのか、データの広がり・ばらつき・傾向など数値の集団特性や傾向に着目する。これらの知識を活用して、身近な数値データを少しずつ紐解き、真意を解釈する。</p>		
<p>【授業の概要】 日常生活で遭遇する数字を解釈するために、まず、統計学の基本事項（平均値等によるデータの記述、標準偏差、相関と回帰の意味）を学ぶ。その後、教育・児童・社会福祉、医療・健康、および経営・経済・製品開発・製品管理の立場から日常で遭遇する数字やデータを解釈し、その真意を理解する。</p>		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計学の基本事項（代表値、散布度、相関・回帰）について学ぶ。 ・日常で遭遇する様々な数字の読み方を知り、その真意を解釈する。 ・日常で遭遇する様々な数字の真意を踏まえて、自身の行動に生かす。 		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常的な出来事や体験を数値化する 2. 数値化するための方法を作成する 3. 数字やデータの集まりを表現する；代表値としての平均値 4. 数字やデータの集まりを表現する；その他の代表値とデータの視覚化 5. 数値群の広がりや偏りに着目する；標準偏差とは？ 6. 数値群の広がりや偏りに着目する；数値のパラッキを利用する 7. 数値の集団としての傾向に着目する；相関とは？回帰とは？ 8. 数値の集団としての傾向に着目する；集団としての傾向を利用する 9. 確率論的にデータを解釈する 10. 日常で遭遇する様々な数字を考える；事例その1 11. 日常で遭遇する様々な数字を考える；事例その2 12. 日常で遭遇する様々な数字を考える；事例その3 13. 日常で遭遇する様々な数字を考える；事例その4 14. 日常で遭遇する様々な数字を考える；事例その5 15. 日常で遭遇する様々な数字を考える；事例その6 		
<p>【テキスト】 使用しない</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】</p>		
<p>【授業外学習】 各担当者より課されたレポートについて積極的に取り組んで下さい。 「日常の数字」について考えることは、自分自身について考えることにもつながります。授業では教員と学生の双方向だけではなく、学生間のマルチ方向での交流を目指しています。この授業だけではなく、他の機会でも、他者が何についてどのように考えているのか、自分はどのように考える傾向があるのか、よく見て聴いて考えてみて下さい。</p>		
<p>【成績評価の方法】 各担当者より課した提出物・レポート（70%）、および講義への取り組む姿勢（30%）を総合的に判断して評価する。</p>		

科目名 健康と衛生（＝健康と食品）		担当者 平本 一幸 他
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 食の安心・安全をテーマにした授業です。食品を通して起こる健康障害と、その予防法について解説します。		
【授業の概要】 食品を介して起こる健康障害である感染症・食中毒・寄生虫症などのほか、環境汚染有害物質によるものなどについて解説します。代表的な食品添加物・農薬・内分泌攪乱物質・細菌・ウイルス・遺伝子組換え食品などの問題についても触れます。高校で生物や化学を履修していない学生でも理解できる、日常生活に役立つ授業内容です。		
【到達目標】 食品を介して起こりうる健康障害について知り、特に食品媒介感染症・食中毒の予防についての知識を日常生活で実践できるようになることを到達目標とします。また、農薬や食品添加物・遺伝子組換え食品の危険性について、正しい理解を得ることも目標です。		
【授業計画】 1. 序論 — 食品衛生とは 2. 最近の食品衛生上の問題, 食品規格基準 3. 食品衛生微生物（細菌） 4. 食品衛生微生物（カビ, ウイルス, その他の微生物） 5. 食品媒介感染症・食中毒発生状況 6. 細菌による食品媒介感染症・食中毒（サルモネラ属菌, チフス菌, 赤痢菌, 腸炎ビブリオ, コレラ菌など） 7. 細菌による食品媒介感染症・食中毒（大腸菌, カンピロバクター, ウェルシュ菌など） 8. 細菌による食品媒介感染症・食中毒（黄色ブドウ球菌, セレウス菌, ボツリヌス菌など） 9. ウイルスによる食品媒介感染症・食中毒（ノロウイルスなど）, 原虫による食品媒介感染症 10. 食品媒介寄生虫症, プリオン病 11. 自然毒による食中毒, 化学物質による食中毒 12. カビ毒, 食品の変質とその防止法 13. 台所などでの食品衛生微生物対策（食品媒介感染症の予防） 14. 有害物質による食品汚染（重金属, 放射性物質, 有機塩素化合物, 農薬など） 15. 遺伝子組換え食品, 食品添加物, まとめ		
【テキスト】 指定しない		
【参考図書・参考資料等】 書名が「食品衛生学」「環境衛生学」などで, 出版年ができるだけ最近（数年以内）のもの。		
【授業外学習】 日常的に, ニュースや新聞などの食品衛生に関する話題に敏感になる。		
【成績評価の方法】 試験の成績に基づき, 学則に従って評価する。		

科目名 健康と栄養		担当者 平本 一幸・渡邊 政博 川上賀代子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 健康を維持・増進するために必須である健全な食生活を営むには、食品に含まれている栄養素について正しい知識を持つことが重要です。栄養素の性質や体内での役割など栄養学の基礎を解説し、現代の食生活の問題点についても考えます。		
【授業の概要】 五大栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、無機質、ビタミン）・水・食物繊維などの性質と体内での役割の解説、日本人の栄養の現状、食生活上の問題点と改善方法の解説、生活習慣病の現状とその予防法の解説をします。高校で生物や化学を履修していない学生でも理解できる、日常生活に役立つ授業内容です。		
【到達目標】 各栄養素の性質や体内での役割を知り、健全な食生活とはどのようなものかを理解し、日々の食生活においてこれを実行して、自らや家族の健康を維持・増進することができるようになることを到達目標とします。		
【授業計画】 1. 序論—栄養とは、栄養素とは、「日本食品標準成分表」 2. 「日本人の食事摂取基準」と栄養の現状 3. 日本人の食生活と健康、肥満・やせ 4. 食欲、食行動異常、食物の消化、栄養素の吸収 5. 炭水化物の種類（単糖類、少糖類、多糖類） 6. 炭水化物の消化と吸収 7. 炭水化物の代謝（血糖の調節、ブドウ糖の代謝、エネルギー産生、中性脂肪の合成）、糖尿病 8. 脂質の種類（中性脂肪、コレステロール、脂肪酸の種類） 9. 脂質の消化・吸収・運搬、脂肪酸の代謝 10. 脂質の栄養（リポタンパク質の機能と疾病）、過酸化脂質の人体への影響 11. タンパク質の消化と吸収、アミノ酸の種類・機能、タンパク質の栄養価 12. 無機質の種類、無機質と健康障害（骨粗鬆症、高血圧など）、水 13. 脂溶性ビタミンの種類と機能 14. 水溶性ビタミンの種類と機能 15. エネルギー代謝（基礎代謝、運動など）、がん予防		
【テキスト】 指定しない		
【参考図書・参考資料等】 書名が「生化学」「栄養学」「栄養化学」などで、出版年ができるだけ最近（数年以内）のもの。		
【授業外学習】 復習をしっかりとしておく。 身の回りの栄養・栄養素に関する話題に敏感になる。		
【成績評価の方法】 試験の成績に基づき、学則に従って評価する。		

科目名 化学の世界と歴史		担当者 増田 和文・齋藤 啓太
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 現代の化学技術は、近代化学の黎明期において多くの天才・偉才によりなされた画期的な発見・発明にそのルーツを見ることができる。本講義ではこれら化学・薬学・医学に深く関わる歴史上の重要な化合物がどのようにして発見され、発展してきたかを概観する。		
【授業の概要】 爆薬として人の命を奪う側面と、心臓病治療薬として人の命を救う側面を併せもつニトログリセリン等々テキストに沿って史実やエピソードを交え講義を進める。		
【到達目標】 化学・薬学・医学に深く関わる歴史上の重要な化合物がどのようにして発見され、発展してきたかを理解し説明できる。		
【授業計画】 1. ノーベルが欲しかった化合物（ニトログリセリン）／増田 2. 生物における右と左の秘密（二種類の酒石酸）／増田 3. 漢方薬から覚醒剤（エフェドリンとメタンフェタミン）／増田 4. 結晶化された初めてのホルモン（アドレナリン）／増田 5. ビタミン学のはじまり（オリザニンの発見）／増田 6. 化学療法のはじまり（トリパンロート）・化学者が放った魔法の弾丸（スルファニルアミド）／増田 7. 生命現象解明へのアプローチ（インスリンの正体）／担当：増田 8. 毒ガスから生まれた制がん剤（ナイトロジェンマスタード）／増田 9. 解明されたフグ毒の不思議（テロロドトキシン）／齋藤 10. ヤナギの小枝が痛みを止めた（アスピリン）／齋藤 11. アスピリンが明かした炎症の謎（プロスタグランジン）／齋藤 12. 視床下部ホルモンをめぐる闘争（TRFとLRF）／齋藤 13. 最長の歴史をもつ医薬品（モルヒネ）／齋藤 14. 脳内にあったモルヒネ様物質（オピオイドペプチド）／齋藤 15. 遺伝子の正体の解明（DNAの記録(1)）・遺伝子治療へのアプローチ（DNAの記録(2)）／齋藤		
【テキスト】 山崎幹夫 著『歴史の中の化合物—くすりと医療の歩みをたどる—』（東京化学同人）ISBN：4-8079-1267-4		
【参考図書・参考資料等】 山崎幹夫 著『薬の話』（中公新書） 山崎幹夫 著『毒の話』（中公新書）		
【授業外学習】 毎回授業の予習・復習を行い、内容を良く理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 レポート（60%）、平常点（提出物、講義の受講態度・意欲等）（40%）に基づき評価する。		

科目名 環境と地球（＝化学と環境問題）		担当者 中西 徹・渡辺 雅彦 阿藤 寛明
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 地球環境は私たちの生存の基本であり、環境と地球についての理解は現代人にとっての必須事項である。本授業ではこのテーマについての講義を行う。		
[授業の概要] 3人の教員がそれぞれ異なる視点から環境と地球に関する講義を行う。詳細は授業計画を参照のこと。		
[到達目標] 3人の教員それぞれにおける授業内容を理解し、環境と地球に関する諸問題、両者の関係等についての基本的事項や考え方を身につけることを目標とする。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 温度とは一熱を感じてみる（渡辺） 2. 電磁波と熱—放射熱と放射温度計（渡辺） 3. 電磁波の吸収—黒い紙と二酸化炭素（渡辺） 4. 大気成分と電磁波の吸収（渡辺） 5. 地球温暖化について（渡辺） 6. 化学物質と毒性(1):カドミウム（阿藤） 7. 化学物質と毒性(2):ダイオキシン（阿藤） 8. 化学物質と毒性(3):ヒ素（阿藤） 9. 化学物質と毒性(4):水銀（阿藤） 10. 化学物質と毒性(5):農薬（阿藤） 11. 地球を取り巻く放射線（中西） 12. 放射線の性質とその作用（中西） 13. 生物への放射線の影響（中西） 14. 身近な放射線を測定してみよう（中西） 15. 放射線の活用と防護（中西） 		
[テキスト] なし。適宜資料を配付する。		
[参考図書・参考資料等] 薬学領域の放射化学 飯田靖彦, 中西 徹, 上田真史 廣川書店 ISBN978-4-567-26170-8		
[授業外学習] 授業内容に関する情報を事前に収集し、授業後は復習を行う。		
[成績評価の方法] 3人の教員がそれぞれ評価を行い、それらを合計して総合評価とする。		

科目名 からだの構造と機能（＝人体の構造と機能）		担当者 小野 浩重・松尾 浩民 洲崎 悦子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 からだの構造とそのはたらきについて理解を深め、毎日の健康維持と生活の質の向上に役立てるとともに、疾患や薬物治療を学ぶ上での基礎知識を身につけることを目的とする。併せて、疾病に伴う構造や機能の変化について理解する。		
【授業の概要】 ヒトは誰しも病気には罹りたくなく、病気に罹った場合は早く治したいと願う。そのためには病気の予防および治療に関わる事柄を知る必要があり、人体の構造と機能について学ぶことは重要な位置を占めている。なぜならば、正常な人体の仕組みを学ぶことによって、人体の病的状態を理解することができるからである。以上を踏まえ、本講義では解剖生理学をわかりやすく解説するため、イラストや図版を多く用いたテキストを使用するほか、随時ビデオ学習も取り入れ、人体の構造および機能の修得に取り組む。		
【到達目標】 ・からだの構造とその機能について理解を深める。 ・ヒトにおける疾患について理解を深める。 ・健康の維持および生活の質の向上との関連について理解する。		
【授業計画】 1. 細胞と組織（松尾） 2. 腎・尿路系（松尾） 3. 内分泌系（松尾） 4. 生殖器系（松尾） 5. 感覚器系（松尾） 6. 皮膚組織，体温調節（松尾） 7. 免疫系（松尾） 8. メタボリックシンドローム（小野） 9. 消化器系（小野） 10. 血液・造血器，リンパ系（小野） 11. 循環器系（小野） 12. 呼吸器系（小野） 13. 骨格系，筋肉系と運動機能（小野） 14. 神経系（小野） 15. 全体のまとめ（洲崎）		
【テキスト】 志村二三夫，岡純，山田和彦 解剖生理学（人体の構造と機能） 羊土社 978-4-7581-0869-0		
【参考図書・参考資料等】 「解剖生理学ノート」人体の構造と機能 志村二三夫，岡純，山田和彦（羊土社） 「解剖生理をおもしろく学ぶ」 増田敦子 著（医学芸術新社）		
【授業外学習】 ・毎回授業内容に関する予習を行い、専門用語の意味などを理解しておくこと。 ・授業の最初に前回内容に関する小テストを実施するので、復習を行うこと。 ・授業内容に関する疑問点は自己解決を試みた後、質問を行うこと。		
【成績評価の方法】 授業毎に行う小テストの成績及び試験の成績をもとに総合的に評価する。		

科目名 生命機能のプログラム（～命と病～）		担当者 末 丸 克 矢
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 遺伝子の情報に基づいて様々な機能に専門化した細胞が作られ、その細胞の機能的集合体が臓器となる。ヒトの生命活動を維持する機序と疾病との関連について学ぶ。		
【授業の概要】 遺伝子と臓器を切り口として、できるだけ分かりやすく生命機能の巧みな仕組みを紹介し、疾病との関係について講義する。		
【到達目標】 生命機能の仕組みと疾病との関係について理解する。		
【授業計画】 1. 生命とは何か 2. 老化と寿命 3. 時計遺伝子と体内時計 4. 色の遺伝子と眼の病気 5. ウイルス・細菌の遺伝子と感染症 6. 進化と骨の病 7. 呼吸の遺伝子と病 8. がんと遺伝子 9. 肥満と糖尿病 10. 高血圧と腎臓病 11. 心の遺伝子と薬物乱用 12. ストレスと心の病 13. 記憶と遺伝子 14. 心を読む遺伝子と脳の発達 15. 科学と生命倫理		
【テキスト】 教科書は特に設けない。適宜プリント資料を配布する。		
【参考図書・参考資料等】 講義中に指示する。		
【授業外学習】 授業中に指示する事項について復習し、その意味を理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 授業ごとに実施する課題レポート（60％）と定期試験（40％）の成績で評価する。		

科目名 こころの健康科学 a・b		担当者 石 垣 明 美
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 健康なこころとはどういうことをいうのか。元気で明るく見えていればこころが健康ということなのか。 人は、自分の人生をより自分が思うものにしたいたいと悩む。自分らしくありたいと悩む。そうであれば、悩むということとはたして不健康なことだろうか。むしろ、自分の人生については、悩むところでは悩まねばなるまい。不安に耐えて悩む力の正体とは。		
【授業の概要】 人の心には、いろいろな側面がある。一面だけを見てその人を語ることはできない。また、こころを取り出して見てみることもできない。どうすれば、人の心・内面を近づくことができるだろうか。この授業では、一番身近な人間「自分」を知る作業から始める。自分も相手も大切にしたいコミュニケーションについて考えたり、自分が行き詰っている悩みについて、絡まってしまった思考から抜け出せるための練習にもトライする。		
【到達目標】 自分の内面・性格傾向を知っておくことは、自分らしく生きることや、困難を乗り越える自分なりのやり方を見つけることのための第一歩である、ということを理解する。人生や生活の中で起こる問題についての解決への思考力を身につける。		
【授業計画】 1. 本授業の概要と目的・心の健康とは。 2. エゴグラム 3. エゴグラムをさらに深く理解する。 4. エゴグラムから見た事例検討 5. 自分も相手も大切にしたいコミュニケーションのためのアサーショントレーニング 6. 風景構成法（黒サインペンと12色程度の色鉛筆を持参のこと） 7. 投影法への理解。風景構成法と箱庭。その他の投影法について。 8. 投影法から見た事例検討 9. 知能検査・発達検査が自分や自分の子どもに関わってくる時 10. 認知とはなにか。認知療法について事例を通して理解する。 11. 認知、思い込み、自動思考を事例を通して、検討して理解する。 12. 認知療法練習1・自分の中の問題を整理する。自動思考を発見する。 13. 認知療法練習2・自動思考、思い込みを再検討して、糸口を発見する。 14. トラウマ、PTSD、フランクルの「夜と霧」について。極限状態の経験が人に与える影響について 15. 現代社会における心理療法と精神医学について。これまでの講義に関する小論文		
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。		
【参考図書・参考資料等】 授業中に適宜紹介する。		
【授業外学習】 日常生活の中で、自分の内面・思考・行動に注意をむける試みをする事。 リラクゼーションエクササイズの自分なりの実践		
【成績評価の方法】 毎回のミニレポートおよび小論文90点 受講態度10点		

科目名 現代人とこころの障害 a・b		担当者 石垣明美
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 人間とはなにか。人生とは何か。こども、青年、成人、中年、高年と、人生は進んでいく。その中で、人々は自分らしさを体得し、しかし、歳をとるにつれてそれを修正して、何かを得て、何歳になっても成長していく。事例を通して、人生ドラマの実像に迫る。現代を自分らしく生き抜くために、大切なことは何なのか。ひとつの答えがあるわけではない。だからこそ敢えて、その問題に向き合い、検討して考察する。		
【授業の概要】 戦後から現在まで、日本社会は大きな変化を遂げた。そして人生80年といわれるようになった。現代社会に生きる人々の悩みや精神疾患も時代とともに様相を変化させてきた。社会は、安心安全を追求してきたが、うつや不安によるこころの障害は増加していると言われている。それはなぜなのか。現代人はどんな悩みを持っているのか。ライフサイクルやアイデンティティという概念から事例を読み解く。		
【到達目標】 こころの問題や障害について理論や知識を習得すること。これからの人生で問題に出会った時、その問題を個人的な問題へと集約してしまうことなく、かつ、社会的な問題として拡散してしまわず、カウンセリングマインドを持って、様々な観点から、整理し、考え、理解していくよりどころを得る。		
【授業計画】 1. 本授業の概要と目的 2. カウンセリングマインドとは。人の気持ちをくみ取る。エクササイズ 3. エリクソンとレビンソンのライフサイクル論とアイデンティティ 4. 現代の家族像1 人生の中での青年期を生きる。青年期と家族についての事例を追い、検討する。 5. 現代の家族像2 人生の中で中年期とは何なのか。中年期と家族についての事例を追いながら、検討する。 6. 現代人のライフイベント（育ち・恋愛・結婚・離婚・非婚・妊娠・不妊・介護・被介護）様々な事例から、考える。 7. 現代人の労働・協力・援助行動・コミュニケーション。コミュニケーションや援助行動をその起源に立ち戻って検討する。 8. 精神疾患の捉え方。精神疾患という診断がつくつかないかの狭間。 9. 動物や人間にとっての不安、それは、本能的に備わっており、進化の中でも失われることはなかった。それはなぜなのか。 10. 臨床現場から見えてくる現代人の安心と不安。不安障害の実際とそれへの対応。 11. 臨床現場に見るうつ気分・うつ状態・うつ病について。実際とそれへの対応。 12. 摂食障害・依存症について。臨床の現場から。実際とそれへの対応。 13. その他のこころの障害・精神疾患について。事例を通して理解する。 14. 犯罪とこころ犯罪者の実像重大な事件と身近な軽犯罪について検討する。それらに巻き込まれないために。 15. 現代の「精神科医療と心理カウンセリング」これまでの講義に関する小論文課題		
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。		
【参考図書・参考資料等】 授業中に適宜紹介する。		
【授業外学習】 臨床心理学的な視点を持って、日常の生活の中の出来事を、自分なりに検討する。 リラクゼーションエクササイズの自分なりの実践。		
【成績評価の方法】 毎回のミニレポートと小論文90点 受講態度10点		

科目名 コンピューターリテラシー a・b		担当者 佐田 吉 隆
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 大学での学習に必要なコンピュータの基礎知識および基本的な技能を、幅広く習得します。 Windowsの基本操作，インターネットや文献検索，電子メールの使い方，オフィスソフトの基本的な利用方法について学習し，情報化社会のモラルとセキュリティについても触れます。		
【授業の概要】 Internet Explorer, 就実Gmail, WebClassと，ワープロソフト（Word），表計算ソフト（Excel），プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を使用して学習します。 同担当教員「情報処理演習 2 c, d」とほぼ同内容を扱いますが、「高校時代の情報の授業についていけなかった」「パソコンについてはまったくの初心者だ」という人向けの補習的科目です。 内容を絞り込んでゆっくりと進めますので，レベルに応じ選択して履修して下さい。		
【到達目標】 事例やパソコンの実習を通して，情報及び情報手段を選択し，適切に活用するための基礎的な知識や技能を養い，大学での学習に生かせるスキルを習得する。		
【授業計画】 1. Windowsの基本操作，WebClassの利用方法，文字入力（タッチタイピング）演習 2. インターネットの利用：Internet Explorerと電子メール（就実Gmail）の利用方法 3. インターネットの利用：文献検索（附属図書館ホームページ，CiNii Articles他） 4. Word：基本操作，基本的な文書の作成 5. Word：図や表の挿入 6. Word：印刷，表現力をアップする機能 7. Word：便利な機能 8. Excel：基本操作，表の作成 9. Excel：表の編集，印刷，グラフの作成 10. Excel：関数 11. Excel：便利な機能 12. PowerPoint：基本操作，プレゼンテーションの作成 13. PowerPoint：オブジェクトの挿入，特殊効果，スライドショーの実行，印刷 14. PowerPoint：便利な機能 15. PowerPoint：プレゼンテーション演習		
【テキスト】 富士通エフ・オー・エム株式会社，情報リテラシー アプリ編（Windows 10・Office 2016対応），富士通オフィス機器，978-4-86510-247-5 ※旧版教科書「情報リテラシー（Office 2013対応）」「情報リテラシー アプリ編（Office 2013対応）」などを持っている人は，内容は全く変わらないので，新たに購入する必要はありません。		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 e-learningシステム（WebClass）に授業に関する教材データ，情報等を提供するので，毎回確認すること。		
【成績評価の方法】 定期試験，演習課題，授業態度で総合的評価をする。		

科目名 情報と社会	担当者 中 西 裕	
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 「情報社会を主体的に生きる」ことがテーマである。個人情報保護や著作権、ロボット技術や人工知能、自動運転車など社会の情報化に関するテーマを取り上げ、現代社会について自ら考える態度を養う。デジタルの概念やコンピュータのしくみの基礎も扱う。社会の情報化に関するタイムリーな話題も適宜取り上げる。		
【授業の概要】 テレビ番組や新聞記事、インターネットなどの媒体を使い、個人情報保護、著作権、人工知能といった最新の話を取り上げて、その社会的・技術的背景を学ぶ。普通教室での授業だが、携帯電話やスマートフォンを使った授業支援で受講者のレスポンスを得てディスカッションにつなげ、「考える力」を養う。		
【到達目標】 ・コンピュータのしくみに関する基礎的な知見を得る。 ・社会の情報化が人類に何をもたらしたか、情報社会をよりよいものにするために何が必要かを自ら考えることができるようになる		
【授業計画】 1. 導入と総説 2. 情報社会とは何か 3. 社会の情報化と人類 4. デジタルとは何か 5. トピックス：「自動運転車」 6. 情報の量と単位 7. コンピュータの歴史 8. 個人情報保護 9. トピックス：「忘れられる権利」 10. コンピュータのしくみ 11. 著作権 12. トピックス：「著作権の現在」 13. ロボットの進化 14. 人工知能の未来 15. ビッグデータの活用 まとめ		
【テキスト】 『考える情報学 2.0 ―アクティブラーニングのための事例集―』（中西裕編著、樹村房、2016、ISBN978-4-88367-269-1）本体2,200円。テキストは「情報と文化」「情報と表現」と共通。		
【参考図書・参考資料等】 『第三の波』（A・トフラー、徳岡孝夫監訳、中公文庫） 『サピエンス全史』（上・下）（Y・N・ハラリ、柴田裕之訳、河出書房新社、2016）		
【授業外学習】 毎回授業の予習・復習を行い、内容を良く理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 レポート（60%）、平常点（提出物、講義の受講態度・意欲等）（40%）に基づき評価する。		

科目名 情報と文化 a		担当者 中 西 裕
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 インターネット上の情報検索の技能を身に付け、大学での学びの基礎力を養い、文化的な意味での生活の質を向上させる。		
【授業の概要】 サーチエンジンや各種オンラインデータベースの利用法と特性を概観し、情報検索の実務を体験的に学習する。その過程で、ネット上の情報の信頼性を見極める具体的な方法を学ぶ。各自がテーマを設定して、そのテーマに関する調べものガイドのパンフレットである「パスファインダー」を制作する。		
【到達目標】 ・「信頼できる情報」を見極めることができる。 ・文化的情報資産について、適切なデータベースと検索方法を選択することができる。 ・ネット上の情報と書籍・新聞の情報を比較でき、適切な情報源を選択できる。		
【授業計画】 1. ガイダンス（導入と総説） 2. Web検索とサーチエンジン 3. Web検索の方法論／マスメディアとインターネット 4. Wikipediaの特性 5. Web検索基礎演習／情報のカスタマイズ化 6. Web検索応用演習／フォークソノミー 7. Web検索課題演習（小テスト）と解説／オンラインデータベースとは 8. パスファインダーの制作(1) テーマの設定／メディアリテラシー 9. パスファインダーの制作(2) テーマの検討／オンラインデータベース検索基礎演習 10. オンラインデータベース検索応用演習／集合知 11. パスファインダーの制作(3) 出典の示し方／オンラインデータベース検索課題演習（小テスト）と解説 12. パスファインダーの制作(4) 情報の収集／障害者と情報技術 13. パスファインダーの制作(5) 情報の評価／暗合化技術 14. パスファインダーの第一次発表と相互評価 15. パスファインダーの第二次発表とまとめ		
【テキスト】 『考える情報学 2.0 ―アクティブラーニングのための事例集―』（中西裕編著，樹村房，2016，ISBN978-4-88367-269-1）本体2,200円。テキストは「情報と社会」「情報と表現」と共通。		
【参考図書・参考資料等】 科目の性格上，主としてオンラインリソースを活用する。		
【授業外学習】		
【成績評価の方法】 レポート（パスファインダー）50％・検索演習などの課題評価30％・テキストの予習20％		

科目名 情報と文化b	担当者 中 西 裕	
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] インターネット上の情報検索の技能を身に付け、大学での学びの基礎力を養い、文化的な意味での生活の質を向上させる。		
[授業の概要] サーチエンジンや各種オンラインデータベースの利用法と特性を概観し、情報検索の実務を体験的に学習する。その過程で、ネット上の情報の信頼性を見極める具体的な方法を学ぶ。各自がテーマを設定して、そのテーマに関する調べものガイドのパンフレットである「パスファインダー」を制作する。		
[到達目標] ・「信頼できる情報」を見極めることができる。 ・文化的情報資産について、適切なデータベースと検索方法を選択することができる。 ・ネット上の情報と書籍・新聞の情報を比較でき、適切な情報源を選択できる。"		
[授業計画] 1. ガイダンス（導入と総説） 2. Web検索とサーチエンジン 3. Web検索の方法論／マスメディアとインターネット 4. Wikipediaの特性 5. Web検索基礎演習／情報のカスタマイズ化 6. Web検索応用演習／フォークソノミー 7. Web検索課題演習（小テスト）と解説／オンラインデータベースとは 8. パスファインダーの制作(1) テーマの設定／メディアリテラシー 9. パスファインダーの制作(2) テーマの検討／オンラインデータベース検索基礎演習 10. オンラインデータベース検索応用演習／集合知 11. パスファインダーの制作(3) 出典の示し方／オンラインデータベース検索課題演習（小テスト）と解説 12. パスファインダーの制作(4) 情報の収集／障害者と情報技術 13. パスファインダーの制作(5) 情報の評価／暗合化技術 14. パスファインダーの第一次発表と相互評価 15. パスファインダーの第二次発表とまとめ		
[テキスト] 『考える情報学 2.0 ―アクティブラーニングのための事例集―』（中西裕編著、樹村房、2016、ISBN978-4-88367-269-1）本体2,200円。テキストは「情報と社会」「情報と表現」と共通。		
[参考図書・参考資料等] 科目の性格上、主としてオンラインリソースを活用する。		
[授業外学習]		
[成績評価の方法] レポート（パスファインダー）50％・検索演習などの課題評価30％・テキストの予習20％		

科目名 情報と表現	担当者 中 西 裕	
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 現代は、誰もがネットを通じて表現することが可能になった時代である。本科目では、メディア表現の特性や著作権について体験的に学ぶ。「情報と文化」が情報の受信と利用に関する科目であるのと対照に、本科目は情報の発信の側面を学修する。プログラミング体験や創作活動を通じて実践的な情報技能を身に付けるとともに、自己と他者を見つめる視点を持つ。		
【授業の概要】 マルチメディア表現の技能を習得するとともに、著作権・肖像権など情報発信に必要な法制を学ぶ。コンピュータ技術の基礎的認識を得るためにプログラミングの初歩も体験する。また、「ニコニコ動画」などで行われている個人による表現活動などを題材として新しい時代の表現のあり方について考える。受講者は個人またはグループでアニメーションや音楽などのマルチメディア作品、もしくはゲーム等のプログラムを企画・制作する。授業は教科書に基づいた講義と作品制作とを平行しておこなっていく。		
【到達目標】 ・情報の発信に関する技能を習得し、パソコン利用の「底力」というべき能力を得る。 ・情報発信に際して必要となる、他者の権利や情報の価値への配慮などの見識を得る。 ・創作活動を通して自己と他者を見直す。		
【授業計画】 1. ガイダンス 表現メディアとしてのパソコン 2. 「ボーカロイド」の登場／アニメーションの基礎（手描きアニメ・ストップモーションアニメ・パワーポイントのアニメ機能） 3. 動画投稿文化／プログラミングの基礎 4. ゲームの暴力表現／「自己表現」の意味・作品の企画立案 5. 表現行為と法規制／企画の検討 6. 「自己表現」と「広告」／デスクトップミュージックの基礎 7. ネットと文芸／「ステレオタイプ」とは何か・動画編集の方法 8. 表現の自由と名誉毀損／フリー素材と著作権・作品制作の準備 9. 二次創作文化／パイロット版の制作 10. パロディーと著作権／制作ノートとは・作品制作(1) 素材の作成 11. 替え歌と著作権／作品制作(2) 構成と組み立て 12. 作品制作(3) 中間報告 13. 作品制作(4) 自己評価と改善 14. 第一次作品発表と相互評価 15. 第二次作品発表とまとめ		
【テキスト】 『考える情報学 2.0 ―アクティブラーニングのための事例集―』（中西裕編著、樹村房、2016、ISBN978-4-88367-269-1）本体2,200円。テキストは「情報と文化」「情報と社会」と共通。		
【参考図書・参考資料等】 科目の性格上、主としてオンラインリソースを活用する。		
【授業外学習】		
【成績評価の方法】 提出作品の評価50％・制作ノートの評価50％		

科目名 情報処理演習 1 a・b・c		担当者 入 江 真由美
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 まずは、大学でのレポート作成に必要なテクニックを、次に「将来の仕事に役立つソフトウェアの技能を身につけること」を目的とし、WordやExcelの豊富な機能を使い、ビジネスで活用できるレベルの技術を習得する。		
【授業の概要】 Microsoft Word, Excelを使用して学習する。 Excelを初めて使う人にもわかるように、基礎の復習から始める。また、最新の情報活用も合わせて学習する。		
【到達目標】 機能習得のみでなく、実際に仕事の場面でよく利用される題材を使い、作成する過程を実践することにより、情報機器とアプリケーションを使いこなすことを目標とする。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータのログイン、パスワード変更と作成方法、文字の入力 2. クリップアートやワードアートを使用した効果的な文書の作成 3. 異なる書式の文書の挿入、段組の設定、書式のスタイル登録 4. オートシェイプを使った図形の作成 5. 差し込み印刷、フォームを利用した文書の作成、テンプレートの保存 6. 長文作成（アウトライン機能、目次作成、検索・置換・文章の校正） 7. ビジネス文書とは、ビジネス文書の基本形の確認 8. 報告書の作成、案内状の作成 9. 回覧表の作成、地図の作成 10. Excelの基本操作の確認 11. 基本的な関数を使用した表作成 12. データベース機能の概要（並べ替え・抽出） 13. 複合グラフの作成、補助円グラフ付円グラフの作成 14. PowerPointの基本操作 1 15. PowerPointの基本操作 2 		
【テキスト】 教科書は特に設けない。適宜プリント資料を配布する。		
【参考図書・参考資料等】 講義中に指示する。		
【授業外学習】 授業中に指示する事項について復習し、その意味を理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 授業ごとに実施する課題レポート（60%）と定期試験（40%）の成績で評価する。		

科目名 情報処理演習2 a・b		担当者 入 江 真由美
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 Wordに関しては、様々なテクニックを習得する。Excel, PowerPointに関しては、基本的な内容展開とともに、ビジネスシーンなどで「将来仕事に必要な機能の習得」を目的とし、PowerPointでのプレゼンテクニックも習得する。		
【授業の概要】 Word, Excel, PowerPointを使用して学習します。 情報処理演習 I を履修していなくても履修可能です。		
【到達目標】 パソコンの実習を通して、情報を適切に活用するための技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。		
【授業計画】 1. オリエンテーション・ビジネス文書作法（社内文書・社外文書） 2. メモ書きからのビジネス文書作成技法・演習課題 3. ヒアリングによるビジネス文書の作成技法・演習課題 4. Excel（表作成） 5. Excel（表計算・書式設定・関数） 6. Excel（グラフ作成・活用） 7. Excel（データベーステクニック） 8. Excel（さまざまな関数） 9. PowerPoint作成技法（効果的なプレゼンテーション） 10. PowerPoint作成技法（スライド作成） 11. PowerPoint作成技法（アニメーション設定技法） 12. ビジネスシーンにおける情報モラル（メールマナー・情報漏洩防御策） 13. 複数アプリケーションの連携1 14. 複数アプリケーションの連携2 15. 総合演習課題		
【テキスト】 テキストは使用しない。講義に使用する資料・データ等はその都度デジタルデータとして配布する。 e-learningシステムに授業に関する教材データ、情報等を提供するので、毎回確認のすること		
【参考図書・参考資料等】 『考える情報学2.0 アクティブ・ラーニングのための事例集』中西裕 編著 ISBN-10:4883672697		
【授業外学習】 随時、配布プリントにおいては、掲載誌名など、詳しく授業で紹介するので、確認すること また、各回の授業終了後、講義内容をWebClassにアップロードするので、復習すること		
【成績評価の方法】 演習課題（50%）、学年末実技試験（40%）、授業態度（10%）で総合的評価をする。		

科目名 情報処理演習2 c・d		担当者 佐田 吉 隆
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 大学での学習や将来の仕事に役立つ、コンピュータの基礎知識およびオフィスソフトの豊富な機能を、演習形式で習得します。インターネットや文献検索、電子メールの使い方、情報化社会のモラルとセキュリティについても触れます。 また「技能・表現力」を教育の目標とし、PowerPointを活用したプレゼンテーション演習を行います。		
【授業の概要】 Internet Explorer, 就実Gmail, WebClassの利用を前提に、ワープロソフト (Word), 表計算ソフト (Excel), プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を使用して学習します。教職科目「情報機器の操作」の読み替え科目です。 同担当教員「コンピューターリテラシー a, b」とほぼ同内容を扱いますが、パソコンやインターネットの知識・技能が少しはあって、「WordやExcelを一通り使いこなせるようになりたい」「将来の仕事に役立つパソコン技能を身につけたい」という人向けの科目です。 練習問題を中心に演習を進めますので、レベルに応じ選択して履修して下さい。		
【到達目標】 オフィスソフトの演習を通して、情報及び情報手段を選択し、適切に活用するための基礎的な知識や技能を養い、大学での学習に生かせるスキルを習得する。 パソコンの知識・技能・情報を活用して、自ら構想・創造・表現する力を身につける。		
【授業計画】 1. 文字入力 (タッチタイピング) 演習, 情報処理の基礎理論, 電子メール (就実Gmail) の利用方法 2. インターネットの利用: 文献検索 (附属図書館ホームページ, CiNii Articles他) 3. Word: 基本操作, 基本的な文書の作成 4. Word: 図や表の挿入 5. Word: 印刷, 表現力をアップする機能 6. Word: 便利な機能 7. Excel: 基本操作, 表の作成 8. Excel: 表の編集, 印刷, グラフの作成 9. Excel: データベース機能 10. Excel: 関数, ピボットテーブル 11. Excel: 便利な機能 12. PowerPoint: 基本操作, プレゼンテーションの作成 13. PowerPoint: オブジェクトの挿入, 特殊効果, スライドショーの実行, 印刷 14. PowerPoint: 便利な機能 15. PowerPoint: プレゼンテーション演習		
【テキスト】 富士通エフ・オー・エム株式会社, 情報リテラシー アプリ編 (Windows 10・Office 2016対応), 富士通オフィス機器, 978-4-86510-247-5 ※旧版教科書「情報リテラシー (Office 2013対応)」「情報リテラシー アプリ編 (Office 2013対応)」などを持っている人は、内容は全く変わらないので、新たに購入する必要はありません。		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 e-learningシステム (WebClass) に授業に関する教材データ, 情報等を提供するので, 毎回確認すること。		
【成績評価の方法】 演習課題, 定期試験, 授業態度で総合的評価をする。		

科目名 日本事情3 (留学生・帰国子女のみ)		担当者 松 田 文 子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 大学の授業に関連すると思われる各領域のトピックを題材に，分析・議論を行う。		
【授業の概要】 大学の授業に関連すると思われる各領域のトピックを題材に，分析・議論を行う。		
【到達目標】 学生に関心があると思われるテーマを題材に，授業を通して，日本社会・日本人の意識や行動への関心を深める。(日本語中級後半，上級レベルの留学生対象)		
【授業計画】 1. 授業内容に関するオリエンテーション 2. テーマ(1) 「科学の定義」(テキストで知識の確認) 3. テーマ(1) 「科学の定義」(テキストで知識の確認) 4. テーマ(2) 「現代の若者のマナー」(知識の確認) 5. テーマ(2) 「現代の若者のマナー」(調べる/発表) 6. テーマ(3) 「親孝行な男の子」(知識の確認) 7. テーマ(3) 「親孝行な男の子」(書く) 8. テーマ(3) 「親孝行な男の子」(タスク発表) 9. テーマ(3) 「親孝行な男の子」(タスク発表) 10. テーマ(3) 「親孝行な男の子」(タスク発表) 11. テーマ(5) 「言語と文化」(知識の確認) 12. テーマ(5) 「言語と文化」(書く) 13. テーマ(5) 「言語と文化」(書く) 14. テーマ(6) 「ローソクの変化」(知識の確認) 15. 各自の発表		
【テキスト】 適宜，教員がプリントを準備する。		
【参考図書・参考資料等】 授業中に適宜，配布する。		
【授業外学習】 授業中に提示する宿題(タスク)		
【成績評価の方法】 受講態度20%，課題への取り組み30%，期末試験50%等により総合的に評価する。		

科目名 日本事情 4 (留学生・帰国子女のみ)		担当者 松 田 文 子
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 大学の授業に関連すると思われる各領域のトピックを題材に，分析・議論を行う。		
[授業の概要] 「日本事情Ⅰ」（前期）、「日本事情Ⅱ」（後期）において，現代日本社会における身近なテーマをもとに，授業を通して，現代社会に対する認識を深めるようにする。		
[到達目標] 学生に関心があると思われるテーマを題材に，授業を通して，日本社会・日本人の意識や行動への関心を深める。（日本語中級後半，上級レベルの留学生対象）		
[授業計画] 1. 授業内容に関するオリエンテーション 2. テーマ(1) 「ほくは勉強ができない上」(テキストで知識の確認) 3. テーマ(1) 「ほくは勉強ができない上」(意見を書く) 4. テーマ(2) 「ほくは勉強ができない下」(知識確認) 5. テーマ(2) 「ほくは勉強ができない下」(意見を書く) 6. テーマ(3) 「「待つ」こと」(知識の確認) 7. テーマ(3) 「「待つ」こと」(意見を書く) 8. テーマ(4) 「民話・昔話」(知識の確認) 9. テーマ(4) 「民話・昔話」(書く) 10. テーマ(4) 「民話・昔話」(発表) 11. テーマ(4) 「民話・昔話」(発表) 12. テーマ(5) 「大学で学ぶこと」(書く) 13. テーマ(5) 「大学で学ぶこと」(発表) 14. 各自のミニリサーチ 15. 各自の発表		
[テキスト] 適宜，プリントを配布する。		
[参考図書・参考資料等] 授業中に適宜，配布する。		
[授業外学習] 授業中に提示する宿題（タスク）		
[成績評価の方法] 受講態度20%，課題への取り組み30%，期末試験50%等により総合的に評価する。		

科目名 身体運動と健康の科学 a・b（＝スポーツと健康）		担当者 森 村 和 浩
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 身体運動は、生命の維持のみに留まらず、個人や社会に対しても極めて大きな意義を持っており、健康・体力の維持、増進、楽しみや生き甲斐の獲得などの個人的便益から、明るく豊かな活力ある社会の形成といった社会的寄与に至るまで幅広い効用が期待される。 本授業では、個の身体や健康において身体運動が果たす役割を正しく、科学的に理解することをテーマとする。</p>		
<p>【授業の概要】 現代人の健康に関わる諸問題と身体運動がもつ健康的価値や意義について最新の知見を踏まえながらヒトの身体メカニズムや身体運動に関する基礎的知識、実践方法について学んでいく。</p>		
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体及び身体運動に関する知識を習得する。 2. 自身の身体・健康に関する問題点を発見・解決する力を養う。 3. 健康関連情報を収集し、正しく活用できる能力を養う。 		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と進め方・評価と注意点 2. 身体運動の意味と意義 3. 身体運動と生活習慣病(1)：メタボリックシンドローム 4. 身体運動と生活習慣病(2)：肥満の仕組み 5. 身体運動とエネルギー 6. 健康づくりのための体力(1)：全身持久力 7. 健康づくりのための体力(2)：筋力 8. 身体運動と不活動 9. 前半のまとめ 10. 身体運動と身体適正化（フィジカル・フィットネス） 11. 身体運動と脳の適正化（ブレイン・フィットネス） 12. コンディショニング(1)：身体運動とからだ 13. コンディショニング(2)：身体運動と心 14. コンディショニング(3)：外傷予防・応急処置 15. 総括 		
<p>【テキスト】 配布資料</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 ACSM（著）、日本体力医学会体力科学編集委員会（翻）「運動処方指針 原書第8版」 進藤・田中編「健康づくりトレーニングハンドブック」朝倉書店</p>		
<p>【授業外学習】 講義および配布資料の重要ポイントを復習し、理解を深める。 健康づくりに関する記事や資料の情報を収集すること。</p>		
<p>【成績評価の方法】 授業への参加態度と個人・課題・中間テスト（30%）や期末テスト（70%）から総合的に評価する。 評価基準：授業時の発言、ワーク等への積極的参加。webclass課題の積極的実施。身体運動の特性および効果を正しく理解できているか。健康情報を正しく読み取ることができているか。</p>		

科目名 健康・スポーツと社会 (=スポーツと社会)		担当者 森村和浩
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、すべてのライフステージと密接に関わってくる。本講義は、スポーツと人々や社会との関わり、社会におけるスポーツの価値とこれらが果たす役割について理解を深めることを目的とする。		
【授業の概要】 世界共通の文化であるスポーツ。スポーツは、多様な価値と人間の文化を高める可能性を秘めている。その価値を論理的・批判的に理解するため多様なスポーツ、スポーツがもつ内在的・外在的な価値を題材に学び、スポーツが私たちの生活や社会等に果たす役割について考えていく。		
【到達目標】 1. 世界共通の文化であるスポーツの価値やあり方について論理的・批判的に理解し、スポーツ観を深める。 2. 自分自身や社会における問題点を発見・解決する力を身につける。		
【授業計画】 1. 授業概要と進め方、評価と注意点 2. スポーツ・ヘルスプロモーション 3. スポーツの歴史と発展 4. 現代におけるスポーツの価値と意義 5. オリンピック史から読み解くスポーツの価値 6. スポーツと教育（クーベルタンと嘉納治五郎から学ぶ） 7. スポーツと子ども 8. スポーツと産業・経済 9. スポーツと共生社会(1)（女性のスポーツ） 10. スポーツと共生社会(2)（パラリンピック・サイバスロン） 11. スポーツと共生社会(3)（スペシャルオリンピクス） 12. スポーツ・イングリティ（八百長・ドーピング・ハラスメント・差別問題等） 13. スポーツと社会問題(1)（スポーツ時事問題） 14. スポーツと社会問題(2)（論文講読・グループ討議） 15. 総括		
【テキスト】 配布資料		
【参考図書・参考資料等】 オリンピック全大会～人と時代と夢の物語～：武田薫 現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか：日本体育協会		
【授業外学習】 オリンピック、パラリンピック等をスポーツと現代社会に関する情報を収集しておくこと。 講義および配布資料の重要ポイントを復習し、理解を深めること。 Webクラスを活用し講義内容の振り返りをする。		
【成績評価の方法】 授業への積極的参加及び課題・レポート（40%）、期末テスト（60%）から総合的に評価する。 評価基準：授業後のコメント、課題の実施状況、授業・グループワーク等への積極的参加。		

科目名 スポーツ2a		担当者 枝 松 三 佳
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム
【授業のテーマ】 各種目の基本技能を習得し、生涯にわたりスポーツに親しむ上で必要な基本的能力の維持・増進に努める。 仲間と共にプレーする楽しさ喜びを共感し合う。		
【授業の概要】 バレーボールは体育館アリーナで、卓球は多目的ホールで実施する。 授業の詳細はオリエンテーションで説明する。		
【到達目標】 各種目の基本技能を習得し、生涯にわたりスポーツに親しむ上で必要な基本的能力の維持・増進に努める。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. バレーボール（オーバー・アンダーパス） 3. バレーボール（レシーブ・アタック・サーブ） 4. バレーボール（ゲーム①） 5. バレーボール（ゲーム②） 6. バレーボール（ゲーム③） 7. バレーボール（ゲーム④） 8. バレーボール（ゲーム⑤） 9. 卓球（フォアハンド、バックハンド） 10. 卓球（ドライブ、カット） 11. 卓球（つつつき、スマッシュ） 12. 卓球（サーブ、ダブルスルール） 13. 卓球（ゲーム：個人戦） 14. 卓球（ゲーム：団体リーグ戦①） 15. 卓球（ゲーム：団体リーグ戦②）		
【テキスト】 なし		
【参考図書・参考資料等】 なし		
【授業外学習】 十分に身体を動かせるよう普段から自己健康管理をきちんとしておくこと。		
【成績評価の方法】 レポート2回提出（テーマは授業時に発表） 出席状況・技術・授業態度（積極的な行動：準備・片付け・仲間との協力等）		

科目名 スポーツ2b	担当者 森村 和 浩	
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本授業は、学生一人一人が学生生活だけでなく生涯にわたって、豊かで健康的な生活を送るために必要な日常の身体活動やスポーツ活動を実践・継続するための知識と技能を学ぶとともに、社会的スキルを高めることを目的とする。		
【授業の概要】 卓球とバスケットボールにおける運動技能・運動調節の特性について解説する。ネット型スポーツ（卓球）およびゴール型スポーツ（バスケットボール）を通して、競技特有の楽しさや醍醐味を理解し、仲間とのコミュニケーション能力やチームワーク、社会的スキルを高めるられるよう展開する。		
【到達目標】 ネット型スポーツ（卓球）およびゴール型スポーツ（バスケットボール）を用いたスポーツ活動を通して、スポーツの活動や運営を通じて社会人に求められる社会人基礎力「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を基本とする社会的スキルを養う。		
【授業計画】 1. オリエンテーション：授業概要、評価及び受講上の注意点について 2. 卓球：ラケットの種類と持ち方、打ち方 3. 卓球：フォア、バックハンドフォアラリー、ルール 4. 卓球：ドライブ、スマッシュ 5. 卓球：サーブショットのコントロール 6. 卓球：カット、ショート 7. 卓球：フットワーク、戦術 8. 卓球：チーム対抗戦 9. バスケットボール：ボールに慣れる、ボールを使ったミニゲーム 10. バスケットボール：パスをつなぐゲーム展開 11. バスケットボール：連動した動きからシュートチャンスを作る 12. バスケットボール：コンビネーション、フォーメーション 13. バスケットボール：チーム連携を高めるチーム対抗戦 14. バスケットボール：チーム連携を高めるチーム対抗戦 15. バスケットボール：まとめ		
【テキスト】 適宜資料を配付する。		
【参考図書・参考資料等】 必要に応じて、授業時に紹介する。		
【授業外学習】 I. スポーツや健康に関する情報収集を行なう。 II. 本授業種目の試合の様子等、試合観戦やTV放映、インターネットを用いて技術や動きを観察する。 III. 1週間の生活において自主的に身体活動を増やす機会を設ける。		
【成績評価の方法】 授業参加姿勢（積極的で責任のある態度・行動、および仲間との協力、協働を重視）（40%）、授業中の課題やwebclass上でのレポートおよび小テスト（60%）により評価する。		

科目名 スポーツ2c		担当者 森村和浩
開講期 後期	単位 1単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本授業は、学生一人一人が学生生活だけでなく生涯にわたって、豊かで健康的な生活を送るために必要な日常の身体活動やスポーツ活動を実践・継続するための知識と技能を学ぶとともに、社会的スキルを高めることを目的とする。		
【授業の概要】 フィットネストレーニングに関する知識について解説し、正しいトレーニング方法を身につけ各自に適したトレーニングを実践していく。バスケットボールにおける運動技能・運動調節の特性について解説する。スポーツを通して技能や競技特有の楽しさや醍醐味を理解し、仲間とのコミュニケーション、チームワーク等の社会的スキルを高めるられるよう展開する。		
【到達目標】 身体運動の意義や役割について多様な視点から捉え、自身の課題を見つけ実践する力を養う。 スポーツ活動や運営を通じて社会人に求められる社会人基礎力「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を養うことを目標とする。		
【授業計画】 1. オリエンテーション：授業概要、評価および受講上の注意点 2. バドミントン：フォアハンドとバックハンド 3. バドミントン：基本ストローク打点や射出方向を工夫する 4. バドミントン：ハイクリア後方へ力強いショットを打てるようにする 5. バドミントン：ヘアピン、クロスネット前方での攻防を学ぶ 6. バドミントン：スマッシュ、レシーブ強いショットを打つ、受ける 7. バドミントン：基本姿勢、フットワーク、コンビネーションホームポジションからの攻防 8. バドミントン：ゲーム 9. フィットネス：アイスブレイクトレーニングルーム使用方法の説明 10. フィットネス：筋線維の種類、筋力トレーニングの方法 11. フィットネス：心拍数を用いた簡易スタミナテスト（最大酸素摂取量） 12. フィットネス：健康づくりに必要な最大酸素摂取量の評価とプログラム作り 13. フィットネス：心拍数を用いた簡易スタミナテスト（最大酸素摂取量） 14. フィットネス：間欠式運動を用いた効率的な運動方法、体幹および自重トレーニング 15. フィットネス：からだのケアと調整方法		
【テキスト】 毎回の授業で資料を配付する。		
【参考図書・参考資料等】 必要に応じて、授業時に紹介する。		
【授業外学習】 I. スポーツや健康に関する情報収集を行なう。 II. 本授業種目の試合の様子等、試合観戦やTV放映、インターネットを用いて技術や動きを観察する。 III. 1週間の生活において自主的に身体活動を増やす機会を設ける。		
【成績評価の方法】 授業参加姿勢（積極的で責任のある態度・行動、および仲間との協力、協働を重視）（40%）、授業中の課題やwebclass上でのレポートおよび小テスト（60%）により評価する。		

科目名 スポーツ2d		担当者 綾部 誠也
開講期 後期	単位 1単位	e-learningシステム
【授業のテーマ】 フィットネスとバドミントンを通してスポーツ参加の意義と生涯を通じた運動・スポーツの重要性を理解し、スポーツを楽しむ態度を身につける。		
【授業の概要】 フィットネスはトレーニングルームにて行う。バドミントンは、体育館アリーナにて行う。全授業回数の3/1以上の欠席があった際には評価の対象としない。		
【到達目標】 1. 自己の身体状況を客観的に知る。 2. 計画的にスポーツを実践する習慣を身につけ、健康の増進と体力の向上を図る。 3. スポーツを通して、問題解決能力、自主性、社会性を身につける。		
【授業計画】 1. 授業オリエンテーション（講義室） 2. フィットネストレーニングの基礎知識・身体計測・体力測定 3. 有酸素性運動 4. 筋力トレーニング（筋力の測定） 5. 筋力トレーニングの実践 6. 運動処方 7. トレーニングの実践 8. バドミントンラケットに触れる 9. バドミントン・クリア・ドロップ 10. バドミントン・スマッシュ・サーブ 11. バドミントン・試合（シングルス1） 12. バドミントン・試合（シングルス2） 13. バドミントン・試合（ダブルス1） 14. バドミントン・試合（ダブルス2） 15. バドミントン・試合（ダブルス3）		
【テキスト】 適宜にプリントを配付する		
【参考図書・参考資料等】 なし		
【授業外学習】 日頃の運動・スポーツ行動（健康づくり）を怠らないこと		
【成績評価の方法】 授業取り組み（70%）、技術（20%）、レポート（10%）から評価する。		

科目名 スポーツ3a	担当者 森 村 和 浩	
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本授業では、多様なスポーツ活動や自らの企画・運営を実践し、運動することの楽しさ学生一人一人が学生生活だけでなく地域社会や生涯にわたって、豊かで健康的な生活を送るためにスポーツ活動を実践するための知識や技能・運営を学ぶとともに、社会的スキルを高めることを目的とする。		
【授業の概要】 多様なスポーツや運動に親しみ、スポーツ・運動をする意欲を高めていく。身体運動における基礎的な身体の使い方・技能を学ぶとともに多様なスポーツを通じてスポーツ特有の楽しさや醍醐味を理解を深めていく。また、仲間（他学部・他学年の仲間）とのコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップ等の社会的スキルを向上を目指す。仲間とスポーツ活動を企画、運営、実践する。		
【到達目標】 他学部・他学年の仲間とのスポーツ活動・運営を通して、技能を高め、自ら実践する力を養う。積極的で責任のある態度と行動、多様な仲間との協力する力、仲間をリードする力を養う。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. アイスブレイク 3. バレー：オーバーハンドパス、レシーブのコツ 4. バレー：サーブ、スパイクのコツ 5. バレー：ゲーム運営 6. バasketボール：オフェンス・パスワーク 7. バasketボール：シュート・ディフェンス 8. バasketボール：ゲーム運営 9. アルティメット：オフェンス・パスワーク 10. アルティメット：ディフェンス 11. アルティメット：ゲーム運営 12. スポーツ企画・運営 ① 13. スポーツ企画・運営 ② 14. スポーツ企画・運営 ③ 15. まとめ		
【テキスト】 適宜資料を配付する。		
【参考図書・参考資料等】 必要に応じて、授業時に紹介する。		
【授業外学習】 I. 生涯スポーツに関する情報収集を行なう。 II. 本授業種目に関するスポーツ種目の歴史やルールを調べる。 III. 本授業種目の試合の様子等、試合観戦やTV放映、インターネットを用いて技術や動きを観察する。 IV. 1週間の生活において自主的に身体活動を増やす機会を設ける。		
【成績評価の方法】 授業参加姿勢（積極的で責任のある態度・行動、および仲間との協力、協働を重視）（40%）、授業中の課題（企画・運営）やwebclass上でのレポートおよび小テスト（60%）により評価する。		

科目名 スポーツ3b	担当者 枝 松 三 佳	
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム
[授業のテーマ] バレーボールの基本技能を習得し、生涯にわたりスポーツに親しむ上で必要な基本的能力の維持・増進に努める。 集団でプレーする楽しさ喜びを共感し合う。		
[授業の概要] 体育館アリーナで実施する。ソフトバレーなど異なった種類のボールにも触れてみる。 授業の詳細はオリエンテーションで説明する。		
[到達目標] バレーボールの基本技能を習得できるよう努める 仲間と共にプレーする楽しさ喜びを共感し合う。		
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. ルール説明, オーバーパス・アンダーパス 3. レシーブ, アタック, サーブ 4. チーム練習 5. チーム練習 6. ゲーム① 7. ゲーム② 8. ゲーム③ 9. ゲーム④ 10. ゲーム⑤ 11. ゲーム⑥ 12. ソフトバレーボール (ボール慣れ) 13. ソフトバレーボール 14. ソフトバレーボール 15. まとめ		
[テキスト] なし		
[参考図書・参考資料等] 十分に身体を動かせるよう普段から自己健康管理をきちんとしておくこと。		
[授業外学習] なし		
[成績評価の方法] レポート1回提出 (テーマは授業時に発表) 出席状況・技術・授業態度 (積極的な行動: 準備・片付け・仲間との協力等)		

科目名 スポーツ4 a		担当者 枝 松 三 佳
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム
[授業のテーマ] 卓球の基本技能を習得し、生涯にわたりスポーツに親しむ上で必要な基本的能力の維持・増進に努める。 個人又は仲間と共にプレーする楽しさ喜びを共感し合う。		
[授業の概要] 多目的ホールで実施する。個人やペアでプレーする。授業の詳細はオリエンテーションで説明する。		
[到達目標] 卓球の基本技能を習得し、生涯にわたりスポーツに親しむ上で必要な基本的能力の維持・増進に努める。		
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. シングルスルール説明・練習 3. フォアハンド, バックハンド 4. フォアハンドで打ち合う(ラリーを続ける) 5. カット, スマッシュ, サーブ 6. シングルスゲーム ① 7. シングルスゲーム ② 8. ダブルスルール説明・練習 9. フォアハンドで打ち合う(ラリーを続ける) 10. カット, スマッシュ, サーブ 11. ダブルスゲーム ① 12. ダブルスゲーム ② 13. ダブルスゲーム ③ 14. ダブルス対抗卓球大会 15. まとめ		
[テキスト] なし		
[参考図書・参考資料等] 十分に身体を動かせるよう普段から自己健康管理をきちんとしておくこと。		
[授業外学習] なし		
[成績評価の方法] レポート1回提出(テーマは授業時に発表) 出席状況・技術・授業態度(積極的な行動:準備・片付け・仲間との協力等)		

科目名 スポーツ4b・c		担当者 森村和浩
開講期 後期	単位 1単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 本授業は、学生一人一人が学生生活だけでなく生涯にわたって、豊かで健康的な生活を送るために必要な日常の身体活動やスポーツ活動を実践・継続するための知識と技能を学ぶとともに、社会的スキルを高めることを目的とする。</p>		
<p>【授業の概要】 バドミントンにおける運動技能・運動の特性について解説し、経験者、初心者関係なくバドミンントンの運営やゲームが組み立てられるようお互いが協力して取り組む。 バドミントンを通して、ネット型ゲーム特有の楽しさや醍醐味を理解し、仲間とのコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップ等の社会的スキルを向上を図る。</p>		
<p>【到達目標】 他学部・他学年の仲間とのスポーツ活動や運営を通して、自身の技能を高め自ら実践する力を養うとともに、積極的に責任のある態度と行動、多様な仲間との協力する力、仲間をリードする力を養う。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：授業概要，評価及び受講上の注意点 2. バドミントン：仲間づくりアイスブレイク，ニュースポーツ 3. バドミントン：フォアハンドとバックハンド基本練習トリプルスゲーム 4. バドミントン：基本的なストローク～様々なストローク，トリプルスゲーム 5. バドミントン：ルール確認，コントロールテスト，バドミンントンのホームポジションとフットワーク 6. バドミントン：サーブとレシーブ，コントロールテスト 7. バドミントン：スマッシュの打ち方，ダブルスゲーム 8. バドミントン：クリアの打ち方，ダブルスゲーム 9. バドミントン：ドロップとカットの打ち方，ダブルスゲーム 10. バドミントン：ヘアピンとクロスネットの打ち方，ダブルゲーム 11. バドミントン：より攻撃的にゲームを展開するドライブとプッシュの打ち方，シングルスゲーム 12. バドミントン：シングルスゲーム 13. バドミントン：団体戦 14. バドミントン：団体戦 15. バドミントン：まとめ 		
<p>【テキスト】 配布資料</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 ACSM（著），日本体力医学会体力科学編集委員会（翻）「運動処方指針 原書第8版」 進藤・田中編「健康づくりトレーニングハンドブック」朝倉書店</p>		
<p>【授業外学習】 講義および配布資料の重要ポイントを復習し，理解を深める。 健康づくりに関する記事や資料の情報を収集すること。</p>		
<p>【成績評価の方法】 授業参加姿勢（積極的で責任のある態度・行動，および仲間との協力・協働を重視）（40%），授業中の課題やwebclass上でのレポート・小テスト（60%）により評価する。</p>		

科目名 キャリアデザイン論 (=キャリアデザイン論A)		担当者 竹村直子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本講座では「キャリア=人生そのもの」と捉えます。社会に出ると、人は生活の大半の時間を費やす仕事を中心にキャリア形成をしていきます。充実感や達成感を見い出せる仕事に就くには①「自分を知ること」そして「なりたい自分(目標)を見つけること」②「社会を知ること」が重要です。目標を持って主体的に行動すること、社会人の基礎力を体験型学習を通して学びます。		
【授業の概要】 (1)自己分析や対人関係のフィールドワークを通しての自己への気づきと自己成長プランを立案します。 (2)社会構造・働き方の変化, 社会が求める人材像, 社会人としてのマナーの基礎を学びます。		
【到達目標】 学生時代の目標(短期目標), 自分自身の将来像(長期目標)を具体化し, 自らキャリア形成に取り組めるよう自発的に考え, 行動できる力を身に着けます。		
【授業計画】 1. (竹村) キャリアをデザインするとは? 何故, 今キャリアデザインが必要か キャリアデザインの目指すもの 2. (竹村) 社会人基礎力とは 好感を持たれる人とはどんな人? 社会が求める人材とは 3. (竹村) 社会人としてのマナー(基礎編) 第一印象を良くするための形作りのトレーニング 4. (竹村) 社会人としてのマナー(応用編) 基礎編をベースに接客応対, 電話応対を学ぶ 5. (竹村) 職場のチームワークと仕事の進め方(PDCAサイクルの確認) 6. (竹村) 社会を知るⅠ ゲストスピーカーによる講演(受講者数により内容変更有り) 7. (竹村) 社会を知るⅡ 実際に企業を訪問し, 企業と職務内容を知る(受講者数により内容変更有り) 8. (竹村) 社会を知るⅢ 企業と職務内容についてグループでまとめを行い, プレゼンテーションにより知識共有 9. (岡野一) 自分について考えようⅠ あなたはどんな人? 自分の目標とライフスタイルを考える あなたの強みは何か 10. (岡野一) 自分について考えようⅡ フィードバックによる相互理解と自己分析のための検査実施(受検料2,000円/自己負担) 11. (岡野一) 自分について考えようⅢ 検査結果をもとに心のエネルギーの使い方への気づきと自己成長プランの立案 12. (岡野一) 自分について考えようⅣ 対人関係のフィールドワークとふり返り 13. (竹村) 社会を知るⅣ 社会の変化 働き方の変化 14. (竹村) 社会を知るⅤ ゲストスピーカーによる講演 15. (竹村) 社会へ出る準備を始めよう 働く自分をイメージする(働く目的とは? 自立とは? 自立するために必要な意識と行動とは?)		
【テキスト】 交流分析による心理検査 TAOK(適性科学研究センター)(検査受検料実費2,000円が必要です) レジュメ配布		
【参考図書・参考資料等】 日経新聞, 日経ビジネス等講義の中で随時紹介します。		
【授業外学習】 ・新聞, インターネット情報, ニュース・経済番組等とおして世界の動きに敏感になる習慣をつけましょう。 ・幅広い年齢層の方々とコミュニケーションの時間を意識的に確保してください。 ・毎回の授業で学んだことを実生活で実践してください。		
【成績評価の方法】 レポート100% 授業内での課題への取組み, 提出物等の完成度も参考に評価します。		

科目名 インターンシップ1	担当者 キャリア支援開発委員会	
開講期 後期	単位 1単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 社会の一員として働くとはどういうことであるかを学生時代に実体験することにより、仕事や業界・企業に対する理解を深めると共に、各自の将来へのビジョンを明確にし、進路選択の一助とする。		
【授業の概要】 インターンシップ生を募集している企業の中から、各自が自らの志望業界・職種等を基に応募先を決定し、申し込みを行う。応募先企業による選考を通過した場合、夏期休暇中に、企業が作成したプログラムに基づき就業体験を行う。		
【到達目標】 参加した企業・業界の仕事をその一員としての視点から理解し、進路選択における判断材料とすることができる。また、社会人として求められる人材像と現状の自身の差異を認識し、それを基に今後の自己研鑽における課題設定ができる。		
【授業計画】 【インターンシップの流れ】 実施説明会 ↓ 申込・選考・決定 ↓ 関係書類をキャリアセンターへ提出 ↓ 事前指導 ↓ インターンシップ実施 ↓ 単位認定申請書・実習報告書を提出、事後指導 【注意事項】 ・インターンシップ参加希望者は、実施説明会に必ず参加すること。 ・4月の履修登録時には履修登録を行わず、インターンシップ終了後の後期追加登録時に追加登録を行うこと。		
【テキスト】 使用しない		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】		
【成績評価の方法】 インターンシップ先企業からの実習評価及び実習報告書などから、委員会が総合的に評価を行う。 ※5日間の参加で1単位（インターンシップ1のみ）、10日間の参加で2単位（インターンシップ1及びインターンシップ2）を付与する。		

科目名 インターンシップ2		担当者 キャリア支援開発委員会
開講期 後期	単位 1単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 社会の一員として働くとはどういうことであるかを学生時代に実体験することにより、仕事や業界・企業に対する理解を深めると共に、各自の将来へのビジョンを明確にし、進路選択の一助とする。		
【授業の概要】 インターンシップ生を募集している企業の中から、各自が自らの志望業界・職種等を基に応募先を決定し、申し込みを行う。応募先企業による選考を通過した場合、夏期休暇中に、企業が作成したプログラムに基づき就業体験を行う。		
【到達目標】 参加した企業・業界の仕事をその一員としての視点から理解し、進路選択における判断材料とすることができる。また、社会人として求められる人材像と現状の自身の差異を認識し、それを基に今後の自己研鑽における課題設定ができる。		
【授業計画】 【インターンシップの流れ】 実施説明会 ↓ 申込・選考・決定 ↓ 関係書類をキャリアセンターへ提出 ↓ 事前指導 ↓ インターンシップ実施 ↓ 単位認定申請書・実習報告書を提出、事後指導 【注意事項】 ・インターンシップ参加希望者は、実施説明会に必ず参加すること。 ・4月の履修登録時には履修登録を行わず、インターンシップ終了後の後期追加登録時に追加登録を行うこと。		
【テキスト】 使用しない		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】		
【成績評価の方法】 インターンシップ先企業からの実習評価及び実習報告書などから、委員会が総合的に評価を行う。 ※5日間の参加で1単位（インターンシップ1のみ）、10日間の参加で2単位（インターンシップ1及びインターンシップ2）を付与する。		

科目名 現代生活と化学（=生命と生活の化学）		担当者 鈴木利典
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 現代生活の中で起こっている出来事やヒト生体内で起こっている出来事に、化学的に重要な概念が含まれている。それらは、化学的観点だけではなく、私たちが生きていく上においても重要な概念である可能性がある。これら概念を理解し、考え方の幅を広げることがこの講義の目的である。		
【授業の概要】 プリント配布と説明、可能であれば実物の提示と演示実験を行い、毎回のテーマの中にある重要な概念を理解する。授業後半の30分間で、授業時間中に理解した内容をまとめ、自身の考えも加えたレポートを作成し、授業終了時に提出する。		
【到達目標】 提示された概念の本質を把握することができる。身近な出来事の中に類似する概念を探しだすことができる。理解し、考えた内容を短時間でまとめて文章にすることができる。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 水 2. 空気と真空 3. 燃焼と爆発 4. 石油と石炭 5. 平衡 6. ハーバー法 7. 一酸化窒素 8. 食塩 9. ハロゲン 10. アスコルビン酸 11. モルヒネ, ニコチン, カフェイン 12. アスピリン, サルファ剤, ペニシリン 13. 食物 14. ガンの原因 15. ガンの予防 		
【テキスト】 プリント資料を配布する。		
【参考図書・参考資料等】 必要に応じて講義中に紹介する。		
【授業外学習】 授業で得た新たな概念を日常生活の様々な場面で思い出し、自己の考え方の幅を広げる。		
【成績評価の方法】 毎回のレポート100%		

科目名 環境と生命（＝病気と環境）		担当者 平岡 修・山崎 勤
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○（講義用資料をWebClassにアップ します。）
<p>【授業のテーマ】 本講義は、前半8回を平岡が担当し後半7回を山崎が担当する。 前半8回：生命体の機能と環境との関係 産業革命以降の人間の活動は、地球環境を破壊し今日のような危機的状況に至らしてきた。いかにして環境破壊を食い止めるか、いろいろな方面からの解決のための取り組みがあるが、本授業では、生命の能力を応用した技術、いわゆるバイオテクノロジーと呼ばれる技術を利用して、医薬・食品・環境の各分野において環境破壊から我々の生活をいかに守っていくかについて焦点を当てて講義する。 生命誕生以降、生命体は常にその環境と密接な関係を持ち、自然環境の絶え間ない変動の中で進化してきた。その結果、生物あるいはその構成単位である細胞は、高い効率性とたくましさ兼ね備えた自然の化学工場とも言える存在となっている。従ってその能力を応用したバイオテクノロジー技術が環境問題解決の一助となると考えられる。この授業では、「生命」と「環境」に関する基本的な事項についての知識を得、両者の関係の具体的な姿を学びながら、環境破壊に対する問題に対して科学的思考と課題解決に向き合う実践力を養うことを目標とする。 後半7回：環境と生命の多様性 地球全体では様々な環境が存在し、生命体はそれらの環境に合わせながら進化・生存してきた。また、生命体は一種だけで生きてゆくのではなく、他のたくさんの生物とのかかわりあいながら生態系や生物群系を形成している。それら生命の種多様性、遺伝的多様性を学びながら、環境に合わせた生物の関わり合いや多様性を理解するとともに、我々が今後どのように環境や生命を維持してゆくかの指標を学ぶことを目標とする。</p>		
<p>【授業の概要】 パワーポイントを用いた講義形式を進めるとともに、関係資料を適宜配布する。毎回の講義の終わりの15分間で、理解度を確認するためにその日の講義内容に関連したレポート作成を行う。講義中の質疑応答も積極的に行う。</p>		
<p>【到達目標】 前半8回 いかに現在の地球環境が危機的状況にあるかを把握し、それを克服するためのバイオ技術の可能性について理解する。 後半7回 環境における生命の多様性を理解するとともに、その環境をどのように維持してゆくかについて考察できるようになる事を目標とする。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の誕生と環境破壊による地球の危機 2. 環境破壊とエネルギー問題 3. 環境破壊と食糧問題：植物 4. 環境破壊と食糧問題：動物 5. 環境破壊克服への取り組み 6. 環境と体質と病気 7. 蚊の科学：蚊が媒介する病気 8. 蚊の科学：マラリアの現状と治療 9. 環境における生態系の形成 10. 生命の多様性 11. 身近な環境と生命 12. 環境と外来生物 13. 極限環境と生命 14. 環境変化による進化と絶滅 15. 生態系の維持と未来 		
<p>【テキスト】 パワーポイント、板書、配布資料により授業を行う。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 参考図書を授業の中で知らせる。</p>		
<p>【授業外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業範囲を予習し、自然科学系専門用語、化学式、及び構造式の意味等を理解しておくこと。 ・毎回の授業までに授業計画で示している部分について、講義資料に目を通しておくこと。 		
<p>【成績評価の方法】 毎回、講義の終わりに課題をレポートにまとめ提出。15回のレポートの内容を100点満点で総合的に評価する。</p>		

科目名 からだの化学と生物学（=いきものと物質）		担当者 島田 憲一・荒木 博陽
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 いきものに注目してその成り立ちから多様性に関する学修を通して、ヒトである生命体について考察することを目的とする。		
【授業の概要】 本講義は、生物の成り立ち、生物を形作る物質やその働きを理解するために、“いきもの”の多様性について、分子レベルから細胞レベル、細胞レベルから個体レベルへと展開しながら行う。		
【到達目標】 本授業の到達目標は、高校で「生物」を履修していない学生が大学の専門教育を受けるための基礎学力を習得することである。生物の成り立ち、生物を形作る物質やその働きを理解し、細胞レベルから生体レベルまでの相互関係を含めた生物学の基本的な知識をできることとする。		
【授業計画】 1. イントロダクション：細胞の力，生命とは何か（荒木） 2. 細胞の増殖：いろいろな生殖（荒木） 3. 細胞分裂の仕組み（荒木） 4. 細胞周期（荒木） 5. 生命の設計図：DNA（荒木） 6. 設計図の解読：mRNAとタンパク質（荒木） 7. 遺伝の仕組み（荒木） 8. 遺伝疾患（荒木） 9. 生体を構成する物質-タンパク質を中心に-（島田） 10. 酵素の力（島田） 11. 代謝とは？—呼吸—（島田） 12. 生体防御のシステム—免疫—（島田） 13. 生体内の輸送システム—血液—（島田） 14. いきものものの恒常性-ホルモン—（島田） 15. 生物の多様性（島田）		
【テキスト】 朝倉幹晴 著 「休み時間の生物学」, 講談社, 978-4061557017		
【参考図書・参考資料等】 編著者名 赤坂甲治 書名 「生物学と人間」(裳華房)		
【授業外学習】 毎回の授業の前までに前回の授業の復習をしておくこと。		
【成績評価の方法】 中間テスト50%, 定期テスト90%		

科目名 漢詩文の表現と心		担当者 土 屋 聡
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 詩歌や小説を中心とする漢文学の名作を通じて、豊かな漢文読解力を養う。		
[授業の概要] 先秦から唐宋までの漢詩文を取り上げ、それぞれの特長について講義する。		
[到達目標] 漢文学の特性を理解し、その伝統を改めて見直すとともに、読解力を培う。		
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 漢文読解の方法と意義 3. 漢語の性質 4. 漢文の修辞 5. 漢文学における感情のあらわれ方 6. 漢文法の基本 7. 漢文学における生活 8. 漢文学における家族 9. 漢文学における社会 10. 漢文学における人間と自然 11. 漢文学の花鳥風月—花— 12. 漢文学の花鳥風月—鳥— 13. 漢文学の花鳥風月—風— 14. 漢文学の花鳥風月—月— 15. 漢文学における理想郷		
[テキスト] 毎時、プリントを配布する。		
[参考図書・参考資料等] 主要な参考書はガイダンス自に指示する。他、必要に応じて随時紹介する。		
[授業外学習] 毎時の授業範囲を予習復習してくる。具体的内容は講義時間内に指示する。		
[成績評価の方法] 授業中の意欲・態度30%，課題20%，試験50%。		

科目名 漢詩文の表現と思想		担当者 土 屋 聡
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 漢文学を読解するために必要な知識を学び、基礎的な読解力を養う。		
[授業の概要] 漢文学に関する基礎的内容について講義する。主要な作品を選んで購読しつつ、理解しておくべき基本的事項や特徴について概説する。		
[到達目標] 漢文学の特長を的確に捉え、個別の文章について正確に理解する。		
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 漢字の発生と展開 3. 漢字の特性 4. 漢文訓読について 5. 漢文学の表現と心 6. 故事成語から捉える漢文学(1) 7. 故事成語から捉える漢文学(2) 8. 儒教について 9. 『論語』と孔子の心(1) 10. 『論語』と孔子の心(2) 11. 『論語』と孔子の心(3) 12. 道家思想について 13. 老荘の寓話 14. 隠遁の思想 15. 隠遁の文字		
[テキスト] 毎時、プリントを配布する。		
[参考図書・参考資料等] 主要な参考書はガイダンス時に指示する。他、必要に応じて随時紹介する。		
[授業外学習] 毎時の関連事項を調査してくる。具体的内容は講義時間内に指示する。		
[成績評価の方法] 授業中の意欲・態度30%，調査20%，試験50%		

科目名 漢字検定 1・2		担当者 教 務 委 員 会
開講期 集中	単位 1 単位	e-learningシステム ×
<p>【授業のテーマ】 本学に入学以前又は以後に、検定試験等で一定の成績を修めた者に対し、申請に基づいて単位の認定を行う。この単位は、年間履修登録単位数の上限の枠外とし、卒業要件単位として教務委員会が認定する。複数の試験による申請や同じ試験による複数回の申請も可能であるが、前回認定された単位を上回った場合のみ、その差の単位を追加認定する。</p>		
<p>【授業の概要】</p>		
<p>【到達目標】</p>		
<p>【授業計画】 財団法人日本漢字能力検定協会 日本漢字能力検定 準1級→1単位 日本漢字能力検定 1級→2単位</p> <p>※条件2単位（漢字検定1～2）まで認定を行う。 ※詳しくは履修要覧を確認すること。</p>		
<p>【テキスト】</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】</p>		
<p>【授業外学習】</p>		
<p>【成績評価の方法】 前期は7月末日、後期は1月末日までに単位認定申請書（※教務課にあります）に財団法人日本漢字能力検定協会の合格書を添えて教務課へ提出すること。</p>		

科目名 書道 1 a・b		担当者 中 池 克 直
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 書写技能の向上		
[授業の概要] 楷書・かなの基本の習得。書道史を適宜講義するとともに、岡山市で開かれる書道展の見学。		
[到達目標] 基本の習熟		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 概説（書道史） 2. 永字八法 3. 豊年収穫（楷書） 4. 豊年収穫（行書） 5. 九成宮醴泉銘の臨書（楷書） 6. 九成宮醴泉銘の清書 7. 蘭亭序の臨書（行書） 8. 蘭亭序の清書 9. 漢字, かなの変遷 10. いろは（単体） 11. いろは清書 12. かな, 2字・3字連綿 13. かな, 2字・3字清書 14. かな四行書き 15. かな四行書き清書 		
[テキスト] 授業中に指示する。		
[参考図書・参考資料等] 書道全集（平凡社）		
[授業外学習] 前回に習った技術を修得できるように努力する。		
[成績評価の方法] 清書作品50%, レポート30%, 授業時の態度20%		

科目名 書道2 a・b		担当者 中 池 克 直
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 書写技能の向上		
[授業の概要] 行書の技能の修得から楷書、隸書、かなの散らし書きへと発展する。(同じ句を最初は楷書も練習する。)書道史を適宜講義する。岡山市内で開かれる書道展を見学させる。		
[到達目標] 基本の習熟		
[授業計画] 1. 書道史 (漢字・仮名・カタカナの成り立ち) 2. 孔子廟堂碑の臨書 (楷書) 3. 孔子廟堂碑の清書 4. 曹全碑の臨書 (隸書) 5. 曹全碑の練習 (半紙4～6文字) 6. 曹全碑の清書 7. 漢字・仮名交じりの書 (詩文は各自考えさせる) 8. 漢字・仮名交じりの書 清書 9. 実用書 都道府県名の練習 10. 実用書 都道府県名の清書 11. 実用書 封筒・ハガキの書き方 12. 実用書 封筒・ハガキの清書 13. 実用書 ペン字 練習・清書 14. 創作作品 半紙に各自好きな語句を選ばせる 15. 創作作品 半紙に各自好きな語句を選ばせる 清書		
[テキスト] 授業中に指示する。		
[参考図書・参考資料等] 書道全集 (平凡社)		
[授業外学習] 前回習った技術が習得できるように努力する。		
[成績評価の方法] 清書作品50%, レポート30%, 授業時の態度20%		

科目名 茶道1 a・b		担当者 堀 田 喜美子
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 日本の伝統文化である茶道の知識を身に付けることで、心の豊かさと日本人としての誇りを得て、国際人としての素地を養い、伝統文化を伝承していく実践的態度を身に付ける。(※茶道は1と2を併せて履修すること)		
[授業の概要] 茶道の基礎を身に付けることを目標に道(心)・学(茶道学)・実(点前の実践)の3点を取り混ぜて進めていく。学外での茶会にも参加する。 材料費7,500円を別途徴収する。 個人持ちで帛紗セットが必要		
[到達目標] お客様のおもてなしの仕方、客としての姿など日々の生活の中に活かせる所作をしっかりと身に付ける。茶道のすべての点前の基本となる盆略点前を習得する。		
[授業計画] 1. 茶道の基礎知識 *稽古に必要な道具 2. 茶道の意義 *客の心得(座り方・歩き方・挨拶の仕方) 3. 茶道と日常生活 *席入り・お菓子の頂き方・お茶の頂き方 4. 茶会参加の準備と心得・茶席でのマナー *割稽古 5. 茶会に参加(後樂園お庭茶会:なでしこ茶会) *反省と感想 6. 茶の精神 和敬静寂 *盆略点前 7. 茶の心 *盆略点前 8. 茶と禅 *盆略点前 9. 茶会を計画 *盆略点前 10. 利休七則 *盆略点前 11. 禅語と掛物 *盆略点前 12. 季節の花・菓子 *七夕茶会 13. 茶の歴史 *水屋の心得・千歳盆点前 14. 茶道の成立 *千歳盆点前 15. 茶道具 *千歳盆点前		
[テキスト] 学校茶道教本編集委員会「裏千家茶道」(一般財団法人 今日庵) *個別販売とします		
[参考図書・参考資料等] 『新版 茶道大辞典』(淡交社) 『茶席の禅語大辞典』(淡交社)		
[授業外学習] 実技の遅れを取り戻せるように、時間外の稽古時間を準備しているので、利用して欲しい		
[成績評価の方法] 実技試験40%・筆記試験40%・レポート10%・受講態度10%		

科目名 茶道2 a・b		担当者 堀 田 喜美子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 日本の伝統文化である茶道の知識を身に付けることで、心の豊かさとして日本人としての誇りを得て、国際人としての素地を養い、伝統文化を伝承していく実践的態度を身に付ける。(茶道は1と2を併せて履修すること)		
【授業の概要】 前期に身に付けたことを基に、実技の段階を進めていく。茶会を企画・運営することで前期より一層実践できるようにしていく。 材料費7,500円を別途徴収する。 茶道1・2両方を修得した者は茶道裏千家初級の資格申請ができる。(実費別途必要)		
【到達目標】 茶道の日々の稽古の集大成である茶事をおこなうことで、茶道が日本の総合文化といわれることを実感できるようになる。 京都裏千家今日庵の拝観・研修もおこなう。		
【授業計画】 1. 利休道歌 * 盆略点前・千歳盆点前の復習 2. 茶道具 * 立礼点前 3. 季節と道具 * 立礼点前 4. 茶会参加(茶道部:大学祭茶会)感想と反省 * 薄茶点前(炉) 5. 炉開き * 道具の扱い方(縁高) 濃茶の頂き方 6. 茶会計画(三席)・クリスマス茶会・初茶会・修了茶事 * 薄茶点前 7. 露地・茶室・四畳半(小間席)への席入りの仕方・外待合、つくばいの使い方 8. 道具の扱い方・軸の掛け方、巻き上げ方・道具の箱の紐のかけ方・襖、障子の扱い方・座布団の座り方 9. 茶事とは? * 薄茶点前 10. 茶事のながれ * 薄茶点前 11. クリスマス茶会 * 各自役割の実践 12. 茶道具 * 薄茶点前 13. 初茶会・初茶会のしつらえについて * 各自役割の実践 14. 修了茶事について・茶事の準備・客の心得・茶事のながれ 15. 京都裏千家今日庵について * 薄茶点前・一年間の締めくくり		
【テキスト】 学校茶道教本編集委員会「裏千家茶道」(一般財団法人 今日庵) * 前期(1 a)と同様		
【参考図書・参考資料等】 『新版 茶道大辞典』(淡交社) 『茶席の禅語大辞典』(淡交社) 『茶の湯実践講座 正午の茶事』(淡交社)		
【授業外学習】 前期と同様に、時間外の稽古時間を準備しているので、活用して欲しい		
【成績評価の方法】 実技試験40%・筆記試験40%・レポート10%・受講態度10%		

科目名 日本文化論 1		担当者 浅 利 尚 民
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 本講義では、日本の文化において重要な役割を果たしてきた近世大名家について、主に岡山藩主池田家の活動を通じて、大名の果たした文化的な意義を論じる。池田家は戦国時代を生き抜いて近世大名家へと成長し、江戸時代を通じて岡山の地に現在まで伝わる多くの文化を育んできた。これらの文化がどのように発展・継承されてきたのかを考えるとともに、日本文化の特質について考える能力を養う。		
【授業の概要】 主に戦国時代から江戸時代にかけての岡山藩主池田家の活動を通じて、大名家が担ってきた文化事象を取り上げ、関連資料を明示しながらその概要や意義について論じる。		
【到達目標】 大名家による文化事象を学ぶことにより、大名家が担ってきた日本文化の幅広さや奥深さを知り、国外の文化などと比較して日本文化を考える能力を養う。		
【授業計画】 1. 大名論とは何か 2. 家紋の歴史と大名家 3. 書状の果たした文化的・歴史的な意義 4. 都の形象—洛中洛外図屏風を中心に— 5. 近世大名婚礼調度と武家の婚礼 6. 大名と物語—源氏物語と平家物語を中心に— 7. 大名の学び—岡山藩主池田家を中心に— 8. 日本の庭園と岡山後樂園 9. お茶と大名家 10. 大名家における肖像画 11. 能楽と大名 12. 日本刀と大名 13. 大名家の墓所 14. 和歌と大名 15. 近世大名文化の意義について		
【テキスト】 その都度、レジュメを配布する。		
【参考図書・参考資料等】 財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会編『閑谷学校ゆかりの人々』（山陽新聞社、2003年） 倉地克直『池田光政 学問者として仁政行もなく候へば』（ミネルヴァ書房、2012年） 『林原美術館名品選』（林原美術館、2017年）		
【授業外学習】 各自で大学近隣の博物館・美術館・史跡を見学しておくこと。		
【成績評価の方法】 小テスト（30%）と期末テスト（70%）		

科目名 日本文化論2		担当者 井上啓治
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
<p>【授業のテーマ】 江戸中期末の天明文化期に彗星の如くデビューし、寛政の改革時、若くして文壇の頭領に推された山東京伝は、自らも改革の犠牲となるが、これを「人生の転機」とした。小説を余技とし、正業の店を開き、＜風雅と風俗＞に満ち、韻律あふれる＜江戸年中行事職人尽し俳文絵本＞を創造し、その際発見し、生涯の目標とした「和学考証学」へと進んだ。その上で江戸読本という＜日本の説話・芸能演劇と中国小説を基にした長編総合小説＞の新ジャンルを開いた。その花形作家の志の探求をテーマとする。</p>		
<p>【授業の概要】 「日中山水画・花鳥画」「中世から近世演劇へ」「中世から江戸の日本文化へ」「中世芸能から近世演劇へ」に続き、今年度も一昨年・昨年同様「民間和学の元祖、山東京伝の人生の転機と新ジャンル創造へ」として、「街行く人々を描いた不思議な絵」と「爽やかな俳文」の絵本によって、庶民文化・生活風俗に関する「和学の考証学」を開拓し、百万都市江戸の毎月の年中行事や道行く様々な雑芸能者・雑職人を、絵と文で描いたその表現と彼の人生を講ずる。</p>		
<p>【到達目標】 その「和学考証学」の基となる『絵本四季交加』（しきのゆきかい）の絵と文を読解・享受する。幕府に処分されて休筆し、正業の店、銀座の大通りの店先に座って道を行き交う人々を眺め続けた作家の抱いた思想とは何だったのか、またその韻律と年中行事的な風物性による美文・俳文の魅力を知ること目標とする。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進行形態等のガイダンス 2. 図書館探検隊、「(雑)芸能者・(雑)職人、この一枚」の発見。 3. 『絵本四季交加』の序文 4. 春1月の俳文と絵 5. 2月の俳文と絵 6. 3月の俳文と絵、春のまとめ 7. 夏4月の俳文と絵 8. 5月の俳文と絵 9. 6月の俳文と絵、夏のまとめ 10. 大都市民京伝の〔無常観〕 11. 大都市民京伝の〔人生漂泊観〕 12. 無常観から「雑芸能者・雑職人」への関心・認識へ 13. 関心から考証へ 14. 和学考証学と京伝 15. 作家京伝の人生と考証学の完成へ、結論 		
<p>【テキスト】 コピーを配る。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 授業中指示する。</p>		
<p>【授業外学習】 毎回の授業前までに、配付したレジュメを読んでおくこと。</p>		
<p>【成績評価の方法】 受講態度40％、レポート60％</p>		

科目名 ポピュラー音楽の歴史		担当者 中西 裕
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 現代人は日常的なエンターテインメントとしてポピュラー音楽に濃厚に接している。そこで本科目では、ポピュラー音楽の歴史的展開、特に日本のポピュラー音楽のジャンルの形成・変遷過程を世相やテクノロジーとの関係に着目しながら文化史的に読み解いていく。		
【授業の概要】 講義と、受講生による発表（グループ発表も可）を組み合わせた授業を行う。講義では日本の大衆音楽を通史的に取り上げて変遷過程を跡付けるとともに現代のポピュラー音楽を考えるためのいくつかのトピックスを扱う、発表では受講者の音楽体験をもとにポピュラー音楽を歴史的視点で考察してもらう。		
【到達目標】 ・幅広い音楽の世界に気付き、精神生活を豊かにする。 ・日常的なエンターテインメントであっても歴史的、学問的なアプローチが可能であることを理解し、その面白さに気付く。		
【授業計画】 1. ポピュラー音楽とは何か 2. ポピュラー音楽の受容・消費 3. テクノロジーと音楽 4. 日本における大衆音楽の始原 5. アニメ・ソングの変遷 6. 近世日本の大衆音楽 7. 音楽のデジタル化 8. 日本の近代化と流行歌 9. 戦争とポピュラー音楽 10. 高度経済成長とポピュラー音楽 11. アイドルの歴史 12. ボーカロイドとCGM 13. ジャパノイド 14. ラテン系リズム 15. まとめ ふたたび、ポピュラー音楽とは何か		
【テキスト】 テキストは使用しない。授業では教材としてポピュラー音楽の音源を多用する。		
【参考図書・参考資料等】 『Jポップとは何か―巨大化する音楽産業』鳥賀陽弘道、岩波書店、2005、ISBN9784004309451 『音楽をまとう若者』小泉恭子、勁草書房、2007、ISBN9784326653232 『歌謡曲―時代を彩った歌たち』高護、岩波書店、岩波新書、2011、ISBN9784004312956 『ポピュラー音楽と資本主義』毛利嘉孝、せりか書房、2012、ISBN9784796703093"		
【授業外学習】 e-learningシステムに常に授業に関する情報を提供しているため、週に1回はアクセスして予習・復習を行うこと。		
【成績評価の方法】 レポート70%・発表30%		

科目名 現代の哲学と思想		担当者 若見 理江・小山 真也
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 身近なテーマについて、現代の哲学や思想、医療問題を手がかりにして考える。		
【授業の概要】 「真理」「言語」「身体」「歴史」「行為」「医療」という5つのテーマに沿って、現代的な問題を哲学的・倫理的観点から考察する。		
【到達目標】 日常生活や時事問題について批判的な視点を持ち、自分で考えるようになる。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 真理(1) 「実在」をめぐって(若見) 3. 真理(2) 普遍主義と相対主義(若見) 4. 言語(1) 言語と思考(若見) 5. 言語(2) 言葉の意味(若見) 6. 身体(1) 心身問題(若見) 7. 身体(2) 病いと障害(若見) 8. 歴史(1) 過去の実在(若見) 9. 歴史(2) 記憶と物語(若見) 10. 行為(1) 原因と理由(若見) 11. 行為(2) 自由(若見) 12. 生殖医療の問題とその変遷(リプロダクティブ・クローニング)(小山) 13. 移植医療の問題とその変遷(小山) 14. 終末期医療の意味の変遷(安楽死・尊厳死)生を選び取る主体としての人間(小山) 15. まとめ		
【テキスト】 レジュメを配付する。		
【参考図書・参考資料等】 レジュメに記載し、適宜紹介する。		
【授業外学習】 授業中に紹介する文献を読んで、理解を深めること。		
【成績評価の方法】 期末レポート70%と小レポート30%により総合的に評価する。		

科目名 人類学の世界と歴史		担当者 賈 鍾 壽
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 文化の多様性を紹介し、文化を通じての人間の特徴を探求する。		
[授業の概要] 人類学から何を学ぶことができるか、異民族・異文化と共に生きる共生社会の道を模索する。		
[到達目標] 文化・民族・人間をめぐる先入観や偏見などの問題をその歴史から学び、異民族・異文化との共存を考える。		
[授業計画] 1. オリエンテーション（人類学とは） 2. 人類学の歴史と変遷 3. 文化人類学の諸理論 4. 「近くて近い国」日本と韓国 5. 「共生」とは？ 6. 在日韓国人社会 7. 在日2世の世界・小テスト 8. 在日3世の世界 9. 「共生社会」を目指して 10. 在日4世的世界 11. 新韓国人と地域社会 12. 在日韓国人の意識調査 13. 「違い」を超えて 14. 国際化と日本 15. 国際交流・国際理解・小テスト		
[テキスト] 編著者名 Author / Editor 李 光圭 賈 鍾壽 編著 書名 Title 『共生社会を目指して—在日韓人社会と日本』 出版社 Publisher 大学教育出版 ISBN948-4-88730-980-7		
[参考図書・参考資料等] 授業中、適宜紹介する。		
[授業外学習]		
[成績評価の方法] 小テスト（50%） 講義で取り上げたテーマの中から1つを選びレポートを作成する（50%）		

科目名 アジアの民族誌		担当者 賈 鍾 壽
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 「神々の島」バリ島民の暮らしと文化を紹介する。		
【授業の概要】 「地上最後の楽園」バリ島の影と光を探る。		
【到達目標】 東南アジアへの知識を深め、異文化に関する多様な知識を身に付ける。		
【授業計画】 1. オリエンテーション（東南アジアの世界と文化） 2. 東南アジアとしてのバリ島 3. インドネシアとしてのバリ島・小テスト 4. 地上最後の楽園 バリ島 5. バリ島の歴史・小テスト 6. バリ島の歴史（中世・近世） 7. バリ島の歴史（現代）・小テスト 8. バリ島の社会 9. バリ島の生活文化・小テスト 10. バリ島の宗教と儀礼 11. バリ島の寺院・小テスト 12. バリ島の伝統芸能 13. バリ島の遺跡と美術 14. ジャワ島の寺院と遺跡 15. まとめ・小テスト		
【テキスト】 編著者名 Author / Editor 賈 鍾壽 書名 Title 『バリ島 Island of Gods』 出版社 Publisher 大学教育出版 ISBN978-4-88730-929-6		
【参考図書・参考資料等】 授業中、適宜紹介する。		
【授業外学習】 次回の授業範囲を予習しておくこと。		
【成績評価の方法】 小テスト（60%、小テストは授業中、約10分間行う） 期末レポート（50%）		

科目名 現代都市の魅力診断 a・b		担当者 吉 本 勇
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 魅力ある都市や街の秘密を探る。		
[授業の概要] 魅力ある都市や街を概観。人々を魅了する理由やその歴史的過程を追求していき、現在の都市や街のあるべき姿を考察する。		
[到達目標] 都市や街の魅力を導き出す能力を養う。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市の観察や歩き方について 2. 地方都市の都市構造の変化の概要 3. 大都市の都市構造の変化の概要 4. ファッションタウンの成立の条件 5. 世界都市東京の魅力ある都市空間 6. 青山、原宿地域のファッションタウンへの変容過程 7. 青山、原宿地域のファッションタウンとしての魅力を探る 8. 銀座（東京）の近現代史 9. 銀座（東京）の最新事情 10. 神戸にみるアーバンツーリズムの実践例 11. 岡山・倉敷の魅力診断1 12. 岡山・倉敷の魅力診断2 13. 地方都市・熊本の魅力診断 14. 地方都市・仙台の魅力診断 15. 都市の魅力とは何か 		
[テキスト] アーバンアメニティ研究所編、街は素敵なファッションの舞台、たいせい、4-924837-11-3 2,000円（授業中に配布予定）		
[参考図書・参考資料等] テキストで取り上げた都市や地域についてのガイドブックや商店会のホームページなどを参考		
[授業外学習] 日頃から街を歩き、人々の行動や街の変化などについて目を向ける		
[成績評価の方法] レポートによる評価（60%）授業への取り組み（40%）		

科目名 現代教育の諸問題		担当者 長 田 健 一
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本授業は、子ども・家庭・学校・社会に関わる教育問題（いじめや不登校、子どもの貧困、教育格差、家庭教育、ジェンダー、心の病など）について、人々の間でなぜ論争が生じるのか、どのようなことに気をつければ教育問題をより正確・的確に捉えることができるのかを、社会学の知見を通じて理解しようとするものである。また、演習（教育問題の分析と解決策の提案を行う発表）を通じて、教育問題に対する考え方を深めることを目指す。		
【授業の概要】 本授業は、①教育問題の捉え方や考え方に関する講義、②様々な教育問題に関するVTR視聴や学生同士でのディスカッション、③自身が関心を持つ教育問題に関する発表によって構成される。		
【到達目標】 ①教育問題が生まれるしくみ、また、教育問題の「解決」へ向けて議論する際に何が重要かを理解する。 ②現代社会における様々な教育問題の状況について理解を深める。 ③教育問題について多面的・多角的に考察し、その解決のあり方を展望できるようになる。		
【授業計画】 1. イントロダクション：教育問題のマッピング 2. 【講義①】教育問題とは何か？～「問題」が生まれるしくみ～ 【教育問題の学習・議論①】いじめ 3. 【講義②】事実認識を疑う～なぜ人々は間違えるのか？～ 【教育問題の学習・議論②】不登校・引きこもり・ニート 4. 【講義③】事実を見抜くにはどうしたら良いのか？～背景の吟味と情報リテラシー～ 【教育問題の学習・議論③】非行・暴力・体罰 5. 【講義④】原因の説明を疑う～因果関係の再考～ 【教育問題の学習・議論④】子どもの貧困・教育格差 6. 【講義⑤】解決策を吟味する～効果と限界・副作用～ 【教育問題の学習・議論⑤】家庭教育・親子関係 7. 【講義⑥】教育問題は「心の問題」か？～「自己責任」と「社会的要因」～ 【教育問題の学習・議論⑥】待機児童問題、幼児教育をめぐる環境 8. 【講義⑦】小活：教育問題にどう向き合えば良いのか？ 【教育問題の学習・議論⑦】教師と子どもの心の病、性・ジェンダー 9. 【教育問題の学習・議論⑧】学級崩壊・学級経営 10. 【教育問題の学習・議論⑨】外国人教育・多文化共生 11. 発表の準備 12. 教育問題に関する発表①（発表にあてる授業回数は、受講者の数に応じて調整する。） 13. 教育問題に関する発表② 14. 教育問題に関する発表③ 15. 教育問題に関する発表④		
【テキスト】 広田照幸、伊藤茂樹『教育問題はなぜまちがって語られるのか？—「わかったつもり」からの脱却—』日本図書センター、2010年、ISBN：978-4-284-30442-9		
【参考図書・参考資料等】 ①岡山県教育委員会編『月刊 教育時報』。 ②『切抜き速報 教育版』日本ミック、月刊。 ③田井康雄編『新・人間と教育を考える—教育問題の本質と教育哲学—』学術図書出版社、2013年。		
【授業外学習】 発表の準備に十分時間をとって取り組むこと。また、普段から新聞やテレビ報道、教育雑誌などに触れ、教育問題への視野を広げておくこと。		
【成績評価の方法】 ①発表（50%） ②授業での提出物（50%）		

科目名 心理学 1		担当者 原 奈津子
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 心理学の基礎		
【授業の概要】 私たちの行動や心的過程について、心理学の基礎知識をもとに解説を行う。生理心理学・感覚知覚・記憶・学習など心理学の基礎的分野となる領域を中心に、簡単な実験をまじえながら、理解を深めることを目的とする。また、心理学の研究パラダイム（実験や調査など）についても、体験的に学ぶ。		
【到達目標】 心や行動の科学としての心理学のいろいろなアプローチを理解するとともに、生理心理学・感覚知覚・記憶・学習など心理学の基礎的分野となる領域における基本的な事項を知ること为目标とする。		
【授業計画】 1. 心理学とは 2. 脳とところ① 3. 脳とところ② 4. 感覚・知覚—視知覚を中心に① 5. 感覚・知覚—視知覚を中心に② 6. 感覚・知覚—視知覚を中心に③ 7. 記憶①—感覚記憶・作動記憶 8. 記憶②—長期記憶 9. 記憶③—日常的な記憶現象を中心に 10. 思考①—問題解決・推論 11. 思考②—思考の個人差 12. 学習①—学習の原理 13. 学習②—学習の原理の応用 14. 動機づけ 15. 感情		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 Smith, E. E. et al. 「Atkinson and Hilgard's Introduction to Psychology 15th edition」 長谷川寿一ほか 「はじめて出会う心理学」、菊池聡 「超常現象をなぜ信じるのか」 以上のほか、講義中に適宜紹介する。		
【授業外学習】 授業後にノートを復習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 以下の総合評価（基本前提：2/3以上の出席）。 ①小レポート・3本程度（30%） ②学期末レポート（20%） ③テスト（50%）		

科目名 心理学2		担当者 原 奈津子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 心理学の基礎		
[授業の概要] 人間の発達や人間関係の様相について、心理学の基礎知識をもとに解説を行う。発達心理学・パーソナリティ心理学・臨床心理学・社会心理学など心理学の応用的分野となる領域について、簡単な心理テストや実験をまじえながら、理解を深めることを目的とする。また、心理学の研究パラダイム（実験や調査など）についても、体験的に学ぶ。		
[到達目標] 心や行動の科学としての心理学のいろいろなアプローチを理解するとともに、発達心理学・パーソナリティ心理学・臨床心理学・社会心理学など心理学の応用的分野となる領域における基本的な事項を知ること为目标とする。		
[授業計画] 1. 心理学とは 2. 乳幼児の認知発達 3. 愛着 4. 青年期の発達 5. 親としての発達 6. 高齢者の心理学 7. パーソナリティ①—パーソナリティとは 8. パーソナリティ②—パーソナリティの測定 9. ストレス①—ストレッサーとストレス 10. ストレス②—ストレス・マネジメント 11. 対人認知 12. 対人関係 13. 社会的影響① 14. 社会的影響② 15. 社会的ジレンマ		
[テキスト] 指定しない。		
[参考図書・参考資料等] Smith, E. E. et al. 「Atkinson and Hilgard's Introduction to Psychology 15th edition」 長谷川寿一ほか 「はじめて出会う心理学」 以上のほか、講義中に適宜紹介する。		
[授業外学習] 授業後にノートを復習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。		
[成績評価の方法] 以下の総合評価（基本前提：2/3以上の出席）。 ①小レポート・3本程度（30%） ②学期末レポート（20%） ③テスト（50%）		

科目名 現代の倫理（＝現代人の倫理と価値観）		担当者 高橋 文博
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 価値をめぐる近現代道徳とルサンチマン		
[授業の概要] 古典的な価値観との対比において、近現代における道徳の特質をルサンチマン（怨恨感情）にもとづくものと捉え、その様相と問題性を考察する。		
[到達目標] 古典的価値観・人間観と近現代の倫理意識について理解し、自らの価値意識と倫理観・人間観を反省的に捉え直す。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と生命 1 2. 人間と生命 2 3. 価値の意味 4. 価値の秩序 5. 価値の種類 6. 価値認識と倫理 7. 倫理の歴史性 8. 近代の倫理意識とルサンチマン 9. 愛の古典的理念 10. ルサンチマンの愛 11. 近代の倫理観1 個人主義 12. 近代の倫理観2 価値観の多様性 13. 近代の倫理観3 価値の普遍妥当性 14. 近代の倫理観4 価値秩序の転倒 15. 幸福とは何か 		
[テキスト] テキストは使用しません。授業のために必要なプリントを配布します。		
[参考図書・参考資料等] 『シェーラー著作集』第13巻（宇宙における人間の地位）白水社, 『シェーラー著作集』第1巻, 2巻（倫理学における形式主義と実質的価値倫理学）白水社, 『シェーラー著作集』第4巻（道徳の構造におけるルサンチマン）白水社		
[授業外学習] 毎回、前回の授業にかんする小テストを実施します。よく復習しておいて下さい。		
[成績評価の方法] 小テスト60%, 期末レポート40%		

科目名 女性の生活と歴史		担当者 内 田 由理子
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 原始から現代にかけて、各階層における日本女性の歴史を理解し、女性の役割や生き方を考える。		
[授業の概要] 原始から現代に至る日本女性の歴史を幅広く概観する。		
[到達目標] 政治・経済・労働・生活・家族・教育・宗教・性・民族そして社会に焦点をあて、各階層における日本女性の生活の具体像をとらえる。また、各時代に生きた女性を個別に取り上げ、私たちの将来像も視座に置きながら女性の役割や生き方を考える。		
[授業計画] 1. 原始の女性の生活と歴史：縄文時代の女性 2. 原始の女性の生活と歴史：弥生時代の女性 3. 古代の女性の生活と歴史：飛鳥時代の女性 4. 古代の女性の生活と歴史：律令国家の女性 5. 古代の女性の生活と歴史：奈良時代の女性 6. 古代の女性の生活と歴史：平安時代の女性 7. 中世の女性の生活と歴史：鎌倉時代の女性 8. 中世の女性の生活と歴史：室町時代の女性 9. 中世の女性の生活と歴史：戦国期の女性 10. 近世の女性の生活と歴史：江戸時代の女性 11. 近世の女性の生活と歴史：幕末期の女性 12. 近代の女性の生活と歴史：明治時代の女性 13. 近代の女性の生活と歴史：大正時代の女性 14. 近代の女性の生活と歴史：戦争と女性 15. 現代社会と女性		
[テキスト] なし。		
[参考図書・参考資料等] 義江明子 他「日本女性史大辞典」 田端泰子・服部早苗・上野千鶴子・比較家族史学会「ジェンダーと女性」 総合女性史研究会「史料にみる日本女性のあゆみ」「時代を生きた女たち 新・日本女性通史」その他、授業で適宜紹介する。		
[授業外学習] 毎回の授業を復習し、講義テーマに関する個別の女性等を確認しておくこと。		
[成績評価の方法] 課題・レポート等約30%、定期試験約70%によって総合評価する。		

科目名 現代の女性環境		担当者 内 田 由理子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 女性を取り巻く世界の諸情勢及びその仕組みと構造を理解する。		
[授業の概要] 貧困・教育・健康・暴力・開発・南北問題・人権をテーマに扱い、国連等の国際的な動向も視野におきながら、市民社会のあり方、NGO・NPOの役割、私たちの生き方について展望する。		
[到達目標] 社会経済環境の変化に伴う女性を取り巻く諸情勢の仕組みと構造について理解を深めるとともに、ジェンダー分析と女性のエンパワメントを基軸に、国際社会における女性の問題を考察する。		
[授業計画] 1. ジェンダー概念 2. メディアとジェンダー：メディアリテラシー 3. 貧困・教育とジェンダー：インドの女性 4. 性と生殖に関する健康と権利：アメリカの女性 5. 性と生殖に関する健康と権利：インドの女性 6. 性と生殖に関する健康と権利：中国の女性 7. 暴力とジェンダー：アメリカの女性 8. 暴力とジェンダー：日本の女性 9. 暴力とジェンダー：アフリカの女性 10. 暴力とジェンダー：ネパールの女性 11. 結婚とジェンダー：フィリピン・旧東欧の女性 12. 宗教とジェンダー：イスラム世界の女性 13. 農村開発とジェンダー：ベトナムの女性 14. 労働とジェンダー：北欧の女性 15. 政策とジェンダー：EUの女性政策・女性差別撤廃条約・国連女性会議等「美」意識とジェンダー		
[テキスト] なし。		
[参考図書・参考資料等] 村松安子「ジェンダーと開発」論の形成と展開—経済学のジェンダー化への試み 伊藤公雄・國信潤子・樹村みのり「女性学・男性学 改訂版—ジェンダー論入門—」 その他、授業で適宜紹介する。		
[授業外学習] 毎回の授業を復習し、講義テーマに関する世界の諸事象や国連、NGO、NPOの取り組み等を確認しておくこと。		
[成績評価の方法] 授業での学習活動及びレポート約30%、定期試験約70%によって総合評価する。		

科目名 異文化コミュニケーション1～4		担当者 国際交流委員会
開講期 集中	単位 2単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 海外の大学で学び、コミュニケーション能力を身につける。その上、他の文化について知識を深める。		
[授業の概要] 現地での語学学習及び異文化体験をする。(各学部の履修要覧を確認すること。)		
[到達目標] 現地での語学学習と異文化を体験することにより、外国語能力の向上と国際的な視野を広めることを目的とする。		
[授業計画] 1. オリエンテーション期間中の「海外語学研修説明会」への参加 2. 「単位認定に関わる海外研修申込書」提出 3. 第1回研修説明会 4. 第2回研修説明会 5. 第3回研修説明会 6. 出国, 語学研修開始 7. 語学学習 8. 語学学習 9. 語学学習, 文化体験 10. 語学学習 11. 語学学習 12. 語学学習, 文化体験 13. 語学学習 14. 語学学習 15. 帰国, 研修実施報告書など提出		
[テキスト] それぞれの研修で指示。各自購入する。		
[参考図書・参考資料等] 研修に関するプリントを配布し、映像資料を提示する。		
[授業外学習] 研修説明会に必ず参加をして、研修先で積極的に学び、異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高める。		
[成績評価の方法] 申請手続き・研修説明会への参加(20%), 研修先での学習成績・参加態度、及び帰国後に提出する「研修実施報告書」(80%) (国際交流センターの定める様式) による総合評価。		

科目名 自然地理学		担当者 吉 本 勇
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 世界と日本の自然環境（気候，地形，災害など）や環境問題を理解する。（高校地歴にも対応）		
【授業の概要】 自然現象が人々の生活や暮らしに及ぼす影響について理解する。		
【到達目標】 自然現象が人間の生活や暮らしに如何に影響を及ぼしているかについて理解するとともに，自然環境を通じて日本や世界の各地の様子を知る		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の自然環境の概観 2. 日本の自然環境の概観 3. 温帯湿潤気候地域の概観と人々の暮らし 4. 地中海性気候地域の概観と人々の暮らし 5. 熱帯地域の概観と人々の暮らし 6. 乾燥地域の人々の暮らし 7. 世界の環境問題 8. 日本の気候 9. 日本の自然災害の概観 10. 東日本大震災の影響 11. 沖縄の人々の暮らし 12. 中四国地方の人々の暮らし 13. 天気図の読み方 14. 地形図の読み方 15. 日本の環境問題 		
【テキスト】 帝国書院 編集部，新詳地理資料 COMPLETE 2018，帝国書院		
【参考図書・参考資料等】 世界や日本に関する自然現象に関するテレビ番組やニュースなどについて視聴する		
【授業外学習】 地形図を利用した町歩きなどを実践する。		
【成績評価の方法】 定期試験による評価（60%），授業への取り組み（40%）		

科目名 博物館概論		担当者 浅 利 尚 民
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 市民教育の〈場〉としての近代的博物館活動に到達するまでの博物館史を概観する。		
【授業の概要】 博物館的活動は約2,500年の歴史をもっているが、時代的要請は変化している。近代的博物館活動に到達するまでの博物館史を概観する。		
【到達目標】 博物館史を概観した上で、現代の博物館・美術館活動に何が求められているかを考える力を養う。		
【授業計画】 1. 博物館とは何か。博物館運動の展開と博物館法 2. ヨーロッパの博物館Ⅰ—大英博物館の歴史— 3. ヨーロッパの博物館Ⅱ—ルーブル美術館の歴史— 4. アメリカの博物館Ⅰ—スミソニアン博物館群の歴史— 5. アメリカの博物館Ⅱ—ボストン美術館— 6. アメリカの博物館Ⅲ—メトロポリタン美術館の歴史— 7. わが国の博物館運動の歴史Ⅰ—正倉院から物産会まで— 8. わが国近代の博物館思想の導入Ⅰ—福沢諭吉・キヨッソーネ・フェノロサ・岡倉天心ら— 9. わが国近代の博物館思想の導入Ⅱ—万国博覧会と博物館— 10. わが国近代の博物館思想の導入Ⅲ—臨時全国宝物調査と古社寺保存法の成立— 11. わが国の西洋美術専門館の成立 12. 私立美術館の登場と役割 13. 地方自治体立博物館の登場と役割 14. わが国古美術の再評価と新美術運動の展開 15. 学芸員の役割と必要とされる能力		
【テキスト】 『新時代の博物館学』（全国大学博物館学講座協議会西日本部会編，芙蓉書房出版，2012年） 必要に応じてレジュメも配布する。		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】		
【成績評価の方法】 小テスト（30％）及び期末テスト（70％）		

科目名 教職論（人文）（=教師論）		担当者 渡 邊 言 美
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 教師のおかれるさまざまな状況について理解を深め、学校教育と教師についての理解を深めるとともに教職につくための基礎教養を身につける。		
【授業の概要】 教職の意義や教員の役割、教師の身分・職務内容・服務、研修および教師像の変遷について概説するとともに、教員免許・採用の制度の現状と近年の改革の方向性、教員になるための望ましい準備についても解説し、進路選択に資する各種の機会の提供に努める。学生の意見発表を求める。		
【到達目標】 教職の意義や教員の役割について理解するとともに、教職必修科目として、教員をめざすための心構えや採用試験対策について基礎知識を得る。		
【授業計画】 1. 教職の意義・教員の役割とは 2. 教員免許制度・採用の現状 3. 教師の職務・服務規程 4. 教師の勤務環境 5. 教員養成・採用の歴史的特質 6. 日本の教師像の変遷(1) 日本戦前期 7. 日本の教師像の変遷(2) 日本戦後期 8. 現在望まれる教師像 中教審・岡山県 等 9. 教師に関する法規(1) 教師の権利・義務 10. 教師に関する法規(2) 教師の分限・懲戒 11. 教師の研修 12. 今後の教員養成・教員政策の方向 13. 教員採用試験受験準備に向けて ゲスト講師 14. 教員採用試験準備方法 15. 総括		
【テキスト】 佐藤晴雄 教職概論―教師を目指す人のために―〈第5次改訂版〉 学陽書房 ISBN 978-4-313-61142-9		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 毎回数回範囲を示すので、該当部分を読んでおくこと。		
【成績評価の方法】 定期試験（50％）・小テスト（30％）・提出物・受講態度（20％）		

科目名 教育学概論（中等）		担当者 渡 邊 言 美
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本授業は教育の基礎理論に関する科目である。教育の理念に関する内容を中心とし、「子どもの権利と学び」という観点から、現代教育と子どもの学びについてのあるべき姿を検討する。		
【授業の概要】 大きく3部構成とし、1部では歴史的に見た「子ども」像の変遷および現代の子ども観について概説する。2部では、現代の子どもをとりまく問題について様々な観点から講義する。3部では、今後求められる子どもの学びのありかたについて講義する。学生の意見発表を求める。		
【到達目標】 子どもの権利と学びについて基本事項を理解し、教育について考えを深める。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 子どもの権利条約 3. 近代における「子ども」の発見① 4. 近代における「子ども」の発見② 5. 新教育運動と子ども 6. 日本近世の子どもの養育と学び 7. 現代の子ども観 8. 子どもの虐待 その現状と背景 9. 校則の特徴と現状 10. 体罰 11. 子どもの貧困・格差問題 12. 新しい学び ICT教育 13. 新しい学び PISA型学力の構築 14. 新しい学び 言語能力 15. 総括		
【テキスト】 池田隆英・楠本恭之・中原朋生（2015）『なぜからはじめる教育原理』建帛社 ISBN 978-4-7679-5020-4		
【参考図書・参考資料等】 適宜指示。		
【授業外学習】 毎回の授業に当たって予習を課す。		
【成績評価の方法】 定期試験（50％）・小テスト（30％）・討議参加・提出物（20％）		

科目名 教育心理学（人文・心理）		担当者 石原 みちる
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 幼児，児童及び生徒の心身の発達を踏まえた学習の過程と指導法について，基礎的な知識，考え方を身につける。また，教育現場において生じる問題を知り，その背景と支援についての考え方を学ぶ。		
【授業の概要】 心理学的研究に基づいて教育を行うための基本的な考え方を学ぶ。子どもを発達する存在として捉え，その学習・動機づけ・記憶・学習評価・集団についての基本的な理論を学ぶことで，子どもを心理学的に理解し，その教育方法の基本的考え方を身につける。また，教育現場において生じる心理社会的課題について知り，その支援の基本的な考え方を学ぶ。		
【到達目標】 教育において必要な子どもの心理学的理解の基本を身につける。心理学に基づく教育方法の基本的考え方を身につける。教育現場で生じる問題についての心理学的理解と支援の基本を身につける。		
【授業計画】 1. 導入 教育心理学とは 2. 幼児期から青年期の発達段階 発達の要因 3. 社会性・対人関係の発達 4. 知的能力の発達 5. 教育現場で生じる問題 いじめ・不登校 6. 教育現場における心理社会的問題 神経発達障害 7. 教育現場における心理社会的課題への対応 教育相談 8. 教育現場における心理社会的課題への対応 スクールカウンセリング 9. 学習理論（条件づけ） 10. 学習理論（モデリング） 11. 動機づけ 12. 記憶と理解 13. 教育・学習の評価 14. 学習指導の方法 15. 学級集団の理解／まとめ		
【テキスト】 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著） 「やさしい教育心理学 第4版」有斐閣アルマ 有斐閣 ISBN 978-4641-22059-1		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 毎回のWEBCLASSの課題（60分程度）。 その他，自主的な教科書の予習。授業後に教科書で紹介されている文献を読み，自らの理解を深める。		
【成績評価の方法】 期末テスト（60％） 課題への取り組み（30％） 授業への積極的参加（10％）		

科目名 学校制度論		担当者 高 木 亮
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 現在の学校を支える設置者（行政と法人）、財政およびその管理・運営・経営をめぐる基礎知識を習得する。次いで現在の学校を支える仕組みの現状と課題を理解する。		
【授業の概要】 教職に就いたものはそのキャリアの中期以降に児童生徒を間接的にも支える制度上の役割（管理・運営・経営）も担う。これらの現状と課題を法制や行政、財政および経営の視点で学習し、それを将来支えうる基礎素養を身につける。		
【到達目標】 中学校教員・高校教員や養護教諭として職に就く上で必要な教職教養分野での関連知識は一通り理解できることを最低限求める。次いで、将来教職に就く者として大学在学中と卒業後の教職に就く期間に必要な知識と関心を能動的に学べるようになることを目指す。		
【授業計画】 1. オリエンテーションと参考書籍紹介 2. 日本の学校経営をめぐる法制度 —各種法令の理解— 3. 日本の学校経営をめぐる政策・行政の現状 4. 日本の学校経営をめぐる財政・財務の流れ 5. 日本の教育行政体系 6. 地方教育行政における学校設置者の課題 —地域教育経営— 7. 学校制度をめぐる管理・運営・経営(I) —ガバナンスとマネジメント— 8. 学校制度をめぐる管理・運営・経営(II) —学校の責任と目標管理— 9. 中間まとめと該当範囲の教員採用試験動向の確認 10. 学校制度の経営資源としての教職員(I) —教員人事と研修— 11. 学校制度の経営資源としての教職員(II) —教員の労務管理とキャリア— 12. 学校制度の経営資源としての物資・予算・情報 13. 教職キャリアの中の教育行政勤務 14. 教職キャリアの中のミドルリーダーとリーダー 15. 後半まとめと該当範囲の教員採用試験動向の確認とこれからの学校のはなし		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 法令・各種答申はもとより中学校教員・養護教諭教諭それぞれの分野ごとに基幹となる参考図書や資料を紹介する。インターネット等で入手できる公刊統計等は随時紹介するため関心をもって自ら調べてもらいたい。		
【授業外学習】 本科目は教育法令および行政制度から社会現象まで極めて多様な現在の教職の基礎知識を理解し身に着ける授業である。大量の暗記も必要とし、これをこなさなければ卒業後の教職生活は成立しない。しっかりとした知識習得努力を求める。		
【成績評価の方法】 最低限の授業態度を前提条件とする。その上で積極的授業態度(20%)とレポート・振り返り小テスト(80%)をもとに総合的に評価する。		

科目名 生涯学習概論Ⅰ（大学用）		担当者 高 木 亮
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 現代社会において学齢期だけでなく成人・社会人（職業人・家庭人）となった後も学習は生きていくために必要である。そのような生涯学習の基本的な枠組みを抑えつつ、生涯のそれぞれの発達段階（ステージ）ごとの基本的な学習課題を考える。</p>		
<p>【授業の概要】 家庭・学校・社会人の3つの時期ごとに整理しつつ生涯発達していく現代人にとっての生涯学習の必要性を学習する。次いで、その課題にこたえる社会教育施設の法制や現状の基礎的枠組みを考える。</p>		
<p>【到達目標】 現代人の生涯においてそれぞれ存在する発達課題を全体的に取りまとめた視点で理解できることと、その上で、自らの今までとこれからを発達段階ごとの質の変化としてとらえ、学びつづける上での最低限必要な知識を身に着ける。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションと書籍紹介 2. 生涯学習の意義と理論 3. 生涯学習における学びの時期 —発達課題について考える— 4. 生涯学習における家庭教育 5. 生涯学習における学校教育(1) —義務教育段階まで— 6. 生涯学習における学校教育(2) —高校以降の専門教育— 7. 生涯学習におかす社会人の教育(1) —働くための教育— 8. 生涯学習における社会人の教育(2) —教養としての教育— 9. 生涯学習制作と社会教育 10. 社会教育にかかわる制度と組織体系 11. 生涯学習と雇用・経済 12. 生涯学習と医療・福祉 13. これからの日本と生涯学習 14. 生涯学習の制度と施設の今後の課題 15. まとめ 		
<p>【テキスト】 指定しない。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 参考図書や資料を紹介する。インターネット等で入手できる公刊統計等は随時紹介するため関心をもって自ら調べてもらいたい。</p>		
<p>【授業外学習】 概論であるため最低限身に着けるべき用語の暗記や概要・仕組みに関する理解を必要とするものが多い。しっかりとした復習を必要とする。</p>		
<p>【成績評価の方法】 最低限の授業態度を前提条件とする。その上で積極的授業態度（20%）と課された課題・小テスト（80%）をもとに総合的に評価する。</p>		

科目名 図書館概論（大学用）		担当者 松 崎 博 子
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 図書館と社会の関係を理解して「図書館とは何か」という問いかけにそれぞれ自分なりの答えを見つける。図書館は、図書館員が読者と本を結び付ける場所であり、図書館員は“求める人に求める本を”提供する本の専門家であることを伝える。</p>		
<p>【授業の概要】 現代公共図書館の社会的意義を概観し、利用者が日頃強く意識しない図書館の機能に気づかせる。図書館専門職の果す役割について概説する。</p>		
<p>【到達目標】 利用者が日頃強く意識しない図書館の機能に気づき、図書館の社会的意義、図書館専門職の果す役割について主体的に考えることができる。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の意義と役割 (1) 2. 図書館の意義と役割 (2) 3. 図書館の歴史 (1) 4. 図書館の歴史 (2) 5. 図書館の機能と種類 6. 図書館のサービス 7. 図書館のコレクション 8. 図書館の情報組織化 9. 図書館のネットワーク 10. 電子書籍時代の図書館 11. 図書館利用教育と情報リテラシー 12. 図書館経営 13. 図書館員という仕事 14. 図書館の自由【知的自由】(1) 15. 図書館の自由【知的自由】(2) 		
<p>【テキスト】 山本順一編著『新しい時代の図書館情報学』有斐閣（有斐閣アルマ）978-4641220102 補訂版 978-4-641-22083-6</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 塩見昇・山口源治郎編著『図書館法と現代の図書館』</p>		
<p>【授業外学習】 毎回の授業の前までに授業計画で示している部分について、テキストおよび関連資料情報を読んでおくこと。（30分程度）</p>		
<p>【成績評価の方法】 定期試験70％・小テスト30％</p>		

科目名 スタートアップ就実		担当者 教育開発センター長・各担当者
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 入学直後の学生が、大学の教育や大学生活にスムーズに導入できるよう、学びの活動を支援することを目的とする。		
【授業の概要】 「自校教育」「仲間づくり・人権」「キャリア・ライフデザイン」「情報教育」の4つの分野からなり、学生の成長度を測るための調査を含む。建学の精神を知ることによって本学の学生としての自覚を促し、様々な学部の学生と交流し討論することで多様な考え方や価値観があることを理解し、社会へ出たときに協働できる資質を磨く。また、大学生活を送る上で、基本的な学び方やマナー・ルールを理解することで、主体的に行動できる能力を磨き、学生の成長を支援する。		
【到達目標】 ①本学の建学の精神と教育理念を理解し、実践できる。 ②各学部の教育目標や特徴を理解できる。 ③自己管理の大切さを理解し、充実した大学生活ができる。 ④大学での基本的な学び方を体得し、主体的に行動できる。 ⑤友達を作り、チームワークの大切さを理解することができる。 ⑥多様な考え方や価値観があることを受け入れることができる。 ⑦課題解決の方法を学び、キャリア・人生設計ができる。 ⑧情報モラルを理解し、適正な行動ができる。		
【授業計画】 1. 就実大学の建学精神・理念と大学における学び 2. 自分の強みと弱みを知る（新入生調査の説明・実施） 3. 就実大学の教育・研究：各学部の特色 4. 学内施設の魅力と効果的な利用法 5. 大学で成長するために（新入生調査結果の解説） 6. アクティブ・ラーニング／グループワーク手法（仲間作り） 7. 人権・マナーについて考える（①課題探究） 8. 人権・マナーについて考える（②問題解決） 9. 身近な大人を通して考える「理想の大人像」 10. キャリアについての基礎知識 11. 社会で活躍する先輩に学ぶ「充実した人生」 12. 大学前半の過ごし方をデザインする（プロジェクトマネジメント） 13. 社会の情報化と情報倫理／情報の管理手法 14. 個人情報保護とセキュリティ／情報のデジタル化 15. 著作権保護／情報の量と単位		
【テキスト】 ・スタートアップ就実テキスト（初回授業時に配布予定）ならびに各回に授業もしくはWebclassで配布される資料		
【参考図書・参考資料等】 9～12回は以下の図書を参考図書とする：『図解PMコース1 プロジェクトマネジメント 理論編』（第2版）（通勤大学）、『図解PMコース2 プロジェクトマネジメント 実践編』（第2版）（通勤大学）、『考具 一考えるための道具、持っていますか?』（CCCメディアハウス）		
【授業外学習】 ・講義中の課題に対して関係資料を調査し、自身の考えをまとめる等、積極的に取り組むこと（約60分を要する）。		
【成績評価の方法】 ・講義への取り組み姿勢（30%）、成果物の提出状況（20%）とその内容（50%）により、15回分を通して総合的に評価する。		

科目名 ことばの科学		担当者 京 健 治
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 この授業では、言語の科学的研究である言語学についての基礎知識を学ぶ。		
【授業の概要】 言語研究は、どういったものを対象とするのか、どのような視点から研究するのかなどによって、さまざまな分野に分けられる。本講義は、言語学が扱うさまざまな研究領域の中から、音韻、形態、統語、意味といった言語学の標準的な分野ではなく、主に「ことばと何か」といった言語の本質や特質に関わる項目を取り上げ概説を行う。言語研究の導入科目として、言語に関する様々なトピックを取り上げることにする。		
【到達目標】 この授業を通して、言語を客観的に分析する手法や観点とはどういったものであるかを考え、自らのことばで説明できるようになることを目標とする。		
【授業計画】 1. ガイダンス（授業方針と内容・評価方法） 2. 言語の起源 3. 文字の発達 4. 言語の特性 5. 動物と人間言語 6. 言語と脳 7. 母語の習得 8. 第二言語の習得 9. 言語の歴史と変化1 10. 言語の歴史と変化2 11. 言語と音1 12. 言語と音2 13. 言語の多様性 14. 言語と社会・文化 15. まとめ		
【テキスト】 テキストは使用せず、プリントを作成し配布する。		
【参考図書・参考資料等】 ジョージ・ユール著 『現代言語学20章』大修館書店 小泉保著 『教養のための言語学コース』大修館書店		
【授業外学習】 授業中に配布されたプリントにもう一度目を通し、復習をした上で次回の講義に臨むこと。		
【成績評価の方法】 平素の取り組み（各回の講義に対するコメント等を含む）30%・期末試験70%を目安として、総合的に評価する。		

科目名 労働と社会		担当者 佐藤温子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
<p>【授業のテーマ】 本科目は、現在、わが国における労働環境がどのような状況にあり、どのような課題を抱えているのか理解することを目標としている。</p>		
<p>【授業の概要】 日本における雇用状況や労働環境などについて解説を行う。残業の長時間化、ブラック企業の存在などの問題点も取り上げる。</p>		
<p>【到達目標】 労働と社会に関する基本知識を習得する。現在および将来の働き方や生き方への総合的知見と思考力を涵養する。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 国際比較から見た日本社会と労働 3. 日本社会における労働の変遷 4. 労働法の概略と働き方 5. ジェンダーと労働 6. 少子高齢化と労働 7. 技術の発達と労働 8. 課題 (1) - 最低賃金 9. 課題 (2) - 非正規雇用 10. 課題 (3) - 長時間労働 11. 課題 (4) - ブラック企業 12. 若年層の労働問題 13. ワークライフバランス 14. 日本の社会保障 15. まとめ 		
<p>【テキスト】 なし</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 講義の中で随時紹介。</p>		
<p>【授業外学習】</p>		
<p>【成績評価の方法】 ミニレポート（約30%）、期末試験（約70%）によって評価する。</p>		

科目名 政治学概論		担当者 佐藤 温子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 本科目は政治学の基本的な知識の習得，および，政治の基礎的な概念についての理解を目標としている。		
【授業の概要】 本科目は，上記の目標を達成するために，具体的に，政治体制や制度などについて広く学習していく。こうした学習を通じて，現代社会において政治が抱えている問題に関して，自らの思考を深め，考察する力を養う。		
【到達目標】 政治の基礎概念を習得する。政治に対する批判精神を涵養し，現代政治の課題を述べることができる。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 民主政治 3. 国家と政府 (1) 4. 国家と政府 (2) 5. 象徴的な事件 (1) 6. 象徴的な事件 (2) 7. 政治体制と政治制度 (1) 8. 政治体制と政治制度 (2) 9. 世論とマスメディア 10. 政治文化 (1) 11. 政治文化 (2) 12. 社会運動 13. グローバル化 14. 外交と内政 15. まとめ		
【テキスト】 なし		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で随時紹介。		
【授業外学習】		
【成績評価の方法】 ミニレポート (約30%)，期末試験 (約70%) によって評価する。		

科目名 地球と宇宙のサイエンス		担当者 泉浦 秀行・土屋 裕太
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 地球や宇宙と人間との結びつきについての知見を広げ理解を深める。		
[授業の概要] 主に座学により、身近な身の回りのものと地球や宇宙とのつながりを学ぶ。		
[到達目標] 一定のキーワード群が与えられた場合に、それらを使って相関図を作成し、相互の関係について他者に説明することができるようになる。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の成り立ち～地球の三圏～（土屋） 2. プレートテクトニクスと地殻の形成（土屋） 3. 岩石と鉱物（土屋） 4. 移り変わる地球（土屋） 5. 地球の環境（土屋） 6. 金やプラチナはどこから来たのか？（泉浦） 7. 太陽と月と地球と（泉浦） 8. 太陽系のでき方（泉浦） 9. 星の一生（泉浦） 10. 元素の合成と放散，地球上の資源との結びつき（泉浦） 11. 隕石と太陽系（Oumuamuaの飛来）（泉浦） 12. 宇宙の中の地球とは？（泉浦） 13. 遠方宇宙の姿（泉浦） 14. 太陽系外惑星（泉浦） 15. サイピアでプラネタリウム視聴，天体観望（泉浦） 		
[テキスト] 特に指定しない。		
[参考図書・参考資料等] 理科年表シリーズ マイ ファースト サイエンス よくわかる宇宙と地球のすがた（国立天文台編，丸善株式会社），スクエア 最新図説地学（第一学習社）		
[授業外学習] 必須ではないが，時間のある時に参考図書を眺めることを薦める。		
[成績評価の方法] 定期試験70%程度，授業中の小提出物30%程度。		

科目名 欧米の世界と文化		担当者 武部好子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 欧米文化が培ってきた芸術的価値を学び、それらについて英語でプレゼンテーションするスキルを磨く。		
【授業の概要】 欧米の世界と文化について、言語的および非言語的側面から、演劇・絵本・音楽等を通して、その魅力と課題に迫る。		
【到達目標】 受講生は興味のあるテーマについて、視聴覚的資料を用いて英語によるプレゼンテーション力も習得する。		
【授業計画】 1. 導入（武部・ダンテ・安久津） 2. 欧米の文化：演劇編：演劇の言語的魅力（武部） 3. 欧米の文化：演劇編：演劇の非言語的魅力（武部） 4. 欧米の文化：絵本編：絵本の言語的魅力（武部） 5. 欧米の文化：絵本編：絵本の非言語的魅力（武部） 6. 欧米の文化：音楽編：ベートーベンの変奏曲に見る伝統と革新（安久津） 7. 欧米の文化：音楽編：『サウンド・オブ・ミュージック』の教育学的分析（安久津） 8. 欧米の文化：音楽編：アメリカの教育事情と芸術教育が直面する現代的課題（安久津） 9. 英語プレゼンテーションの紹介（ダンテ） 10. プレゼンテーションの計画（ダンテ） 11. プレゼンテーションの準備（ダンテ） 12. プレゼンテーションの練習（ダンテ） 13. プレゼンテーションの実践（武部・ダンテ・安久津） 14. プレゼンテーションの応用（武部・ダンテ・安久津） 15. まとめ（武部・ダンテ・安久津）		
【テキスト】 適宜配布		
【参考図書・参考資料等】 適宜配布		
【授業外学習】 日頃から欧米の文化に関心を持ち、授業で扱うテーマについて予習・復習を行い、プレゼンテーションに備える。		
【成績評価の方法】 英語プレゼンテーション 30% 日本語レポート 60% 授業参加度 10%		

科目名 コラボレーション学修1 (いのちとは?)	担当者 毎 熊 隆 誉	
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 生・老・病・死に関わる「いのち」とは現代社会における普遍的な問題である。本講義では、社会を生きる人々の「いのち」への関心を高め、個々の「いのち」を社会で生かしていくために、多角的な立場から「いのち」についての時事を紐解き、解釈し、自分の行動や将来設計に役立てることを最終目標とする。		
【授業の概要】 この授業では多角的な視座から、「いのち」をめぐる科学的、文化的、歴史的、社会的問題について検討する。各テーマについて、学問横断的な教員と学生との交流、さらに学生間の双方向的な交流を行う。それらを通して、「いのち」についてこれまでに意識されることのない社会的な背景を踏まえた上での自身の行動や将来設計のあり方を考える。		
【到達目標】 ・「いのち」についての自身の考えを明確にする。 ・「いのち」に影響を及ぼす様々な社会システムについて説明できる。 ・「いのち」について考えることを通して、自身の思考・発想の傾向や価値観に気づき、他者と協同して考えをさらに展開させることができる。		
【授業計画】 1. オリエンテーション:「いのち」について考える, 「いのち」の根源①:生物学・医学からの視座 2. 「いのち」の根源②:生物学・医学からの視座 3. 「いのち」の表現①:過去から今に記された文学・絵画・演劇・音楽 4. 「いのち」の表現②:この世に生を受けた証:産声と発語 5. 「いのち」の表現③:いのちの表現の進化~生き延びとしてのコミュニケーション~ 6. 「いのち」の体感:妊娠と出産 7. 「いのち」を選ぶ①:どうやって選んでいるのか(不妊治療・避妊・人工中絶) 8. 「いのち」を選ぶ②:なぜ選ぶのか(病・遺伝・男女産分け・終末期医療) 9. 「いのち」へのアンチテーゼ①:「不老不死」と電子テクノロジー 10. 「いのち」へのアンチテーゼ②:SGD(機械生命体と暮らす未来) 11. 「いのち」を育む上での課題に着目するSGD(赤ちゃんポスト) 12. 「いのち」を育む:育児・保育を担う施設環境と制度 13. 「いのち」の終わり①:戦争とテロリズム ~人はなぜ殺し合うのか~ 14. 「いのち」の終わり②:現代社会における生と死 ~生命の尊厳をいかにして守るか~ 15. まとめ:「いのち」を生かしていく人と社会		
【テキスト】		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 各担当者より課された提出物・レポートについて積極的に取り組むこと(各60分程度を要する)。 「いのち」について考えることは、自分自身について考えることにもつながります。授業では教員と学生の双方向だけではなく、学生間のマルチ方向での交流を目指しています。この授業だけではなく、他の機会でも、他者が何についてどのように考えているのか、自分はどのように考える傾向があるのか、よく見て聴いて考えてみて下さい。		
【成績評価の方法】 各担当者より課した提出物・レポート(70%), および講義への取り組む姿勢(30%)を総合的に判断して評価する。		

科目名 日本伝統の折紙の科学		担当者 三枝 省三・杉山 文子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 江戸時代に川柳、俳句、茶、大衆文化として栄えた日本伝統の文化の一つに折紙がある。ここに来て折紙の存在に変化が表れてきた。2012年に米国で大型ORIGAMIプロジェクトとなってからである。即ち日本の文化が世界の科学へ展開され始めたということにもなる。折紙からORIGAMIである。 マンガ（アニメ）、カワイイと言った純粋に文化としてのグローバル化ではなく文化が直接的に産業化の可能性への展開が始まったことが大切である。それには折紙を工学的な視点から科学として扱いその設計の可能性を追求する必要がある。本科目は折紙の持つ楽しさを享受しながらもの作りへ展開する可能性を吟味するとともに、創造性を涵養するものである。		
[授業の概要] 3つのステップから学習ができるよう工夫されている。 (1) 趣味、遊びとしての折紙を、また人によっては芸術的な折紙の入り口の視点で基本的で簡単な折紙を作成し、折方の「基礎編」を学習する。 (2) 折紙を科学の視点で吟味し、その成果を工学や医療バイオなどの分野の産業へ展開していく流れを考える「論理編」、 (3) 具体的に少し複雑な折り方をして、現実の工学やバイオなどの課題解決への可能性を表現する「応用編」。 多くの演習を入れており、簡単な折紙から覚え得て次世代に引き継ぐ折紙、そして産業に適応可能な折紙を楽しみながら学習する。一方では、本折紙で間接照明を作るデザインを創作した有名な芸術家もいて、折紙と芸術の入り口を楽しむことができる。		
[到達目標] まずは折紙の歴史を知り、日本文化の貴重な一つをどう感じ解釈するかの視点を持つこと、次にそれを楽しみながら実践するスキルをもつことが出来るようになる。次に少し難しい折り方になるが、折紙が持つ可能性を学習し、それがこれからのような産業展開となるかを知り、認識を深めることができることを目標とする。		
[授業計画] 1. ガイダンスと折紙の歴史について 2. 折紙の基本と簡単な折紙作成演習（山折り、谷折り、返し折り、…） 3. 折紙によるモノづくりと折紙工学への誘い 4. 折紙と幾何学の関連；幾何学を基礎にした折紙模型の開発 5. 折紙模型作成演習 6. 折畳みのできる構造；円筒、円錐と円形膜の折り畳み法とこれらの組み合わせ構造 7. 同上グループ演習 8. 折紙作品展、動体折紙競技会：折紙で飛行機を作成しその競技を行う。 9. 2枚張り合わせ折紙 10. 2枚張り合わせ折紙グループ演習 11. 折り線が曲線の場合の折紙 12. 折り線が曲線の場合の折紙グループ演習 13. 折紙と切り紙を組み合わせて作る軽量高強度構造；ハニカムコア、パネルとその応用製品 14. 折紙によるモノづくりの課題と将来性（機械へ、建設へ、宇宙へ、バイオなどへ） 15. 総合討論とまとめ		
[テキスト]		
[参考図書・参考資料等] 1) 現実な応用展開可能な折り方：野島武敏、「ものづくりのための立体折紙」、野島・杉山「のぞづくりのための立体折紙練習帳」日本折紙協会（2015） 2) 紙飛行機：戸田拓夫、「最新型 世界一よく飛ぶ折り紙飛行機」、二見書房（2015） 3) 折紙入門としては：矢崎謙三、「簡単おりがみ大百科」、主婦の友社（2011）		
[授業外学習] 毎日何かを折ってくることで折紙を使った創造性を高め、将来の趣味の一つ増やしていく。これを「折紙マラソン」と称する。学生の継続的活動を期待しています。		
[成績評価の方法] 積極的講義参加点（30%）と課題（折紙作品、競技会、レポート、テストなど）（70%）		

外国語教育科目

科目名 ドイツ語文法入門 1		担当者 若 見 理 江
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] ドイツ語の基礎的な文法を習得します。		
[授業の概要] 文法事項を解説したあと、テキストの問題を解いていきます。ドイツ語の特徴や構造に関して、グループで話し合って考える時間を設けます。 2回目以降は毎回、授業の最初に小テストを行います。 WebClassに、次回の小テストの範囲と終了した小テストを載せていきます。		
[到達目標] ドイツ語の基礎的な文法を理解し、簡単な会話、聞き取りができるようになることを目指します。		
[授業計画] 1. Lektion 0 : 文字と発音 2. Lektion 0 : 文字と発音 3. Lektion 1 : 動詞の現在人称変化(1) 4. Lektion 1 : 動詞の現在人称変化(1) 5. Lektion 2 : 語順 (1) 6. Lektion 2 : 語順 (1) 7. Lektion 3 : 語順 (2) sein と haben 8. Lektion 3 : 語順 (2) sein と haben 9. 補足と復習 10. Lektion 4 : 定冠詞, 不定冠詞 11. Lektion 4 : 定冠詞, 不定冠詞 12. Lektion 5 : 定冠詞類, 人称代名詞 13. Lektion 5 : 定冠詞類, 人称代名詞 14. 補足と復習 15. 期末試験の確認		
[テキスト] 『ひらめき, 発見, ドイツ語文法』朝日出版社 ISBN978-4-255-25408-1 C1084 2,500円+税		
[参考図書・参考資料等] 独和辞典 (初回授業で説明します。)		
[授業外学習] 毎回授業の最初に、前回の授業内容について小テストを実施しますので、復習をしてください。		
[成績評価の方法] 定期試験30%, 小テスト70%により総合的に評価します。		

科目名 ドイツ語文法入門2		担当者 若見理江
開講期 後期	単位 1単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ドイツ語の基礎的な文法を習得します。		
【授業の概要】 文法事項を解説したあと、テキストの問題を解いていきます。ドイツ語の特徴や構造に関して、グループで話し合って考える時間を設けます。 2回目以降は毎回、授業の最初に小テストを行います。 WebClassに、次回の小テストの範囲と終了した小テストを載せていきます。		
【到達目標】 ドイツ語の基礎的な文法を理解し、簡単な会話、聞き取りができるようになることを目指します。		
【授業計画】 1. 前期の復習 2. 前期の復習 3. Lektion 6：否定冠詞，所有冠詞 4. Lektion 6：否定冠詞，所有冠詞 5. Lektion 7：動詞の現在人称変化(2) 6. Lektion 7：動詞の現在人称変化(2) 7. Lektion 8：前置詞 8. Lektion 8：前置詞 9. 補足と復習 10. Lektion 9：分離動詞 11. Lektion 9：分離動詞 12. Lektion10：助動詞 13. Lektion10：助動詞 14. 補足と復習 15. 期末試験の確認		
【テキスト】 『ひらめき，発見，ドイツ語文法』朝日出版社 ISBN978-4-255-25408-1 C1084 2,500円＋税		
【参考図書・参考資料等】 独和辞典（初回授業で説明します。）		
【授業外学習】 毎回授業の最初に，前回の授業内容について小テストを実施しますので，復習をしてください。		
【成績評価の方法】 定期試験30%，小テスト70%により総合的に評価します。		

科目名 ドイツ語講読入門 1		担当者 若見理江
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 リスニングを中心にドイツ語の文法を学習し、会話文の訳読を行います。		
【授業の概要】 テキストでは課の最初にDialogがありますが、まず文法事項を解説し、練習問題を解いてからDialogに進みます。小テストおよび期末テストはリスニングではなく、文法・訳読問題を出します。 2回目以降は毎回、授業の最初に小テストを行います。 WebClassに、次回の小テストの範囲と終了した小テストを載せていきます。		
【到達目標】 ドイツ語のリスニング力を身につけ、ある程度まとまった文章が読めるようになることを目指します。		
【授業計画】 1. 発音・数字・あいさつ 2. 発音・数字・あいさつ 3. Lektion 1：自己紹介（人称代名詞，動詞の人称変化，平叙文と疑問文，不規則動詞 sein） 4. Lektion 1：自己紹介（人称代名詞，動詞の人称変化，平叙文と疑問文，不規則動詞 sein） 5. Lektion 2：値段を尋ねる，建物の名称を尋ねる（名詞の性，定冠詞，不定冠詞，代名詞） 6. Lektion 2：値段を尋ねる，建物の名称を尋ねる（名詞の性，定冠詞，不定冠詞，代名詞） 7. Lektion 3：何をしているか，何を持っているかを表現する（名詞の4格，不規則動詞，否定冠詞） 8. Lektion 3：何をしているか，何を持っているかを表現する（名詞の4格，不規則動詞，否定冠詞） 9. 補足と復習 10. Lektion 4：きょうだいがいるか尋ねる，子供がいるか尋ねる，時刻・時間を表現する（敬称のSie，名詞の複数形） 11. Lektion 4：きょうだいがいるか尋ねる，子供がいるか尋ねる，時刻・時間を表現する（敬称のSie，名詞の複数形） 12. Lektion 5：週末の予定を表現する，「もの」の位置を表現する（前置詞の格支配，不規則動詞） 13. Lektion 5：週末の予定を表現する，「もの」の位置を表現する（前置詞の格支配，不規則動詞） 14. 補足と復習 15. 期末試験の確認		
【テキスト】 『耳から学ぶドイツ語』三修社 ISBN978-4-384-12297-8 C1084 2,400円＋税		
【参考図書・参考資料等】 独和辞典（初回授業で説明します。）		
【授業外学習】 毎回授業の最初に，前回の授業内容について小テストを実施しますので，復習をしてください。		
【成績評価の方法】 定期試験30%，小テスト70%により総合的に評価します。		

科目名 ドイツ語講読入門2		担当者 若 見 理 江
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 リスニングを中心にドイツ語の文法を学習し、会話文の訳読を行います。		
【授業の概要】 テキストでは課の最初にDialogがありますが、まず文法事項を解説し、練習問題を解いてからDialogに進みます。小テストおよび期末テストはリスニングではなく、文法・訳読問題を出します。 2回目以降は毎回、授業の最初に小テストを行います。 WebClassに、次回の小テストの範囲と終了した小テストを載せていきます。		
【到達目標】 ドイツ語のリスニング力を身につけ、ある程度まとまった文章が読めるようになることを目指します。		
【授業計画】 1. 前期の復習 2. 前期の復習 3. Lektion 6：職業を尋ねる、「もの」の所有者を尋ねる（所有冠詞、定冠詞類、不定冠詞類） 4. Lektion 6：職業を尋ねる、「もの」の所有者を尋ねる（所有冠詞、定冠詞類、不定冠詞類） 5. Lektion 7：発着時刻を尋ねる、駅のアナウンスを聞く（分離動詞、命令表現） 6. Lektion 7：発着時刻を尋ねる、駅のアナウンスを聞く（分離動詞、命令表現） 7. Lektion 8：人を誘う、約束をする（再帰代名詞、再帰動詞） 8. Lektion 8：人を誘う、約束をする（再帰代名詞、再帰動詞） 9. 補足と復習 10. Lektion 9：お願いをする（話法の助動詞、esの用法） 11. Lektion 9：お願いをする（話法の助動詞、esの用法） 12. Lektion 10：意見を言う（形容詞の格変化） 13. Lektion 10：意見を言う（形容詞の格変化） 14. 補足と復習 15. 期末試験の確認		
【テキスト】 『耳から学ぶドイツ語』三修社 ISBN978-4-384-12297-8 C1084 2,400円＋税		
【参考図書・参考資料等】 独和辞典（初回授業で説明します。）		
【授業外学習】 毎回授業の最初に、前回の授業内容について小テストを実施しますので、復習をしてください。		
【成績評価の方法】 定期試験30%、小テスト70%により総合的に評価します。		

科目名 フランス語文法入門 1 a		担当者 太田陽子
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語文法の基礎を身につけます。フランスの文化に触れて親しみが湧くようになってもらいたいです。フランスのことが好きになってもらえたら嬉しいです。		
【授業の概要】 辞書を毎回持ってきてください。忘れないように。 各課ごとの文法事項を少しずつ学んでいきます。分かりやすく楽しいと思えるように、丁寧な授業を行います。それぞれの文法項目がきちんと理解できてから次に進んでいきます。 フランス語の発音の練習もたくさん行います。生活上必要な単純な表現が理解でき、使えるようにしていきます。毎年、必要に応じてフランスの歌（シャンソン）を取り入れながら学習しています。簡単な会話の練習もできれば取り入れたいと思っています。また、フランスの文化情報もお伝えしていきます。		
【到達目標】 文法の基礎をきちんと理解して習得します。辞書の使い方を身につけます。具体的には、例えばツアー旅行に参加したときに、自由時間に喫茶店で注文できたり、何とか買い物ができる、自己紹介ができるフランス語力を身につけます。		
【授業計画】 1. アルファベ、つづり字記号、文字の読み方 2. 名詞の性と数、不定冠詞 3. 定冠詞、部分冠詞 4. 主語になる代名詞、動詞êtreとavoirの現在形 5. 提示の表現 6. 否定形 7. 形容詞 8. C'est ～, Ce n'est pas ～ 9. -er動詞の現在形 10. 疑問形、疑問文に対する答え 11. 指示形容詞、疑問形容詞 12. 所有形容詞 13. aller, venirの現在形 14. 近い未来と近い過去、前置詞と定冠詞の縮約 15. 練習問題		
【テキスト】 （テキストはフランス語文法入門 2 a と同じ）清岡智比古『＜新版＞ル・フランセ・クレール（CD付）』白水社、ISBN978-4-560-06119-0、仏和辞書（下の推薦辞書から選んで毎回持参）		
【参考図書・参考資料等】 推薦辞書として、『クラウン』（三省堂）、『ディコ』（白水社）、『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『プログレッシブ』（小学館）。 ポケット版（＝小型の辞書）は禁止します（必要な情報が載っていない為）。		
【授業外学習】 予習よりも復習に力を入れてください。声に出してしっかり読むように。 毎回、練習問題を出すのでしっかり勉強してきて下さい。（15分～25分程度のもの） 宿題をするついでに、CDを聞いて音読を繰り返ししてください。音読は毎回課題に出します（10～15分程度）。 小テストは授業内に告知します。準備をしっかりと覚えてきてください。 NHKの語学番組（テレビとラジオの2種類があります）も楽しいです。特にテレビはお手軽に楽しめます。テレビは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/tv/ 、ラジオは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/kouza/ 。		
【成績評価の方法】 努力を最大限に評価します。よって、授業での積極性&アクティビティー30%、課題&小テスト30%、期末試験40%。		

科目名 フランス語文法入門 1 b		担当者 中 島 和 美
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 英語との共通点や相違点に注目しながら、英語とは異なるフランス語文法体系のしくみをしっかりと理解し、フランス語運用能力の基礎を身につけることを目標とする。		
【授業の概要】 主に、配布プリントにしたがって授業をすすめ、フランス語の会話表現を反復練習していくとともに、教科書の練習問題を中心に、フランス語初級文法の基礎の知識をしっかりと着実に定着させていく。毎回、復習テスト・課題を課すとともに、教科書どおりの進行では進んでいかないので、注意すること。		
【到達目標】 フランス語の綴り字と発音しくみの基本を理解し、簡単なフランス語の語彙や文章を発音することができる。フランス語の基本構文について理解し、自分自身や家族について簡単にフランス語で紹介することができる。		
【授業計画】 1. オリエンテーション：フランス語とはどういう言語か、フランス語・フランス文化に慣れ親しむ 2. Leçon0：フランス語のアルファベ、挨拶表現 3. Leçon0：フランス語の発音とつづり字(1) 母音字 4. Leçon0：フランス語の発音とつづり字(2) 子音字 5. Leçon1：Je m'appelle Paul. 「私の名前はポールです」 6. Leçon2：Je suis japonais. 「私は日本人です」 7. Leçon2：主語人称代名詞、動詞être、国籍・職業の語彙 8. Leçon3：Je parle japonais. 「私は日本語を話します」 9. Leçon3：-er動詞、否定文、疑問文 10. Leçon4：Qu'est-ce que c'est? 「これは何ですか」 11. Leçon4：名詞の性数、不定冠詞、定冠詞 12. Leçon5：J'ai un frère et une sœur. 「私には兄弟がひとりと姉妹がひとりいます」 13. Leçon5：動詞 avoir、数字1-30 14. Leçon6：所有形容詞、比較級・最上級 15. Ma présentation, ma famille：自己紹介文・家族についての作文		
【テキスト】 (テキストはフランス語文法入門 2 b と共通) 『フランス語をひとつひとつわかりやすく。』(CD付)、学研教育出版、ISBN978-4-05-303813-5 定価 (1,500円+税)		
【参考図書・参考資料等】 『クラウン仏和辞典』(三省堂) 『プチロワイヤル仏和辞典』(旺文社) 『ディコ仏和辞典』(白水社) その他、授業中に指示しますが、辞書は毎回持参してください。		
【授業外学習】 ・WebClassに授業に関する情報を提供しているので、常に事前に確認をしておくこと。 ・授業外でもWebClassに紹介されているTV番組や文献を利用して、フランス語・フランス文化に対する理解を深めてください。 ・教科書内容の例文について、教科書CDをしっかりと活用して「音読」に努めながら予習・復習をし、語彙や構文の知識を定着させること。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み (20%)、提出課題・小テスト (40%)、学科試験 (40%) を総合的に評価します。		

科目名 フランス語文法入門 1 c		担当者 太田陽子
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語の初級文法の基礎を身につけます。フランスの文化に触れて親しみが湧くようになってもらいたいです。フランスのことが好きになってもらえたら嬉しいです。		
【授業の概要】 辞書を毎回「必ず」持参すること。 各課ごとの文法事項を少しずつ学んでいきます。また、各課の動画を使っていきます。分かりやすく楽しくと思えるように、丁寧な授業を行います。それぞれの文法項目がきちんと理解できてから次に進んでいきます。 フランス語の発音練習をたくさん行います。生活上必要な単純な表現が理解でき、使えるようにしていきます。毎年、必要に応じてフランスの歌（シャンソン）を取り入れながら学習しています。簡単な会話練習も、できれば取り入れたいと思っています。また、フランスの文化情報もお伝えしていきます。		
【到達目標】 文法の基礎をきちんと理解して習得します。辞書の使い方を身につけます。具体的には、例えばツアー旅行に参加したときに、自由時間に喫茶店で注文できたり、何とか買い物ができる、自己紹介ができるフランス語力を身につけます。		
【授業計画】 1. アルファベ、綴り字の読み方、サバイバルなフランス語 2. 主語（代名詞）、国籍を表す形容詞、動詞être 3. 自己紹介 4. 名詞と不定冠詞、指示代名詞ce 5. 形容詞の性・数一致、形容詞の位置 6. 物を指し示す、-er動詞 7. 定冠詞、疑問文 8. 尋ねる 9. 指示形容詞、動詞avoir 10. 否定文、買い物をする 11. 動詞aller、近接未来、不規則動詞 12. 疑問詞quiとque 13. 物事や人について尋ねる 14. 所有形容詞、疑問形容詞 15. 場所を尋ねる		
【テキスト】 （テキストはフランス語講読入門2cと同じ）藤田裕二『パリーボルドー』、朝日出版社、ISBN978-4-255-35259-6 & 辞書（下の推薦辞書から1つ選んで購入すること & 毎回持参）。ポケット版辞書は禁止。		
【参考図書・参考資料等】 辞書は「必ず」毎回持参。 推薦辞書として、『クラウン』（三省堂）、『ディコ』（白水社）、『プチ・ロワイヤル』（旺文社）、『プログレッシブ』（小学館）。 ポケット版辞書（小型の辞書）は禁止（必要な内容が載っていないため）。		
【授業外学習】 予習よりも復習に力を入れてください。声に出してしっかり読むように。 毎回、練習問題を出すのでしっかり勉強してきて下さい。（15分～25分程度のもの） 宿題をするついでに、CDを聞いて音読を繰り返してください。音読は毎回課題に出します（10～15分程度）。 小テストは授業内に告知します。準備をしっかりと覚えてきてください。 NHKの語学番組（テレビとラジオの2種類があります）も楽しいです。特にテレビは手軽に楽しめます。テレビは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/tv/ 、ラジオは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/kouza/ 。		
【成績評価の方法】 努力を最大限に評価します。よって、授業での積極性&アクティビティー30%、課題&テスト30%、期末試験40%。		

科目名 フランス語文法入門 1 d		担当者 中 島 和 美
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語初級文法の基礎を固め、自己紹介表現など、簡単なフランス語会話の運用に重点をおくことで、フランス語の聞く・話す・読む・書くを含めた4技能をバランスよく向上させていくことを目的とする。		
【授業の概要】 この授業では、文法の基礎を固めながら、会話表現ができるようにすることを目標とする。また、積極的に授業に参加することで、自然とコミュニケーションができるように、反復練習・ペア練習に重点を置き、参加型の授業を目指す。フランス文化紹介を随時盛り込んでいく予定です。		
【到達目標】 フランス語運用能力の基礎を身につける。異文化を理解する。フランス語の発音と綴り字の仕組みを理解し、自力で簡単なフランス語を読み、発音できるようにする。		
【授業計画】 1. オリエンテーション、フランス文化・フランスについて、クラスで使う表現 2. Leçon 1 : Je m'appelle Denis. 自己紹介・国籍を言う、アルファベ 3. Leçon 1 : Je m'appelle Denis. 挨拶表現・数字 1～20 4. Leçon 2 : Tu habites où ? 国籍・住んでいる所を言う 5. Leçon 3 : Un panaché, s'il vous plaît. 職業・言語をいう 6. Leçon 3 : Un panaché, s'il vous plaît. 喫茶店の食べ物と飲み物を注文する 7. Leçon 4 : Tu as une adresse e-mail ? 身の回りの物を言う 8. Leçon 4 : Tu as une adresse e-mail ? 兄弟・年齢を言う 9. Leçon 5 : C'est qui ? 人物の外見を描写する 10. Leçon 5 : C'est qui ? 人物の性格を描写する 11. Leçon 6 : Qu'est-ce que c'est ? 何かを尋ねる 12. Leçon 6 : Qu'est-ce que c'est ? 物の位置を尋ねる 13. Leçon 7 : J'adore ça ! 好みを言う 14. Leçon 7 : J'adore ça ! 好き嫌いの程度を言う 15. 前期のまとめ：自己紹介文の作成		
【テキスト】 (テキストはフランス語講読入門 2 d と共通) 『新装 カフェ・フランセ』(朝日出版社), ニコラ・ガイヤール他 著 ISBN : 987-4-255-35262-6, 本体定価2400円+税		
【参考図書・参考資料等】 辞書については授業中に説明をしますが『ディコ仏和辞典』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社), 『クラウン仏和辞典』(三省堂)等, 毎回授業に持参してください。その他, NHKテレビ・ラジオフランス語講座や大学図書館の関連書籍などをしっかりと活用してください。		
【授業外学習】 ・WebClassに授業に関する情報を提供しているので、常に事前に確認をしておくこと。 ・毎回の授業に出てくる基本例文について、「音読」に努めながら予習・復習をし、語彙や構文の知識を定着させること。毎回の授業の最初に前回内容に係る小テストを実施します。 ・教科書に添付されているCDを予習・復習に十分活用するようにしてください。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み (20%), 小テスト・提出物 (40%), 学科試験 (40%) を総合的に評価します。		

科目名 フランス語文法入門2 a		担当者 太田陽子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語の初級文法を身につけます。フランスの文化に触れて親しみが湧くようになってもらいたいです。フランスのことが好きになってもらえたら嬉しいです。		
【授業の概要】 辞書を毎回持ってきてください。忘れないように。 各課ごとの文法事項を少しずつ学んでいきます。分かりやすく楽しいと思えるように、丁寧な授業を行います。それぞれの文法項目がきちんと理解できてから次に進んでいきます。 フランス語の発音練習をたくさん行います。生活上必要な単純な表現が理解でき、使えるようにしていきます。毎年、必要に応じてフランスの歌（シャンソン）を取り入れながら学習しています。簡単な会話練習も、できれば取り入れたいと思っています。また、フランスの文化情報もお伝えしていきます。		
【到達目標】 フランス語文法の基礎をきちんと理解して習得します。辞書の使い方を身につけます。 具体的には、例えばツアー旅行に参加したときに、自由時間に喫茶店で注文できたり、何とか買い物ができる、自己紹介ができる、買い物などができるフランス語能力を身につけます。 フランス語検定5級程度。		
【授業計画】 1. finirとpartirの現在形, 疑問副詞 2. 疑問副詞の口頭演習 3. 疑問代名詞 4. voir, dire, entendreの現在形, 形容詞・副詞の比較級 5. 形容詞・副詞の最上級 6. 特殊な比較級と最上級 7. faireとprendreの現在形, 命令形 8. 非人称構文 9. 目的語になる人称代名詞 10. 強勢形, 過去分詞 11. 複合過去(1) avoir + 過去分詞 12. 複合過去(2) etre + 過去分詞 13. 代名動詞(1) 活用, 再帰的用法 14. 代名動詞(2) 相互的用法, 本質的用法 15. 練習問題		
【テキスト】 (教科書はフランス語文法入門1aと同じ), 清岡智比古『<<新版>>ル・フランセ・クレール (CD付)』白水社, ISBN978-4-560-06119-0, 仏和辞書(下の推薦辞書から選んで毎回持参)		
【参考図書・参考資料等】 推薦辞書として、『クラウン』(三省堂), 『ディコ』(白水社), 『プチ・ロワイヤル』(旺文社), 『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版(=小型の辞書)は禁止します(必要な情報が載っていないため)。		
【授業外学習】 予習よりも復習に力を入れてください。声に出してしっかり読むように。 毎回, 練習問題を出すのでしっかり勉強してきて下さい。(15分~25分程度のもの) 宿題をするついでに, CDを聞いて音読を繰り返してください。音読は毎回課題に出します(10~15分程度)。 小テストは授業内に告知します。準備をしっかりと覚えてきてください。 NHKの語学番組(テレビとラジオの2種類があります)も楽しいです。特にテレビは手軽に楽しめます。テレビは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/tv/ , ラジオは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/kouza/ 。		
【成績評価の方法】 努力を最大限に評価します。よって, 授業での積極性&アクティビティー30%, 課題&小テスト30%, 期末試験40%。		

科目名 フランス語文法入門2 b		担当者 中 島 和 美
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 英語との共通点や相違点に注目しながら、英語とは異なるフランス語文法体系のしくみをしっかりと理解し、フランス語運用能力を向上させることを目標とする。		
【授業の概要】 文法入門1 bに引き続き、配布プリントにしたがって授業をすすめ、さらに高度な内容や構文の会話表現を反復練習していくとともに、教科書の練習問題を中心に、フランス語文法体系全体の理解を図る。毎回、復習テスト・課題を課すとともに、教科書どおりの進行では進んでいかないので、注意すること。		
【到達目標】 フランス語の綴り字と発音のしくみをきちんと理解し、自力でフランス語の語彙や文章を発音・読むことができる。フランス語の基本的構文の構造を理解し、さらに高度な内容の文を自力で作り、運用することができる。英語圏とは異なるフランス文化や新たな価値観を知ることで、自身の視野を広げ、異文化理解を深める。		
【授業計画】 1. 前期の復習、フランス語の構文について、命令形 2. Leçon7: C'est qui? 「これは誰ですか」 3. Leçon7: 疑問代名詞, 疑問副詞 4. Leçon8: Il est comment? 「彼はどんな人ですか」 5. Leçon8: 形容詞の位置, 性数一致 6. Leçon9: Quel est votre nom? 「あなたの名前は」 7. Leçon9: 疑問形容詞, 天候・時間表現 8. Leçon10: Qu'est-ce que vous faites? 「あなたは何をしますか」 9. Leçon10: さまざまな動詞, aller/venir, 不規則動詞 10. Leçon11: Qu'est-ce que vous allez faire? 「あなたは何をするつもり」 11. Leçon11: 近接未来・近接過去 12. Leçon12: Qu'est-ce que vous avez fait et qu'est-ce que vous ferez plus tard? 「あなたは何をしたの、そして将来何をしますか」 13. Leçon12: 複合過去・単純未来 14. Mes journées, mes goûts, mes vacances: 自分の日常や好きなもの・休暇中にしたことなどの紹介(1) 15. Mes journées, mes goûts, mes vacances: 自分の日常や好きなもの・休暇中にしたことなどの紹介(2)		
【テキスト】 (テキストはフランス語文法入門1bと共通) 『フランス語をひとつひとつわかりやすく。』(CD付), 学研教育出版, ISBN978-4-05-303813-5 定価(1,500円+税)		
【参考図書・参考資料等】 『クラウン仏和辞典』(三省堂) 『プチロワイヤル仏和辞典』(旺文社) 『ディコ仏和辞典』(白水社) その他、授業中に指示しますが、辞書は毎回持参してください。		
【授業外学習】 ・WebClassに授業に関する情報を提供しているので、常に事前に確認しておくこと。 ・授業外でもWebClassで紹介されているTV番組や文献を利用して、フランス語・フランス文化に対する理解を深めてください。 ・教科書内容の例文について、教科書CDをしっかりと活用して「音読」に努めながら予習・復習をし、語彙や構文の知識を定着させること。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み(20%), 提出課題・小テスト(40%), 学科試験(40%)を総合的に評価します。		

科目名 フランス語講読入門 1 a		担当者 中 島 和 美
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語初級文法の基礎を固め、簡単なフランス語会話表現をしっかり反復練習することで、フランス語の語彙力・理解力・読解力・会話力の向上を図る。		
【授業の概要】 日本人学生Akikoが実際にフランスを訪れ、友人のClaireやいとこのJulienとともにフランス文化を体験して日本に帰国するというストーリーを通して、挨拶表現や自己紹介表現、旅行会話表現など、必要なフランス語表現を学んでいきます。さらに、毎回実施予定のディクテを通じて、初学者にはむずかしいとされるフランス語の発音と綴り字の対応関係を学ぶとともに、発音練習やロールプレイングに重点を置き、フランス語運用能力の習得を図ります。教科書は1～2回で必ず一つの課を終える予定です。		
【到達目標】 フランス語運用の初歩を身につける。異文化を理解する。綴り字と発音の仕組みを理解し、簡単なフランス語を音読することができる。		
【授業計画】 1. Leçon 0 オリエンテーション、フランス語に親しむ 2. Leçon 0 アルファベ、挨拶表現、フランス語の発音と綴り字 (1) 母音字、複合母音字 3. Leçon 0 フランス語の発音と綴り字 (2) 鼻母音、子音字 4. Leçon 1 : L'arrivée à Paris 「パリ到着」 (1)、主語人称代名詞、動詞être 5. Leçon 1 : L'arrivée à Paris 「パリ到着」 (2)、国籍や職業を表す名詞、数詞 (1-20) 6. Leçon 2 : A l'hôtel 「ホテルで」 (1)、動詞avoir、名詞と不定冠詞・定冠詞 7. Leçon 2 : A l'hôtel 「ホテルで」 (2)、形容詞の性数一致、中性代名詞ce 8. Leçon 3 : Le rendez-vous 「ランデヴー」 (1)、第1群規則動詞の活用 9. Leçon 3 : Le rendez-vous 「ランデヴー」 (2)、所有形容詞、疑問文 10. Leçon 4 : Au café 「カフェで」 (1)、形容詞の位置、形容詞と名詞の女性形・複数形 11. Leçon 4 : Au café 「カフェで」 (2)、否定文 12. Leçon 5 : Téléphoner 「電話をかける」 (1)、動詞aller / venir、近い未来・近い過去、定冠詞の縮約 13. Leçon 5 : Téléphoner 「電話をかける」 (2)、指示形容詞、人称代名詞の強勢形 14. 前期のまとめ：自己紹介文作成 (1) 15. 前期のまとめ：自己紹介文作成 (2)		
【テキスト】 (テキストはフランス語講読入門2aと共通) 『新・彼女は食いしん坊！1—webでサポート！—』(Elle est gourmande 1, nouvelle édition) (CD付)、藤田裕二著、朝日出版社、定価(本体2,400円+税)、ISBN: 978-4-255-35231-2		
【参考図書・参考資料等】 辞書については授業中に説明をしますが『ディコ仏和辞典』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)等、毎回授業に持参してください。その他、NHKのテレビやラジオのフランス語講座や大学図書館の関連書籍などをしっかりと活用してください。		
【授業外学習】 ・WebClassに授業に関する情報を提供しているので、常に事前に確認をしておくこと。 ・毎回の授業に出てくる基本例文について、「音読」に努めながら予習・復習をし、語彙や構文の知識を定着させること。毎回の授業の最初に前回内容に係る小テストを実施します。 ・教科書に添付されているCDを予習・復習に十分活用するようにしてください。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み (20%)、小テスト・提出物 (40%)、学科試験 (40%) を総合的に評価します。		

科目名 フランス語講読入門 1 b		担当者 太田陽子
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語文法の基礎を身につけるとともに簡単な講読を行ないます。フランスの文化に触れて親しみが湧くようになってもらいたいです。フランスのことが好きになってもらえたら嬉しいです。		
【授業の概要】 辞書を毎回「必ず」持参すること。 各課の文法事項を少しずつ学んでいきます。分かりやすく楽しいと思えるように、丁寧な授業を行います。それぞれの文法項目がきちんと理解できてから次に進んでいきます。 DVDのドラマを見て、会話文を理解していきます。フランス語の発音の練習もたくさん行います。生活上必要な単純な表現が理解でき、使えるようにしていきます。毎年、必要に応じてフランスの歌（シャンソン）を取り入れながら学習しています。簡単な会話の練習も取り入れたいと思っています。また、フランスの文化情報もお伝えしていきます。		
【到達目標】 初級文法をきちんと理解して習得します。日常の会話に必要な基礎知識を身につけます。 辞書の使い方を習得します。 具体的には、例えばツアー旅行に参加したときに、自由時間に喫茶店で注文できたり、何とか買い物ができる、自己紹介ができるフランス語力を身につけます。		
【授業計画】 1. サバイバルなフランス語表現, アルファベ, 主語 2. 国籍を表す名詞, êtreと-er動詞, 国籍を言う 3. 職業を表す名詞, 形容詞の性・数一致, 名前の言い方 4. 名前・職業を言う, 名詞と不定冠詞, 指示代名詞 5. 形容詞の位置, avoir, 持ち物を尋ねる 6. 定冠詞, 疑問詞, 疑問形容詞 7. 趣味を語る 8. 否定文, 疑問詞qui, il y a ~ 9. 誰か尋ねる 10. 前置詞と形容詞の縮約, 指示形容詞 11. 否定疑問文の応答, vouloir, pouvoir 12. したいことを尋ねる 13. 強勢形, 所有形容詞, connaitre 14. 住んでいるところを言う 15. 疑問詞que (何をしているか尋ねる)		
【テキスト】 (テキストはフランス語講読入門 2 bと同じ) 藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』, 白水社, ISBN978-4-560-06083-4 辞書 (下の推薦辞書から1つ選んで購入すること&毎回持参)。ポケット版辞書は禁止 (学習に必要な情報が入っていないため)。		
【参考図書・参考資料等】 辞書は「必ず」毎回持参。 推薦辞書として、『クラウン』(三省堂), 『ディコ』(白水社), 『プチ・ロワイヤル』(旺文社), 『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版辞書 (小型の辞書) は禁止 (必要な内容が載っていないため)。		
【授業外学習】 予習よりも復習に力を入れてください。声に出してしっかり読むように。 毎回、練習問題を出すのでしっかり勉強してきて下さい。(15分~25分程度のもの) 宿題をするついでに、CDを聞いて音読を繰り返してしてください。音読は毎回課題に出します (10~15分程度)。 小テスト内容は授業内に告知します。準備をしっかりして覚えてきてください。 NHKの語学番組 (テレビとラジオの2種類があります) も楽しいです。特にテレビはお手軽に楽しめます。テレビは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/tv/ , ラジオは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/kouza/ 。		
【成績評価の方法】 努力を最大限に評価します。よって、授業での積極性&アクティビティー30%, 課題&小テスト30%, 期末試験40%。		

科目名 フランス語講読入門2 a		担当者 中 島 和 美
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語初級文法の基礎を固め、簡単なフランス語会話表現をしっかり反復練習することで、フランス語の語彙力・理解力・読解力・会話力の向上を図る。		
【授業の概要】 フランス語講読入門1 aに引き続き、日本人学生Akikoが実際にフランスを訪れ、友人のClaireやいとこのJulienとともにフランス文化を体験して日本に帰国するというストーリーを通して、英語圏以外の異文化への理解を深めていくことを目標とします。さらに、毎回実施予定のディクテを通じて、フランス語の発音と綴り字の対応関係をしっかりと定着させるとともに、「読解力の養成」にも重点を置きながら、総合的なフランス語運用能力の向上を図っていきます。教科書に添付されているCD		
【到達目標】 フランス語の運用と読解の基礎を身につける。異文化・自文化を理解する。自力で簡単なフランス語を読み、辞書をつかって、簡単なフランス語の長文を読むことができる。		
【授業計画】 1. 前期の復習、フランス語の構文 2. Leçon 6 : Demander son chemin 「道を尋ねる」(1), 疑問副詞 3. Leçon 6 : Demander son chemin 「道を尋ねる」(2), 疑問代名詞, 中性代名詞y 4. Leçon 7 : Faire des courses au marché 「市場で買い物をする」(1), 部分冠詞, 数量の表現 5. Leçon 7 : Faire des courses au marché 「市場で買い物をする」(2), 中性代名詞en 6. Leçon 8 : Aller voir un match de football 「サッカーを観戦に行く」(1), 疑問形容詞 7. Leçon 8 : Aller voir un match de football 「サッカーを観戦に行く」(2), 命令形, 非人称構文 8. Leçon 9 : Au grand magasin 「デパートで」(1), 指示代名詞, 比較級 9. Leçon 9 : Au grand magasin 「デパートで」(2), 最上級, 数詞 (20-1000) 10. Leçon 10 : Les présentations 「紹介する」(1), 補語人称代名詞 11. Leçon 10 : Les présentations 「紹介する」(2), 代名動詞 12. Leçon 11 : Raconter son voyage 「旅の話をする」(1), 複合過去 13. Leçon 11 : Raconter son voyage 「旅の話をする」(2), 過去を表す状況補語 14. Leçon 12 : Dire au revoir 「別れを言う」(1), 単純未来形 15. Leçon 12 : Dire au revoir 「別れを言う」(2), 未来を表す状況補語		
【テキスト】 (テキストはフランス語講読入門1aと共通) 『新・彼女は食いしん坊！1—webでサポート！—』(Elle est gourmande 1, nouvelle édition) (CD付), 藤田 裕二 著, 朝日出版社, 定価(本体2,400円+税), ISBN: 978-4-255-35231-2		
【参考図書・参考資料等】 辞書については授業中に説明をしますが『ディコ仏和辞典』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社), 『クラウン仏和辞典』(三省堂)等, 毎回授業に持参してください。その他, NHKのテレビやラジオのフランス語講座や大学図書館の関連書籍などをしっかりと活用してください。		
【授業外学習】 ・WebClassに授業に関する情報を提供しているので, 常に事前に確認をしておくこと。 ・毎回の授業に出てくる基本例文について, 「音読」に努めながら予習・復習をし, 語彙や構文の知識を定着させること。毎回の授業の最初に前回内容に係る小テストを実施します。 ・教科書に添付されているCDを予習・復習に十分活用するようにしてください。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み(20%), 小テスト・提出物(40%), 学科試験(40%)を総合的に評価します。		

科目名 フランス語講読入門2 b		担当者 太田陽子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語文法の基礎を身につけるとともに簡単な講読を行ないます。フランスの文化に触れて親しみが湧くようになってもらいたいです。フランスのことが好きになってもらえたら嬉しいです。		
【授業の概要】 辞書を毎回「必ず」持参すること。 各課の文法事項を少しずつ学んでいきます。分かりやすく楽しいと思えるように、丁寧な授業を行います。それぞれの文法項目がきちんと理解できてから次に進んでいきます。 DVDのドラマを見て、会話を理解していきます。フランス語の発音の練習もたくさん行います。生活上必要な単純な表現が理解でき、使えるようにしていきます。毎年、必要に応じてフランスの歌（シャンソン）を取り入れながら学習していきます。簡単な会話の練習も取り入れたいと思っています。また、フランスの文化情報もお伝えしていきます。		
【到達目標】 初級文法の習得、および日常の会話に必要な基礎知識を身につけます。 辞書の使い方を習得します。 初級文法をきちんと理解して習得します。日常の会話に必要な基礎知識を身につけます。 辞書の使い方を習得します。 具体的には、例えばツアー旅行に参加したときに、自由時間に喫茶店で注文できたり、何とか買い物ができる、自己紹介ができる、買い物などがなんとかできるようなフランス語力を身につけます。 フランス語検定5級程度。		
【授業計画】 1. 否定のde, 女性形容詞の特殊な形 2. 家族を語る 3. 数字1～30, 疑問副詞 4. 年齢を言う 5. 補語人称代名詞, ça, attendre 6. 紹介する 7. 代名動詞, 近接未来と近接過去, aller, venir 8. 日常生活の表現 9. 部分冠詞, boire, 中性代名詞en 10. 量を表す 11. 比較級, 指示代名詞celui, celle 12. 比較する 13. 複合過去形1 avoir + 過去分詞 14. 複合過去形2 etre + 過去分詞 15. 過去のことを語る		
【テキスト】 (テキストはフランス語文法入門1 bと同じ) 藤田裕二『パスカル・オ・ジャボン』, 白水社, ISBN978-4-560-06083-4 & 辞書 (下の推薦辞書から1つ選んで購入すること&毎回持参)。ポケット版辞書 (小型辞書) は禁止。		
【参考図書・参考資料等】 辞書は「必ず」毎回持参。 推薦辞書として、『クラウン』(三省堂), 『ディコ』(白水社), 『プチ・ロワイヤル』(旺文社), 『プログレッシブ』(小学館)。ポケット版辞書 (小型の辞書) は禁止 (必要な情報が載っていないため)。		
【授業外学習】 予習よりも復習に力を入れてください。声に出してしっかり読むように。 毎回、練習問題を出すのでしっかり勉強してきて下さい。(15分～25分程度のもの) 宿題をするついでに、CDを聞いて音読を繰り返してしてください。音読は毎回課題に出します (10～15分程度)。 小テスト内容は授業内に告知します。準備をしっかりして覚えてきてください。 NHKの語学番組 (テレビとラジオの2種類があります) も楽しいです。特にテレビは手軽に楽しめます。テレビは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/tv/ , ラジオは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/kouza/ 。		
【成績評価の方法】 努力を最大限に評価します。よって、授業での積極性&アクティビティー30%, 課題&小テスト30%, 期末試験40%。		

科目名 フランス語講読入門2 c		担当者 太田陽子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] フランス語文法の基礎を身につけるとともに簡単な講読を行ないます。フランスの文化に触れて親しみが湧くようになってもらいたいです。フランスのことが好きになってもらえたら嬉しいです。		
[授業の概要] 辞書を毎回「必ず」持参すること。 各課の文法事項を少しずつ学んでいきます。分かりやすく楽しいと思えるように、丁寧な授業を行います。それぞれの文法項目がきちんと理解できてから次に進んでいきます。 DVDのドラマを見て、会話文を理解していきます。フランス語の発音の練習もたくさん行います。生活上必要な単純な表現が理解でき、使えるようにしていきます。毎年、必要に応じてフランスの歌（シャンソン）を取り入れながら学習していきます。簡単な会話の練習も取り入れたいと思っています。また、フランスの文化情報もお伝えしていきます。		
[到達目標] 初級文法の習得、および日常の会話に必要な基礎知識を身につけます。 辞書の使い方を習得します。 初級文法をきちんと理解して習得します。日常の会話に必要な基礎知識を身につけます。 辞書の使い方を習得します。 具体的には、例えばツアー旅行に参加したときに、自由時間に喫茶店で注文できたり、何とか買い物ができる、自己紹介ができる、買い物などがなんとなくできるようなフランス語力を身につけます。 フランス語検定5級程度。		
[授業計画] 1. 強勢形、指示代名詞celui, il y a ～, Je voudrais ～ 2. 「～したいと言う」 3. 定冠詞の縮約 4. 直接目的語と間接目的語の代名詞 5. 「興味を述べる」、代名動詞(1) 6. 代名動詞(2)、中性代名詞y 7. 「誘う」、命令形 8. 部分冠詞、中性代名詞en 9. 「数量を表す」 10. 比較級 11. 単純未来 12. 「比較する」 13. 複合過去形(1) 14. 複合過去形(2) 15. 「過去のことを話す」		
[テキスト] (テキストはフランス語文法入門1 cと同じ) 藤田裕二『パリーボルドー』, 朝日出版社, ISBN978-4-255-35259-6 & 辞書(下の推薦辞書から1つ選んで購入すること&毎回持参)。ポケット版辞書(小型辞書)は禁止。		
[参考図書・参考資料等] 辞書は「必ず」毎回持参。 推薦辞書として、『クラウン』(三省堂), 『ディコ』(白水社), 『プチ・ロワイヤル』(旺文社), 『プログレッシブ』(小学館)。ポケット版辞書(小型の辞書)は禁止(必要な情報が載っていないため)。		
[授業外学習] 予習よりも復習に力を入れてください。声に出してしっかり読むように。 毎回、練習問題を出すのでしっかり勉強してきて下さい。(15分～25分程度のもの) 宿題をするついでに、CDを聞いて音読を繰り返してしてください。音読は毎回課題に出します(10～15分程度)。 小テスト内容は授業内に告知します。準備をしっかりと覚えてきてください。 NHKの語学番組(テレビとラジオの2種類があります)も楽しいです。特にテレビは手軽に楽しめます。テレビは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/tv/ , ラジオは https://www2.nhk.or.jp/gogaku/french/kouza/ 。		
[成績評価の方法] 努力を最大限に評価します。よって、授業での積極性&アクティビティー30%, 課題&簡単な小テスト30%, 期末試験40%。		

科目名 フランス語講読入門2 d		担当者 中 島 和 美
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 フランス語初級文法の基礎を固め、簡単なフランス語会話表現に触れることで、フランス語の聞く・話す・読む・書くを含めたの4技能をバランスよく向上させていくことを目標とする。		
【授業の概要】 フランス語文法入門1 dに引き続いて、前期に習得した自己紹介表現をもとに、自分の好み・日常の行動などさらに高度な表現についても簡単なフランス語で説明できるようにしていく。また、シャンソンやゲームを取り入れて、学んだ表現をすぐに使えるように口頭練習や反復練習を行い、フランス語運用能力の習熟を図る。		
【到達目標】 フランス語運用能力の基礎を身につける。異文化・自文化を理解する。辞書を使って、簡単なフランス語の文を読み書きできる。		
【授業計画】 1. 前期の復習、フランス語の発音と綴り字の復習 2. Leçon 8 : J'aime beaucoup votre tee-shirt ! 着ている洋服を説明する 3. Leçon 9 : Tu fais du football ? スポーツについて説明する 4. Leçon 9 : Tu fais du football ? 朝食について説明する 5. Leçon 10 : On y va ! どこへ行くかを尋ねる 6. Leçon 10 : On y va ! 人を招待する 7. Leçon 11 : Je me lève à 7 heures. 日常生活を説明する 8. Leçon 11 : Je me lève à 7 heures. 1日のスケジュールを言う 9. Leçon 12 : Tu m'invites ? ある人について情報を得る 10. Leçon 12 : Tu m'invites ? 自分のアルバイトについて話す 11. Leçon 13 : Bon appétit ! レストランで注文する 12. Leçon 13 : Bon appétit ! 料理の感想を言う 13. Leçon 14 : Qu'est-ce que tu as fait hier ? 昨日したことを説明する 14. Leçon 14 : Qu'est-ce que tu as fait hier ? 休暇中にしたことを説明する 15. 後期のまとめ：休暇中にしたこと・今後の予定について述べる		
【テキスト】 (テキストはフランス語文法入門1d と共通) 『新装 カフェ・フランセ』(朝日出版社), ニコラ・ガイヤール他 著 ISBN : 987-4-255-35262-6, 本体定価2,400円+税		
【参考図書・参考資料等】 辞書については授業中に説明をしますが『デイク辞典』(白水社), 『プチ・ロワイヤル辞典』(旺文社), 『クラウン辞典』(三省堂)等, 毎回授業に持参してください。その他, NHKのテレビ・ラジオフランス語講座や大学図書館の関連書籍などをしっかりと活用してください。		
【授業外学習】 ・WebClassに授業に関する情報を提供しているので, 常に事前に確認しておくこと。 ・毎回の授業に出てくる基本例文について, 「音読」に努めながら予習・復習をし, 語彙や構文の知識を定着させること。毎回の授業の最初に前回内容に係る小テストを実施する。 ・教科書に添付されているCDを予習・復習に十分活用するようにしてください。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み (20%), 提出課題・小テスト (40%), 学科試験 (40%) を総合的に評価します。		

科目名 General English1 a・b・c		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 英語でコミュニケーションすることに自信と楽しさを見出す。		
【授業の概要】 * 毎回テーマに即した適切な表現方法を学び、それを使って実際に対話してみる。 * その繰り返しで、確実に多様な表現力を習得する。		
【到達目標】 * 海外でも自立的に生活ができる英語コミュニケーション力を身につける。		
【授業計画】 1. Introducing Yourself 自己紹介 2. Talking about Food / in Your Kitchen 食べものや調理用具について話す 3. Class Interaction & Practice / Make a Menu & Ordering メニュー作成と注文のグループ実習 4. University Timetable / Schedules 大学の時間割とスケジュール 5. Describing Friends and Introducing Each Other 友達の説明をして、お互いを紹介する 6. Understanding Directions & Road Signs / Rules 行先・道路標識・交通ルールを理解する 7. Making Travel Plans / Vacation Activities 旅行の計画を立てる 8. Presentations 振り返り II (Presentations Prep) 9. Discussing Clubs & Home/School Activities 学校やクラブの活動について説明する 10. Inviting Friends Out / Making Plans 友達を誘う・出かける計画を立てる 11. Chores around the House / Room Activities 家事について話す 12. Making Shujitsu Promotional Video 2 13. Healthy Food & Dieting 健康的な食事とダイエット 14. City Fun! 街の見どころ 15. General Review II		
【テキスト】 書名: Berlitz English for University Students 1 & 2 出版: Berlitz ※市販されていません。オリテン時にキャンパス内で販売します。2セットの合計価格：¥4,750		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 * 毎回の授業の予習・復習。 * 週1回程度の宿題あり。		
【成績評価の方法】 * ミニプレゼンテーション, ミニテスト (各20%) * グループディスカッションへの積極参加と発言 (60%)		

科目名 General English 2 a・b・c		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 英語でコミュニケーションすることに自信と楽しさを見出す。		
【授業の概要】 * 毎回テーマに即した適切な表現方法を学び、それを使って実際に対話してみる。 * その繰り返しで、確実に多様な表現力を習得する。		
【到達目標】 * 海外でも自立的に生活ができる英語コミュニケーション力を身につける。		
【授業計画】 1. Introducing Hobbies, Likes & Favorites 趣味・嗜好を紹介する 2. Describing Meals & Meal Times 食事について説明する 3. Talking about Shopping 買物について話す 4. Courses at University 大学の講義・コースについて 5. Create a Timetable グループ実習：予定表を作る 6. Creating a Personal Profile グループ実習：プロフィール作成 7. Taking a City Tour クラス実習：街を案内する 8. Planning a Trip / Vacation with Friends クラス実習：旅行計画の作成 9. Presentations 10. Telling Time 時間を伝える 11. Talking about Past Activities 過去行ったことについて話す 12. Talking about Your Neighborhood 家の近所のことについて話す 13. Presenting Shujitsu Promotional Video 14. Talking about Health & Ailments 健康と病気について話す 15. Speaking test プレゼンテーション1		
【テキスト】 書名: Berlitz English for University Students 1 & 2 出版: Berlitz * 市販されていません。オリテン時にキャンパス内で販売します。2セットの合計価格：¥4,750		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 * 毎回の授業の予習・復習。 * 週1回程度の宿題あり。		
【成績評価の方法】 * ミニプレゼンテーション, ミニテスト (各20%) * グループディスカッションへの積極参加と発言 (60%)		

科目名 General English 3a・b・c		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 英語でコミュニケーションすることに自信と楽しさを見出す。		
【授業の概要】 * 毎回テーマに即した適切な表現方法を学び、それを使って実際に対話してみる。 * その繰り返しで、確実に多様な表現力を習得する。		
【到達目標】 * 海外でも自立的に生活ができる英語コミュニケーション力を身につける。		
【授業計画】 1. Exchange Information / Making Friends 情報交換と友達作り 2. Describing Clothes / Popular Fashion 服や旅行のファッションについて説明する 3. A Tour of Our University 大学内ツアー 4. Talking about Your Family 家族について話す 5. Describing Places Around Town 街の中にある場所について説明する 6. Talking about the Weather 天候について話す 7. Presentations 振り返り I (How to) 8. Presentations 一週間の予定表作成 9. Make a Weekly Schedule クラス実習：パーティーやイベントの計画を立てる 10. Planning a Party / Social Event クラス実習：未来の理想の家について話す 11. Designing Your Future Home クラス実習：将来の仕事について話す 12. Talking about Future Plans 世界の国々と国旗 13. The World & Country Flags 名物料理 14. Global Tastes 15. Speaking test プレゼンテーション2		
【テキスト】 書名: Berlitz English for University Students 1 & 2 出版：Berlitz * 市販されていません。オリテン時にキャンパス内で販売します。2セットの合計価格：¥4,750		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 * 毎回の授業の予習・復習。 * 週1回程度の宿題あり。		
【成績評価の方法】 * ミニプレゼンテーション, ミニテスト (各20%) * グループディスカッションへの積極参加と発言 (60%)		

科目名 General English 4 a・b・c		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 英語でコミュニケーションすることに自信と楽しさを見出す。		
【授業の概要】 * 毎回テーマに即した適切な表現方法を学び、それを使って実際に対話してみる。 * その繰り返しで、確実に多様な表現力を習得する。		
【到達目標】 * 海外でも自立的に生活ができる英語コミュニケーション力を身につける。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduce Yourself to Your Friends 自己紹介のグループ実習 2. Reading a Menu & Ordering in a Restaurant メニューを読んで注文する 3. Shopping in a Department Store / Shopping for a New Home デパートで買物をする 4. Personal Descriptions / Describing People 人の外見について説明する 5. Giving Directions / City Transportation 場所や移動手段を教える 6. Enjoying the Four Seasons 四季を楽しむ 7. Presentations 振り返り II (Presentations Prep) 8. Talking about What You Can Do (Can VS Can't) できること・できないことについて話す 9. Describing Your Hobby / Favorite Activity 趣味や好みについて説明する 10. Describing your Home / Rooms of the House 住んでいる家や部屋の間取りを説明する 11. Making Shujitsu Promotional Video 1 12. Talking about Exercise 運動について話す 13. Nationalities & Global People 世界の国々と人々 14. General Review I 15. Speaking test プレゼンテーション3 		
【テキスト】 書名: Berlitz English for University Students 1 & 2 出版: Berlitz ※市販されていません。オリテン時にキャンパス内で販売します。2セットの合計価格：¥4,750		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 * 毎回の授業の予習・復習。 * 週1回程度の宿題あり。		
【成績評価の方法】 * ミニプレゼンテーション, ミニテスト (各20%) * グループディスカッションへの積極参加と発言 (60%)		

科目名 General English5a		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] * 英語によるコミュニケーション力を向上させる。		
[授業の概要] * テーマに即した会話、プレゼンテーション演習で実用英語を学ぶ。		
[到達目標] * 海外の大学で学生生活を体験できる英語コミュニケーション力を修得する。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. ◆Describing Japanese Food & Cooking Methods 日本料理と作り方について説明する 2. ◆Getting Help & Comparing Stores お店を選んで比べる 3. ◆Shopping for a Present プレゼントを買う 4. ◆Arriving at the Airport / Meeting the Host Family 空港に到着する・ホストファミリーと会う 5. ◆Talking about Your Country 自分の国について話す 6. ◆Describing Your Responsibilities 自分の責任について説明する 7. ◆Presentation Preparation 8. ◆Presentations 9. ◆Looking for a Hotel/Reserving a Room ホテル探しと部屋の予約 10. ◆Going Sightseeing / Famous Places 名所観光に行く 11. ◆Making English Promotion Video 12. ◆Visiting the Hospital 病院へ行く 13. ◆Speaking Test 14. ◆Describing Your Overseas Experience 海外での体験について説明する 15. ◆Speaking Test 		
[テキスト] ◆は前期と同じ教材		
[参考図書・参考資料等] 特になし		
[授業外学習] ◆外国人教師の講義では、必要に応じて宿題を課します。		
[成績評価の方法] * グループディスカッションへの積極参加と発言：60% * ミニプレゼンテーション：20% * ミニテスト：20%		

科目名 General English5 b		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 英語によるコミュニケーション力を向上させる。 * TOEICのスコアアップを目指す。		
【授業の概要】 * テーマに即した会話，プレゼンテーション演習で実用英語を学ぶ。 * 日本人教師によるTOEIC講義で文法を中心に学び，外国人教師によるTOEIC講義で速読や聞き取る力を養う。		
【到達目標】 * 海外の大学で学生生活を体験できる英語コミュニケーション力を修得する。		
【授業計画】 1. ☆TOEIC の全体解説 Part 5 短文穴埋め問題 Unit 1 ◆Stores, Products & Shopping around 買い物をする店や物について 2. ☆Part 5 Unit 2, 3 3. ☆Part 5 Unit 4,5 4. ☆Part 5 Unit 6,7 5. ☆Part 5 まとめUnit 8 6. ☆Part 6 長文穴埋め問題 Unit 9,10 7. ☆Part 6 Unit 11,12 まとめUnit 13 8. ☆Part 7 読解問題 Unit 14 9. ☆Part 7 Unit 15, 16 10. ☆Part 7 Unit 17, 18 11. ☆Part 7 Unit 19,20 12. ☆Part 7 Unit 21,22,23 ◆FINAL REVIEW + CLASS PRESENTATIONS PRACTICE I 振り返りとプレゼンの練習 I 13. ☆Part 7 読解問題まとめ Unit 24		
【テキスト】 ◆は前期と同じ教材 ☆READING UPGRADE FOR THE TOEIC TEST（金星堂）¥1,300 + 税 ISBN 978-4-7647-4066-2		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 ◆外国人教師の講義では，必要に応じて宿題を課します。 ☆TOEICのスコアを短期間で上げるためには，授業外の課題にしっかり取り組んでください。		
【成績評価の方法】 * グループディスカッションへの積極参加と発言：60% * ミニプレゼンテーション：20% * ミニテスト：20%		

科目名 General English 6 a		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] * 英語によるコミュニケーション力を向上させる。		
[授業の概要] * テーマに即した会話、プレゼンテーション演習で実用英語を学ぶ。		
[到達目標] * 海外の大学で学生生活を体験できる英語コミュニケーション力を修得する。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. ◆ Discussing Restaurant Choices レストランを選ぶ 2. ◆ ACTIVITY: Create a Recipe for an International Dish 実習：様々な国の料理レシピを作る 3. ◆ ACTIVITY: Shopping around for Presents 実習：プレゼントを買いに行く 4. ◆ Joining Social Activities & Meeting New People 社会活動に参加する・初対面の人に会う 5. ◆ ACTIVITY: Planning a Homestay 実習：ホームステイを計画する 6. ◆ Talking about Part-Time Jobs パートタイムの仕事について話す 7. ◆ Presentation Preparation 8. ◆ Presentations 9. ◆ Staying at the Hotel & Hotel Services ホテルに宿泊する 10. ◆ Making English Promotion Video 11. ◆ Watch English Promotion Video 12. ◆ Learning about Culture [Stereotypes & Unique Differences] 文化について学ぶ（固定観念と独自のものとの違い） 13. ◆ Reporting Situations 状況を説明する 14. ◆ FINAL REVIEW + CLASS PRESENTATIONS PRACTICE I 振り返りとプレゼンの練習 I 15. ◆ Speaking Test 		
[テキスト] ◆ は前期と同じ教材		
[参考図書・参考資料等] 特になし		
[授業外学習] ◆ 外国人教師の講義では、必要に応じて宿題を課します。		
[成績評価の方法] * グループディスカッションへの積極参加と発言：60% * ミニプレゼンテーション：20% * ミニテスト：20%		

科目名 General English 6 b		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 英語によるコミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 * テーマに即した会話、プレゼンテーション演習で実用英語を学ぶ。		
【到達目標】 * 海外の大学で学生生活を体験できる英語コミュニケーション力を修得する。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. ◆Discussing Restaurant Choices レストランを選ぶ 2. ◆Describing Japanese Food & Cooking Methods 日本料理と作り方について説明する 3. ◆Shopping for a Present プレゼントを買う 4. ◆Arriving at the Airport / Meeting the Host Family 空港に到着する・ホストファミリーと会う 5. ◆Joining Social Activities & Meeting New People 社会活動に参加する・初対面の人に会う 6. ◆ACTIVITY: Planning a Homestay 実習：ホームステイを計画する 7. ◆Talking about Part-Time Jobs パートタイムの仕事について話す 8. ◆Presentation Preparation 9. ◆Presentations 10. ◆Looking for a Hotel/Reserving a Room ホテル探しと部屋の予約 11. ◆Going Sightseeing / Famous Places 名所観光に行く 12. ◆Making English Promotion Video 13. ◆Visiting the Hospital 病院へ行く 14. ◆Reporting Situations 状況を説明する 15. ◆Speaking Test 		
【テキスト】 ◆は前期と同じ教材		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 ◆外国人教師の講義では、必要に応じて宿題を課します。		
【成績評価の方法】 * グループディスカッションへの積極参加と発言：60% * ミニプレゼンテーション：20% * ミニテスト：20%		

科目名 General English 7 a		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 英語によるコミュニケーション力を向上させる。 * TOEICのスコアアップを目指す。		
【授業の概要】 * テーマに即した会話，プレゼンテーション演習で実用英語を学ぶ。 * 日本人教師によるTOEIC講義で文法を中心に学び，外国人教師によるTOEIC講義で速読や聞き取る力を養う。		
【到達目標】 * 海外の大学で学生生活を体験できる英語コミュニケーション力を修得する。		
【授業計画】 ◆Discussing International Cuisines & Food Tastes 様々な国の料理と味について話す ◆Stores, Products & Shopping around 買い物をする店や物について 1. ☆TOEIC の全体解説 Part 5 短文穴埋め問題 Unit 1 2. ☆Part 5 Unit 2, 3 3. ☆Part 5 Unit 4,5 4. ☆Part 5 Unit 6,7 5. ☆Part 5 まとめUnit 8 6. ☆Part 6 長文穴埋め問題 Unit 9,10 7. ☆Part 6 Unit 11,12 まとめUnit 13 8. ☆Part 7 読解問題 Unit 14 9. ☆Part 7 Unit 15, 16 10. ☆Part 7 Unit 17, 18 11. ☆Part 7 Unit 19,20 12. ☆Part 7 Unit 21,22,23 13. ☆Part 7 読解問題まとめ Unit 24		
【テキスト】 ◆は前期と同じ教材 ☆READING UPGRADE FOR THE TOEIC TEST（金星堂）¥1,300 + 税 ISBN 978-4-7647-4066-2		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 ◆外国人教師の講義では，必要に応じて宿題を課します。 ☆TOEICのスコアを短期間で上げるためには，授業外の課題にしっかり取り組んでください。		
【成績評価の方法】 * グループディスカッションへの積極参加と発言：60% * ミニプレゼンテーション：20% * ミニテスト：20%		

科目名 General English 7 b		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 英語によるコミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 * テーマに即した会話，プレゼンテーション演習で実用英語を学ぶ。		
【到達目標】 * 海外の大学で学生生活を体験できる英語コミュニケーション力を修得する。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. ◆Discussing International Cuisines & Food Tastes 様々な国の料理と味について話す 2. ◆ACTIVITY: Create a Recipe for an International Dish 実習：様々な国の料理レシピを作る 3. ◆Getting Help & Comparing Stores お店を選んで比べる 4. ◆ACTIVITY: Shopping around for Presents 実習：プレゼントを買いに行く 5. ◆Talking about Your Country 自分の国について話す 6. ◆Describing Your Responsibilities 自分の責任について説明する 7. ◆Presentation Preparation 8. ◆Presentation 9. ◆Staying at the Hotel & Hotel Services ホテルに宿泊する 10. ◆Making English Promotion Video 11. ◆Making English Promotion Video 12. ◆Learning about Culture [Stereotypes & Unique Differences] 文化について学ぶ（固定観念と独自のものとの違い） 13. ◆Describing Your Overseas Experience 海外での体験について説明する 14. ◆Speaking Test 15. ◆Speaking Test 		
【テキスト】 ◆は前期と同じ教材		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 ◆外国人教師の講義では，必要に応じて宿題を課します。		
【成績評価の方法】 * グループディスカッションへの積極参加と発言：60% * ミニプレゼンテーション：20% * ミニテスト：20%		

科目名 General English 8 a		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ＊英語によるコミュニケーション力を向上させる。 ＊TOEICのスコアアップを目指す。		
【授業の概要】 ＊テーマに即した会話，プレゼンテーション演習で実用英語を学ぶ。 ＊日本人教師によるTOEIC講義で文法を中心に学び，外国人教師によるTOEIC講義で速読や聞き取る力を養う。		
【到達目標】 ＊海外の大学で学生生活を体験できる英語コミュニケーション力を修得する。		
【授業計画】 1. ★TOEIC Listening Test 1-1 リスニングテスト1-1 2. ★TOEIC Listening Test 1-2 リスニングテスト1-2 3. ★TOEIC Listening Test 1-3 リスニングテスト1-3 4. ★TOEIC Listening Test 1-4 リスニングテスト1-4 5. ★TOEIC Reading Test 1-1 リーディングテスト1-1 6. ★TOEIC Reading Test 1-2 リーディングテスト1-2 7. ★TOEIC Reading Test 1-3 リーディングテスト1-3 8. ★TOEIC REVIEW TEST 1 + ANSWER CHECK 復習テストと答え合わせ1 9. ★TOEIC Listening Test 2-1 リスニングテスト2-1 10. ★TOEIC Listening Test 2-2 リスニングテスト2-2 11. ★TOEIC Listening Test 2-3 リスニングテスト2-3 12. ★TOEIC Listening Test 2-4 リスニングテスト2-4 13. ★TOEIC Reading Test 2-1 リーディングテスト2-1 14. ★TOEIC Reading Test 2-2 リーディングテスト2-2 15. ★TOEIC REVIEW TEST 2 + ANSWER CHECK 復習テストと答え合わせ2		
【テキスト】 ★Tactics for the TOEIC® Test, Listening and Reading Test, Introductory Course (Oxford) ¥3,150+ 税 ISBN: 978-0-19-452976-1		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 ◆外国人教師の講義では，必要に応じて宿題を課します。 ★TOEICのスコアを短期間で上げるためには，授業外の課題にしっかり取り組んでください。		
【成績評価の方法】 ＊グループディスカッションへの積極参加と発言：60％ ＊ミニプレゼンテーション：20％ ＊ミニテスト：20％		

科目名 General English 8 b		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム <input type="radio"/>
【授業のテーマ】 ＊英語によるコミュニケーション力を向上させる。 ＊TOEICのスコアアップを目指す。		
【授業の概要】 ＊テーマに即した会話，プレゼンテーション演習で実用英語を学ぶ。 ＊日本人教師によるTOEIC講義で文法を中心に学び，外国人教師によるTOEIC講義で速読や聞き取る力を養う。		
【到達目標】 ＊海外の大学で学生生活を体験できる英語コミュニケーション力を修得する。		
【授業計画】 1. ★TOEIC Listening Test 1-1 リスニングテスト1-1 2. ★TOEIC Listening Test 1-2 リスニングテスト1-2 3. ★TOEIC Listening Test 1-3 リスニングテスト1-3 4. ★TOEIC Listening Test 1-4 リスニングテスト1-4 5. ★TOEIC Reading Test 1-1 リーディングテスト1-1 6. ★TOEIC Reading Test 1-2 リーディングテスト1-2 7. ★TOEIC Reading Test 1-3 リーディングテスト1-3 8. ★TOEIC REVIEW TEST 1 + ANSWER CHECK 復習テストと答え合わせ1 9. ★TOEIC Listening Test 2-1 リスニングテスト2-1 10. ★TOEIC Listening Test 2-2 リスニングテスト2-2 11. ★TOEIC Listening Test 2-3 リスニングテスト2-3 12. ★TOEIC Listening Test 2-4 リスニングテスト2-4 13. ★TOEIC Reading Test 2-1 リーディングテスト2-1 14. ★TOEIC Reading Test 2-2 リーディングテスト2-2 15. ★TOEIC REVIEW TEST 2 + ANSWER CHECK 復習テストと答え合わせ2		
【テキスト】 ★Tactics for the TOEIC® Test, Listening and Reading Test, Introductory Course (Oxford) ¥3,150+ 税 ISBN: 978-0-19-452976-1		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 ★TOEICのスコアを短期間で上げるためには，授業外の課題にしっかりと取り組んでください。		
【成績評価の方法】 ＊グループディスカッションへの積極参加と発言：60％ ＊ミニプレゼンテーション：20％ ＊ミニテスト：20％		

科目名 中国語入門 1		担当者 馬 小 菲
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 中国語の仕組み全体，また，中国の文化・生活習慣などについて，広く学習する。授業を通して，言語運用能力を養いつつ，グローバルな視点を持つ人となることを目指す。		
【授業の概要】 「中国語入門」1～4の授業は連動して行う。本授業では練習問題を通して，既習事項の再確認をする。また，生きた中国語に触れるため，実際の漫画や雑誌を随時取り上げる。 （受講生の到達度に応じて，授業計画を変更することがある。）		
【到達目標】 文化や習慣の違いが言語形成にも影響していることを理解し，実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。		
【授業計画】 1. ガイダンス（中国語の仕組み，学習の仕方などについて・発音） 2. 発音（軽声・声調変化・ピンイン表記・小テスト） 3. 第一課 你好（「是」述語文・否定の「不」・疑問文・連体修飾） 4. 第二課 我姓高木，叫高木麻美（形容詞述語文・動詞「叫」「姓」・疑問詞・副詞「也」など） 5. 第三課 这是我的汉语课本（動詞述語文・指示代名詞・接続詞など） 6. 第四課 我家有三口人（存在を表す「有」・量詞など） 7. 第五課 我的生日是十月二号 第六課 现在十二点了（時間を表す表現・「了」の文法など） 8. 第七課 我家在东京（介詞・場所を表す代名詞など） 9. 第八課 我喜欢吃日本菜（経験を表す「过」・離合動詞など） 10. 第九課 北京的冬天比东京冷（比較の表現・程度補語など） 11. 第十課 我们想和老师一起去中国（助動詞・動作の回数など） 12. 第十一課 我也想进去看看（方向補語など） 13. 第十二課 我正在做中国菜（動作の進行・結果補語など） 14. 第十三課 这句话我不会翻译（可能を表す助動詞など） 15. まとめ・復習		
【テキスト】 1. 守屋宏則・陳浩・梁月軍『老师好！－王先生との出会い－』（2011年4月／郁文堂）ISBN：978-4-261-01856-1 必要に応じて，ハンドアウトを配布する。		
【参考図書・参考資料等】 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（1996年6月／同学社）		
【授業外学習】 宿題として，教科書内の練習問題を課す。		
【成績評価の方法】 積極的な授業参加，予習・復習など授業への取り組みを最大限に評価したい。期末テスト（40%），授業態度・課題への取り組み（60%）で総合的に評価する。		

科目名 中国語入門2	担当者 馬 小 菲	
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 中国語の基礎文法知識を身につける。		
[授業の概要] 「中国語入門」1～4の授業は連動して行う。本授業ではまず、文法事項を整理した上で、これらを使った作文の反復練習を行う。 (受講生の到達度に応じて、授業計画を変更することがある。)		
[到達目標] 中国語は語順が決め手。中国語の土台となる文法の定着を目指す。		
[授業計画] 1. ガイダンス (中国語の仕組み, 学習の仕方などについて・発音) 2. 発音 (軽声・声調変化・ピンイン表記・小テスト) 3. 第一課 你好 (「是」述語文・否定の「不」・疑問文・連体修飾) 4. 第二課 我姓高木, 叫高木麻美 (形容詞述語文・動詞「叫」「姓」・疑問詞・副詞「也」など) 5. 第三課 这是我的汉语课本 (動詞述語文・指示代名詞・接続詞など) 6. 第四課 我家有三口人 (存在を表す「有」・量詞など) 7. 第五課 我的生日是十月二号 第六課 现在十二点了 (時間を表す表現・「了」の文法など) 8. 第七課 我家在东京 (介詞・場所を表す代名詞など) 9. 第八課 我喜欢吃日本菜 (経験を表す「过」・離合動詞など) 10. 第九課 北京的冬天比东京冷 (比較の表現・程度補語など) 11. 第十課 我们想和老师一起去中国 (助動詞・動作の回数など) 12. 第十一課 我也想进去看看 (方向補語など) 13. 第十二課 我正在做中国菜 (動作の進行・結果補語など) 14. 第十三課 这句话我不会翻译 (可能を表す助動詞など) 15. まとめ・復習		
[テキスト] 1. 守屋宏則・陳浩・梁月軍『老师好!一王先生との出会い一』(2011年4月/郁文堂) ISBN:978-4-261-01856-1 必要に応じて、ハンドアウトを配布する。		
[参考図書・参考資料等] 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(1996年6月/同学社)		
[授業外学習] 宿題として、教科書内の練習問題を課す。		
[成績評価の方法] 積極的な授業参加, 予習・復習など授業への取り組みを最大限に評価したい。期末テスト (40%), 授業態度・課題への取り組み (60%) で総合的に評価する。		

科目名 中国語入門3		担当者 馬 小 菲
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 中国語の発音をマスターし、語彙を増やす。		
[授業の概要] 「中国語入門」1～4の授業は連動して行う。本授業では、新出単語の学習や基本文の音読を中心に行う。読む練習を重ねることで、会話の基礎を作る。 (受講生の到達度に応じて、授業計画を変更することがある。)		
[到達目標] 中国語のピンインを正確に発音し、中国語のイディオムを理解することを目指す。また、聞き取る力を養うと同時に、会話に必要な語彙を増やす。		
[授業計画] 1. ガイダンス (中国語の仕組み、学習の仕方などについて・発音) 2. 発音・数字 (軽声・声調変化・ピンイン表記) 3. 第一課 你好 (「是」述語文・否定の「不」・疑問文・連体修飾) 4. 第二課 我姓高木, 叫高木麻美 (形容詞述語文・動詞「叫」「姓」・疑問詞・副詞「也」など) 5. 第三課 这是我的汉语课本 (動詞述語文・指示代名詞・接続詞など) 6. 第四課 我家有三口人 (存在を表す「有」・量詞など) 7. 第五課 我的生日是十月二号 第六課 现在十二点了 (時間を表す表現・「了」の文法など) 8. 第七課 我家在东京 (介詞・場所を表す代名詞など) 9. 第八課 我喜欢吃日本菜 (経験を表す「过」・離合動詞など) 10. 第九課 北京的冬天比东京冷 (比較の表現・程度補語など) 11. 第十課 我们想和老师一起去中国 (助動詞・動作の回数など) 12. 第十一課 我也想进去看看 (方向補語など) 13. 第十二課 我正在做中国菜 (動作の進行・結果補語など) 14. 第十三課 这句话我不会翻译 (可能を表す助動詞など) 15. まとめ・復習		
[テキスト] 1. 守屋宏則・陳浩・梁月軍『老师好！一王先生との出会いー』(2011年4月／郁文堂) ISBN : 978-4-261-01856-1 必要に応じて、ハンドアウトを配布する。		
[参考図書・参考資料等] 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(1996年6月／同学社)		
[授業外学習] プリントなどの宿題を課すことがあります。		
[成績評価の方法] 積極的な授業参加、予習・復習など授業への取り組みを最大限に評価したい。 期末テスト (40%)、授業態度・課題への取り組み (60%) で総合的に評価する。		

科目名 中国語入門4		担当者 馬 小 菲
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 中国語に関する応用力・実践力を身につける。		
[授業の概要] 「中国語入門」1～4の授業は連動して行う。本授業では会話練習を中心とする。具体的には、ペア練習やロールプレイなどの形を取る。 (受講生の到達度に応じて、授業計画を変更することがある。)		
[到達目標] 既習の文法事項・基本文を活かし、日常会話をこなすための応用力を養う。コミュニケーションに必要な表現力を身につける。言語の多様性を認識し、異文化理解を深めることを目指す。		
[授業計画] 1. ガイダンス (中国語の仕組み, 学習の仕方などについて・発音) 2. 発音・数字 (軽声・声調変化・ピンイン表記) 3. 第一課 你好 (「是」述語文・否定の「不」・疑問文・連体修飾) 4. 第二課 我姓高木, 叫高木麻美 (形容詞述語文・動詞「叫」「姓」・疑問詞・副詞「也」など) 5. 第三課 这是我的汉语课本 (動詞述語文・指示代名詞・接続詞など) 6. 第四課 我家有三口人 (存在を表す「有」・量詞など) 7. 第五課 我的生日是十月二号 第六課 现在十二点了 (時間を表す表現・「了」の文法など) 8. 第七課 我家在东京 (介詞・場所を表す代名詞など) 9. 第八課 我喜欢吃日本菜 (経験を表す「过」・離合動詞など) 10. 第九課 北京的冬天比东京冷 (比較の表現・程度補語など) 11. 第十課 我们想和老师一起去中国 (助動詞・動作の回数など) 12. 第十一課 我也想进去看看 (方向補語など) 13. 第十二課 我正在做中国菜 (動作の進行・結果補語など) 14. 第十三課 这句话我不会翻译 (可能を表す助動詞など) 15. まとめ・復習		
[テキスト] 1. 守屋宏則・陳浩・梁月軍『老师好！一王先生との出会いー』(2011年4月／郁文堂) ISBN：978-4-261-01856-1 必要に応じて、ハンドアウトを配布する。		
[参考図書・参考資料等] 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(1996年6月／同学社)		
[授業外学習] プリントなどの宿題を課すことがあります。		
[成績評価の方法] 積極的な授業参加, 予習・復習など授業への取り組みを最大限に評価したい。 期末発表 (40%), 授業態度・課題への取り組み (60%) で総合的に評価する。		

科目名 留学対策講座（英語） 1 a		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] * 海外の大学で通用する実践的な英語コミュニケーション力を向上させる。		
[授業の概要] * 英語ディスカッションを通してListening, Speaking力向上とともに, Quick Response, Critical Thinkingのトレーニングを行う。		
[到達目標] * 海外の大学で異なる国籍の学生たちと互角に討議できるマインド養成。		
[授業計画] 1. Describing people pg 6-7 (Preview/Conversations) 2. Writing + Mountain People pg 14-15 (Writing and DVD) 3. Extreme jobs pg 22-24 (Reading/comprehension) 4. Animals pg 36-39 (Listening/language focus) 5. Weekend plans pg 46-49 (Listening/language focus) 6. Future predictions pg 56-59 (Listening/language focus) 7. When Did It Happen pg 66-69 [Listening/language focus] 8. Festivals pg 76-79 (Listening/language) 9. Phones Used To Be Much Bigger pg 86-89 (Listening/Language Focus) 10. Fossils pg 96-99 (Listening/Language Focus) 11. Advertising pg 106-109 (Listening/Language focus) 12. Listening pg 116-119 (Listening/language focus) 13. Presentation Skills 14. Presentations 15. Review		
[テキスト] Time Zones 3 Student Book ¥2,070+tax (2nd Edition) Publisher:Cengage Learning (センゲージラーニング株式会社) ISBN 978-130-52598-67		
[参考図書・参考資料等]		
[授業外学習] Time Zones 3 Workbook ISBN 978-130-52599-42 ¥1,590+tax		
[成績評価の方法] Writing test 20% Speaking test 20%		

科目名 留学対策講座（英語） 1 b		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム <input type="radio"/>
【授業のテーマ】 * 海外の大学で通用する実践的な英語コミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 * 英語ディスカッションを通してListening, Speaking力向上とともに, Quick Response, Critical Thinkingのトレーニングを行う。		
【到達目標】 * 海外の大学で異なる国籍の学生たちと互角に討議できるマインド養成。		
【授業計画】 1. What do you like to do? pg 6-7 (Preview/Conversations) 2. Writing + Bird Girl pg 14-15 (Writing and DVD) 3. First Impressions pg 22-24 (Reading/comprehension) 4. What's the coldest place on Earth pg 36-39 (Listening/language focus) 5. Are cats better pets than dogs pg 46-49 (Listening/language focus) 6. I really like electronic music pg 56-59 (Listening/language focus) 7. What's for dinner pg 68-71 [Listening/language focus] 8. You should see a doctor pg 78-81 (Preview/Conversations) 9. I often skate to school pg 88-91 (Preview/Conversations) 10. How do you get to the mall pg 98-101 (Preview/Conversations) 11. What are you doing pg 108-111 (Preview/Conversations) 12. We're going to volunteer pg 118-121 (Listening/language focus) 13. Presentation Skills 14. Presentations 15. Review		
【テキスト】 Time Zones 2 (2nd edition) Student Book ¥2,070+tax Publisher:Cengage Learning (センゲージラーニング株式会社) ISBN 978-130-52598-50		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 Time Zones 2 Workbook ISBN 978-130-52599-35 ¥1,590+tax		
【成績評価の方法】 Writing test 20% Speaking test 20%		

科目名 留学対策講座（英語） 2a		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 海外の大学で通用する実践的な英語コミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 * 英語ディスカッションを通してListening, Speaking力向上とともに, Quick Response, Critical Thinkingのトレーニングを行う。		
【到達目標】 * 海外の大学で異なる国籍の学生たちと互角に討議できるマインド養成。		
【授業計画】 1. Language Focus pg 8-9 (Language Focus/Pronunciation/Communication) 2. Jobs pg 16-19 (Listening/critical thinking/language focus) 3. Asking about jobs and careers pg 24-25 (Writing and DVD) 4. Breaking Rules pg 32-34 (Reading/comprehension) 5. Frog man pg 40-41 (Listening/pronunciation/communication) 6. Crowdfunding pg 50-51 (Listening/pronunciation/communication) 7. Marine environments pg 60-61 (Listening/Pronunciation/Communication) 8. Hidden Depths pg 70-71 (Listening/critical thinking/pronunciation/communication) 9. Valentine's Day - pg 80-81 (Listening/pronunciation/communication) 10. Humans and Machines pg 90-91 (Listening/Pronunciation/Communication) 11. Digging For Answers pg 100-101 (Listening/Pronunciation/Communication) 12. Shopping habits pg 110-111 (Listening/pronunciation/communication) 13. Space Inventions pg 120-121 (Listening/Pronunciation/Communication) 14. Presentation Prep. 15. Speaking Test		
【テキスト】 Time Zones 3 Student Book ¥2,070+tax (2nd Edition) Publisher:Cengage Learning (センゲージラーニング株式会社) ISBN 978-130-52598-67		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 Time Zones 3 Workbook ISBN 978-130-52599-42 ¥1,590+tax		
【成績評価の方法】 Writing test 20% Speaking test 20%		

科目名 留学対策講座（英語） 2 b		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ＊海外の大学で通用する実践的な英語コミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 ＊英語ディスカッションを通してListening, Speaking力向上とともに、Quick Response, Critical Thinkingのトレーニングを行う。		
【到達目標】 ＊海外の大学で異なる国籍の学生たちと互角に討議できるマインド養成。		
【授業計画】 1. Language Focus pg 8-9 (Language Focus/Pronunciation/Communication) 2. What does she look like? pg 16-19 (Listening/critical thinking/language focus) 3. Writing and Great facial hair pg 24-25 (Writing and DVD) 4. Yarn Bomb pg 32-34 (Reading/comprehension) 5. Going to Extremes pg 40-41 (Listening/pronunciation/communication) 6. Talking to animals pg 50-51 (Listening/pronunciation/communication) 7. Your brain on music pg 60-61 (Listening/Pronunciation/Communication) 8. Food Art pg 72-73 (Listening/critical thinking/pronunciation/communication) 9. Disease Hunter - pg 82-83 (Listening/pronunciation/communication) 10. The science of habits pg 92-93 (Listening/Pronunciation/Communication) 11. Urban Explorers pg 102-103 (Listening/Pronunciation/Communication) 12. Ice Water Diver pg 112-113 (Listening/pronunciation/communication) 13. Saving Food pg 122-123 (Listening/Pronunciation/Communication) 14. Presentation Prep. 15. Speaking Test		
【テキスト】 Time Zones 2 (2nd edition) Student Book ¥2,070+tax Publisher:Cengage Learning（センゲージラーニング株式会社） ISBN 978-130-52598-50		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 Time Zones 2 Workbook ISBN 978-130-52599-35 ¥1,590+tax		
【成績評価の方法】 Writing test 20% Speaking test 20%		

科目名 留学対策講座（英語） 3a		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 海外の大学で通用する実践的な英語コミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 * 英語ディスカッションを通してListening, Speaking力向上とともに, Quick Response, Critical Thinkingのトレーニングを行う。		
【到達目標】 * 海外の大学で異なる国籍の学生たちと互角に討議できるマインド養成。		
【授業計画】 1. The Big Picture pg 10-11 (Listening/pronunciation) 2. Rules pg 26-29 (Listening/critical thinking/language focus) 3. Class Rules pg 34-35 [Writing and DVD] 4. Can Animals be nice? pg 42-44 (Reading/Comprehension) 5. Millennial Trains Project pg 52-54 (Reading/Comprehension/Critical Thinking) 6. On Thin Ice 62-64 (Reading/Comprehension) 7. An Ancient Murder pg 72-74 (Reading/Comprehension) 8. My Bucket List pg 82-84 (Writing/The Real World) 9. Fads pg 92-94 (Reading/comprehension) 10. Dinosaurs Alive pg 102-104 (Reading/Comprehension) 11. Cause Marketing pg 112-114 (Reading/Comprehension) 12. Landing On A Comet pg 122-124 (Reading/Comprehension) 13. Presentation Prep. 14. Presentations 15. Speaking Test		
【テキスト】 Time Zones 3 Student Book ¥2,070+tax (2nd Edition) Publisher:Cengage Learning (センゲージラーニング株式会社) ISBN 978-130-52598-67		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 Time Zones 3 Workbook ISBN 978-130-52599-42 ¥1,590+tax		
【成績評価の方法】 Writing test 20% Speaking test 20%		

科目名 留学対策講座（英語） 3 b		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム <input type="radio"/>
【授業のテーマ】 * 海外の大学で通用する実践的な英語コミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 * 英語ディスカッションを通してListening, Speaking力向上とともに, Quick Response, Critical Thinkingのトレーニングを行う。		
【到達目標】 * 海外の大学で異なる国籍の学生たちと互角に討議できるマインド養成。		
【授業計画】 1. Robot Scientist pg 10-11 (Listening/pronunciation) 2. I bought new shoes pg 26-29 (Listening/critical thinking/language focus) 3. Writing and Walking in style pg 34-35 [Writing and DVD] 4. Extreme Amazon pg 42-44 (Reading/Comprehension) 5. Dogs with jobs pg 52-54 (Reading/Comprehension/Critical Thinking) 6. The feel of music pg 62-64 (Reading/Comprehension) 7. A slice of history pg 74-76 (Reading/Comprehension) 8. Laughter is the best medicine pg 84-86 (Reading/Comprehension) 9. An unusual commute pg 94-96 (Reading/comprehension) 10. Cities on the move pg 104-106 (Reading/Comprehension) 11. Diving With Sharks pg 114-116 (Reading/Comprehension) 12. Inventing The Future pg 124-126 (Reading/Comprehension) 13. Presentation Prep. 14. Presentations 15. Speaking Test		
【テキスト】 Time Zones 2 (2nd edition) Student Book ¥2,070+tax Publisher:Cengage Learning (センゲージラーニング株式会社) ISBN 978-130-52598-50		
【参考図書・参考資料等】 特になし		
【授業外学習】 Time Zones 2 Workbook ISBN 978-130-52599-35 ¥1,590+tax		
【成績評価の方法】 Writing test 20% Speaking test 20%		

科目名 留学対策講座（英語） 4a		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 * 海外の大学で通用する実践的な英語コミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 * 英語ディスカッションを通してListening, Speaking力向上とともに, Quick Response, Critical Thinkingのトレーニングを行う。		
【到達目標】 * 海外の大学で異なる国籍の学生たちと互角に討議できるマインド養成。		
【授業計画】 1. Life Savers pg 12-14 (Reading/comprehension) 2. Fun jobs pg 20-21 (Listening/critical thinking/pronunciation) 3. Unusual rules - pg 30-31 (Listening/pronunciation/communication) 4. Animal relationships pg 44-45 (Writing and DVD) 5. Upcoming plans pg 54-55 (Writing and DVD) 6. Your town in the future pg 64-65 (Writing and DVD) 7. Cleopatra pg 74-75 (Writing and DVD) 8. Land Of Adventure pg 84-85 (Writing and DVD) 9. Philippines pg 94-95 (Writing and DVD) 10. Dinosaurs pg 104-105 (Writing and DVD)] 11. Supermarket Tricks pg 114-115 (Writing and DVD) 12. Mission To Mars pg 124-125 (Writing and DVD) 13. Presentations 14. Review 15. Speaking Test		
【テキスト】 Time Zones 3 Student Book ¥2,070+tax (2nd Edition) Publisher:Cengage Learning (センゲージラーニング株式会社) ISBN 978-130-52598-67		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 Time Zones 3 Workbook ISBN 978-130-52599-42 ¥1,590+tax		
【成績評価の方法】 Writing test 20% Speaking test 20%		

科目名 留学対策講座（英語） 4 b		担当者 各担当者（経営英語）
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム <input type="radio"/>
【授業のテーマ】 * 海外の大学で通用する実践的な英語コミュニケーション力を向上させる。		
【授業の概要】 * 英語ディスカッションを通してListening, Speaking力向上とともに, Quick Response, Critical Thinkingのトレーニングを行う。		
【到達目標】 * 海外の大学で異なる国籍の学生たちと互角に討議できるマインド養成。		
【授業計画】 1. Incredible Kids pg 12-14 (Reading/comprehension) 2. Mind Power pg 20-21 (Listening/critical thinking/pronunciation) 3. School Uniforms - pg 30-31 (Listening/pronunciation/communication) 4. Writing and Earth's Coldest Place pg 44-45 (Writing and DVD) 5. Writing and strange cats pg 54-55 (Writing and DVD) 6. Writing and The Steel Band pg 64-65 (Writing and DVD) 7. Writing and The King of Fruits pg 76-77 (Writing and DVD) 8. Writing and Laughter Medicine pg 86-87 (Writing and DVD) 9. Writing and Skateistan pg 96-97 (Writing and DVD) 10. Writing and City Walker pg 106-107 (Writing and DVD)] 11. Writing and Dangerous Waters pg 116-117 (Writing and DVD) 12. Writing and Coastal Cleanup pg 126-127 (Writing and DVD) 13. Presentations 14. Review 15. Speaking Test		
【テキスト】 Time Zones 2 (2nd edition) Student Book ¥2,070+tax Publisher:Cengage Learning (センゲージラーニング株式会社) ISBN 978-130-52598-50		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 Time Zones 2 Workbook ISBN 978-130-52599-35 ¥1,590+tax		
【成績評価の方法】 Writing test 20% Speaking test 20%		

科目名 留学対策講座（中国語） 1		担当者 馬 小 菲
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 中国語の仕組み全体，また，中国の文化・生活習慣などについて，広く学習する。授業を通して，言語運用能力を養いつつ，グローバルな視点を持つ人となることを目指す。		
【授業の概要】 「留学対策講座中国語」1～4の授業は連動して行う。なお，毎年6月に行われる「中国語検定試験 準四級」あるいは「HSK中国語検定 1級」の合格を目指す。 本授業では練習問題を通して，既習事項の再確認をする。また，生きた中国語に触れるため，実際の漫画や雑誌を随時取り上げる。 （受講生の到達度に応じて，授業計画を変更することがある。）		
【到達目標】 文化や習慣の違いが言語形成にも影響していることを理解し，実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。		
【授業計画】 1. ガイダンス（中国語の仕組み，学習の仕方などについて） 発音（軽声・声調変化・ピンイン表記・小テスト） 2. 第一課 你好（「是」述語文・否定の「不」・疑問文・連体修飾） 3. 第二課 我姓高木，叫高木麻美（形容詞述語文・動詞「叫」「姓」・疑問詞・副詞「也」など） 4. 第三課 这是我的汉语课本（動詞述語文・指示代名詞・接続詞など） 第四課 我家有三口人（存在を表す「有」・量詞など） 5. 第五課 我的生日是十月二号（年月日や曜日の言い方など） 第六課 现在十二点了（時間を表す表現・「了」の文法など） 6. 第七課 我家在东京（介詞・場所を表す代名詞など） 第八課 我喜欢吃日本菜（経験を表す「过」・離合動詞など） 7. 第九課 北京的冬天比东京冷（比較の表現・程度補語など） 8. 第十課 我们想和老师一起去中国（助動詞・動作の回数など） 9. 第十一課 我也想进去看看（方向補語など） 10. 第十二課 我正在做中国菜（動作の進行・結果補語など） 11. 第十三課 这句话我不会翻译（可能を表す助動詞など） 12. 第十四課 请把作业交上来（処置文・方向補語など） 13. 第十五課 往左拐一直走就到（条件・仮定を表す「了」など） 14. 第十六課 快要考试了（様態補語など） 15. まとめ・復習		
【テキスト】 1. 守屋宏則・陳浩・梁月軍『老师好！－王先生との出会い－』（2011年4月／郁文堂）ISBN：978-4-261-01856-1 必要に応じて，ハンドアウトを配布する。		
【参考図書・参考資料等】 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（1996年6月／同学社）		
【授業外学習】 宿題として，教科書内の練習問題を課す。		
【成績評価の方法】 積極的な授業参加，予習・復習など授業への取り組みを最大限に評価したい。期末テスト（40%），授業態度・課題への取り組み（60%）で総合的に評価する。		

科目名 留学対策講座（中国語） 2		担当者 馬 小 菲
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 中国語の基礎文法知識を身につける。		
【授業の概要】 「留学対策講座中国語」1～4の授業は連動して行う。なお、毎年6月に行われる「中国語検定試験 準四級」あるいは「HSK中国語検定 1級」の合格を目指す。 本授業ではまず、文法事項を整理した上で、これらを使った作文の反復練習を行う。 (受講生の到達度に応じて、授業計画を変更することがある。)		
【到達目標】 中国語は語順が決め手。中国語の土台となる文法の定着を目指す。		
【授業計画】 1. ガイダンス（中国語の仕組み、学習の仕方などについて） 発音（軽声・声調変化・ピンイン表記・小テスト） 2. 第一課 你好（「是」述語文・否定の「不」・疑問文・連体修飾） 3. 第二課 我姓高木，叫高木麻美（形容詞述語文・動詞「叫」「姓」・疑問詞・副詞「也」など） 4. 第三課 这是我的汉语课本（動詞述語文・指示代名詞・接続詞など） 第四課 我家有三口人（存在を表す「有」・量詞など） 5. 第五課 我的生日是十月二号（年月日や曜日の言い方など） 第六課 现在十二点了（時間を表す表現・「了」の文法など） 6. 第七課 我家在东京（介詞・場所を表す代名詞など） 第八課 我喜欢吃日本菜（経験を表す「过」・離合動詞など） 7. 第九課 北京的冬天比东京冷（比較の表現・程度補語など） 8. 第十課 我们想和老师一起去中国（助動詞・動作の回数など） 9. 第十一課 我也想去看看（方向補語など） 10. 第十二課 我正在做中国菜（動作の進行・結果補語など） 11. 第十三課 这句话我不会翻译（可能を表す助動詞など） 12. 第十四課 请把作业交上来（処置文・方向補語など） 13. 第十五課 往左拐一直走就到（条件・仮定を表す「了」など） 14. 第十六課 快要考试了（様態補語など） 15. まとめ・復習		
【テキスト】 1. 守屋宏則・陳浩・梁月軍『老师好！－王先生との出会い－』（2011年4月／郁文堂）ISBN：978-4-261-01856-1 必要に応じて、ハンドアウトを配布する。		
【参考図書・参考資料等】 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（1996年6月／同学社）		
【授業外学習】 宿題として、教科書内の練習問題を課す。		
【成績評価の方法】 積極的な授業参加、予習・復習など授業への取り組みを最大限に評価したい。期末テスト（40%）、授業態度・課題への取り組み（60%）で総合的に評価する。		

科目名 留学対策講座（中国語） 3		担当者 馬 小 菲
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 中国語の発音をマスターし、語彙を増やす。		
【授業の概要】 「留学対策講座中国語」1～4の授業は連動して行う。なお、毎年6月に行われる「中国語検定試験 準四級」あるいは「HSK中国語検定 1級」の合格を目指す。 本授業では、新出単語の学習や基本文の音読を中心に行う。読む練習を重ねることで、会話の基礎を作る。（受講生の到達度に応じて、授業計画を変更することがある。）		
【到達目標】 中国語のピンインを正確に発音し、中国語のイディオムを理解することを目指す。また、聞き取る力を養うと同時に、会話に必要な語彙を増やす。		
【授業計画】 1. ガイダンス（中国語の仕組み、学習の仕方などについて） 発音（軽声・声調変化・ピンイン表記・小テスト） 2. 第一課 你好（「是」述語文・否定の「不」・疑問文・連体修飾） 3. 第二課 我姓高木，叫高木麻美（形容詞述語文・動詞「叫」「姓」・疑問詞・副詞「也」など） 4. 第三課 这是我的汉语课本（動詞述語文・指示代名詞・接続詞など） 第四課 我家有三口人（存在を表す「有」・量詞など） 5. 第五課 我的生日是十月二号（年月日や曜日の言い方など） 第六課 现在十二点了（時間を表す表現・「了」の文法など） 6. 第七課 我家在东京（介詞・場所を表す代名詞など） 第八課 我喜欢吃日本菜（経験を表す「过」・離合動詞など） 7. 第九課 北京的冬天比东京冷（比較の表現・程度補語など） 8. 第十課 我们想和老师一起去中国（助動詞・動作の回数など） 9. 第十一課 我也想去看看（方向補語など） 10. 第十二課 我正在做中国菜（動作の進行・結果補語など） 11. 第十三課 这句话我不会翻译（可能を表す助動詞など） 12. 第十四課 请把作业交上来（処置文・方向補語など） 13. 第十五課 往左拐一直走就到（条件・仮定を表す「了」など） 14. 第十六課 快要考试了（様態補語など） 15. まとめ・復習		
【テキスト】 1. 守屋宏則・陳浩・梁月軍『老师好！－王先生との出会い－』（2011年4月／郁文堂）ISBN：978-4-261-01856-1 必要に応じて、ハンドアウトを配布する。		
【参考図書・参考資料等】 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（1996年6月／同学社）		
【授業外学習】 宿題として、教科書内の練習問題を課す。		
【成績評価の方法】 積極的な授業参加、予習・復習など授業への取り組みを最大限に評価したい。期末テスト（40%）、授業態度・課題への取り組み（60%）で総合的に評価する。		

科目名 留学対策講座（中国語） 4		担当者 馬 小 菲
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 中国語に関する応用力・実践力を身につける。		
【授業の概要】 「留学対策講座中国語」1～4の授業は連動して行う。なお、毎年6月に行われる「中国語検定試験 準四級」あるいは「HSK中国語検定 1級」の合格を目指す。 本授業では会話練習を中心とする。具体的には、ペア練習やロールプレイなどの形を取る。 (受講生の到達度に応じて、授業計画を変更することがある。)		
【到達目標】 既習の文法事項・基本文を活かし、日常会話をこなすための応用力を養う。コミュニケーションに必要な表現力を身につける。言語の多様性を認識し、異文化理解を深めることを目指す。		
【授業計画】 1. ガイダンス（中国語の仕組み、学習の仕方などについて） 発音（軽声・声調変化・ピンイン表記・小テスト） 2. 第一課 你好（「是」述語文・否定の「不」・疑問文・連体修飾） 3. 第二課 我姓高木，叫高木麻美（形容詞述語文・動詞「叫」「姓」・疑問詞・副詞「也」など） 4. 第三課 这是我的汉语课本（動詞述語文・指示代名詞・接続詞など） 第四課 我家有三口人（存在を表す「有」・量詞など） 5. 第五課 我的生日是十月二号（年月日や曜日の言い方など） 第六課 现在十二点了（時間を表す表現・「了」の文法など） 6. 第七課 我家在东京（介詞・場所を表す代名詞など） 第八課 我喜欢吃日本菜（経験を表す「过」・離合動詞など） 7. 第九課 北京的冬天比东京冷（比較の表現・程度補語など） 8. 第十課 我们想和老师一起去中国（助動詞・動作の回数など） 9. 第十一課 我也想进去看看（方向補語など） 10. 第十二課 我正在做中国菜（動作の進行・結果補語など） 11. 第十三課 这句话我不会翻译（可能を表す助動詞など） 12. 第十四課 请把作业交上来（処置文・方向補語など） 13. 第十五課 往左拐一直走就到（条件・仮定を表す「了」など） 14. 第十六課 快要考试了（様態補語など） 15. まとめ・復習		
【テキスト】 1. 守屋宏則・陳浩・梁月軍『老师好！－王先生との出会い－』（2011年4月／郁文堂）ISBN：978-4-261-01856-1 必要に応じて、ハンドアウトを配布する。		
【参考図書・参考資料等】 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（1996年6月／同学社）		
【授業外学習】 宿題として、教科書内の練習問題を課す。		
【成績評価の方法】 積極的な授業参加、予習・復習など授業への取り組みを最大限に評価したい。期末テスト（40%）、授業態度・課題への取り組み（60%）で総合的に評価する。		

科目名 ハングル文法入門 1 a		担当者 河 智 弘
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 韓国語の基礎を習得するために必要な文字，発音を学んだ上で，簡単な会話文をルールプレイなどで実践する。		
【授業の概要】 韓国語の文字，発音を丁寧に習得する。その上，簡単な自己紹介，日常会話ができるように練習を行う。韓国の文化や現代韓国事情にも触れて，総合的な側面で韓国語を学んでいく。		
【到達目標】 文字，発音をマスターして，実際に使える日常会話が駆使できることを目標とする。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 文字（母音） 3. 文字（子音） 4. 文字（パッチム）と発音練習 5. 自己紹介 6. これは何ですか 7. 私の家族 8. 韓国映画の言葉 9. 何をしますか 10. どこですか 11. 学校はどこにありますか 12. 昨日何をしましたか 13. これ、いくらですか 14. 友達とカフェに行きます 15. まとめ		
【テキスト】 別途販売		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で提示。		
【授業外学習】 テキストの練習問題を予習すること。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み（30%），小テスト（30%），期末試験（40%）で総合的に評価する。		

科目名 ハングル文法入門 1 b・d・e		担当者 金 河
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム
【授業のテーマ】 韓国語の文字と発音をマスターし、実際に使える日常会話が駆使できることを目標とする。		
【授業の概要】 韓国語の文字と発音をしっかり習得する。その上、基礎的な文法を学習し、日常会話で活用できるよう学んでいく。		
【到達目標】 韓国語の文字と発音をマスターする。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 文字：基本母音 1 3. 文字：基本母音 2 4. 文字：基本母音 3 5. 文字：基本子音 1 6. 文字：基本子音 2 7. 文字：激音・濃音 8. 文字：合成母音 9. 文字：終声子音 10. 総合練習 11. 挨拶と自己紹介 12. 簡単フレーズ 1 ここはどこですか 13. 簡単フレーズ 2 いくらですか 14. 総まとめ 15. 韓国映画観賞		
【テキスト】 『テキスト 韓国語』 大学教育出版 ISBN-13: 978-4864293310		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 毎回授業の最初に前回の新出単語を書いてもらうので、復習をしておくこと		
【成績評価の方法】 定期試験で評価する		

科目名 ハングル文法入門 1 c		担当者 河 智 弘
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 韓国語の基礎を習得するために必要な文字，発音を学んだ上で，簡単な会話文をルールプレイなどで実践する。		
【授業の概要】 韓国語の文字，発音を丁寧に習得する。その上，簡単な自己紹介，日常会話ができるように練習を行う。韓国の文化や現代韓国事情にも触れて，総合的な側面で韓国語を学んでいく。		
【到達目標】 文字，発音をマスターして，実際に使える日常会話が駆使できることを目標とする。		
【授業計画】 1. ハングルとは，文字（母音） 2. 文字（母音と子音） 3. 文字（パッチム）と発音練習 4. これは何ですか 5. 誰ですか 6. 何をしますか 7. 社長はいらっしゃいますか 8. 韓国映画鑑賞 9. どこに行かれますか 10. 何番ですか 11. 銀行はどこにありますか 12. 週末は何をしましたか 13. 市場はどうですか 14. いくらですか 15. まとめ		
【テキスト】 別途販売		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で提示。		
【授業外学習】 テキストの練習問題を予習すること。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み（30%），小テスト（30%），期末試験（40%）で総合的に評価する。		

科目名 ハングル文法入門2 a		担当者 河 智 弘
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 前期で学んだ韓国語の基礎を生かして、会話、慣用的な表現などを用いることができるようにする。		
【授業の概要】 前期で学んだ韓国語の基礎の文字、発音を生かして場面の中で適当な会話ができるように繰り返し練習を行う。基本文型と文法を会話文の中で修得し、日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。		
【到達目標】 読み、書き、聞き取り、話すことをバランスよく習得していくことを目標とする。		
【授業計画】 1. 前期の復習 2. 夏休みにソウルに行ってきました 3. どんな運動が好きですか 4. 週末は何をしますか 5. すみません。お水ください 6. 韓国の映画鑑賞 7. トイレはどこにありますか 8. 誕生日プレゼントでもらいました 9. アルバイトは何時までですか 10. ここで待ちます 11. 写真を撮ってもいいですか 12. 韓国語はどうですか 13. 韓国旅行はどうでしたか 14. 韓国事情 15. まとめ		
【テキスト】 別途販売		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で提示。		
【授業外学習】 テキストの練習問題を予習すること。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み（30%）、小テスト（30%）、期末試験（40%）で総合的に評価する。		

科目名 ハングル文法入門2 b・e		担当者 金 河
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 前期学んだ内容の継続として日常会話に必要な文法項目をしっかりと習得する。		
[授業の概要] 基本文型と文法を習得し、コミュニケーションで応用できるようにする。		
[到達目標] 学習した文法を実際の会話で応用できるようにする。		
[授業計画] 1. 前期の復習 2. ～は～です 文法項目 3. ～は～です 練習問題・会話 4. ～ではありません 文法項目 5. ～ではありません練習問題・会話 6. ～何ですか 文法項目 7. ～何ですか 練習問題・会話 8. 総合練習 9. ～ありますか 文法項目 10. ～ありますか 練習問題・会話 11. ～をします 文法項目 12. ～をします 練習問題・会話 13. 総合練習 14. 韓国映画鑑賞 15. 総まとめ		
[テキスト] 『テキスト 韓国語』 大学教育出版 ISBN-13 : 978-4864293310		
[参考図書・参考資料等]		
[授業外学習] 毎回授業の最初に前回の新出単語を書いてもらうので、復習をしておくこと		
[成績評価の方法] 定期試験で評価する		

科目名 ハングル講読入門 1 a・b・e		担当者 金 河
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 韓国語の文字と発音を覚えた上で、読み・書きができることを第一目標とする。 韓国語の文章を正しく読むことを第二目標とする。		
【授業の概要】 韓国語の文字をマスターし、語彙を増やしていくことで、韓国旅行及び韓国人とのコミュニケーションで必要な言語能力を身に付ける。		
【到達目標】 韓国語の文字と発音を覚え、読み・書きができるようにする。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 文字：基本母音 1 3. 文字：基本母音 2 4. 文字：基本母音 3 5. 文字：基本子音 1 6. 文字：基本子音 2 7. 文字：激音・濃音 8. 文字：合成母音 9. 文字：終声子音 10. 挨拶・自己紹介 11. 韓国語の文章の講読 1 12. 韓国語の文章の講読 2 13. 韓国語の文章の講読 3 14. 総まとめ 15. 韓国映画観賞		
【テキスト】 『テキスト 韓国語』 大学教育出版 ISBN-13: 978-4864293310		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 毎回授業の最初に前回の基本フレーズを発音してもらうので、復習をしておくこと		
【成績評価の方法】 定期試験で評価する。		

科目名 ハングル講読入門2 a・b・d・e		担当者 金 河
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 前期学んだ内容を元に読み、書き、話すことをバランスよく習得していく。		
[授業の概要] 基本文型と文法を会話文の中で習得し、文章が正しく解読できるようにする。		
[到達目標] 韓国語の文章を正確に読んで、理解できるようにする。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 1 2. ～は～です 例文理解 3. ～は～です 練習問題・会話 4. ～ではありません 例文理解 5. ～ではありません 練習問題・会話 6. これは何ですか 例文理解 7. これは何ですか 練習問題・会話 8. 総合練習 9. ～あります 例文理解 10. ～あります 練習問題・会話 11. ～をします 例文理解 12. ～をします 練習問題・会話 13. 総合練習 14. 韓国映画鑑賞 15. 総まとめ 		
[テキスト] 『テキスト 韓国語』 大学教育出版 ISBN-13: 978-4864293310		
[参考図書・参考資料等]		
[授業外学習] 毎回授業の最初に前回の新出単語を書いてもらうので、復習をしておくこと		
[成績評価の方法] 定期試験で評価		

科目名 ハングル講読入門2 c		担当者 河 智 弘
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 前期で学んだ韓国語の基礎を生かして、会話、慣用的な表現などを用いることができるようにする。		
【授業の概要】 前期で学んだ韓国語の基礎の文字、発音を生かして場面の中で適当な会話ができるように繰り返し練習を行う。基本文型と文法を会話文の中で習得し、日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。		
【到達目標】 読み、書き、聞き取り、話すことをバランスよく習得していくことを目標とする。		
【授業計画】 1. 前期の復習 2. 何時に終わりますか 3. いつから働きましたか 4. 映画館の前で会いましょう 5. 料理をしません 6. どんな運動が好きですか 7. 旅行は楽しかったですか 8. 韓国事情（文化） 9. 明日は何をしましょうか 10. 就職するつもりです 11. 今、行っています 12. 私は行けません 13. 誕生日にもらいました 14. 地下鉄で来ます 15. まとめ		
【テキスト】 別途販売		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で提示。		
【授業外学習】 テキストの練習問題を予習すること。		
【成績評価の方法】 授業への取り組み（30%）、小テスト（30%）、期末試験（40%）で総合的に評価する。		

科目名 日本語 1 (留学生・帰国子女のみ)		担当者 松 田 文 子
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 話す日本語		
[授業の概要] 「日本語 1」「日本語 2」においては、タスク型の授業を実施し、実際にタスクを行いながら、聞いた人が不快に思ったり誤解したりしない日本語が話せるようにする。その際、待遇表現（敬語）の使い方にも着目する。		
[到達目標] 留学生が日本語を話すとき、中上級の日本語力になっても不自然な日本語表現のために内容が読み手に十分伝わらない場合が多い。 そこで、中上級の日本語力をもつ留学生がなるべく効率よく、なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかをタスクを通してともに考え、日本語の話す力を高めることを目標とする。 (日本語中級後半、上級レベルの留学生対象)		
[授業計画] 1. 待遇表現と敬語① 2. 待遇表現と敬語② 3. 待遇表現の様々な使い方①：敬語表現 4. 待遇表現の様々な使い方②：あらたまった表現 5. 待遇表現の様々な使い方③：授受表現 6. 待遇表現の様々な使い方④：丁寧体と普通体の使い分け 7. タスク (1): 「問い合わせをする」① 8. タスク (1): 「問い合わせをする」② 9. タスク (2): 「お店で接客をする」① 10. タスク (2): 「お店で接客をする」② 11. タスク (3): 「お願いをする」① 12. タスク (3): 「お願いをする」② 13. タスク (4): 「お店やサークルの宣伝をする」① 14. タスク (4): 「お店やサークルの宣伝をする」② 15. 総合的課題		
[テキスト] テキストを購入する必要はありません。		
[参考図書・参考資料等] タスクの作成 (HW)		
[授業外学習] 授業中に適宜、参考資料等を配付する。		
[成績評価の方法] 受講態度20%，課題への取り組み30%，期末試験50%等により総合的に評価する。		

科目名 日本語 2 (留学生・帰国子女のみ)		担当者 松 田 文 子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 話す日本語		
[授業の概要] 「日本語 1」(前期), 「日本語 2」(後期) においてはタスク型の授業を展開し, 実際にタスクを行いながら, 聞いた人が不快に思ったり誤解したりしない日本語が話せるようにする。		
[到達目標] 留学生が日本語を話すとき, 中上級の日本語力になっても不自然な日本語表現のために内容が読み手に十分伝わらない場合が多い。 そこで, 中上級の日本語力をもつ留学生がなるべく効率よく, なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかをタスクを通してともに考え, 日本語の話す力を高めることを目標とする。 (日本語中級後半, 上級レベルの留学生対象)		
[授業計画] 1. タスク (5): 「誘う, 断る, 謝る」① 2. タスク (5): 「誘う, 断る, 謝る」② 3. タスク (6): 「道や交通の案内をする」① 4. タスク (6): 「道や交通の案内をする」② 5. タスク (7): 「インタビューをする」① 6. タスク (7): 「インタビューをする」② 7. タスク (8): 「プレゼンテーションをする」① 8. タスク (8): 「プレゼンテーションをする」② 9. タスク (8): 「プレゼンテーションをする」③ 10. タスク (8): 「プレゼンテーションをする」④ 11. タスク (9): 「研究の発表をする」① 12. タスク (9): 「研究の発表をする」② 13. タスク (9): 「研究の発表をする」③ 14. タスク (9): 「研究の発表をする」④ 15. 総合的課題		
[テキスト] テキストを購入する必要はありません。		
[参考図書・参考資料等] タスクの作成 [HW]		
[授業外学習] 授業中に適宜, 参考資料等を配付する。		
[成績評価の方法] 受講態度20%, 課題への取り組み30%, 期末試験50%等により総合的に評価する。		

科目名 日本語3（留学生・帰国子女のみ）		担当者 松田文子
開講期 前期	単位 1単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 書く日本語		
[授業の概要] 「日本語3」（前期）、「日本語4」（後期）においては、大学生活において必須のレポートの書き方を学習し、客観的な文章が書けるようにトレーニングする。		
[到達目標] 留学生から話したり作文を書いたりすることは困らなくなってもレポートなどを書くことは難しいという声を耳にする。それは、学術的文章は作文などと違って、論理展開の明確さはもちろんのこと、人の文章の引用か自分の文章かの区別などを明確しなければならないなど、さまざまな作法があるからである。 そこで、この授業ではレポートを書く際の留意点を学習し、具体的なタスクを通して、学問の場での日本語の書く力を高めることを目標とする。 （日本語中級後半、上級レベルの留学生対象）		
[授業計画] 1. レポートや論文と普通の作文の言葉づかいの違いやレポートや論文を書くためのルール① 2. レポートや論文でよく使われる文の形 3. レポートや論文でよく使われる語と表現 4. 引用の仕方 5. まとめの練習（タスク） 6. 論文とは？：書くときに気を付けること 7. レポート・論文で用いる3種類の文：事実を述べる・意見を述べる・行動を述べる 8. 論文の構成とは？：序論・本論・結び 9. 論文のモデル 10. 序論：序論の役割 11. ①背景説明の書き方：事物の説明、先行研究の紹介 12. ②先行研究の概要の紹介 13. ③先行研究の部分的紹介 14. ④問題提起の仕方 15. ⑤方向付け（問題解決の方法の書き方）		
[テキスト] テキストを購入する必要はありません。		
[参考図書・参考資料等] 授業中に提示する宿題（タスク）		
[授業外学習] 授業中に適宜、配布する。		
[成績評価の方法] 受講態度20％，課題への取り組み30％，期末試験50％等により総合的に評価する。		

科目名 日本語 4 (留学生・帰国子女のみ)		担当者 松 田 文 子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 書く日本語		
[授業の概要] 「日本語3」(前期), 「日本語4」(後期) においては, 大学生活において必須のレポートの書き方を学習し, 客観的な文章が書けるようにトレーニングする。		
[到達目標] 留学生から話したり作文を書いたりすることは困らなくなってもレポートなどを書くことは難しいという声を耳にする。それは, 学術的文章は作文などと違って, 論理展開の明確さはもちろんのこと, 人の文章の引用か自分の文章かの区別などを明確しなければならないなど, さまざまな作法があるからである。 そこで, この授業ではレポートを書く際の留意点を学習し, 具体的なタスクを通して, 学問の場での日本語の書く力を高めることを目標とする。 (日本語中級後半, 上級レベルの留学生対象)		
[授業計画] 1. 前期の復習 (序論の書き方) 2. 書いてみよう (タスク) ① 3. 書いてみよう (タスク) ② 4. 本論: 本論の役割とは 5. 論拠提示の仕方 6. ①データ提示の仕方: 事柄データの提示 7. ②データ提示の仕方: 数量データの提示 8. ③データ提示の仕方: 文章データの提示 9. 書いてみよう (タスク) ① 10. 書いてみよう (タスク) ② 11. 意見提示の仕方: データ解釈 12. 考察 13. やってみよう (タスク) ① 14. やってみよう (タスク) ② 15. 結論提示		
[テキスト] 適宜, プリントを配布する。		
[参考図書・参考資料等] 授業中に提示する宿題 (タスク)		
[授業外学習] 授業中に適宜, 配布する。		
[成績評価の方法] 受講態度20%, 課題への取り組み30%, 期末試験50%等により総合的に評価する。		

専門教育科目

経営学科

科目名 データサイエンス入門		担当者 林 俊 克
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 現代のビジネス社会に生きる上で必須となったデータサイエンスについての基礎的知識を身につける。		
[授業の概要] 統計データやグラフの読み方と作成方法、相関などの基礎的な統計概念と計算方法、データを用いて全体の性質を推定する推測統計の基礎的な概念と計算方法、質的データの読み方と基本的なまとめ方等、現代社会で必要となるデータサイエンスについての基礎的知識を習得する。		
[到達目標] 度数分布、平均、分散、標準偏差、クロス集計、相関、確率、確率分布、推定、検定、分散分析等の基礎的な統計手法について理解し、必要な場面で必要な手法を活用できるようになる。		
[授業計画] 1. オリエンテーション（データサイエンスとは、データサイエンスで何ができるのか）※実習あり 2. データの見方を身につける（1）（データの種類、収集の方法）※実習あり 3. データの見方を身につける（2）（データの収集と読み方）※実習あり 4. データを整理・要約する（1）（グラフ化、度数分布、平均）※実習あり 5. データを整理・要約する（2）（分散、標準偏差）※実習あり 6. データから宝を掘り出す（1）（クロス集計の考え方）※実習あり 7. データから宝を掘り出す（2）（クロス集計の実際）※実習あり 8. データから宝を掘り出す（3）（因果と相関の考え方）※実習あり 9. データから宝を掘り出す（4）（因果分析と相関分析の実際）※実習あり 10. 統計の基礎を理解する（確率と確率分布、2項分布、ポアソン分布、正規分布、指数分布）※実習あり 11. 一を聞いて十を知る（母集団と標本抽出、推定の考え方、区間推定、信頼区間）※実習あり 12. 限られたデータで判定を下す（検定の考え方、t検定、F検定、カイ二乗検定）※実習あり 13. 原因を探る、これから起こることを予測する（分散分析、回帰分析）※実習あり 14. データサイエンスの現場（多変量解析、モデリング、シミュレーション）※統計解析ソフトを用いた講師によるデモンストレーションを中心とする 15. まとめ※実習あり		
[テキスト] 担当教員が都度レジュメを配布する。（原則WEBCLASSにて配布）		
[参考図書・参考資料等] JMPによる統計解析入門 田久 浩志, 小島 隆矢, 林 俊克 (2006/12) Excelで学ぶテキストマイニング入門 林 俊克 (2002/10) JMPによる多変量データ活用術 廣野 元久, 林 俊克 (2008/9) 魅力工学の実践—ヒット商品を生み出すアプローチ 朝野 熙彦 (2001/8)		
[授業外学習] 毎回の授業・実習に関連した簡単な課題（所要時間30分以内を想定）		
[成績評価の方法] 各回の授業態度と課題提出（原則WEBCLASSから回答）：60% 期末試験：40%		

科目名 会計学入門		担当者 鈴木 新
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 本講義は、はじめて会計学について学ぶ学生を対象として、会計の全体像を理解するとともに、会計の面白さを知ってもらうことをテーマとしています。		
【授業の概要】 授業は、原則、テキストの内容に沿いながら解説を行い、理解を深めてもらいます。		
【到達目標】 会計全般の基礎的な知識の修得と基本的な考え方を理解することを到達目標としています。		
【授業計画】 1. 会計情報の役割 2. 会計制度と社会 3. 会計の仕組み 4. 貸借対照表 5. 在庫の会計 6. 生産設備の会計 7. 金融資産の会計 8. まとめと中間試験 9. 負債と資本の会計 10. 損益計算書 11. 営業活動の会計 12. 儲かる仕組みの分析 13. 利益構造の分析 14. 経営管理と会計 15. 会計を活用する仕事		
【テキスト】 谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社。 ISBN: 978-502-29980-3		
【参考図書・参考資料等】 なし		
【授業外学習】 本科目の単位を取得するためには、中間試験および期末試験で得点をあげることが必要です。そのためには、授業でとりあげたことについて復習することが重要です。		
【成績評価の方法】 中間試験（50％）、期末試験（50％）		

科目名 マーケティング入門		担当者 寺 前 俊 孝
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 マーケティング活動の基本的な考え方を理解する。		
【授業の概要】 本講義では、企業が事業を営む上で欠かすことができない、マーケティングについてマーケティング・ミックス、セグメンテーションやターゲティングおよびポジショニングなどの基礎を中心に企業の事例を踏まえながら学ぶことを目的とする。例えば、企業が行うプロモーション活動ひとつをとって見ても、そこには、自社の業界における立ち位置であったり、事業の目的であったり、あるいは事前にターゲットとする顧客層の決定や、プロモーション活動を通して何を顧客に伝えたいのか、など、そこに至るまでには様々な意志決定が行われる。本講義を通して、これらの点について学び、マーケティング活動の意義について理解する。		
【到達目標】 マーケティングの基礎について理解し、マーケティング活動にかかわる取り組み、あるいは問題や課題について講義で学んだことを踏まえて自分の視点で答えを導き出せるようにすること。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. マーケティング・ミックス (4P) 1 3. マーケティング・ミックス (4P) 2 4. マーケティング・ミックス (4P) 3 5. ターゲット市場の選定 6. 製品ライフサイクル 7. 市場地位別のマーケティング戦略1 8. 市場地位別のマーケティング戦略2 9. 市場地位別のマーケティング戦略3 10. 全社戦略, PPM 11. 事業とドメインの定義, 業界の構造分析 12. 関係性マーケティング 13. ITを活用したマーケティング 14. プレミアム商品のマーケティング1 15. プレミアム商品のマーケティング2 		
【テキスト】 沼上幹『新版 わかりやすいマーケティング戦略』, 有斐閣アルマ, 2015年。		
【参考図書・参考資料等】 恩蔵直人『マーケティング』, 日経文庫, 2014年。 大崎孝徳『高く売る戦略』, 同文館出版, 2014年。 大崎孝徳『すごい差別化戦略』, 日本実業出版社, 2016年。 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『第4版 マーケティング戦略』, 有斐閣アルマ, 2015年。 石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』, ちくま新書, 2010年。		
【授業外学習】 基本的に指定したテキストに沿って講義を進めるため、講義に臨むのにあたって、事前にテキストを読んでおくこと。日頃から、新聞やインターネットのニュースサイトなどに目を向けること。		
【成績評価の方法】 定期試験70%, 小レポート30%。 詳細については、初回の講義で説明する。		

科目名 経営学入門		担当者 加賀美 太記
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 経営学が対象とするビジネスの世界は、学生にとってなじみの薄い世界である。しかし、現実のイメージを持たずに理論を学ぶことは難しい。そのため、本講義は経営学の初学者を対象にして、多くの事例を通じてビジネスの世界についてのイメージを豊富化するとともに、専門科目への導入として経営学の理論の基礎を幅広く修得することを目的とする。		
【授業の概要】 本講義では、毎回、特定の産業を取り上げて、その産業の概要と代表的な企業、それらの企業に見られる特徴的な経営行動を概観しながら、関連する経営学の理論体系の初歩を幅広く学んでいく。		
【到達目標】 ・経営学の理論体系の基礎を身につける。 ・産業や企業の活動を分析する考え方の枠組みを身につける。 ・具体的なビジネスの世界のイメージを豊富化する。		
【授業計画】 1. オリエンテーション——経営学を学ぶ意義 2. アパレル産業と「企業とは何か」 3. 自動車産業と経営管理 4. 家電産業と経営戦略 5. スポーツ産業と事業戦略 6. コンテンツ産業とマーケティング 7. 金融業とその役割 8. 中間試験 9. 中間試験の解説および運輸業と経営組織 10. 流通業（小売・卸売）とその役割 11. レジャー・旅行産業と企業文化 12. ICT産業とイノベーション 13. 食品産業・農業とグローバル化 14. 岡山の代表的な産業・企業と地域経済・地域経営 15. 講義のまとめ		
【テキスト】 なし。		
【参考図書・参考資料等】 参考図書・参考資料等：毎回、取り上げた内容に関連する文献・資料をその都度紹介する。		
【授業外学習】 毎回、講義の内容に関係した小レポートを出題するので、次回の講義までに提出すること（15～30分程度のもの）。		
【成績評価の方法】 定期試験：60%、各回の小レポート：30%、中間試験：10% で評価する。		

科目名 マーケティングリサーチ入門		担当者 野 本 明 成
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 われわれが社会の中で様々な活動を行うにあたり、正しい社会認識を持つ必要があり、そのために社会調査の基礎を学ぶとともに、特にマーケティング・リサーチに関わる多様な問題を解決する方向を理解する。		
【授業の概要】 社会調査の基礎的な知識を身につけ、マーケティング・リサーチ等、多様な事例を通して調査の設計から、データの収集、分析についての過程を理解する。		
【到達目標】 社会調査の意味を理解するとともに、正しい調査方法を理解する。 調査の設計、データ収集、分析についての過程を理解する。 本科目は、2年次履修科目の「サービス・マーケティング」の前提とします。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会調査の目的と意義 3. 社会調査史 4. 調査倫理 5. 調査課題の整理と調査の設計 6. 調査票調査の方法 7. 量的調査の方法 8. 質的調査の方法 9. データの分析 10. 調査事例 (1) 国勢調査と官庁統計 11. 調査事例 (2) 世論調査 12. 調査事例 (3) 広告効果測定 13. 市場調査実習 (調査設計とデータ収集) 14. 市場調査実習 (データ分析) 15. まとめ 		
【テキスト】 社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応 篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳編 ISBN：978-4-335-55133-8		
【参考図書・参考資料等】 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著、新・社会調査へのアプローチ、ミネルヴァ書房、978-4623066544		
【授業外学習】 小テスト等を複数回実施するので、復習をしておくこと。 レポート複数回提出してもらいます。		
【成績評価の方法】 定期試験 (40%)、レポート (40%)、小テスト (20%)		

科目名 経済学入門		担当者 大崎泰正
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 経済学の基礎的な知識と考え方を、日本経済や地域経済の現実の動きと合わせて学習する。		
【授業の概要】 毎回、日本経済・世界経済の最新のトピックや身近な地域経済の話題等を取り上げる。これらの話題と関連させながら、教科書による講義を行うことにより、現実の経済の動きへの関心と基礎的な経済学の理解を深める。適宜、小テストを実施し、授業内容にフィードバックさせる。		
【到達目標】 ①市場の役割や経済循環の基本を理解し、経済学的な考え方ができるようになる。 ②新聞の経済欄や経済雑誌に関心を持って読み、その内容を大筋で理解できるようになる。		
【授業計画】 1. 導入～デフレ下の日本経済と戦後の歩み、その中での岡山県経済の展開 2. 経済学の基本的な考え方 3. 分業と交易（貿易）による利益（比較優位の原理） 4. <ミクロ経済学>市場における需要と供給 5. 需要と供給の相互作用 6. 市場の効率性と政府の政策 7. 市場均衡と消費者・生産者の余剰 8. 余剰と市場の効率性 9. <マクロ経済学>国民経済計算（GDP統計）と「三面等価」 10. 生産と成長 11. 貯蓄・投資バランスと金融システム 12. 総需要と総供給，古典派とケインズ派 13. 国際経済と為替レート 14. まとめ 15. <地域経済学>地域経済の構造と自立化への課題		
【テキスト】 N.グレゴリー・マンキュー「マンキュー入門経済学」東洋経済新報社 ISBN-13: 978-4-492-31386-2		
【参考図書・参考資料等】 中谷 武・中村 保「1からの経済学」978-4502680809		
【授業外学習】 全国、世界及び地域の経済に関する動きに関心をもち、新聞やテレビ報道等を通じて情報入手に務めること。		
【成績評価の方法】 定期試験（60%）、及び講義ないで実施する小テスト・講義への取組姿勢（40%）で評価する。		

科目名 社会統計学		担当者 大 倉 健
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
<p>【授業のテーマ】 この講義の目的は、数字を使って物事を分析し、それをわかりやすく他人に伝える初歩的なテクニックについて学ぶことである。</p>		
<p>【授業の概要】 文章表現、グラフや表、発表の構成、適切な時間や分量等の定め方といった実用的な問題について、受講者自身がWord・Excel・Power Pointを使って学んでいく。</p>		
<p>【到達目標】 Word・Excel・Power Pointを使って報告を作れるようになること。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 報告に必要な要素 2. ことばによる表現 (1) 3. ことばによる表現 (2) 4. Excelの使い方 (1)：入力、計算 5. Excelの使い方 (2)：表の描き方 6. Excelの使い方 (3)：グラフの種類とその描き方 その1 7. Excelの使い方 (4)：グラフの種類とその描き方 その2 8. Excelの使い方 (5)：グラフの種類とその描き方 その3 9. 数字を見る際に気をつけること (1) 10. 数字を見る際に気をつけること (2) 11. 公表データを使って調べる (1) 12. 公表データを使って調べる (2) 13. プレゼンテーション (1)：Power Pointの作成 14. プレゼンテーション (2)：発表時の注意点 15. まとめ 		
<p>【テキスト】 適宜配布する。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 ・複数回のレポート課題がある。</p>		
<p>【授業外学習】 ・ザイゼル『数字で語る：社会統計学入門』新曜社、2005年。</p>		
<p>【成績評価の方法】 ・レポート100%</p>		

科目名 思考・発想法入門		担当者 三 枝 省 三
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 多様でグローバルな現代社会においては次々と問題が発生している。これに対して、より効果のある解決策を提案し、多くの人から賛同をえて実行する力を持つておく必要がある。それには本質的な視点での解決シナリオと、共感を得る提案が必須である。これはWin-Winとなる基本的な条件である。そして柔軟性のある発想で創造性に溢れた解決策の策定が必須で、それらの基礎力を身に着ける。		
【授業の概要】 3つのブロックから学習ができるよう工夫されている。(1) 自ら気付いた課題に対する創造的発想法と総合的な解決策を考えるための基本的な態度と方法論をグループ演習で養う基礎編、(2) それらを活用してどう解決して行くかを鍛える論理編、(3) それらは単独ではできてもより実際の場では総合的な課題への対応力が問われる。それらを磨く応用編。講義と多くのグループ討議から研ぎ澄まされた感覚を身に着ける		
【到達目標】 情報収集をし、課題発見から解決までの思考・発想法を修得するのが大きな目標である。問題を①情報分析から課題化し、②仮説/ゼロベース思考で解きほぐし、③構造化・論理思考とクリティカルシンキングで骨格を作り、④課題解決へ創造的発想法を駆使し、⑤そして人に伝える、方法を学ぶ。これらのプロセス理解に関してグループ討議の中から修得し、議論と演習から仮想体験をすることで、より実践力を得ることを目標とする。またアイデアマラソンを実行することで、創造力と継続力を鍛える。		
【授業計画】 1. ガイダンス：問題解決の必要性、思考の柔軟性 2. 柔軟な発想法とは、その基本的なルール作り 「昼休みに創造性の試験を実施する」 毎日発想したものを記述するアイデアマラソンの開始 3. 柔軟な発想法とは、その基本的なルール作り。トップダウン的発想（MM法） 4. 現場の気づきを促しまとめる発想法（KJ法）など 5. チームで未来の商品提案活動（競技方式でプレゼンをし、さらに最優秀チームを選ぶ） 6. 問題から課題の抽出、課題発見能力 7. 仮説思考（ゼロベース思考）とその演習 8. 課題の構造化と、ロジカル思考とクリティカル思考 9. プレゼンの壺、課題解決グループ討議（パワーポイントppt準備） 10. 課題解決プレゼンテーション 11. 総合実践課題の抽出、ディベートのツボ 12. 討議課題のディベートの準備 13. グループ対抗ディベート（課題1） 14. グループ対抗ディベート（課題2） 15. 総合討論とまとめ 「昼休みに創造性の試験を実施する」最初と最後で自己成長を確認する。		
【テキスト】 必要な資料は印刷して配布する。		
【参考図書・参考資料等】 1) 齋藤嘉則, 問題解決プロフェッショナル「思考と技術」, ダイアモンド社, 1997----全般的にバランスのいい推薦書。 2) 安宅和人, 『イシューからはじめよ 知的生産の「シンプルな本質」』, 英治出版, 2010----課題抽出にはもってこい, 推薦! 3) 三谷宏治, いまは見えないものを見つけ出す発想の視点力, 日本実業出版, 2009----分かり易く独自の方法論を提示している 4) 星野匡, 発想法入門<第3版>, 日経文庫, 2005 ---- 基礎学習向け		
【授業外学習】 事前に課題を持ち寄ることで双方向授業をし、効果的な講義を進める。 e-Learningシステムは常にチェックのこと。		
【成績評価の方法】 講義の積極的参加（30%）+課題（提出物、テストなど）（70%）の総合評価		

科目名 初級簿記		担当者 真 田 正 次
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
<p>【授業のテーマ】 本講義は、複式簿記の基本的なメカニズムについて学習することをテーマとしています。期待される学習効果として、①簿記・会計の基礎を理解することで企業経営全般についての基礎知識を習得すること、②本講義の内容を理解することをきっかけにして、各種検定試験の合格につなげ、さらには将来の職業選択に役立つこと、が挙げられます。</p>		
<p>【授業の概要】 講義の前半部分で理論的な説明を行い、後半部分で練習問題を解いてもらいます。また、適宜、小テストを行います。</p>		
<p>【到達目標】 日本商工会議所主催簿記検定商業簿記3級に合格できるだけの力をつけることを到達目標とします。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスー簿記の意義としくみ 2. 仕訳と転記 3. 仕訳帳と元帳 4. 決算 5. 現金と預金 6. 繰越商品・仕入・売上 7. 売掛金と買掛金 8. その他の債権と債務 9. 受取手形と支払手形 10. 有価証券 11. 固定資産 12. 貸倒損失と貸倒引当金 13. 資本金と引出金 14. 収益と費用 15. 伝票 		
<p>【テキスト】 渡部・片山・北村編著『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記』中央経済社（最新版）</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 渡部・片山・北村編著『新検定講義 簿記ワークブック 3級商業簿記』中央経済社（最新版）</p>		
<p>【授業外学習】 毎回、予習と復習を行うことが簿記修得の第一歩となります。</p>		
<p>【成績評価の方法】 定期試験50％，授業中の小テスト50％</p>		

科目名 中級簿記		担当者 鈴木 新
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
<p>【授業のテーマ】 簿記は、企業が行う日々の取引を貨幣額で測定・計算し、記録・整理する技術である。本講義では、授業と問題演習によって商業簿記の原理と技術を学ぶ。</p>		
<p>【授業の概要】 簿記の基礎を修得した学生を対象にして、商業簿記におけるやや発展的な論点を解説するとともに、問題演習の繰り返しによってその技術を身につける。</p>		
<p>【到達目標】 商業簿記の原理を理解し技術を身につける</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記一巡の手続と財務諸表 2. 現金預金と売掛金 3. 手形 4. 有価証券 5. その他の債権・債務 6. 商品売買 7. 固定資産 8. 引当金 9. 収益と費用 10. 株式会社の純資産 11. 税金 12. 決算 13. 本支店会計 14. まとめ 15. 問題演習 		
<p>【テキスト】 渡部裕亘・片山覚編著『検定簿記講義 2級商業簿記 平成30年度版』中央経済社。 ISBN：未定 渡部裕亘・片山覚・北村敬子著『検定簿記ワークブック 2級商業簿記』中央経済社。 ISBN：978-4-502-17761-3</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 なし</p>		
<p>【授業外学習】 本講義の単位を取得するためには、期末試験で得点をあげることが必要である。そのためには、授業外での復習を欠かさず毎回の講義で学習したことをしっかりと積み上げていくことが重要である。</p>		
<p>【成績評価の方法】 期末試験（100％）により評価する</p>		

科目名 英文ビジネスプレゼンテーション入門		担当者 杉 山 慎 策
開講期 前期	単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ・英語で自己紹介ができるようになること。 ・母校である就実大学の説明が英語でできるようになること。 ・故郷岡山の紹介が英語でできるようになること。 ・日本についての紹介が英語でできるようになること。 ・責任ある社会人としてT P Pのような時事問題について英語で自分の意見を発表できるようになること。 ・有名な英語のスピーチを暗唱し優れたスピーチ能力を身に着けること。		
【授業の概要】 ・テーマを与えるのでそのテーマに沿ってパワーポイントで説明用の資料を準備すること。 ・説明用の英文のスクリプトを準備すること。 ・発表時にはできればこのスクリプトを読まないで暗唱して発表すること。 ・発表後全員で英語で議論すること。 ・有名な英語のスピーチを暗唱すること。		
【到達目標】 ・英語で自分自身について説明できるようになること。 ・就実大学、故郷岡山、日本などについて英語で説明できるようになること。 ・時事問題について理解し英語で自分の意見が発表できるようになること。		
【授業計画】 1. コースの目的と概要 2. 自己紹介（日本語） 3. 自己紹介（英語） 4. 岡山（日本語） 5. 岡山（英語） 6. 日本（日本語） 7. 日本（英語） 8. 就実大学（日本語） 9. 就実大学（英語） 10. 北日本大震災（日本語） 11. 北日本大震災（英語） 12. 地球温暖化（日本語） 13. 地球温暖化（英語） 14. TPP（日本語） 15. TPP（英語）		
【テキスト】 ・必要に応じてレジユメを配布する。		
【参考図書・参考資料等】 ・日本経済新聞などの新聞を読むこと。 ・Financial Times や Wall Street Journalなどの英文紙を読むこと。		
【授業外学習】 ・T O E I Cの向上のために英語を毎日勉強すること。 ・NHKのニュースなどを英語で聞くこと。 ・新聞を読むこと。 ・英字紙を読むこと。		
【成績評価の方法】 定期試験（40%）、講義中の発言や講義への参加（20%）、毎回の課題（40%）		

科目名 国際ビジネス入門	担当者 江 向 華	
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 国際ビジネスの基本的な知識や基礎理論を中心に、国際経営の戦略論、国際経営の組織論、グローバル戦略提携や、国際経営と異文化等をテーマに多方面に学習します。		
【授業の概要】 今日、あらゆる企業が何らかの形で海外とのかかわりを持つようになった。海外展開の形も戦略提携や海外企業買収、海外子会社設立など様々である。そのため、多様な側面で国際経営を捉えることにする。前半はより理論的な視点から学習していく。後半はより理解を深めるために事例を多く用いる。		
【到達目標】 この講義では、国際ビジネスの基本的な知識やものの考え方を身につけることで、第1に、他の関連科目を受講するための足がかりを作ること、第2に、新聞や雑誌で言われている様々な国際経済・経営現象を理解できるようにすることを目標とします。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 国際経営環境の変化 3. 多国籍企業とは 4. 国際経営の戦略 5. 現地市場参入の戦略 - 海外生産 - 6. 技術移転と海外研究開発 7. 国際経営マネジメント① 8. 国際経営マネジメント② 9. グローバル戦略提携のマネジメント① 10. グローバル戦略提携のマネジメント② 11. 北米・欧州のなかの日本企業 12. アジアのなかの日本企業 13. 新興国市場と日本企業 14. 国際経営戦略の今後の展開 15. 講義のまとめ 		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 江夏健一・桑名義晴（編著）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス』、同文館出版社（3訂版）、2012年吉原英樹『国際経営』（第3版）、有斐閣アルマ、2011年。 浅川和広『グローバル経営入門』、日本経済新聞社、2003年。		
【授業外学習】 授業中は不定期に小テストを実施するので、復習をしておくこと。		
【成績評価の方法】 授業中の小テスト（20％）と期末試験（80％）。		

科目名 商業学入門		担当者 青山 允 隆
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 商業学の基礎を学ぶことで、日々の買い物で利用する商店からダイナミックな企業間関係を連想することができるようになることを目的としている。講義は商業はなぜ必要なのか、流通システムを分析する視点、流通システムが持つ基本的な機能や流通システムを構成する主要なプレイヤーの特徴等によって構成されている。</p>		
<p>【授業の概要】 本講義では、商業学の基礎について学ぶ。商業学とは、商業者（小売業者：コンビニなど我々一般消費者が買い物に出かける店；卸売業者：一般消費者以外に商品を流通させる業者、など。）に関わる学問の体系で、メーカーが生産した製品が一般消費者の手元に届くまでの間に介在する流通システムについて学ぶことを指している。なぜ商品の流通に商業者が介在する必要があるのか、個々の商業者はどのような論理で活動しているのか、などの問題を取り扱う。</p>		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業者の在り方を理解するための基本的な考え方を身につける ・ 買い物の際に、ある種の商品がどのような流通の仕方をしているのか大まかに想像することができる 		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 商業学の全体像（本講義の対象範囲と受講者アンケート） 3. 流通システムの成り立ちと商業者 4. 流通の分析アプローチ 5. 商流 6. 物流 7. 情報流 8. 流通をシステムとして理解する（前半のまとめ） 9. 小売商業の構造 10. 卸売商業の構造 11. メーカー流通 12. 産業財流通 13. プレーヤー別に見た流通システム（後半のまとめ） 14. 身近な商業者を分析してみよう（いくつかのテーマを用いたディスカッション） 15. 全体のまとめ 		
<p>【テキスト】 指定しない</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 自習をしやすくするために、下記の二つの教科書に則って講義を構成している。①を中心に据え、②を補助的に用いている。 ①高嶋克義『現代商業学 新版』有斐閣アルマ、ISBN:4641124647 ②矢作敏行『現代流通』有斐閣アルマ、ISBN:4641120145</p>		
<p>【授業外学習】 参考図書を読むこと。</p>		
<p>【成績評価の方法】 期末試験による。(100%)</p>		

科目名 農業経済学入門		担当者 谷口憲治
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 食料生産，食料消費，国土・環境保全，地域伝統文化の継承に果たす農業の多面的機能の理解		
【授業の概要】 農業問題がすべての国民生活に関連性を持っており，特にグローバル社会の今日，国際関係でも最重要事項となっている。その理解のために農産物の生産・流通・消費，貿易の特徴と問題点，その対策としての政策を概観する。授業内容を予想し，疑問点を明らかにして理解を深めていく。		
【到達目標】 農業問題が農業生産を行う農業者の経営問題であるとともに食料消費，環境問題，地域伝統文化創造・継承問題，国際問題として国民に密接な関係を持っていることへの理解し，次の経済学・経営学・政策学による解決手法を学ぶ契機とする。		
【授業計画】 1. 今日の農業を取り巻く環境と農業問題の概観 2. 世界の食料需給の現状 3. 日本の食料自給率の状況 4. 食料消費の動向 5. 食品産業の動向 6. 食の安全性と消費者の取組 7. 農業生産構造の現状と動向 8. 農業生産の担い手と農地問題 9. 農業の高付加価値化の取組 10. 主要農畜産物の生産動向 11. 環境保全と農業 12. 農業関連団体の現状 13. 農業の多面的機能 14. 都市と農村の共生 15. グローバル社会における農業の存在価値		
【テキスト】 農林水産省編『平成29年版 食料・農業・農村白書』農林統計協会，ISBN 9784-865-790825		
【参考図書・参考資料等】 谷口憲治著『中山間地域農村経営論』農林統計出版，井口隆史・榊渥俊子編著『地域自給のネットワーク』コモンズ，高橋信正編著『「農」の付加価値を高める六次産業化』筑波書房，谷口憲治編著『農協論の再考』農林統計出版		
【授業外学習】 毎回，その日に行う授業内容に対する各自の考えを予め問い，前回の内容，疑問点を問う小テストをするので，予習・復習しておくこと		
【成績評価の方法】 定期試験（50％），授業中の小テスト（40％），レポート（10％）		

科目名 経営史入門		担当者 大 倉 健
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 経済学や経営学で学ぶ理論は、現実世界で起きる複雑で多様な現象を整理して考える手助けとなるものである。しかし、ほとんどの学生は学んだ理論を抽象的かつ曖昧に記憶するにとどまり、それらを自分で具体的な現象にあてはめて応用することができない。経営史を学ぶことはそうした理論の応用練習に恰好の機会を提供してくれる。		
【授業の概要】 この講義では、産業革命期イギリスの経営史に関する主要なトピックと、その説明に関わる経済学・経営学の理論について解説する。入門講義であり、一年生の受講者が多いことから、わかりやすさを重視する。そのため史実の精確性や網羅性という点では不十分だが、適宜参考文献を紹介する。また、受講生の予備知識を考慮して、通常の経営史の講義では扱われない産業革命以前の経済史についても十分な説明をする。		
【到達目標】 (1) ミクロ経済学やマーケティング、経営戦略論や組織論などの理論を学ぶ際に、常に自分で具体的な現象にあてはめて考える習慣を付けること。(2) 講義で紹介する経営史の基本的な知識を理解すること。		
【授業計画】 1. イントロダクション：経営史とはどのような問題について扱う分野か 2. 19世紀 (1) 工業化と多元的發展 3. 19世紀 (2) 市場経済とビジネスの發展方向 4. 19世紀 (3) 金融とサービス 5. 19世紀 (4) 労働と雇用 6. 19世紀 (5) 大量生産への道 7. 20世紀初頭 (1) アメリカにおける垂直統合の進展 8. 20世紀初頭 (2) 階層組織の發達 9. 20世紀初頭 (3) 経営者企業の登場 10. 20世紀初頭 (4) 日本における大企業の登場 11. 20世紀初頭 (5) 日本企業と財閥 12. 20世紀央 (1) アメリカの大企業体制 13. 20世紀央 (2) 新産業の誕生と研究開発体制 14. 20世紀央 (3) 日本の大企業 15. 20世紀央 (4) 日本のビジネス・システム		
【テキスト】 指定なし。		
【参考図書・参考資料等】 鈴木良隆ほか(著)『ビジネスの歴史』, 有斐閣, ISBN 4-641-12228-8		
【授業外学習】 講義中に指示する。		
【成績評価の方法】 (1) 受講者数が10名程度以下の少数になる場合には、授業時における議論への積極的な参加姿勢(40%)と発言内容の質(60%)によって成績を判断する。(2) 受講者が多数となる場合、課題(100%)によって成績を判断する。		

科目名 経営戦略論入門		担当者 三 浦 紗綾子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ある企業はなぜ業績が良いのか、またある産業ではなぜ多くの企業が赤字に陥っているのか。こうした問いに答えを出すための考え方を提供するのが経営戦略論である。本講義では、経営戦略の基本的な考え方を講義する。		
【授業の概要】 事業戦略（競争戦略）と全社戦略を順次扱っていく。経営戦略の基本的な考え方について身近に理解するため、事例を交えた説明を行う。		
【到達目標】 本講義の目的は、経営戦略論の基本的な考え方を実感を持って理解し、それを用いて現実の経営現象を説明できるようになるようになることである。		
【授業計画】 1. イントロダクション（見取り図の提示） 2. 事業戦略：業界の構造分析（既存企業間の対抗度） 3. 事業戦略：業界の構造分析（新規参入の脅威，売り手・買い手の交渉力） 4. 事業戦略：業界の構造分析（代替品の脅威，補完財の支援と脅威） 5. 事業戦略：リソース・ベースト・ビュー（1） 6. 事業戦略：リソース・ベースト・ビュー（2） 7. 事業戦略：ゲーム理論（1） 8. 事業戦略：ゲーム理論（2） 9. 事業戦略：組織学習 10. 事業戦略：まとめ 11. 全社戦略：PPM 12. 全社戦略：ドメインの定義と事業の定義 13. 全社戦略：多角化 14. 全社戦略：垂直統合 15. 全社戦略：まとめ		
【テキスト】 特に指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 青島矢一・加藤俊彦（2012）『競争戦略論第2版』一橋ビジネスレビューブックス。 網倉久永・新宅純二郎（2011）『経営戦略入門』日本経済新聞出版社。 伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社。 その他は授業中に適宜提示する。		
【授業外学習】 習った概念・理論を用いて身の回りの現象について考えてみること。 不定期に小テストを行うので復習しておくこと。		
【成績評価の方法】 不定期に行う小テスト（40%），期末試験（60%）		

科目名 経営哲学入門		担当者 日 置 弘一郎
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 経営哲学とは経営においてまたは経営に対して問いを立てることである。経営においてまたは経営に対して問いを立てることを通じて、より良い経営が展開される。良い経営を通じて社会とつながることがその企業の強さを生み出す。経営とはどのようなもので、いかにあるべきかを、しつこく考えて事業や組織作りに反映させた経営者・企業を学ぶ。また、経営哲学が持つと理解されている機能と役割も学ぶ。		
【授業の概要】 経済危機やさまざまな企業の不祥事などをきっかけに、経営哲学への関心が高まっている。本講義では経営哲学が現場でどのように実践に移されているかを確認しながら、経営哲学が組織と人に及ぼす影響を明らかにする。		
【到達目標】 本授業の到達目標は次の2つである。 ①どのような経営がされるべきか、良い経営（または仕事）とは何かを自分なりに考え、他者に説明できるようになること。 ②経営哲学が必要とされる背景、経営哲学が担う機能と、組織・人に及ぼす影響を理解し、他者に説明できるようになること。		
【授業計画】 1. 経営哲学とは何か 2. 経営哲学はどう活かされるか 3. 経営哲学と社会環境との関係 4. 判断基準 5. 統合機能・調整機能 6. 制度化 7. プレゼンテーション「良い仕事」 8. 社会の中の個人と経営哲学 9. 現場をめぐる～J&J 10. 現場をめぐる～三井物産 11. 現場をめぐる～京セラ 12. 現場をめぐる～ヤマト運輸 13. 経営哲学を機能させる仕掛け 14. プレゼンテーション「良い経営」 15. 総括～ディスカッション		
【テキスト】 指定しません。		
【参考図書・参考資料等】 経営哲学の授業，経営哲学学会編，（PHP研究所）		
【授業外学習】 今回の授業範囲を予習し，専門用語の意味等を理解すること。		
【成績評価の方法】 試験（40％），授業中の小テスト（30％），授業への参加姿勢とプレゼンテーション（30％）		

科目名 金融概論		担当者 白 井 正 樹
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 金融という機能が、経済の中で果たす役割を理解することがこの講義の基本テーマです。		
【授業の概要】 金融とは何か、貨幣とは何か、銀行の機能は何か、金融市場はどのように動いているのか、中央銀行の金融政策はどのように行われるかなど、金融の基本から説明をします。 こうした説明をもとに、金融が経済の中で如何に重要な機能を果たすのかについて理解することを目指します。 なお、毎回の講義が一本のストーリーでつながっており、講義毎に思考を積み重ねていきます。 このため、欠席すると講義についていきにくくなりますので、毎回の出席を推奨します。		
【到達目標】 ①金融の基本機能を理解できるようになる ②金融市場と金融政策を理解できるようになる ③金融機関の破綻の怖さを理解できるようになる		
【授業計画】 1. 金融論で何を学ぶか 2. 貨幣の役割、貨幣と物価の関係 3. 金利とは何か 4. 金融政策と金融機能を理解するためのマクロ経済学の基本道具 5. 金融政策の課題と日本銀行 6. 金融政策の動き 7. 金融システムと金融仲介機関の役割 8. 銀行以外の金融機関 9. ブルーデンス政策 10. 金融機関破綻への対応策 11. 金融市場に関する規制 12. バブルの生成 —信用創造と民間金融機関の暴走 13. バブルの崩壊 —不良債権とは何か 14. 日本経済の長期低迷の背景① —実体経済の側面から 15. 日本経済の長期低迷の背景② —金融の側面から		
【テキスト】 「ベーシック＋プラス 金融論」家森信善著 中央経済社 2017年 ISBN 978-4-502-18501-4		
【参考図書・参考資料等】 特になし。		
【授業外学習】 特に不要です。		
【成績評価の方法】 期末試験で評価します。 試験内容については、暗記重視型（細かな知識を問う設問）ではなく、思考重視型（深く考える力を試す論述型の設問）を中心にします。		

科目名 証券市場論入門		担当者 白井正樹
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 金融資本市場（証券市場）と実体経済の関連を理解するのが、この講義の最大のテーマです。 まず、証券市場の基本的枠組みや、証券投資・証券価格の基礎理論を理解したうえで、証券市場が実体経済をどのように支えているのかを考えていきたいと思います。		
【授業の概要】 証券市場の基本的骨格は、債券と株式です。標準的な教科書を見ますと、債券と株式のほか、付随的な取引として、先物取引やオプション取引などのデリバティブ取引や証券化商品など難解そうな用語が登場します。しかし、怖気づく必要はありません。これらはあくまで脇役です。 講義では、こうした脇役にも触れますが、基本である株式と債券が経済活動の中で果たす役割をしっかりと理解していきましょう。そして、株式と債券によって主として構成される証券市場（直接金融市場）が、経済にとってなぜ不可欠なのか、銀行市場（間接金融市場）だけではなぜダメなのか、まさに証券市場の必要不可欠性を、納得感をもって理解してもらいたいと思います。 なお、毎回の講義が一本のストーリーでつながっており、講義毎に思考を積み重ねていきます。このため、欠席すると講義についていきにくくなりますので、毎回の出席を推奨します。		
【到達目標】 ①経済と金融資本市場（証券市場）の関係を理解できるようになる ②証券市場が、経済にとって何ゆえに不可欠なのかを理解できるようになる ③証券市場が十分に機能しないと、経済活動にどんな影響が出るのかを説明できるようになる ④企業や個人が、証券市場の使い方を間違えると、どのような問題が起きるかが理解できるようになる		
【授業計画】		
1. 証券市場と金融市場 — 国民経済計算と資金循環 2. 間接金融と直接金融 — 銀行業と証券業 3. 株式と債券 — 近年の証券市場 4. 株式市場 — 発行市場と流通市場 5. 経営危機と株式市場 — 東芝問題を題材に 6. 債券市場 — 債券価格と利子率 7. 証券市場の経済理論 — CAPM理論、資本コスト 8. 先物取引、オプション取引 — 取引失敗が招く経営危機 — リスク管理の重要性	9. スワップ取引、オプション取引 — マイナス金利のカラクリを学ぶ 10. 日本の財政問題 — 何が問題なのか 11. 金融の怖さを学ぶ — 信用創造の恐ろしさ 12. 金融の暴走と崩壊 — 直接金融と間接金融の暴走 13. バブル崩壊と日本経済 — 直接金融と間接金融の暴走 14. 財政破綻と債券市場 — 欧州債務問題と欧州経済 15. サブプライム問題 — リーマンショックと世界経済	
【テキスト】 入門証券市場論 釜江廣志編 第3版補訂 有斐閣, ISBN 978-4-641-18429-9		
【参考図書・参考資料等】 講義のみで、証券市場の骨格をわかるようにしたいと思いますので、特に参考文献は不要です。		
【授業外学習】 特に不要です。		
【成績評価の方法】 期末試験で評価します。 試験内容については、暗記重視型（細かな知識を問う設問）ではなく、思考重視型（深く考える力を試す論述型設問）を中心にします。		

科目名 企業論		担当者 日 置 弘一郎
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 企業はどのように成長するか、企業がどのような経営の仕組みを備えているか、また様々な形態をとる企業の活動の実態について学ぶ。		
【授業の概要】 現代の企業はさまざまな構造や機能のもとで多くの役割を遂行し、複雑化している。企業の性質を大きく変容させたのは大規模化である。大規模化によってパワーや影響力がかつてと比べ物にならないほど大きくなるとともに、その過程で企業は資本家だけのものから企業関係者全体のものへと変わり、社会全体のための活動が要求されている。本講義では現代社会を理解するうえで不可欠な「企業」について学ぶ。		
【到達目標】 企業の成長プロセス・仕組み・役割・実態について理解し、他者に説明できるようになること。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 企業とは何か 3. 企業の形態 4. 企業と市場 5. 競争と独占 6. 所有と経営 7. 経営の仕組み 8. 企業統治 9. 中小企業 10. ベンチャー企業 11. NPO/NGO 12. 社会的企業 13. グローバル企業 14. これからの企業・経営 15. 総括		
【テキスト】 指定しません。		
【参考図書・参考資料等】 授業内で適宜案内します		
【授業外学習】 毎回、次回の授業範囲に関する宿題を課します。		
【成績評価の方法】 ①試験（持ち込み不可，60%），②小テスト・平常点（40%）で評価します。 平常点は授業中の発言やグループ作業の成果で判断します。		

<p>科目名 サービス人材論</p>		<p>担当者 八 卷 恵 子</p>
<p>開講期 前期</p>	<p>単位 2 単位</p>	<p>e-learningシステム ○</p>
<p>【授業のテーマ】</p> <p>社会調査の方法は、一般的に量的調査（定量的調査）と質的調査（定性的調査）に大別される。文化人類学や社会学で主に用いられる質的調査の方法は、フィールドワーク、行動観察、資料探索、インタビュー他多様な手法があるが、本講義ではこうした手法の基礎的な知識と、方法論、分析と解釈に関するそれぞれの考え方を学ぶ。1990年代以降、欧米諸国では産業にも文化人類学の質的調査が積極的に導入されるようになり、Business Anthropology（ビジネスの文化人類学）と呼ばれるマーケティング・リサーチの領域が広がってきている。ビジネス現場で起きていることを社会現象の一つととらえて、消費者や市場の背後にある集団文化や規範、個人の価値観の差違などを質的にも理解しながら商品やサービスの開発をしようとする考え方である。社会の深い部分からのアプローチから人々の行動に影響を及ぼそうという、イノベーションをもたらすマーケティングの考え方や手法であり、日本企業においても導入されつつある。</p> <p>本講義では、ビジネス現場を想定した演習を設定し、質的調査の基本的な行程の経験と提案を体験する。単にテクニックとして身につけるのではなく、より重要なことは、社会や日常を見るまなざしや、その分析や理解の難しさについて体験的に理解することである。自らが問題を定義するためのものの見方、調査・分析の結果を解釈する力、それを表現して伝えることができるコミュニケーションの課題でもある。</p>		
<p>【授業の概要】</p> <p>膨大な情報の質的調査を主とする文化人類学について、調査方法や調査事例を紹介しながら、こんにちの企業や産業界におけるマーケティング・リサーチにどのようにその手法を導入しているかについて、Business Anthropology（ビジネスの文化人類学、経営人類学）の実態を通じて紹介する。質的調査の手法を学び、フィールドワークを実際にも実施して、質的調査、分析、解釈、課題発見と新しい商品やサービスの提案までの演習を行う。</p>		
<p>【到達目標】</p> <p>本講義の目的は、新しいサービスの創出と提案力の育成、サービスの価値継承と適応、その応用や展開のための能力の養成にある。サービス経済化が進展する高度なサービス社会においては、知的創造力の高いイノベティブな人材が豊かな社会を牽引してゆく。市場や消費者をめぐるビジネス場面の膨大な情報を読み解き、現場で何が起きているかを理解する力、課題やチャンス発見の能力の向上を目指す。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション： ビジネスの文化人類学への招待 2. サービス経済化社会における価値創造とは何か： 文化の翻訳と意味世界 3. 「厚い記述」と「薄い記述」： 人・文化・社会を理解する 4. 定性的コーディング： テキスト分析、脱文脈化と再文脈化、概念的カテゴリー 5. 行動分析法： 日常の観察を記録する 6. インタビュー法： 構造的面接・半構造的面接・非構造的面接、言説・対話分析、尋ねてわかることとわからないこと 7. フィールド調査の設計： 事前調査とテーマ設定 8. フィールドノートの作り方： 調査紙の設計 9. フィールドワークとエスノグラフィ： プロニスワフ・マリノフスキーの長期にわたる参与観察 10. 欧米の産業界におけるビジネスの文化人類学とマーケティング・リサーチ 11. 質的調査の実践① テーマ設定・事前準備 12. 質的調査の実践② フィールドワーク実習＜データの収集＞ 13. 質的調査の実践③ フィールドワーク実習＜資料を整理するための分析と考察＞ 14. 質的調査の実践④ 報告書を書く 15. プレゼンテーションとまとめ 		
<p>【テキスト】</p> <p>講義内で適宜指示する。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】</p> <p>松村 真宏 (2016)『仕掛学』東洋経済新報社。ISBN-10: 4492233733、 ISBN-13: 978-4492233733</p> <p>日本文化人類学会監修 (2011)『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社 ISBN-10: 4790715264/ISBN-13: 978-4790715269</p> <p>梅棹忠夫 (1999)『情報の文明学』中央公論新社 ISBN-10: 4122033985/ISBN-13: 978-4122033986</p> <p>Denny, R. & Sunderland, P編 (2014) "Handbook of Anthropology in Business." Lest Caoast Press. ISBN-10: 1611321719/ISBN-13: 978-1611321715</p> <p>JAIST知識科学研究科 (2014)『知識社会で活躍しよう』社会評論社 ISBN-10: 478451824X/ISBN-13: 978-4784518241</p> <p>岡田浩樹・定延利之編 (2010)『可能性としての文化情報リテラシー』ひつじ書房 ISBN-10: 4894764997/ISBN-13: 978-4894764996</p> <p>佐藤郁哉 (2008)『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社 ISBN-10: 4788510952/ISBN-13: 978-4788510951</p> <p>佐藤郁哉 (2006)『フィールドワーカー—書を持って街へ出よう』新曜社 ISBN-10: 4788510308/ISBN-13: 978-4788510302</p> <p>佐藤郁哉 (2002)『組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門』有斐閣 ISBN-10: 4641161682/ISBN-13: 978-4641161689 他適宜紹介する。</p>		
<p>【授業外学習】</p> <p>フィールドワークや課題については講義内で適宜指示する。</p>		
<p>【成績評価の方法】</p> <p>課題・実習・レポート70%、受講態度・演習参加態度30%。</p> <p>授業についての質問や意見、積極的な発言は加点する。</p> <p>レポートにインターネット等の「コピペ」が見つかった場合は成績評価の対象とせず、大学規定に基づいて処罰の対象とします。</p>		

科目名 中国の市場と企業		担当者 江 向 華
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本講義では、企業レベルと産業レベルにおいて、国際比較しながら中国企業について学んでいく。		
【授業の概要】 本講義では、企業の成長を主として成長戦略という観点から考察する。企業の成長戦略に関する理論を学びながら、国際比較の視点で事例を用いて理解を深めていく。前半はより理論的な視点から学習していく。後半はより理解を深めるために事例を多く用いる。		
【到達目標】 まず中国企業に関する基礎知識を身につけること、次に中国企業とかわる場合や中国企業について研究する場合に必要な知識を習得することを目標にする。		
【授業計画】 1. イントロダクション：中国企業の概観 2. 中国のビジネス文化 3. 中国の社会と国際比較 4. 中国企業概念と企業形態 5. 中国の産業 6. 中国企業の成長戦略 7. 中国企業の組織 8. 日中企業比較 9. ケーススタディ① 10. ケーススタディ② 11. グループワーク① 12. ケーススタディ③ 13. ケーススタディ④ 14. グループワーク② 15. 講義のまとめ		
【テキスト】 江向華（2016）『中国大企業の競争力分析』，中央経済社。		
【参考図書・参考資料等】 開講時に指示する。		
【授業外学習】		
【成績評価の方法】 グループワークによる課題発表（50%），期末レポート（50%）。		

科目名 EU経済論	担当者 田口 雅弘	
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 この授業では、ヨーロッパ世界の特徴、ヨーロッパ経済の発展、EUの発展と市場統合・通貨統合の諸問題、ヨーロッパ各地域の経済問題を学ぶ。グローバルビジネスを展開するうえで、また世界の動向を的確に捉える視点を身につけるうえで、ヨーロッパの経験や動きを理解しておくことは、極めて重要である。また、EUの組織、EU諸国に関する最低限の知識を身につけることは、教養人としても欠かせない。		
【授業の概要】 講義はいくつかのブロックに分かれる。 まず、ヨーロッパ世界の誕生から現代までの歴史的展開を振り返り、ヨーロッパとは何か、ヨーロッパの特徴とはどのようなものなのかを考える。 次に、産業革命以降の経済発展をたどり、現代ヨーロッパ経済がどのように形成されてきたかを学ぶ。 その上で、第二次世界大戦後、ヨーロッパにおいて地域統合がどのように構築されてきたかを整理する。とりわけ、市場統合、通貨統合、EUの制度的特徴を中心に学ぶ。 さらに、イギリスやドイツの発展と現状、中東欧諸国の変容など、地域経済の諸問題を分析する。 最後に、EU危機の諸問題を、世界金融危機、イギリスのEU離脱問題、民主主義とポピュリズムの問題などの切り口から解説する。		
【到達目標】 グローバルビジネス・マネジメントを学ぶ学生、また世界事情に関心のある学生の基本的な教養として、EU経済、ヨーロッパ諸国経済事情の基礎的知識と理解力を身につける。 具体的には、ヨーロッパ地域の経済発展、協力と対立の構図を学び、地域経済圏の諸問題、経済政策と国際協調の諸問題、国際通貨の諸問題、移行経済の諸問題などへの理解を深める。また、経済問題だけでなく、政治、民族、宗教などの幅広い視点からヨーロッパを見る力を身につける。		
【授業計画】 1. ヨーロッパとは何か 2. ヨーロッパの発展 (1) 産業革命のヨーロッパ 3. ヨーロッパの発展 (2) 摩擦の時代と二つの大戦 4. ヨーロッパの発展 (3) 第二次世界大戦後の政治・経済秩序 5. ECの拡大と市場統合 6. 通貨統合の道のりとユーロの実力 7. EUの組織と地域経済圏 8. イギリス：混合体制から自由主義を経てEU離脱まで 9. 東西対立と東欧社会主義諸国 10. 中東欧体制転換とEU東方拡大 11. 世界金融危機とギリシャ問題 12. ドイツ：第四次産業革命 13. EU危機と民主主義・ポピュリズム 14. グローバリゼーションとリージョナリゼーション 15. まとめ		
【テキスト】 毎回、講師が資料を用意する。		
【参考図書・参考資料等】 田中素香、長部重康、久保広正、岩田健治『現代ヨーロッパ経済〔第4版〕』（有斐閣アルマ、2014年） 藤井良広『EUの知識〔第16版〕』（日経文庫、2013年） 遠藤乾『欧州複合危機 - 苦悶するEU、揺れる世界』（中公新書、2016年） 庄司克宏『欧州の危機』（東洋経済新報社、2016年） ビル・エモット（伏見威蕃訳）『『西洋』の終わり 世界の繁栄を取り戻すために』（日本経済新聞出版社、2017年）		
【授業外学習】 ヨーロッパを巡る重要な動きについて、授業の予習・復習として、新聞・テレビ等の、特に特集記事・番組を中心にヨーロッパ関連の報道をしっかりとフォローすること。		
【成績評価の方法】 ショート・プレゼンテーション（40点）、および期末テスト（60点）により判断する。 ショート・プレゼンテーション：EU加盟国の一つを選び、その国が抱えている経済問題をリサーチし、プレゼンする。		

科目名 協同組合論		担当者 加賀美 太記
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 現代社会では、生活協同組合（生協）や農業協同組合（農協・JA）などの非営利の相互扶助組織である協同組合が、目立たないが重要な役割を担っている。市場経済化が進み、格差の拡大が指摘される昨今、社会的な連帯を基盤とした経済活動の担い手として、協同組合は以前にも増して注目を集めようになりつつある。 本講義では、約200年前に成立した近代的な協同組合運動が抱いていた理想、その後の運動の変容、現在の協同組合運動が抱える課題を検討する。 こうした協同組合運動の到達と課題を学ぶことを通じて、協同組合に関わる理論を習得するとともに、現代経済ひいては現代社会が抱える諸問題を考えられようになることを、本講義では目標とする。</p>		
<p>【授業の概要】 講義は、大きく3つの内容に分かれる。 前半は、協同組合の歴史と定義の変遷を追いながら、現代社会にいたる過程で協同組合が果たしてきた役割について解説する。 中盤は、現代社会において活躍する具体的な協同組合を取り上げて、その実態と役割、課題について解説する。 後半は、グループごとに協同組合のひとつを取り上げて、その実態や課題について調査・発表をおこなう。</p>		
<p>【到達目標】 ・協同組合の歴史や現状について理解を深める。 ・現代社会の抱える問題に対する視野を広げる。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション－協同組合について学ぶ意味 2. 協同組合の誕生と展開 (1) 3. 協同組合の誕生と展開 (2) 4. 協同組合の仕組みと理念 5. 日本における協同組合の歴史 (1) 6. 日本における協同組合の歴史 (2) 7. 大学生協の現状と課題 8. 生活協同組合の現状と課題 9. 生産者協同組合（農協・漁協・森林組合等）の現状と課題 10. 協同金融と共済の現状と課題 11. 医療に関わる協同組合の現状と課題 12. グループ報告とディスカッション (1) 13. グループ報告とディスカッション (2) 14. グループ報告とディスカッション (3) 15. 講義のまとめ－現代社会における協同組合の可能性 		
<p>【テキスト】 なし。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 杉本貴志編 [2017]『格差社会への対抗－新・協同組合論』日本経済評論社。 庄司興吉・名和又介 [2013]『協同組合論－ひと・絆・社会連帯を求めて－』全国大学生生活協同組合連合会。 中川雄一郎・杉本貴志編 [2012]『協同組合を学ぶ』日本経済評論社。</p>		
<p>【授業外学習】 授業前に参考書を読むなど情報を収集しておくことが望ましい。授業後は配布資料などで復習すること（予復習ともに30分程度）。 それ以外に、大学生協の総代会の見学とグループ発表の機会を設ける。後者については、グループごとに発表準備を進める。</p>		
<p>【成績評価の方法】 定期試験：70％、グループ報告：30％でもって評価する。</p>		

科目名 原価計算		担当者 鈴木 新
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
<p>【授業のテーマ】 原価計算は、製品などのアウトプットにどのような原価がどれだけかかっているのかを明らかにするための計算システムである。本講義では、工業簿記の学習を通じて原価計算の技術を修得する。</p>		
<p>【授業の概要】 初級簿記の知識を修得していることを前提にして、初めて原価計算を学ぶ人を対象に、工業簿記を通して原価計算の基本原理を解説し、問題演習によってその技術を身につける。</p>		
<p>【到達目標】 個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算および工業簿記の技術を修得する。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工業簿記・原価計算の基礎 2. 材料費計算 3. 労務費計算 4. 経費計算 5. 製造間接費計算 6. 部門費計算 7. 個別原価計算 8. 総合原価計算 I 9. 標準原価計算 10. CVP分析 11. 原価予測の方法 12. 直接原価計算 13. 製品の受払い 14. 営業費計算 15. 工場会計の独立 		
<p>【テキスト】 岡本清・廣本敏郎編『検定簿記講義2級 工業簿記 平成30年度版』中央経済社。 ISBN：未定</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 指定しない。</p>		
<p>【授業外学習】 本講義は日商簿記検定2級工業簿記に対応している。そのため、「中級簿記」の履修と合わせて、日商簿記2級の取得を勧める。</p>		
<p>【成績評価の方法】 期末試験（100％）により評価する</p>		

科目名 ツーリズム・コミュニケーション	担当者 八 卷 恵 子	
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本講義は観光者の行動について考察する。古来より人はさまざまな理由で移動しながら生活を営んできた。人類の歴史は旅と共にあるとよい。しかし産業としての観光は「余暇」を生み出した近代化の産物と考えられている。つまり観光行動は余暇をめぐるグローバルな社会現象であり、その歴史はそう長いものではなく、余暇産業としての観光産業は急激に成長した。観光は人々が人生を豊かに生きるために、日常とは離れて異質な時間や経験を求めてリフレッシュしたいという行動でもある。このような消費者の欲求に対応して観光産業は成立している。観光は、ゲスト（観光者）とホスト（観光地や観光関連産業の実践主体）のさまざまなチャンネルにおける交流であるが、観光者にとって魅力ある観光地とはどのようなものだろうか。また観光地が観光者を誘致するために考えるべきことはどのようなことだろうか。		
【授業の概要】 本講義では特に『バリアフリー観光』に着目しながら観光をめぐる「ノーマライゼーション」と現代社会について学び、観光行動の意味や意義について学習する。観光用語と共に、ツーリズム・コミュニケーションを成立させている観光のしくみ、観光資源、観光産業、観光地について学ぶ。さらにゲストとホストの交流チャンネルとしての観光ビジネスを概観し、観光行動をうながす観光振興のビジネス戦略について、マーケティングの見地からも理解してゆく。 本講義は学外のフィールドワークを実施する。受講者は、観光者（ゲスト）として観光地の人々（ホスト）との交流をはかる体験を通じて観光現象を分析し、講義内で討議を行う。		
【到達目標】 ツーリズム・コミュニケーションを成立させているゲストとホストの交流チャンネルの機能とメカニズムについて、または観光者の経験価値の創造について、深い理解に到達することを目指す。観光を現代の社会現象ととらえる視座から観光の意味や目的を理解する。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 観光人類学への招待：ゲスト（観光者）とホスト（観光地の住民）との異文化交流 3. 観光のまなざし 4. バリアフリー観光：ノーマライゼーションとは何か 5. フィールドワーク計画① 6. フィールドワーク計画② 7. フィールドワークの実施 8. フィールドワークの実施 9. フィールドワークの実施 10. フィールドワークの実施 11. フィールドワークの実施 12. グループワークによる情報交換会 13. グループワークによる情報交換会 14. グループ報告 15. 持続可能な地域をめざして		
【テキスト】 適宜配付する。		
【参考図書・参考資料等】 橋本 和也（1999）『観光人類学の戦略—文化の売り方・売られ方』世界思想社、ISBN-10: 4790707539、ISBN-13: 978-4790707530。 橋本 和也（2011）『観光経験の人類学—みやげものとガイドの「ものがたり」をめぐって—』世界思想社、ISBN-10: 4790715108、ISBN-13: 978-4790715108。 H.C.パイヤー（1997）『異人歓待の歴史』 ベンクト・ニリエ（2004）河東田 博訳『ノーマライゼーションの原理—普遍化と社会変革を求めて』現代書館、ISBN-10: 4768434444、ISBN-13: 978-4768434444。 ベンクト・ニリエ（2008）ハンソン 友子訳『再考・ノーマライゼーションの原理—その広がりとの現代的意義』現代書館、ISBN-10: 4768434835、ISBN-13: 978-4768434835。		
【授業外学習】 適宜指示する。		
【成績評価の方法】 報告内容、積極的なフィールドワークとグループワークへの参加。		

科目名 農業経営論		担当者 谷口憲治
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 日本農業経営の継続的発展方向をみるために、経営環境としての本格化する国際化（グローバルイゼーション）と農業との関係、農村社会の中の農業経営の社会的位置を明らかにし、そこにおける経営改善の動きを実際の個別経営体、組織経営体の中から把握すると共にその理論的背景を示していく。		
【授業の概要】 農業経営改善のためには、高品質のものを多量に低コストで収穫し、高価格で販売する管理技術とその持続化安定化のための経営組織作りが不可避であるが、そのための実際の経営行動と農業経営の基礎理論とを習得する。		
【到達目標】 グローバル化が進む中での農業経営環境の現状が経営を維持していくために困難となっている実情を明らかにするとともに、その中で経営を持続させている個別的・組織的経営主体の実際の経営方法をみることによりその要因について内発的な要因と外発的な要因とその要因の経営学的にみた普遍性・限界性を理解する。		
【授業計画】 1. 授業の進め方、評価の仕方、担当内容の提示と分担決定 2. 経済発展と農業経営 3. 規模の経済と農業経営 4. 地域経済と農業経営 5. 国際貿易と農業経営 6. 環境保全と農業経営 7. 消費者と農業経営 8. 集落営農と農業経営 9. ネットワーク販売と農業経営 10. 資源循環と農業経営 11. 有機農業と農業経営 12. 市民農園・観光農業と農業経営 13. 自治体農政と農業経営 14. 六次産業化と農業経営 15. 農協と農業経営		
【テキスト】 谷口憲治『中山間地域農村経営論』農林統計出版、ISBN：978-4-89732-173-8		
【参考図書・参考資料等】 谷口憲治『中山間地域農村経営論』農林統計出版、日本経済新聞社『これからの経営学』日経ビジネス人文庫、シュムペーター（塩野谷・中山・東畑訳）『経済発展の理論（上）』岩波文庫、井口隆史・榊渥俊子編著『地域自給のネットワーク』コモンズ、高橋信正編著『「農」の付加価値を高める六次産業化』筑波書房、谷口憲治編著『農協論の再考』農林統計出版、小池恒男・中川總一郎『地域農業と自治体農政』農林統計協会、堀口健治・梅本雅『大規模営農の形成史』農林統計協会		
【授業外学習】 新聞等各種メディアで食料・農業・農村における経営的事象について学修する。		
【成績評価の方法】 学生の発表のまとめ方、問題点の指摘の仕方について、特に引用と自分の意見の区分が明確であるかに重点を置いて評価する（10点）。月に一回、指定した農業経営関連文献の感想文を提出させる（20点）。その都度、前回の内容の重要点を小テストする（30点）。小テスト回答はその次の時間に行う。授業に対する質問による積極参加も考慮する。小テストの内容をもとに期末試験を行う（40点）。		

科目名 観光マネジメント		担当者 八 卷 恵 子
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 観光ビジネスは、交通事業、宿泊行、観光施設、飲食業、情報業などのサービス業の集合体である。観光資源を媒体に、旅行者に安全で楽しい旅を体験してもらうための様々な商品をサービスとして提供している。観光事業の運営には、地域特有の観光資源の存在や、その魅力による集客力も重要ではあるが、それらをコンテンツとしていかに活用するかが鍵になる。経済、政治、社会、文化などの環境の変化に適応しながら、戦略的なサービス・ビジネスの運営によって地域全体の付加価値を向上させていこうとする考えが必要である。		
【授業の概要】 観光をサービス産業の一つの活動として位置づけて、観光をめぐる現状や特徴を総論として学ぶ。観光の歴史、国内・海外旅行の市場、観光行政などの観光業の背景となる環境について学び、旅行社、宿泊業、運輸・交通インフラ、観光施設などの具体的な事業について取り上げてゆく。さらに、まちづくりやニューツーリズム、ホスピタリティ産業の視点からも観光サービスのマネジメントについて理解を深めてゆく。		
【到達目標】 観光は地球上の人々が大量に移動するグローバルな諸現象である。観光ビジネスは、そのような社会現象に対応したサービス産業であるということを理解しつつ、観光地がさまざまなサービス・ビジネスによって成立していることを概観する。観光をめぐる社会の課題や問題点の本質を学際的な視点で分析し把握する能力を身につけることが本講義のめざすところである。観光現象とビジネスをめぐる諸問題についての研究上の課題・方法論についても一定の理解ができる能力を身につけることをめざす。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 観光の歴史 1 3. 観光の歴史 2 4. 観光とサービス 5. 観光と市場分類 6. 観光と市場分類：旅行者×旅行目的地別分類 7. 訪日外国人旅行 8. 観光行政 9. 観光の需要と対策 10. 観光ビジネス 11. 旅行業ビジネス 12. 観光施設ビジネス 13. 観光交通ビジネス 14. ニューツーリズム 15. 観光まちづくり まとめ		
【テキスト】 安田亘宏（2015）『観光サービス論—観光を初めて学ぶ人の14章』古今書院 ISBN-10: 4772231668/ISBN-13: 978-4772231664		
【参考図書・参考資料等】 高橋一夫、吉田順一、大津正和（2010）『1からの観光』ISBN-10: 4502674109/ISBN-13: 978-4502674105 石井淳蔵・高橋一夫編（2011）『観光のビジネスモデル—利益を生み出す仕組みを考える』学芸出版社 ISBN-10: 4761525274/ISBN-13: 978-4761525279		
【授業外学習】 適宜指示する。		
【成績評価の方法】 試験・レポート70%、受講態度30%。 授業についての質問や意見、積極的な発言は加点する。 レポートにインターネット等の「コピペ」が見つかった場合は成績評価の対象とせず、大学規定に基づいて処罰の対象とします。		

科目名 企業と社会		担当者 日 置 弘一郎
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 企業を取り巻く社会がどのように変化しているのか、それに伴い企業が社会にどのように応答しているのか、現代社会における企業の存在意義に照らした役割行動について学ぶ。		
【授業の概要】 企業は社会における連関関係の中で存在する。企業は社会に対して積極的にプラスの役割をとっていくべき存在であり、そうすることで長期的な発展を望むことができる。社会に及ぼす影響がプラスよりもマイナスの方が大きくなれば、連関関係から排除され組織の存続が許容されなくなる。講義では現代社会における企業の存在、ステークホルダー、企業統治、企業の社会的存在意義などを学ぶ。		
【到達目標】 現代社会における企業の役割とその実践について理解し他者に説明できるようになること。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 現代社会における企業の存在感 3. 「企業社会」としての現代日本社会 4. 社会制度としての企業 5. 日本企業の特質 6. 日本社会と企業の連関 7. 会社と社員の関係 8. 企業の利害関係 9. 市民社会における企業統治 10. 企業の社会的存在意義 11. 企業の社会的責任 12. 企業倫理 13. 良き企業市民 14. 企業と社会の関係の新たな展開 15. 総括		
【テキスト】 指定しません。		
【参考図書・参考資料等】 授業内で適宜案内します。		
【授業外学習】 今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 ①試験（持ち込み不可，60%），②小テスト・平常点（40%）で評価します。 平常点は授業中の発言やグループ作業の成果で判断します。		

科目名 知的所有権		担当者 笠原 英俊
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム
[授業のテーマ] 知的財産権		
[授業の概要] 自らや周囲の知的活動によって生じる知的財産をどう取り扱うべきかを講義する。		
[到達目標] 自らや周囲の知的活動によって生じる知的財産を適切に取り扱うことで、ビジネスを有利に展開することができるような知識を身につける。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 知的財産及び知的財産権制度について 2. 特許制度目的～特許制度の保護対象（発明）について 3. 特許を受けることができる発明（特許要件）について 4. 特許を受ける権利について（職務発明制度を含む） 5. 特許取得の手続き（1）について 6. 特許取得の手続き（2）について 7. 実用新案制度について 8. 意匠制度について 9. 商標とは 10. 商標登録を受けることができない商標（登録要件）について 11. 商標権取得の手続きについて 12. 外国における権利取得について 13. 権利の調査（主として特許情報プラットフォーム）について 14. 知的財産権の活用と権利侵害対応について 15. 著作権制度について 		
[テキスト] 特許庁編、平成29年度知的財産権制度説明会（初心者向け）テキスト『知的財産権制度入門』 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/h29_syosinsya.htm		
[参考図書・参考資料等] なし		
[授業外学習] ビジネスの様々な局面において次々関連する知的財産をどのように取り扱うべきかを考えながら聴いて欲しい。		
[成績評価の方法] 定期試験60%		

科目名 税法概論		担当者 村上心理
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
<p>[授業のテーマ] 身近な税金の意義・役割・仕組みなどを正しく学ぶことで、税金への抵抗感や苦手意識を払拭し、税金に対する正しい判断力と健全な納税者意識を養う。</p>		
<p>[授業の概要] 各税法の規定を確認し、具体的な事例を交えて解説することで、税法の基礎を幅広く学ぶ。税理士である講師が課税実務についても紹介する。</p>		
<p>[到達目標] 実社会で役立つ税金の基礎知識を修得する。 給与明細や源泉徴収票の内容が理解できる。 自分で確定申告ができるようになる。</p>		
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 税法総論 3. 源泉所得税と給与計算 4. 所得税 (1) 所得税のしくみ 5. 所得税 (2) 所得控除 6. 所得税 (3) 税額計算 7. ふるさと納税 8. 法人税 9. 消費税 10. 相続税 11. 贈与税 12. 地方税, その他諸税 13. 税務署と税理士の仕事 14. 確定申告書の作成 15. まとめ 		
<p>[テキスト] なし。 毎回レジユメを配付します。</p>		
<p>[参考図書・参考資料等] 書名：ガイダンス 新税法講義〔三訂版〕 編著者名：林仲宣・竹内進・四方田彰・角田敬子 共著 出版社：税務経理協会 ISBN：9784419062217</p>		
<p>[授業外学習] 不定期で小テストを実施するので、復習をしておくこと。</p>		
<p>[成績評価の方法] 小テストと受講態度40%，定期試験60%。</p>		

科目名 ミクロ経済学	担当者 春 名 章 二	
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 企業・消費者行動及び市場の機能（メカニズム）に関する講義		
【授業の概要】 経済を構成する企業・消費者及び市場の機能に関する基礎的な内容を講義します。具体的には、需要や供給の決まり方及び価格と需要・供給の関係や価格の決定方法に関する講義です。また、政府の市場への介入がどのような効果を招くかについても講義をします。 章の講義が終了した後、講義内容の理解のために練習問題の出題と解説並びに小テストの実施を行います。		
【到達目標】 企業や消費者の行動並びに市場の機能、更に政府の市場政策について基本的な理解が出来ることを目標とします。特に、企業がどのように生産量を決め、市場外の変化が企業の生産量決定にどのような影響をもたらすかの理解及び市場が果たす役割の理解ができることを目標とします。加えて、経済学的なものの方や考え方が醸成されることが第2の目標です。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方や成績評価方法及びシャトルカードの使用方法。 経済学・経済システムに関する概要説明等 2. 「序章 市場と政府の役割分担」の講義 3. 「1 章 経済の全体像」の1～4節に関する講義 4. 1 章5節のまとめと同章の練習問題の出題と解説。 「2 章 需要と供給」の1～2節に関する講義 5. 「2 章 需要と供給」の3～6節に関する講義 6. 2 章の練習問題の出題と解説。 「3 章 供給曲線」の1～2節に関する講義 7. 2 章の小テスト実施。 「3 章 供給曲線」の3～5節に関する講義 8. 3 章の練習問題の出題と解説。 「4 章 生産者余剰、可変費用、帰属所得」の生産者余剰に関する講義 9. 3 章の小テスト実施。 「4 章 生産者余剰、可変費用、帰属所得」の消費者余剰に関する講義 10. 「4 章 生産者余剰、可変費用、帰属所得」の帰属所得に関する講義。 この章に関する課題を出す。 11. 4 章の小テスト実施。 「5 章 需要曲線の導出と総余剰」の便益と総余剰に関する講義 12. 「5 章 需要曲線の導出と総余剰」の総余剰の帰着に関する講義。 この章に関する課題を出す。 13. 「7 章 市場介入」の1～2節に関する講義 14. 5 章の小テスト実施。 「7 章 市場介入」の3～6節に関する講義 15. 7 章の小テスト実施。 経済並びに授業の内容に関する質問の受付 		
【テキスト】 八田達夫, 「ミクロ経済学 Expressway」, 東洋経済新報社, ISBN 978-4-492-81302-7		
【参考図書・参考資料等】 専門用語等を調べるためには、金森・荒・森口編『経済辞典』（有斐閣）があります。これ以外の参考図書等については講義の途中で示します。		
【授業外学習】 まず、次回の授業の範囲を毎回30分以上かけて予習し、授業に向けた準備をすること。そして授業の後、30分以上かけて毎回ノートの作成・整理をしつつ、復習を行うこと。講義の度に出てくる専門用語等の意味を必ず理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 小テスト（複数回）、課題提出及び授業中の積極的な発言を基にした成績の評価。評価点数の配分は小テストが75%、課題提出が15%、講義に対する積極性が10%です。 小テストと課題に対してはその解答の提示と解説を行う。また、各自に小テストと課題の結果（成績）を毎回学生にフィードバックする。		

科目名 マクロ経済学		担当者 大 崎 泰 正		
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○		
[授業のテーマ] 景気や物価などマクロ経済の動きを、理論的に考察するための基礎的な知識、考え方を習得する。				
[授業の概要] マクロ経済学は、一国、一地域の経済を巨視的にとらえ、国民所得や物価の水準、雇用の動向などがどのようにして決まり、経済成長や景気循環に繋がっていくのかという大きな経済の動きを対象とする。個々の家計や企業の取引や価格の決定を分析するミクロ経済に比べて、一見私たちの経済生活との関連が薄いような印象を受けやすいが、就職活動や家計の資産運用などを思い浮かべるだけでも、日常生活に密接に関わるものである。このため、日頃から経済や産業の動きに関する報道や、金融市場、為替市場の動向に関するデータに深い関心を寄せていくように心がけてもらいたい。 本論と併行してアクティブラーニングの観点から、毎回2グループ(4～5人で構成)自分たちで設定した経済・企業経営に関する課題についてパワーポイントを用いて発表する。				
[到達目標] ①経済循環の仕組み、財市場と貨幣市場の均衡について基本的な考え方を理解する。 ②日常のマクロ経済に関する記事や報道の内容が大筋で理解できるようになる。				
[授業計画] <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. ミクロ経済学とマクロ経済学 2. 過去20年間の経済の歩み 現在の経済状況 岡山県の経済状況 3. 教科書 第3章 4. 教科書 第4章 消費関数・貯蓄関数 5. 教科書 第5章 投資関数と利子率 6. 教科書 第6章 財政の役割 財政赤字の考え方 7. 教科書 第7章 45度線分析 乗数効果 8. 教科書 第8章 貨幣の役割 信用創造 金融政策 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. 教科書 第9章 IS曲線の導出 LM曲線の導出 10. 教科書 第10章 IS-LMモデルを用いた分析 11. 教科書 第11章 物価の分析 総需要曲線の導出 12. 教科書 第11章 総供給曲線の導出 13. 教科書外 国際収支 為替相場の決定 14. 教科書 第12章 国際版IS-LMモデル 財政・金融政策の効果 15. 教科書外 地域経済の課題 人口減少・グローバル化と地方創生 </td> </tr> </table>			1. ミクロ経済学とマクロ経済学 2. 過去20年間の経済の歩み 現在の経済状況 岡山県の経済状況 3. 教科書 第3章 4. 教科書 第4章 消費関数・貯蓄関数 5. 教科書 第5章 投資関数と利子率 6. 教科書 第6章 財政の役割 財政赤字の考え方 7. 教科書 第7章 45度線分析 乗数効果 8. 教科書 第8章 貨幣の役割 信用創造 金融政策	9. 教科書 第9章 IS曲線の導出 LM曲線の導出 10. 教科書 第10章 IS-LMモデルを用いた分析 11. 教科書 第11章 物価の分析 総需要曲線の導出 12. 教科書 第11章 総供給曲線の導出 13. 教科書外 国際収支 為替相場の決定 14. 教科書 第12章 国際版IS-LMモデル 財政・金融政策の効果 15. 教科書外 地域経済の課題 人口減少・グローバル化と地方創生
1. ミクロ経済学とマクロ経済学 2. 過去20年間の経済の歩み 現在の経済状況 岡山県の経済状況 3. 教科書 第3章 4. 教科書 第4章 消費関数・貯蓄関数 5. 教科書 第5章 投資関数と利子率 6. 教科書 第6章 財政の役割 財政赤字の考え方 7. 教科書 第7章 45度線分析 乗数効果 8. 教科書 第8章 貨幣の役割 信用創造 金融政策	9. 教科書 第9章 IS曲線の導出 LM曲線の導出 10. 教科書 第10章 IS-LMモデルを用いた分析 11. 教科書 第11章 物価の分析 総需要曲線の導出 12. 教科書 第11章 総供給曲線の導出 13. 教科書外 国際収支 為替相場の決定 14. 教科書 第12章 国際版IS-LMモデル 財政・金融政策の効果 15. 教科書外 地域経済の課題 人口減少・グローバル化と地方創生			
[テキスト] 家森信善『マクロ経済学の基礎』(中央経済社) ISBN978-4-502-21181-2				
[参考図書・参考資料等] 伊藤元重『マクロ経済学 第2版』(日本評論社) ISBN-13: 978-4535556218				
[授業外学習] 経済に関する新聞記事やテレビ報道等に関心をもって接し、それらを経済学的に考える習慣を身につけること。				
[成績評価の方法] 定期試験(60%)、及び講義ないで実施する小テスト・講義への取組姿勢(40%)で評価する。				

科目名 ビジネス・エコノミクス（＝経営経済学）		担当者 三 浦 紗綾子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本講義では経営現象の問題を分析する際に必要となる経済学的手法を説明する。		
【授業の概要】 経営学は経営現象を対象とする学問である。経営現象の分析は、社会学や心理学、経済学を用いて行われる。本講義では、経営現象を分析する道具のうち経済学を取り上げる。言い換えれば、経済学の中でも経営現象の理解に欠かせない理論を説明していく。		
【到達目標】 本講義の到達目標は、①理論を理解し、②その理論的枠組みを利用して現実の企業・経営現象について説明できるようになることである。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 需要の特性 3. 企業の生産活動と費用 4. 競争の意味 5. 価格戦略 6. 製品戦略 7. グループ・ワーク：課題に関するディスカッションと発表準備 8. グループ・ワーク：課題の発表大会 9. ゲーム理論：囚人のジレンマ、繰り返しと協調 10. ゲーム理論：戦略的行動とコミットメント 11. エイジェンシー理論：プリンシパル・エージェント問題 12. エイジェンシー理論：日本企業の賃金制度 13. 企業の境界：多角化・国際化 14. 企業の境界：垂直統合 15. まとめ 		
【テキスト】 特になし。		
【参考図書・参考資料等】 浅羽茂『企業の経済学』（2008）日本経済新聞出版社。 浅羽茂『経営戦略の経済学』（2004）日本評論社。 その他は授業中に適宜提示する。		
【授業外学習】 習った理論で身の周りのことを考えてみること。 不定期に小テストを行うので復習しておくこと。 グループ・ディスカッションの課題について授業中で終わらない場合には、その作業も必要である。		
【成績評価の方法】 成績は①小テスト（不定期に行う）、②期末テストを総合的に判断して決める。配分は、小テスト：40%、期末テスト：60%（合計100%）である。		

科目名 法と経済		担当者 白井正樹
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 「法と経済」は、法や規制がもたらす社会経済的な影響を分析する学問分野です。 皆さんにこのテーマの本質を理解してもらうため、授業では、まず市場経済メカニズムの内包するメリットとデメリット（光と影）を整理します。その上で、市場メカニズムを補整するために設計・運用された法と規制についても、同様に、メリットとデメリット（光と影）の両面を持つことを説明します。 そして、市場メカニズムの下で、法や規制がどう立ち回るべきかを考察することで、法や規制の存在意義を明らかにしていきたいと思えます。		
【授業の概要】 我々の経済活動は、基本的に市場メカニズムに任せながら動いています。ただ、市場メカニズムは万能ではありません。公害問題などをみてもわかるように、企業の自由な経済活動だけに任せておく（＝政府が何も対策を講じないと）、経済が非効率になる（＝汚染物質の大量放出につながる）ことにつながりかねません（市場メカニズムの“影の部分”です）。そこで、政府が積極的に法・規制を講じることで、市場メカニズムを補整していく必要があります。これは、法や規制の“光の部分”ともいえます。 一方、気を付けないといけないこともあります。世の中には、例えば、弱者保護のため、一見、合理的にみえる法・規制を講じることがあります。しかし、その設計や運用が悪いと、折角の市場メカニズムを歪め、法や規制が狙った目的とは、かえって逆の結果（弱者をかえって傷める効果）をもたらすことも起きます。法や規制の“影の部分”といえますが、こうしたデメリットは、経済学の知見を使うことで明らかにすることができます。 こうした市場メカニズムの下で、法や規制がもたらす光や影の問題について、理論的に分析する道具は、ミクロ経済学の知見です。皆さんには、この講義で得た知見を活用し、法・規制のあるべき姿を考える思考回路を頭の中にして欲しいと思えます。 なお、毎回の講義が一本のストーリーでつながっており、講義毎に思考を積み重ねていきます。 このため、欠席すると講義についていきにくくなりますので、毎回の出席を推奨します。		
【到達目標】 ①市場メカニズムが万能でなく理解し、その存在意義を理解できるようになる ②法や規制も万能でないことを理解し、その存在意義を理解できるようになる ③ミクロ経済学を、実生活への応用のために、活かした知識として活用できるようになる ④法や規制を設計・運用する上で、どういう工夫が必要なのかを理解できるようになる		
【授業計画】 1. 法と経済学とは何か 2. 経済学の10大原理 3. 市場メカニズムの長所 4. 市場メカニズムが内包する重大な欠点 5. 政府による外部性の解決とピグー税、ピグー補助金 6. 交渉による外部性の解決とコースの定理 7. コースの定理が成り立つ具体的事例 8. 市場メカニズムが内包する重大な欠点 9. 政府は公共財をどう供給すべきか 10. 独占企業と価格規制 11. 独占企業と価格規制～自然独占 12. 法と経済学の具体的事例～金利の上限規制 13. 法と経済学の具体的事例～解雇規制 14. 法と経済学の具体的事例～汚染問題 15. 法と経済学の具体的事例～共有地の悲劇		
【テキスト】 必要に応じて資料を配布します。		
【参考図書・参考資料等】 興味がある学生には、以下の書籍に目を通してもらうとよいと思いますが、基本的に講義のみで理解できるようにしたいと思います。 ケースからはじめよう 法と経済学 福井秀夫著 日本評論社 ISBN 978-4-535-51581-9 マンキュー・ミクロ経済学 マンキュー著・足立英之ほか訳 東洋経済新報社 ISBN 978-4-492-31437-1		
【授業外学習】 特に求めません。		
【成績評価の方法】 期末試験で評価します。 試験内容については、暗記重視型（細かな知識を問う設問）ではなく、思考重視型（深く考える力を試す論述型設問）を中心にします。		

科目名 経済史		担当者 大 倉 健
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 この講義では、社会的な行動を説明する上での基本的な考え方と、経済学や経営学の世界でよく用いられる理論的なモデルを、歴史上のさまざまな国や地域の例をとりあげながら学ぶ。歴史上の出来事を単に知るといふよりも、現象を適切に説明する方法について理解することがこの講義の目的である。		
【授業の概要】 この講義では、高校までの日本史や世界史の授業のように、歴史上の重要とされる局面を時系列的に解説していくという方法はとらない。現象を説明する上で考えるべきトピックを各回のテーマとして設定し、そのテーマにあてはまる具体例を素材として取り上げ、受講生自身に考えてもらいながら講義する。		
【到達目標】 社会人として知っておくべき社会科学の基本的な考え方を理解し、自分で現象を理解する際に応用できるようにする。		
【授業計画】 1. 講義概要 2. 因果的説明 3. メカニズム 4. 解釈をめぐる問題 5. モチベーション 6. 利己主義と利他主義 7. 近視眼と長期的視野 8. 信念と感情 9. 制約：機会と能力 10. 強化と淘汰 11. 意図されざる結果 12. 戦略的相互作用 13. ゲームの構造 14. 信頼 15. まとめ		
【テキスト】 指定なし。		
【参考図書・参考資料等】 指定なし。		
【授業外学習】 講義中に指示する。		
【成績評価の方法】 レポート100%		

科目名 財務会計		担当者 真 田 正 次
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 本講義は、財務会計の基礎的な内容とともに、商業簿記の基本的な論点について学習することをテーマとしています。</p>		
<p>【授業の概要】 授業は、はじめの数回を使って、会計をとりまく法体系やディスクロージャー制度について学習したのち、財務会計の具体的な論点について学習していきます。また、授業中、学生に仕訳や計算問題も解いてもらいます。</p>		
<p>【到達目標】 財務会計の基礎的な知識の修得と基本的な考え方を理解することを到達目標としています。同時に、日本商工会議所が主催する簿記検定2級（商業簿記）の基本問題が解けるようになることを目指しています。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 会計の役割 3. 利益計算の仕組み 4. 利益計算のルール 5. 売上高と売上債権 6. 棚卸資産と売上原価 7. 固定資産と減価償却 8. 金融活動の資産と損益 9. 営業上の負債と他人資本 10. 資本の充実 11. 剰余金の分配 12. 財務諸表の作成と報告 13. 連結財務諸表 14. キャッシュ・フロー計算書 15. まとめ 		
<p>【テキスト】 桜井久勝『会計学入門【第4版】』日経文庫。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門【第10版】』有斐閣アルマ。 桜井久勝『財務会計講義【第16版】』中央経済社。</p>		
<p>【授業外学習】 e-learningシステムに常に授業に関する情報を提供しているので、毎回、事前（あるいは事後）に確認しておくこと。</p>		
<p>【成績評価の方法】 定期試験（60%）、授業中の小テスト（40%、2回程度実施予定）。</p>		

科目名 企業財務分析論		担当者 真 田 正 次
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 企業を分析する投資者、証券アナリスト、債権者、あるいは従業員などのさまざまな主体にとって、最も簡単に入手でき、かつ最も有用な情報は会計情報です。本講義は、会計情報を用いた企業分析の基礎理論、基本的知識および分析手法について学習していくことをテーマとしています。		
【授業の概要】 本講義では、企業を分析するための基礎理論、基本的知識および分析手法について説明を行うとともに、実際の企業の財務諸表の数値を使って学生に指標を算出してもらいます。また、企業分析・企業価値評価のフレームワーク全体についても、事例を用いながら説明を行っていきます。		
【到達目標】 受講学生が実際の企業の有価証券報告書に掲載されている財務諸表を用いて、当該企業の収益性および効率性、安全性、ならびに将来性を分析することができるようになる。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 損益計算書と貸借対照表 3. 企業分析の枠組み 4. 経営戦略分析 5. 会計戦略分析 6. 収益性分析—売上高利益率と資本利益率 7. 効率性分析—各種回転率 8. 安全性分析 9. 成長性分析 10. クロスセクション分析の方法 11. 企業価値評価—さまざまな評価技法 12. 企業価値と株価 13. 資本コストとリスク評価 14. 事例研究 (1) 一事実を知る 15. 事例研究 (2) 一問題点を知る		
【テキスト】 徳賀芳弘編著『京都企業-歴史と空間の産物』中央経済社。		
【参考図書・参考資料等】 伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社。 桜井久勝『財務諸表分析【最新版】』中央経済社。 乙政正太『財務諸表分析【最新版】』同文館出版。		
【授業外学習】 毎回、復習を行い、各種指標の意味を理解するとともに、実際に使いこなせるようにする。		
【成績評価の方法】 適宜、小テストを行うとともに期末テストを実施し、これらの総合点によって評価を行います。		

科目名 金融政策論		担当者 白井正樹
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 金融理論の基礎や中央銀行（日本銀行）の役割を基本から学び、経済の動向を左右する金融政策の意味と意義を理解することが主要テーマです。		
【授業の概要】 金融とは何か、貨幣とは何か、銀行の機能は何か、金融市場はどのように動いているのか金融の基本から説明をしたうえで、日本銀行による金融政策の役割とその背景にある考え方を理解することを目指します。 なお、毎回の講義が一本のストーリーでつながっており、講義毎に思考を積み重ねていきます。 このため、欠席すると講義についていきにくくなりますので、毎回の出席を推奨します。		
【到達目標】 ①金融の基本機能を理解できるようになる ②金融政策の意味と意義を理解できるようになる ③現行の金融政策について、批判的に論評できるようになる		
【授業計画】 1. 金融政策と日本経済 2. 金融と通貨の意味 3. 民間銀行の役割 4. 民間銀行の暴走がなぜ起きるのか 5. 日本銀行の役割と金融政策 6. 日本銀行の金融調節① —短期金利コントロール 7. 日本銀行の金融調節② —調節手段と政策決定 8. 金融政策の波及経路 9. 伝統的金融政策 10. 非伝統的金融政策 —ゼロ金利政策 11. 非伝統的金融政策 —量的緩和、信用緩和 12. 非伝統的金融政策と今後の課題 —出口問題 13. 金融政策の枠組み 14. 日本とアメリカの金融危機 15. システミックリスクとプルーデンス政策		
【テキスト】 「ベーシック+プラス 金融政策」小林照義著 中央経済社 2015年 ISBN 978-4-502-12481-5		
【参考図書・参考資料等】 特になし。		
【授業外学習】 特に不要です。		
【成績評価の方法】 期末試験で評価します。 試験内容については、暗記重視型（細かな知識を問う設問）ではなく、思考重視型（深く考える力を試す論述型の設問）を中心にします。		

科目名 特別講義Ⅰ		担当者 杉山 慎 策																
開講期 前期	単位	e-learningシステム ○																
<p>【授業のテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山や日本の主要企業の理念・歴史・概要・戦略などについて理解をする。 ・岡山や日本の企業経営者の経営哲学について理解する。 ・岡山や日本の企業がどのような人材を求めているかを理解する。 ・岡山や日本の企業経営者の方々と経営についての議論をすることにより経営についての理解を深める。 																		
<p>【授業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学部では特任教授として下記の方々を招聘している。 ①クオインタムリーブ株式会社 代表取締役（元ソニー株式会社代表取締役会長）出井伸之氏 ②イオン株式会社 相談役 林直樹氏 ③兵庫県立美術館 館長 蓑豊氏 ④両備ホールディングス株式会社 代表取締役会長 小嶋光信氏 ⑤ナカシマホールディングス株式会社 代表取締役社長 中島基善氏 ⑥岡山トヨペット株式会社 代表取締役社長 末長範彦氏 ⑦山陽新聞社 代表取締役会長 越宗孝昌氏 ⑧トミヤコーポレーション株式会社 代表取締役会長 古市大蔵氏 ⑨ヒルタ工業株式会社 代表取締役会長 晝田真三氏 ⑩萩原工業株式会社 代表取締役会長 萩原邦章氏 ・これらの特任教授に会社の理念、経営、経営哲学についてご講義をいただく。 ・受講者の中から2チーム事前にそれぞれの会社のミッションや理念を事前に調べて発表し経営者の方に評価いただく。 																		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山や日本の主要企業についての理解を深める。 ・優れた経営者の方々の経営哲学を理解する。 ・岡山や日本の企業の概要についての理解を深める。 ・経営学全般についての理解を深める。 																		
<p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 講義の目的と課題発表の内容と方法についての説明</td> <td>9. 特任教授 講義7</td> </tr> <tr> <td>2. 特任教授 講義1</td> <td>10. 特任教授 講義8</td> </tr> <tr> <td>3. 特任教授 講義2</td> <td>11. 特任教授 講義9</td> </tr> <tr> <td>4. 特任教授 講義3</td> <td>12. 特任教授 講義10</td> </tr> <tr> <td>5. 特任教授 講義4</td> <td>13. 特任教授 講義11</td> </tr> <tr> <td>6. 特任教授 講義5</td> <td>14. 特任教授 講義12</td> </tr> <tr> <td>7. 特任教授 講義6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 前半の講義のまとめ</td> <td></td> </tr> </table>			1. 講義の目的と課題発表の内容と方法についての説明	9. 特任教授 講義7	2. 特任教授 講義1	10. 特任教授 講義8	3. 特任教授 講義2	11. 特任教授 講義9	4. 特任教授 講義3	12. 特任教授 講義10	5. 特任教授 講義4	13. 特任教授 講義11	6. 特任教授 講義5	14. 特任教授 講義12	7. 特任教授 講義6	15. まとめ	8. 前半の講義のまとめ	
1. 講義の目的と課題発表の内容と方法についての説明	9. 特任教授 講義7																	
2. 特任教授 講義1	10. 特任教授 講義8																	
3. 特任教授 講義2	11. 特任教授 講義9																	
4. 特任教授 講義3	12. 特任教授 講義10																	
5. 特任教授 講義4	13. 特任教授 講義11																	
6. 特任教授 講義5	14. 特任教授 講義12																	
7. 特任教授 講義6	15. まとめ																	
8. 前半の講義のまとめ																		
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメなどを配布する。 																		
<p>【参考図書・参考資料等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本経済新聞を読むこと。 ・ファイナンシャルタイムズやウォールストリートジャーナル等を読むこと 																		
<p>【授業外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にネットなどで特任教授の関わる企業について調べてから講義に参加すること。 																		
<p>【成績評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表する課題を評価する。(30%) ・毎回の講義についてのまとめと感想を評価する。(40%) ・講義での発言や講義への参加を評価する。(30%) 																		

科目名 特別講義Ⅱ シリコンバレーとイノベーション		担当者 黒田 豊
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 本講義は米国シリコンバレーで起業した企業経営者、黒田豊 特任教授が担当する。講義の形態として、講師が実際に講義室に来て実施する形と、米国からのビデオ通信による講義を織り交ぜながらおこなう。 今、もっとも必要とされているイノベーション。しかし、日本では、なかなかそれが進まない。では、世界のイノベーションのメッカといわれ、次々にイノベーションが起こっている米国シリコンバレーとは、どのようなところなのか。そこでは、イノベーションをどのようなものと捉え、どんなイノベーションが起こっているのか。シリコンバレーとイノベーションについて学ぶ		
【授業の概要】 本講座では、単なる理論的な話ではなく、実際にシリコンバレーでイノベーションを起こしている企業、イノベーションにより変革する世の中について、シリコンバレーの現場から、生の情報や分析をもとに講義し、ディスカッションを通して、これからの日本でイノベーションを起こすための指針とする。		
【到達目標】 1. シリコンバレーと、そこでのイノベーションについて説明できる。 2. イノベーションに重要なビジネス・イノベーションについて説明できる。 3. シリコンバレーでのイノベーション事例を説明できる。 4. 日本におけるイノベーションの課題を理解し、解決に向けた方策を考えられる。		
【授業計画】 1. コース概要説明, シリコンバレーとは 2. 技術イノベーションとビジネス・イノベーション 3. シリコンバレーから見たイノベーション・プロセス 4. SRIのイノベーション改革とスピンオフ・プログラム 5. アップルのイノベーション 6. ゲーゲルのイノベーション 7. クラウド・コンピューティング・イノベーション 8. ビッグデータ・イノベーション 9. インターネット・ビデオ配信イノベーション 10. シェアリング・エコノミー・イノベーション 11. ウェアラブル・デバイス, AI, 新しい技術で広がるイノベーション 12. イノベーション, 日本の課題 (1) 13. イノベーション, 日本の課題 (2) 14. イノベーション, 日本の課題 (3) 15. まとめ		
【テキスト】 なし		
【参考図書・参考資料等】 ・「シリコンバレーのコンサルタントから学ぶ, 成功するイノベーション」(黒田 豊, 幻冬舎) ・「なぜ日本企業のビジネスは, もったいないのか」(黒田 豊, 日本経済新聞出版社)		
【授業外学習】 毎回授業の最初に小テストを行うので, 前回授業で学んだことを復習しておくこと		
【成績評価の方法】 レポート30%, 授業中の小テスト70%, 授業ディスカッション参加度により加点あり		

科目名 消費者行動論Ⅰ		担当者 青山 允 隆
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 本講義では、消費者がなぜある種の商品を購入する（しない）のか、その行動の背後にある論理を、人々の心の中の動きに注目して説明していく。現実の購買時点では、様々な要因が絡み合って購買の意思決定が行われるが、本講義ではその一つ一つの要因を個別に分析していくことで消費者を理解するための枠組みを体得してもらうことを目的としている。</p>		
<p>【授業の概要】 授業計画を参照してほしい。人々が購買行動を採る際に実際に経る過程（ニーズを認識してから、選択肢をそろえ、評価し、実際に購買の場に赴き、買い物をしてからその買物を評価する）にそって講義を進めていく。またそうした具体的な購買過程のそれぞれの段階に関わる諸要因について取り扱う。</p>		
<p>【到達目標】 ・自分の買い物行動を客観視することができる。 ・消費者行動を体系的に理解し、「ほしい」と思わせる仕掛けを考えることができる。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（消費者行動論の概観） 2. 個人的影響要因 3. 個人的影響要因：パーソナリティとセルフイメージ 4. 消費者関与 5. 問題認識 6. 動機づけ 7. 情報収集 8. 学習 9. 消費者の知覚 10. 消費者の態度 11. 社会的要因 12. 選択肢の分類 13. 評価選択 14. 購買と購買後評価 15. ゲストスピーカー講演「インターネット時代の消費者行動と広告の在り方」 		
<p>【テキスト】 指定しない。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 平久保伸人『消費者行動論』ダイヤモンド社、ISBN: 4478502544</p>		
<p>【授業外学習】 小レポートに取り組む。</p>		
<p>【成績評価の方法】 期末試験（50％）と毎回課す小レポート（50％）で評価する。 ※小レポートはA4用紙で半分程度に収まる程度の難易度のものを15回毎回課す。具体的な評価方法や提出方法については初回ガイダンスで詳細に説明する。</p>		

科目名 商業学		担当者 青山 允 隆
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 本講義では、流通システムを構成する生産者や商業者が、お互いの関係をどのようにして調整しているのか、その結果として具体的にどのような流通システムが出来上がるのか、また、流通システムを取り巻く環境が流通システムの長期的な行く末に対してどのような影響を与えるのか、これらの流通動態に関わる問題をテーマとする。 なお、本講義では、1,2年次を対象として開講されている「商業学入門」で学ぶ概念が多用されているため「商業学入門」が履修済であることが望ましい。</p>		
<p>【授業の概要】 ・組織間のパワー関係・信頼関係について学び、それらの関係によって生じるいくつかの特徴的な流通システムについて学ぶ。 ・商業者の革新行動や法的な環境が流通システムにもたらす影響や、中小商業者問題などについて学ぶ。</p>		
<p>【到達目標】 ・流通の主要なコントロールメカニズムであるパワー関係、信頼関係を理解できる。 ・流通を取り巻く環境が流通システムにもたらす影響について理解できる。</p>		
<p>【授業計画】 1. ガイダンス 2. 商業における信頼関係 3. 商業におけるパワー関係 4. 生産者による流通系列化 5. 小売業者による製販統合 6. 小売業者によるPB開発 7. 商業における「関係」 8. 商業のイノベーション 9. 小売業におけるイノベーション 10. 卸売業におけるイノベーション 11. 中小商業問題 12. 流通政策 13. 商業における環境 14. コーヒー豆の流通システム (DVD学習) 15. 流通システムの動態</p>		
<p>【テキスト】 指定しない。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 自習しやすくするために以下の教科書の形式に則って講義を構成している。①を中心にすえ、②を補助として用いている。 ①高嶋克義『現代商業学 新版』有斐閣アルマ、ISBN:4641124647 ②矢作敏行『現代流通』有斐閣アルマ、ISBN:4641120145</p>		
<p>【授業外学習】 参考図書を読む。</p>		
<p>【成績評価の方法】 期末試験による。(100%)</p>		

科目名 マーケティングコミュニケーション		担当者 寺 前 俊 孝
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 企業のマーケティング活動を通じた顧客とのコミュニケーションのあり方について学び理解する。		
【授業の概要】 企業は、様々な製品・サービスを生産し販売しているが、それらを世の中に普及させていくために、企業は顧客に様々なアプローチからコミュニケーションをはかっていくことが必要である。本講義では、こうした企業と顧客をつなぐマーケティング・コミュニケーションの重要性を理解するとともに、マーケティング・コミュニケーション活動の意義について学ぶ。		
【到達目標】 マーケティング・コミュニケーションに関連した用語や概念について理解する。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. マーケティング・ミックスにおけるマーケティング・コミュニケーションの位置づけ 3. AIDMA 4. 4大メディアを活用した広告活動の変遷 5. 製品・サービスのコンセプトとマーケティング・コミュニケーション 6. 小売企業のマーケティング・コミュニケーション 7. 企業の海外展開とマーケティング・コミュニケーション 8. 高付加価値商品・サービスにおけるマーケティング・コミュニケーション 9. 地域産業（特産品）とマーケティング・コミュニケーション 10. ITとマーケティング・コミュニケーション 11. インターネット広告 12. 消費者参加型の製品開発（ユーザイノベーション） 13. ソーシャル・マーケティング 14. ビッグデータとマーケティング・コミュニケーション 15. 企業の存在意義とマーケティング・コミュニケーション，総括		
【テキスト】 特になし（講義の際に配布する資料をもとに行う）。		
【参考図書・参考資料等】 講義の際に適宜指示する。		
【授業外学習】 広告、店頭での陳列や店頭で流れるアナウンス、企業HP、普段の会話、あるいは学生諸君が普段スマートフォンなどの端末を使用して行う情報収集などのコミュニケーションを意識して行動する。さまざまな情報が買い物（買いたいモノ）にどう影響するのかに注意する。また、日頃から、新聞やインターネットのニュースサイトなどを通して企業のプロモーション活動に関する記事に目を向けること。		
【成績評価の方法】 定期試験70％，小レポート30％。 詳細については、初回の講義で説明する。		

科目名 観光人類学		担当者 八 卷 恵 子
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○ 講義で使用するパワーポイントはウェブクラスに掲載します。
【授業のテーマ】 本講義は、文化人類学や文明学で培われてきた人間社会についての考え方を基盤にしながら、観光にまつわる人々の行動や現象を、社会・文化的に理解しようというものである。人類は「食うがため」の旅を長く続けてきたが、近代化を通じて「余暇としての旅のための産業」が発達し、こんにちに至る。観光人類学のまなざしは、ゲスト（観光者）とホスト（観光地や観光関連産業の実践主体）の交流に着目し、観光現象や観光場面をとりあげて議論する。		
【授業の概要】 本講義は学外のフィールドワークを実施する。観光人類学は観光者（ゲスト）と観光地の人々（ホスト）との交流を通じて見られる観光における文化表象（観光資源、観光商品、伝統文化、食、みやげもの等々）についてとりあげて考察するものである。受講者は講義を聴いた後に観光者として観光体験を行い、フィールドワークを通じて観光現象を分析し、講義内で討議を行う。		
【到達目標】 観光のインパクト、文化の商品化、伝統の創造と文化の生成、オリエンタリズムと本質主義などを理解し、持続可能な発展、内発的観光開発を踏まえて、人々の行動変容に働きかける観光戦略を理解する。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 観光の戦略的定義 3. 「聖なる旅」と観光 4. 文化観光と民族問題 5. 観光文化と真正性（ブランド） 6. フィールドワーク計画1 7. フィールドワーク計画2 8. フィールドワークの実施 9. フィールドワークの実施 10. フィールドワークの実施 11. フィールドワークの実施 12. フィールドワークの実施 13. グループ討議 14. グループ報告 15. 持続可能な観光を目指して		
【テキスト】 適宜配布する。		
【参考図書・参考資料等】 橋本和也（2011）『観光経験の人類学－みやげものとガイドの「ものがたり」をめぐって－』世界思想社。 橋本和也（1999）『観光人類学の戦略－文化の売り方・売られ方』世界思想社。 真板昭夫・石森秀三他編（2011）『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。高橋一夫他編著（2010）『1からの観光』碩学舎、安村克己他編著『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房。		
【授業外学習】 Webclassを使った自宅学習については授業内で適宜指示する。		
【成績評価の方法】 フィールドワークの報告内容、レポート60%、実習態度、講義への背局的参加40%「		

科目名 サービス・マーケティング		担当者 野 本 明 成
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 サービスのマーケティングは製品のマーケティングと異なる部分があり、サービスの特性を考慮した独自のマーケティングが必要となります。そこで、授業ではサービスの特性およびサービスに特有のマーケティング戦略を学習します。		
【授業の概要】 サービスには、無形性、不可分性、変動性、消滅性という特性があり、それらの特性を理解するとともに、サービスのマーケティング・プロセス、およびマーケティング人材の育成について理解します。		
【到達目標】 具体的な事例を通して、自らサービス・マーケティング戦略の構築を目指します。 原則として、1年次履修科目の「マーケティング入門」および「マーケティングリサーチ入門」を受講したうえで、「サービス・マーケティング」を受講してください。また、「市場情報分析」および「ビジネス・シミュレーション」を受講するために本科目を受講していることが望ましい。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 経済のサービス化 3. サービスの定義 4. リレーションシップ・マーケティング（顧客維持戦略） 5. インターナル・マーケティング（優れたサービスを生み出すためには） 6. インタラクティブ・マーケティング（顧客がサービスと接するとき） 7. サービス商品の構造 8. サービス品質 9. サービス商品のプロモーション 10. 製造業にとってのサービス 11. サービス・イノベーション 12. サービス志向マネジメント 13. サービス・マーケティング実習（1） 14. サービス・マーケティング実習（2） 15. まとめ（サービス業の生産性向上） 		
【テキスト】 『サービス・マーケティング第2版』、近藤隆雄著、生産性出版。		
【参考図書・参考資料等】 『サービス・マーケティング入門』、P.R.フィスク著、小川孔輔監訳、法政大学出版局。 授業の中で資料を配布します。		
【授業外学習】 授業中に資料を配布しますので、よく読んで参考にしてください。また、経済新聞、経済雑誌等をよく読んで参考にしてください。		
【成績評価の方法】 定期試験（70%）、授業中に課すレポート（30%）。定期試験では授業内容についてどの程度理解しているかについて評価します。授業中に課すレポートでは与えられたテーマについてどの程度思考しているかについて評価します。		

科目名 新製品開発論		担当者 寺 前 俊 孝
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 新製品開発を取り巻く様々な要因だけでなく、新製品開発の難しさや奥深さについて理解する。		
[授業の概要] 毎年膨大な数の新製品が市場に出るが、その中で定番商品になるものは一握りであり、それらを継続的に作り出すことができる企業は多くない。本講義では、こうした製品開発を行なう上で理解しておかなければならない要因や用語、さらには市場競争について学ぶ。		
[到達目標] 新製品開発において理解しておかなければならない基礎知識だけでなく、新製品開発のプロセスを理解する。		
[授業計画] 1. イントロダクション 2. 事例にみる新製品開発1 3. 製品ライフサイクル 4. 外部環境分析 5. 顧客分析 (ターゲティングとセグメンテーション) 6. 新製品開発シミュレーション1 7. 新製品開発シミュレーション2 8. イノベーション (持続的イノベーション, 破壊的イノベーション, オープンイノベーション) 9. 事例にみる新製品開発2 10. 新製品開発シミュレーション3 11. 新製品開発シミュレーション4 12. 小テスト 13. 新製品開発と知的財産権 14. 製品開発と国際競争 15. 総括		
[テキスト] 特になし (講義の際に配布する資料をもとに行う)。		
[参考図書・参考資料等] 講義の際に適宜指示する。		
[授業外学習] 新製品開発に関するニュースや新聞・雑誌・インターネットなどの記事に日ごろから目を向けること。講義の際に配布した資料を見直し復習することとあわせて、必要に応じて新製品開発シミュレーションの準備をすること。		
[成績評価の方法] レポート30%, グループワーク30%, 小テスト20%, 小レポート20%。 詳細については、初回の講義で説明する。		

科目名 地域マーケティング論		担当者 加賀美 太記
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 20年にわたる日本経済の長期的な低迷は、東京や一部の大都市を除いた、地方に深刻な疲弊をもたらした。そうした中、地域経済の活性化、あるいは地域の諸問題を解決するため、『地域』のマーケティングに注目が集まっている。地域の特産品や地域名そのものをブランド化する取り組みや、地域に根差した中小企業によるマーケティングの取り組みなどが代表的な事例である。 本講義では、そうした地域の経済活性化、さらには社会問題の解決に向けたマーケティングの特徴を複数の事例を通じて検討する。 これらを通じて、現代の日本社会に通底する根本的な問題は何か、また地域経済の将来とその方向性について考えられるようになること、さらに地域のニーズをとらえビジネスとして展開するための手法を修得することを目標とする。		
【授業の概要】 本講義は大きく3つの内容に分かれる。 はじめに、現代社会における地域の抱える問題点や役割を、経済面や社会面など多様な側面から検討する。 第2に、そうした地域の活性化について、マーケティングの視角の確認と同時に独自の課題について検討する。 第3に、受講生が地域マーケティングの事例についてディスカッションと発表をおこない、問題点や解決方法について理解を深める。		
【到達目標】 ・現代社会において、地域が注目を集める理由について理解を深める。 ・マーケティングの技法を理解したうえで、地域における実践上の課題を理解する。		
【授業計画】 1. オリエンテーション-なぜ、「地域」のマーケティングが必要とされるのか？ 2. 地域を考える意味と視角（1）-日本経済と地域経済 3. 地域を考える意味と視角（2）-地域社会と人々のつながりの変化 4. マーケティングと地域マーケティング 5. ブランディングと地域ブランド 6. 地域マーケティング（1）-セグメンテーションの課題 7. 地域マーケティング（2）-ターゲティングとポジショニングの課題 8. 地域マーケティング（3）-製品政策の課題 9. 地域マーケティング（4）-価格政策の課題 10. 地域マーケティング（5）-流通チャネル政策の課題 11. 地域マーケティング（6）-プロモーション政策の課題 12. 地域マーケティングの実践の分析 13. 地域マーケティングを成功に導くためのディスカッション（1） 14. 地域マーケティングを成功に導くためのディスカッション（2） 15. 講義のまとめ		
【テキスト】 テキストは指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 参考資料は講義中に適宜紹介する。		
【授業外学習】 配布された講義資料に基づき、自習用の演習問題を例示するので復習をおこなう（15～30分程度）。また、グループごとに調査報告のための準備時間を自分たちで設けて、自主的に取り組むこと。		
【成績評価の方法】 定期試験：60%、グループ発表：40% で評価する。		

科目名 経済統計分析		担当者 長 畑 秀 和
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 家計や企業、官庁統計などの経済統計データの見方や考え方を培うとともに、統計手法を用いて分析し、その解釈を行ない、経済の状況を把握する力を身に付けることを目的とする。		
【授業の概要】 基本的な統計の考え方・データ処理の仕方を講義する。また、実際にフリーソフトRを用いたコンピュータによる実習も通して理解を深めていく。そのためソフトRの基本操作から使用方法を学ぶとともに、具体的にデータに基づいて解析した結果の見方・考え方を学び、実際に適用する力を身につける。		
【到達目標】 実際の解析にあたっては、フリーソフトであるRを用いて解析する。そのためソフトRの基本操作から使用方法を学ぶとともに、具体的にデータに基づいて解析した結果の見方・考え方を学び、実際に適用する力を身につけることを目的とする。更には、経済政策を立てることを目標とする。		
【授業計画】 1. 経済統計への導入 2. 経済データ解析のためのコンピュータ利用（フリーソフトR入門） 3. 統計学の基礎 1 4. 統計学の基礎 2 5. 確率と確率分布 1 6. 確率と確率分布 2 7. 検定と推定の考え方 1 8. 検定と推定の考え方 2 9. 1 標本における検定と推定 1 10. 1 標本における検定と推定 2 11. 2 標本における検定と推定 1 12. 2 標本における検定と推定 2 13. 相関分析と回帰分析 14. 経済データの解析例 15. 経済データの解析例とまとめ		
【テキスト】 長畑秀和他著、「Rコマンドで学ぶ統計学」、共立出版（2013年）、ISBN 978-4-320-11046-5		
【参考図書・参考資料等】 WEB上の総務省統計局等のデータ。長畑秀和著、「Rで学ぶ多変量解析」、朝倉書店（2017年）		
【授業外学習】 今回の授業計画で示している部分についてテキストを読んでおく。また実習で行なった解析を復習しておく。		
【成績評価の方法】 主に、レポートによる。さらに、授業への参画度を加味して評価する。		

科目名 価値開発工学論		担当者 林 俊 克
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ビジネスの根源となる「価値」を工学的に捉え、最適化・最大化するための知識と技術を身につける。		
【授業の概要】 企業現場での商品開発・情報開発の実践の中で独自に培った工学的な価値開発の手法について論説するとともに、実習を通じて基礎的な活用技術を習得する。		
【到達目標】 価値開発の工学的方法を理解し、実際の商品開発・情報開発に活用できるようになる。		
【授業計画】 1. 第1回 オリエンテーション, 価値とは (講義) 2. 第2回 良いモノが売れない理由 (講義) 3. 第3回 創造性と潜在ニーズ適合性 (講義) 4. 第4回 潜在ニーズを把握する技術: 連想法 (講義) 5. 第5回 実習: 連想法による潜在ニーズの把握 (講義と実習) 6. 第6回 潜在ニーズを把握する技術: 定義法 (講義) 7. 第7回 実習: 定義法による潜在ニーズの把握 (講義と実習) 8. 第8回 潜在ニーズを把握する技術: 文章完成法 (講義) 9. 第9回 実習: 文章完成法による潜在ニーズの把握 (講義と実習) 10. 第10回 潜在ニーズを把握する技術: 高感度差異抽出法 (講義) 11. 第11回 実習: 高感度差異抽出法による潜在ニーズの把握 (講義と実習) 12. 第12回 潜在ニーズを把握する技術: 配置法 (講義) 13. 第13回 実習: 配置法による潜在ニーズの把握 (講義と実習) 14. 第14回 実習: 開発企画立案, 企画書作成 (講義と実習) 15. 第15回 実習: 企画プレゼンテーション, まとめ (講義と実習)		
【テキスト】 担当教員が都度レジュメを配布する (原則WEBCLASSにて配布)		
【参考図書・参考資料等】 魅力工学の実践—ヒット商品を生み出すアプローチ 朝野 熙彦 (2001) わかりやすい意思決定論入門—基礎からファジィ理論まで 木下 栄蔵 (1996/2) JMPによる統計解析入門 田久 浩志, 小島 隆矢, 林 俊克 (2006/12) Excelで学ぶテキストマイニング入門 林 俊克 (2002/10)		
【授業外学習】 毎回の授業・実習に関連した簡単な課題 (所要時間30分以内を想定)		
【成績評価の方法】 各回の授業態度と課題提出 (原則WEBCLASSから回答): 60% 企画書の内容: 20% 企画プレゼンテーションの評価: 20%		

科目名 ビジネス・プランニング		担当者 林 俊 克
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] ビジネス・プランニングについての実践的な技術を理解する。		
[授業の概要] 社会調査データや官庁統計、ビジネス現場でのアンケート等を用いながら、ビジネスチャンス进行分析し、ビジネスモデルを立案の後、適切な調査設計を行い、調査を通じて仮説検証を行うプロセスを実習を交えて修得する。		
[到達目標] ビジネスプランニングの考え方と方法を理解し、自身の生活やビジネスに活用することができるようになる。		
[授業計画] 1. ビジネス・プランニングとは 2. ビジネスモデルの可視化 (ビジネスモデル・キャンパス) 3. ビジネスモデルの可視化 (ビジネスモデル・キャンパス) 4. ビジネスモデルの可視化 (ピクト図解) 5. ビジネスモデルの可視化 (ピクト図解) 6. ビジネスモデルの可視化 (損益計算書) 7. 市場調査 (調査目的と調査方法) 8. 市場調査 (調査方法の決め方) 9. 市場調査 (調査企画と設計) 10. 市場調査 (仮説構成) 11. 市場調査 (全数調査と標本調査, 標本数と誤差) 12. 市場調査 (サンプリングの諸方法, 無作為抽出) 13. 市場調査 (質問文・調査票の作り方) 14. 市場調査 (調査の実施方法) 15. 市場調査 (調査データの整理)		
[テキスト] 担当教員が都度レジュメを配布する。(原則WEBCLASSにて配布)		
[参考図書・参考資料等] ええ、会議が楽しいですが、なにか 林俊克 (2015) ビジネスモデル・ジェネレーション アレックス・オスターワルダー (著), イヴ・ピニユール (著), 小山龍介 (翻訳) (2012/2) ビジネスモデルを見える化するピクト図解 板橋 悟 (2010/2) マーケティング原理 第9版—基礎理論から実践戦略まで フィリップ コトラー, ゲイリー アームストロング (2003/3) JMPによる統計解析入門 田久 浩志, 小島 隆矢, 林 俊克 (2006/12) Excelで学ぶテキストマイニング入門 林 俊克 (2002/10)		
[授業外学習] 毎回の授業・実習に関連した簡単なレポート (作成所要時間30分以内を想定) の作成・提出。		
[成績評価の方法] 各回の授業態度と課題提出 (原則WEBCLASSから回答) : 60% 期末試験 : 40%		

科目名 市場情報分析		担当者 野 本 明 成
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 社会現象の背後に存在する複雑な因果構造を見極め、その意味を実践的に解釈するために、量的データの統計分析の応用方法（多変量解析）を学習します。多変量解析は3つ以上の変数間の関連や因果の構造を明らかにする統計的手法の総称であり、分析目的や扱う変数の種類に応じて様々なものが存在します。</p>		
<p>【授業の概要】 市場情報分析は客観的なデータと論理に基づいて市場を捉えることを目的としており、それは経営意思決定を支援するとともに、その精度を上げるためである。そのための方法としての重回帰分析、分散分析、ログリニア分析等を理解し習得することを目指します。</p>		
<p>【到達目標】 具体的な事例を通して、データ収集、多変量分析を行い、分析の過程の理解と習得を目指します。「社会の複雑な現象を理解し、分析し、自ら解決できること」を目指します。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な考え方①：関連と因果，統制変数 2. 基本的な考え方②：三元クロス表の分析 3. 基本的な考え方③：偏相関係数 4. 重回帰分析①：モデルの概要 5. 重回帰分析②：決定係数と偏回帰係数の検定 6. 重回帰分析③：標準化回帰係数と多重共線性 7. 分散分析 8. ログリニア分析 9. 数量化Ⅲ類（対応分析） 10. 因子分析 11. 多次元尺度構成法 12. コンジョイント分析 13. 実習（重回帰分析①） 14. 実習（重回帰分析②） 15. まとめ 		
<p>【テキスト】 『社会調査の応用 量的調査編：社会調査士E・G科目対応』金井雅之，小林盾，渡邊大輔編著，弘文堂。（ISBN:978-4-335-55151-2）</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 『すぐに使えるEXCELによる分散分析と回帰分析』内田治著，東京図書。 『EXCELで学ぶ多変量解析入門』菅民郎著，オーム社。 『マーケティングリサーチハンドブック』酒井隆著，日本能率協会マネジメントセンター。</p>		
<p>【授業外学習】 授業中に資料を配布しますので、よく読んで参考にしてください。</p>		
<p>【成績評価の方法】 定期試験（50%），小レポート（50%）</p>		

科目名 農村調査		担当者 谷口憲治																														
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○																														
【授業のテーマ】 わが国の農業・農村経済の実情を農家経済・農村地域の実態調査を行うことにより把握する。農業・農村を把握する方法は、食料・農業・農村という農業の多面的価値を明らかにする視点に立つて行う。農村は地域特性が強く表れるので、全国・県・市町村の中の位置付け特性を把握して行う。																																
【授業の概要】 ①対象調査地に関する既存の資料収集とその考察、②対象地域の農家・農業団体・行政・非農業産業・農村地域生活・伝統行事および観光資源についての調査用紙作成、③対象地域での農村実態調査と地域諸団体との交流、④調査結果の解析、⑤調査結果の報告と報告集の作成を行う。なお、事前調査による作業仮説の作成、農村実態調査、事後調査結果の解析については、②に示した対象別に学生をグループ分けし、グループごとのまとめ、提案をさせ、それに対する質疑応答を全員で行い調査内容を深めていく。																																
【到達目標】 事前統計資料収集解析、農家調査と分野別調査、調査データ打ち込み・解析・まとめ・発表・報告書作りを行う																																
【授業計画】 <table border="0"> <tr> <td>1. 食料・農業・農村の実情と農村調査の必要性</td> <td>16. フィールド実態調査⑥</td> </tr> <tr> <td>2. 日本食料・農業・農村の国際比較</td> <td>17. フィールド実態調査⑦</td> </tr> <tr> <td>3. 日本食料・農業・農村の国内比較</td> <td>18. フィールド実態調査⑧</td> </tr> <tr> <td>4. 岡山県食料・農業・農村の市町村比較</td> <td>19. フィールド実態調査⑨</td> </tr> <tr> <td>5. 調査農村の農家・農地・農産物の特質</td> <td>20. フィールド実態調査⑩</td> </tr> <tr> <td>6. 調査農村の農業関連団体・行政・非農業企業の特質</td> <td>21. フィールド実態調査⑪</td> </tr> <tr> <td>7. 調査農村の観光資源・伝統文化の特質</td> <td>22. フィールド実態調査⑫</td> </tr> <tr> <td>8. テーマ別農村調査票の検討</td> <td>23. フィールド実態調査⑬</td> </tr> <tr> <td>9. テーマ別農村調査票の作成</td> <td>24. フィールド実態調査⑭</td> </tr> <tr> <td>10. 農家経営調査票の完成</td> <td>25. フィールド実態調査⑮</td> </tr> <tr> <td>11. フィールド実態調査①</td> <td>26. 農村調査結果入力</td> </tr> <tr> <td>12. フィールド実態調査②</td> <td>27. 農村調査結果単純集計</td> </tr> <tr> <td>13. フィールド実態調査③</td> <td>28. 農村調査結果クロス分析</td> </tr> <tr> <td>14. フィールド実態調査④</td> <td>29. 農村調査結果報告書作成</td> </tr> <tr> <td>15. フィールド実態調査⑤</td> <td>30. 農村調査結果報告書完成・配布</td> </tr> </table>			1. 食料・農業・農村の実情と農村調査の必要性	16. フィールド実態調査⑥	2. 日本食料・農業・農村の国際比較	17. フィールド実態調査⑦	3. 日本食料・農業・農村の国内比較	18. フィールド実態調査⑧	4. 岡山県食料・農業・農村の市町村比較	19. フィールド実態調査⑨	5. 調査農村の農家・農地・農産物の特質	20. フィールド実態調査⑩	6. 調査農村の農業関連団体・行政・非農業企業の特質	21. フィールド実態調査⑪	7. 調査農村の観光資源・伝統文化の特質	22. フィールド実態調査⑫	8. テーマ別農村調査票の検討	23. フィールド実態調査⑬	9. テーマ別農村調査票の作成	24. フィールド実態調査⑭	10. 農家経営調査票の完成	25. フィールド実態調査⑮	11. フィールド実態調査①	26. 農村調査結果入力	12. フィールド実態調査②	27. 農村調査結果単純集計	13. フィールド実態調査③	28. 農村調査結果クロス分析	14. フィールド実態調査④	29. 農村調査結果報告書作成	15. フィールド実態調査⑤	30. 農村調査結果報告書完成・配布
1. 食料・農業・農村の実情と農村調査の必要性	16. フィールド実態調査⑥																															
2. 日本食料・農業・農村の国際比較	17. フィールド実態調査⑦																															
3. 日本食料・農業・農村の国内比較	18. フィールド実態調査⑧																															
4. 岡山県食料・農業・農村の市町村比較	19. フィールド実態調査⑨																															
5. 調査農村の農家・農地・農産物の特質	20. フィールド実態調査⑩																															
6. 調査農村の農業関連団体・行政・非農業企業の特質	21. フィールド実態調査⑪																															
7. 調査農村の観光資源・伝統文化の特質	22. フィールド実態調査⑫																															
8. テーマ別農村調査票の検討	23. フィールド実態調査⑬																															
9. テーマ別農村調査票の作成	24. フィールド実態調査⑭																															
10. 農家経営調査票の完成	25. フィールド実態調査⑮																															
11. フィールド実態調査①	26. 農村調査結果入力																															
12. フィールド実態調査②	27. 農村調査結果単純集計																															
13. フィールド実態調査③	28. 農村調査結果クロス分析																															
14. フィールド実態調査④	29. 農村調査結果報告書作成																															
15. フィールド実態調査⑤	30. 農村調査結果報告書完成・配布																															
【テキスト】 金井雅之・小林盾・渡邊大輔『社会調査の応用』弘文堂、ISBN-13: 978-43355151																																
【参考図書・参考資料等】 農林水産省編『平成29年版食料・農業・農村白書』農林統計協会、農林水産省『農林業センサス』2010年、農林水産省『農業集落カード』2010年、谷口憲治『中山間地域農村経営論』農林統計出版、2009年																																
【授業外学習】 食料・農業・農村の実情について新聞記事、各メディアの情報を学修する。																																
【成績評価の方法】 ①個別担当部分の発表内容、②調査票作成・③実態調査における役割・④調査集計と⑤分析への関与度合いの報告書、⑥農村調査実体験報告書、⑦調査農村の現状と課題報告書について①20点、②から⑤40点、⑥10点、⑦30点																																

科目名 経営戦略論 I		担当者 江 向 華
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム
【授業のテーマ】 経営戦略の基本的な知識や基礎理論を中心に、経営戦略とは何か、経営戦略論の歴史からスタートして、企業の多角化戦略、国際化の戦略、戦略的提携等をテーマに多方面に学習します。		
【授業の概要】 経営戦略論は、企業の外部のマネジメントの問題を扱う科目である。講義では、事業戦略と企業戦略に分けて、前半はより理論的な視点から学習していき、後半はより理解を深めるために事例を多く用いる。		
【到達目標】 この講義では、経営戦略理論を学び、さらに事例を用いて理解を深めることを目標にする。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 経営戦略とは何か 3. 企業の競争戦略 4. 経営資源展開の戦略 5. 主要戦略理論のまとめ 6. 企業の多角化戦略 7. 多角化戦略と経営資源 8. 多角化戦略の組織体制 9. 国際化の戦略① 10. 国際化の戦略② 11. 戦略的提携① 12. 戦略的提携② 13. 経営戦略と組織文化 14. 経営戦略のパラダイム 15. 講義のまとめ		
【テキスト】 特に指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 開講時に指示する。		
【授業外学習】 授業中は不定期に小テストを実施するので、復習をしておくこと。		
【成績評価の方法】 期末試験（100%）。合格点に達していない場合は平常点（出席、小テスト、レポート）を加味する。		

科目名 経営組織論Ⅰ		担当者 三 浦 紗綾子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 組織理論には大別すると①個人，②集団，③組織全体の3つのレベルがある。本講義ではそのうち組織全体レベルの組織論を扱う。</p>		
<p>【授業の概要】 組織の目標を達成するためには，人々はどのように分業・調整を行えば良いかを理解する必要がある。これらの基本的概念を説明し，組織を設計するための基本的な考え方を解説する。</p>		
<p>【到達目標】 本講義の到達目標は，①理論を理解し，②その理論的枠組みを利用して現実の企業・経営現象について説明できるようになることである。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：組織とは何か 2. 組織形態の基本型 3. コンティンジェンシー理論 4. 分業の種類 5. 分業のメリット・デメリット 6. 事前の調整：標準化① 7. 事前の調整：標準化② 8. ワークフロー，プロセスの改善 9. 事後の調整：ヒエラルキー 10. 事後の調整：ヒエラルキーへの追加的措置 11. 事後の調整：水平関係の創設 12. 調整手段に関するまとめ 13. グループワーク：映像資料に基づいたディスカッション 14. グループワーク：グループ・ディスカッションの成果発表 15. 文献資料に基づいたディスカッション 		
<p>【テキスト】 特になし</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 沼上幹（2004）『組織デザイン』日本経済新聞社。 その他は講義中に適宜示す。</p>		
<p>【授業外学習】 習った理論で身の周りのことを考えてみること。 不定期に小テストを行うので復習しておくこと。 グループ・ディスカッションの課題について授業中で終わらない場合には，その作業も必要である。</p>		
<p>【成績評価の方法】 小テスト（不定期）：40%，期末テスト：60%，合計100%</p>		

科目名 技術戦略論		担当者 三 枝 省 三
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 技術が企業活動の方向を決め、技術が速度を決める時代になっている。高度技術社会における企業と研究開発の中身を知ることで、これからの経営の方向性を確かなものにする必要がある。そのため技術的な側面での経営に関するの基礎知識を習得する		
【授業の概要】 現在における技術の社会的な位置付けを明確にするとともに、高度技術を経営に活かす重要性を認識する。技術は直接製品化する場合とツールとして使う場合があるが、いずれの場合においても戦略的に活用する考え方が必要である。それは企業戦略にリンクして立案されるべき技術戦略であり、長期ビジョンとしてのロードマップと具体的な開発計画とそのプロセスに言及する		
【到達目標】 1) 技術の社会に対する認識を得る 2) 企業における技術の大切さと企業戦略における位置付けを知る 3) 上記の事柄を技術戦略事例から具体的に技術の活用方法と企業の戦略へのシナリオを討議の中から考察する（考察する能力を養う）		
【授業計画】 1. ガイダンス, MOT, 技術戦略とは 2. 企業の求める人材像 3. 技術と科学の違いと協働 4. 企業戦略について, 現代社会の変化と企業戦略 5. 企業戦略から技術戦略へ 6. 高度技術社会における技術の位置付け 7. 高度技術社会における技術の戦略化 8. 技術戦略事例: 具体的な事例をもとにより現実的な状況を仮想体験する 9. 事例討議: 先週の事例の深掘りをグループ討議, クラス討議で実施する 10. 技術マーケティング 11. ロードマップの実際: ロードマップとは, 戦略の中にどのように位置付けされているか何かを知る。 12. 研究開発プロセス その1: 技術戦略を具現化した研究開発のプロセス 13. 研究開発プロセス その2: 研究開発におけるマネジメント概略 14. 「未来の生活/ビジネス」報告会 15. まとめ		
【テキスト】 下記参考文献（購入の必要なし, 教材はパワーポイントを印刷して提供する）		
【参考図書・参考資料等】 丹波清, 「技術経営論」, 東京大学出版会（2008） 野中郁次郎/徳岡晃一郎, 「ビジネスモデル・イノベーション」, 東洋経済新報社（2012）		
【授業外学習】 「未来の生活/ビジネス」を作成し, 第14授業で発表する。その準備には, 日ごろから「こんなものがあれば, できればいいな」というものを考えて下さい。その一行を, アイデアマラソンのノートの中に記述しておき, 後で抜き出せば出来上がります。		
【成績評価の方法】 講義の積極的参加（30%）+ 課題（レポート, プレゼン, テスト）（70%）の総合評価		

科目名 プロジェクト・マネジメント		担当者 三 枝 省 三
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 実社会での仕事の進め方は3つある。第1に定型作業として毎日こなすことと、第2にここで取り上げる、内容・目標・期限を決めて実践するプロジェクトがある。第3には毎日が非定型作業の連続で創造的な活動である。第2の活動が本科目の対象であり、複数のスタッフが協力して課題解決にあたる。このプロジェクトの方法論を知ること、課題を論理的にも効率よくこなす方法を身に付けることをテーマとする。局部最適化は避けなければならない大きな課題であることを実習を通して学習する。		
【授業の概要】 地域における課題を抽出し、プロジェクトとして課題解決への提案書を纏めあげる。そして、プレゼンすることで、自分たちの可能性を広げる。また、これら一連の作業を通じて基本的なプロジェクトマネジメントの知識とスキルを習得する。地域課題には地方自治体とか企業体からの連携をすることで実際に発生している課題を提示し、それらを吟味することで実施への可能性を審査するまで実施する。これらから、課題の掘り起しから達成までのプロセスを学ぶことが可能となる。関連機関との連携で現場に即した課題解決力の向上が可能となる。これをプロジェクトベースラーニング (PBL) として実施する。具体的な課題は目標に記載する。		
【到達目標】 本年度の連携機関は地元岡山県玉野市にあるNPO (UNOICHI) である。ここでのプロジェクト目標は、「小さくても新しいグッズや体験型商品の開発と販売」など一連の★「起業活動を計画的に試行」★することである。単にアイデアを出して終わる従来型のPBLではなく、本年度は実際の売り上げまで計画に入れて自分たちでそれを実証 (起業成功) までを目標とする。と同時に、プロジェクトで実行するので、どの様にプロジェクトを進めればいいのか、リーダーシップが習得可能である。またプロセスを実行するなかで、起業家精神を現実的なものとして身に付く。		
【授業計画】 1. 導入：プロジェクトマネジメントとは、基礎知識総復習、PBL授業の進め方 2. 課題の提示 (と説明、関連データの提示、調査方法) 3. 起業プロジェクトのスコープ (仕事の範囲) の決定と対象機関/市場分析、アイデア出しと方針決定 4. 活動計画書 (WBSと作業分担) と現地調査内容に関する中間報告会その1 5. 現地活動 (1) フィールド調査、インタビュー、課題の確認と深堀り 6. 現地活動 (1) フィールド調査、インタビュー、課題の確認と深堀り続き 7. 課題解決案出し：調査結果を (KJ法などを活用して) まとめ、起業アイデアの絞り込みと売り上げ計画立案、電子マーケティング 8. プロモーション用チラシ/HP/SNSでの調査、ビデオの作成 9. 同上と実際への試行 10. 実施に向けた実現可能性吟味、費用推定、活動計画提示プレゼン、中間報告会2 11. 現地活動 (2) 実際のビジネス活動 12. 現地活動 (2) 実際のビジネス活動の続き 13. プレゼン、報告書の作成 14. プレゼンと活動レビュー、残された課題の提示 15. 総合討論とまとめ		
【テキスト】 参考文献1) 2) は優しく記述されている。 可能な限り文献2) は購入し一読を強くお願いしたい。		
【参考図書・参考資料等】 1) 中島秀隆, 「図解PMコース2 プロジェクトマネジメント実践編 (第2版)」, 総合法令出版 (2013) ----PMを優しく記載している。安いので強く購入を薦める。 2) 三枝省三・竹本拓也, 「アントレプレナーシップ教科書」, 中央経済社 (2016) ----ビジネスプランを作成する時必ず必要となる知識を纏めている。またビジネス全体についても分かりやすい記載をしている。一読を薦める。		
【授業外学習】 第5回と第6回、第11回と第12回は連続して実施するものとする。即ち、次の週は休講とする。 現地に行って調査とビジネス活動をするので、場所と時間帯は決定次第連絡する。起業の内容如何であるが、旅行者の多い土曜日とか休日を予定している。移動はバスを手配する。		
【成績評価の方法】 積極的講義への参加 (30%), 課題 (70%) グループワークがほとんどである。最初グループを決めたら原則的に最後まで通すこととする。休むとチームメイトに迷惑が掛かることになるので、積極的に参加のこと。都合とか病気で休む場合は事前に教員とグループメンバーに連絡のこと		

科目名 リーダーシップ論		担当者 杉山 慎 策
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ・基本的なリーダーシップ理論を学ぶ。 ・岡山の優れたリーダー達について学ぶ。 ・現代社会が必要とするリーダーシップのあり方を議論する。		
【授業の概要】 ・主要なリーダーシップ論を学ぶ。 ・岡山が生み出したリーダー達の生き方やリーダーシップのあり方を学ぶ。		
【到達目標】 ・主要なリーダーシップ理論を理解する。 ・岡山のリーダー達の生き方や地域への貢献を理解する。 ・これからのリーダーシップのあり方を考える。		
【授業計画】 1. 本講義の目的：リーダーとマネージャーの違い 2. リーダーシップ特性論 3. リーダーシップ行動論 4. サーバントリーダーシップ論 5. カリスマ的リーダーシップ論 6. 変革的リーダーシップ論 7. ビジヨナリーリーダーシップ論 8. 社会的責任とリーダーシップ論 9. リーダーシップの必要性 10. 岡山のリーダー：野崎 武左衛門 11. 岡山のリーダー：山田 方谷 12. 岡山のリーダー：緒方 洪庵 13. 岡山のリーダー：磯野 計 14. 岡山のリーダー：大原 孫三郎 15. まとめ		
【テキスト】 ・レジュメを配布する ・『リーダーシップ理論集中講義』小野善生著 日本実業出版社 ISBN 9784534050342		
【参考図書・参考資料等】 ・『サーバントリーダーシップ』ロバート・K・グリーンリーフ著 金井壽宏 金井真弓訳 英治出版 ISBN 9784862760401		
【授業外学習】 ・与えられた課題をパワーポイントにまとめて発表すること。 ・テキストや参考文献を予習すること。 ・日本経済新聞、ファイナンシャルタイムズやウォールストリートジャーナルなどを読むこと。		
【成績評価の方法】 毎回の課題発表（40%）、講義への参加と発言（20%）、確認テスト（40%）		

科目名 導入ゼミナール I		担当者 経営学科全教員
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 導入ゼミナール I では、大学生としての基本的な勉強の方法を学ぶ。具体的には、「読む」「調べる」「書く」といった基本作法について学ぶ。与えられた課題を正確に読み、不明点については適切な方法で調べ、正しい日本語文法を用いて自分の意見を書くことができるようになることが本演習の目的である。		
【授業の概要】 大学においては、主体的に学び考えることが求められる。このような主体的な学修を行うにあたって必要となる基本的な作法について、演習方式で学ぶ。担当教員が指定するテキストをベースに、丹念に輪読を行いながら、必要な技能を身につける。		
【到達目標】 学術的な読書ができるようになること。様々な調査方法を知り、それらを使いこなすことができるようになること。正しい日本語文法で文章が書けるようになること。正しい形式でレポートを作成できるようになること。		
【授業計画】 1. 大学生生活入門 2. 大学の授業 3. アカデミック・スキルズとは (テキスト第 1 章) 4. 講義を聴いてノートを取る (テキスト第 2 章) 5. 本を読む (テキスト第 4 章) 6. 研究成果の発表 (テキスト第 6・7 章) 7. 論文・レポートをまとめる (テキスト第 8 章) 8. 図書館絵の実務研修 9. グループワーク① 10. グループワーク② 11. グループワーク③ 12. グループワーク④ 13. グループワーク⑤ 14. グループワーク⑥ 15. まとめ		
【テキスト】 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦編『アカデミック・スキルズー大学生のための知的技法入門ー』(第 2 版) 慶応義塾大学出版会, 2012年 I S B N 978-4-7664-1960-3		
【参考図書・参考資料等】 毎回の授業の前までに前回の授業で指定された課題を行い、必要に応じて教員と受講者全員に配布できるようにプリントアウトして講義に持参すること。		
【授業外学習】 授業中適宜提示する。		
【成績評価の方法】 授業態度や授業への貢献度を見て総合的に判断する。 ※担当者によって成績評価の方法は異なるので注意すること。		

科目名 導入ゼミナールⅡ		担当者 経営学科全教員
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 導入ゼミナールⅡでは基本的な議論の方法について学ぶ。自分自身の主張や意見を明確にする手法を学び、各自の意見を発表しあう中で、他者と自分自身の意見がどのように違っているのかを分析・整理し、他者を説得させるためにはどのようなエビデンスが必要であるのかを考え、議論できるようになることが本演習の目的である。		
【授業の概要】 少人数の演習形式で、様々な意見を正面から戦わせ、妥協や問題回避ではなく、深く議論を進めることによって1つの結論を導く訓練を行う。		
【到達目標】 クリティカル・シンキングを身につけること。ロジカル・ライティングを身につけること。効果的なプレゼンテーションの手法を身につけること。ディベートのスキルを身につけること。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. クリティカル・シンキング① 3. クリティカル・シンキング② 4. クリティカル・シンキング③ 5. クリティカル・シンキング④ 6. ロジカル・ライティング① 7. ロジカル・ライティング② 8. ロジカル・ライティング③ 9. ロジカル・ライティング④ 10. プレゼンテーション・スキル① 11. プレゼンテーション・スキル② 12. プレゼンテーション・スキル③ 13. プレゼンテーション・スキル④ 14. ディベート① 15. ディベート②		
【テキスト】 初回の授業で指定する。		
【参考図書・参考資料等】 毎回の授業の前までに前回の授業で指定された課題を行い、必要に応じて教員と受講者全員に配布できるようにプリントアウトして講義に持参すること。		
【授業外学習】 授業中適宜提示する。		
【成績評価の方法】 授業態度や授業への貢献度を見て総合的に判断する。 ※担当者によって成績評価は異なるので注意すること。		

科目名 専門ゼミナールⅠ		担当者 経営学科全教員
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 経営学部の長期インターンシップや留学プログラムは半期に渡って行われるものであり、派遣先企業や留学先大学に多大なご協力を頂いて実現されるものである。インターンシップや留学が皆さんにとって実り多いものとなり、派遣先企業にご迷惑をかけたり、現地でトラブルに見舞われたりしないために、この授業では事前準備を行う。		
【授業の概要】 この授業は、後期に行う長期インターンシップならびに留学プログラムの事前準備を行うためのものである。 【RBMコース、長期インターンシップ派遣学生】 事前準備として、派遣先の企業を研究したり、社会人としてのマナーを身につける。教員もサポートするが、実習先へのコンタクトや事務手続きは、学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。 【GBMコース、留学プログラム派遣学生】 事前準備として、派遣先国・地域・大学を研究したり、異文化での生活に適応するための方法を学ぶ。教員もサポートするが、実習先へのコンタクトや事務手続きは、学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。		
【到達目標】 【RBMコース、長期インターンシップ派遣学生】 ①インターンシップの意義を理解する、②実習先企業と業界の概要を理解する、③社会人としてのマナーを身につける、④学生モードから社会人モードへの切り替えを図る、の4つを到達目標とする。 【GBMコース、留学プログラム派遣学生】 ①海外留学の意義を理解する、②留学先大学・地域・国の概要を理解する、③異文化での生活に適応するための方法を身につける、④留学に必要な書類をすべて揃えて提出する、の4つを到達目標とする。		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 履歴書・Application作成Ⅰ 3. 履歴書・Application作成Ⅱ 4. 業界研究・派遣先国研究Ⅰ 5. 業界研究・派遣先国研究Ⅱ 6. 業界研究・派遣先国研究Ⅲ 7. 業界研究・派遣先国研究Ⅳ 8. 業界研究・派遣先国研究Ⅴ 9. 自主課題の設定と調査Ⅰ 10. 自主課題の設定と調査Ⅱ 11. 自主課題の設定と調査Ⅲ 12. 自主課題の設定と調査Ⅳ 13. 自主課題の設定と調査Ⅴ 14. 業界研究・派遣先国研究および自主課題に関するまとめ 15. 実習スケジュールの確認		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 派遣先によって参考図書・資料は異なる。詳細は、別紙にて配布予定である。		
【授業外学習】 両コースとも共通して、業界研究や派遣先国研究、自主課題の設定と調査に当たっては、自主的に図書館やウェブ等で情報収集し、レポートをまとめる必要がある。また、事前準備講座(月・3限)と夏季プロジェクトマネジメントへの出席も必須とする。 【RBMコース、長期インターンシップ派遣学生】 授業の時間外で、派遣先企業と連絡を取ったり、実際に訪問してご挨拶をする。 【GBMコース、留学プログラム派遣学生】 授業の時間外で、英語(または現地の言葉)で派遣先大学と連絡をとったりすることもある。		
【成績評価の方法】 成績評価は、授業態度や授業への参加度を総合的に評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅡ		担当者 経営学科全教員
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 長期インターンシップでは、繰り返しPDCAサイクルを回していくことによって、大きな自己成長の機会が与えられている。この授業は、目的意識や問題意識を明確にし (Plan)、派遣先企業で実際に業務を実践し (Do)、実践したことを振り返り (Check)、振り返りを踏まえて次の業務につなげる (Act) ための指導を行う。		
【授業の概要】 この授業は、並行して行われる長期インターンシップの実習状況を確認し、効果的なインターンシップを行うための指導を行うものである。また、長期インターンシップの成績評価にかかわる課題レポートⅠ～Ⅳと長期インターンシップ報告書の執筆のための指導を行う。		
【到達目標】 ①PDCAサイクルを意識して行動する、②課題レポートⅠ～Ⅳを完成させる、③長期インターンシップ報告書を完成させる、の3つを到達目標とする。		
【授業計画】 1. ガイダンス&課題レポートⅠの確認 2. 実習状況の確認と指導① (ウィークリーレポート：以下WR) 3. 実習状況の確認と指導② (WR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 4. 実習状況の確認と指導③ (WR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 5. 実習状況の確認と指導④ (WR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 6. 実習状況の確認と指導⑤ (WR&マンスリーレポート：以下MR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 7. 実習状況の確認と指導⑥ (WR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 8. 実習状況の確認と指導⑦ (WR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 9. 実習状況の確認と指導⑧ (WR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 10. 実習状況の確認と指導⑨ (WR&MR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 11. 実習状況の確認と指導⑩ (WR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 12. 実習状況の確認と指導⑪ (WR&課題レポートⅡ・Ⅲ) 13. 実習状況の確認と指導⑫ (WR&課題レポートⅣ・長期インターンシップ報告書) 14. 実習状況の確認と指導⑬ (WR&課題レポートⅣ・長期インターンシップ報告書) 15. お礼状の書き方・実習状況の確認と指導⑭ (WR&MR&課題レポートⅣ&長期インターンシップ報告書)		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 授業の中で適宜指導する。		
【授業外学習】 長期インターンシップの実習状況を確認するために、ウィークリーレポートやマンスリーレポートを事前に作成してゼミに持参する必要がある。		
【成績評価の方法】 成績評価は、授業態度や授業への参加度を総合的に評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅢa (青山)		担当者 青 山 允 隆
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 企業間関係に関する理論的な検討及びケーススタディを行う。 キーワード：商業，流通システム，チャネル戦略，ビジネスモデル，企業間関係，戦略的提携，産業財流通，イノベーション，市場志向性		
【授業の概要】 三年次，四年次を通してゼミに所属することを前提として講義を構成している。 1. 三年次前期：関連文献の輪読 2. 三年次後期：専門的な調査 3. 四年次：卒業論文執筆 本講義は1にあたる。		
【到達目標】 ・大学時代に専門的に学んだこととして「企業間関係について学んだ」と胸を張って言えるようになる。 ・同業者間の水平的な競争だけでなく，垂直的な利益の奪い合いという物の見方を身に着ける ・卒業研究を進めるにあたって必要となる，資料や関連文献の精読・編集スキルを身に着ける ・卒業論文のテーマについて，大まかにどの議論に位置づけられる話を追いかけていこうとするのか決めることができる。		
【授業計画】 1. 関連文献の輪読 2. 関連文献の輪読 3. 関連文献の輪読 4. 関連文献の輪読 5. 関連文献の輪読 6. 関連文献の輪読 7. 関連文献の輪読 8. 関連文献の輪読 9. 関連文献の輪読 10. 関連文献の輪読 11. 関連文献の輪読 12. 関連文献の輪読 13. 関連文献の輪読 14. 関連文献の輪読 15. 関連文献の輪読		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 輪読に用いる書籍として今のところ以下のものを検討している。初回講義で相談して何を読むか決める。 ・V・カストゥーリ・ランガン『流通チャネルの転換戦略』ダイヤモンド社，ISBN: 4478022518 ・山倉健嗣『組織間関係 企業間ネットワークの変革に向けて』有斐閣，ISBN: 4641066469		
【授業外学習】 参考図書を読み，まとめる。		
【成績評価の方法】 講義に対する参加の程度，発表の質で判断する。それぞれ評価基準は初回講義で具体例を交えて詳細に説明する。 ①発表の質：報告前に到達目標や作業内容について調整し，その目標がどれだけ達成できたのか達成度で評価する。 ②参加の程度：毎回のゼミで他の報告者に対して行うコメントの積極性（回数）と内容（研究が進むコメントか）によって評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅢb (大倉)		担当者 大 倉 健
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 本ゼミナールでは、(1) 経営戦略論的な観点から、興味深く意味ある現象を自ら見出せるようなものの方 や考え方を身につけ、(2) その見出したものを他人に効果的に伝える力を身につける、ということを基本的な テーマにします。		
【授業の概要】 興味深い事実を自ら見出し、それを人に伝えることができるということは、経営活動の基礎をなす重要な力 です。新しいビジネスの機会や組織の問題を見抜き、あるいは困っている仲間やあなた自身を勇気づけるため には、新しい事実やすでに知られていた事実の新たな側面に注目し、それに人の目を向けさせる力がなくては なりません。本ゼミナールでは学生自身が自ら興味ある経営現象に主体的に取り組みながらこうした力を養っ てもらいたいと思います。		
【到達目標】 次のような能力を身につけることを目標とします。(1) 統計その他の客観的なデータを使って現象を記述す る。(2) 他人の話す内容を整理・解釈して、より意味のある知見を見出す。(3) 人前でちゃんと喋れる。効果 的な演説や文章、プレゼンテーションを工夫する。(4) 自分と他人を前向きな気持ちにさせ、多少の逆境にお いても「心が折れる」ことなく物事を進める		
【授業計画】 1. 前期についての確認と打ち合わせ 2. テキスト輪読 (1) 3. テキスト輪読 (2) 4. テキスト輪読 (3) 5. テキスト輪読 (4) 6. テキスト輪読 (5) 7. テキスト輪読 (6) 8. テキスト輪読 (7) 9. テキスト輪読 (8) 10. 研究報告 (1) 11. 研究報告 (2) 12. 研究報告 (3) 13. 研究報告 (4) 14. 夏休み自主課題発表 (1) 15. 夏休み自主課題発表		
【テキスト】 指定なし。		
【参考図書・参考資料等】 指定なし。		
【授業外学習】 授業中に指示する。		
【成績評価の方法】 ゼミナールで出される課題の遂行 (50%)、ゼミナールにおける発言や積極性などの学習姿勢 (50%)		

科目名 専門ゼミナールⅢc (大崎)		担当者 大崎 泰正		
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○		
【授業のテーマ】 現実の日本経済，地域経済の動きについて，経済学的に理解し，課題を整理したうえ，問題解決に向けて自分なりの政策立案ができるようになることを目標とする。				
【授業の概要】 ゼミナールはproactiveな学びの場であるので，自分なりの関心，課題をみつめてきて，それらについてゼミ生間で討議しながら，問題解決法を探るという形で行う。 マクロ経済学といえども現実の経済を分析する学問なので，実際の地域（津山市などが候補）や工場現場などでのフィールドサーベイを重視し，自分の目で観て，話を聞き，現状把握と政策立案に結びつけるスキルを身につける。				
【到達目標】 経済データ入手・処理の方法，フィールド調査の手順，聞き取り方法，回帰分析，産業連関分析など，社会に出てからも有用性が高い基本的な調査手法・分析手法を習得する。				
【授業計画】				
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. イントロダクション 2. 経済論文の書き方（輪読） 経済分析の考え方 3. 経済論文の書き方（輪読） 要因分析の手法 4. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（1） 5. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（2） 6. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（3） 7. 経済論文の書き方（輪読） 産業連関表の見方 8. 経済論文の書き方（輪読） 地域産業連関連関分析（1） </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> 9. 経済論文の書き方（輪読） 地域産業連関連関分析（2） 10. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 11. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 12. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 13. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得 14. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得 15. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得 </td> </tr> </table>			1. イントロダクション 2. 経済論文の書き方（輪読） 経済分析の考え方 3. 経済論文の書き方（輪読） 要因分析の手法 4. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（1） 5. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（2） 6. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（3） 7. 経済論文の書き方（輪読） 産業連関表の見方 8. 経済論文の書き方（輪読） 地域産業連関連関分析（1）	9. 経済論文の書き方（輪読） 地域産業連関連関分析（2） 10. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 11. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 12. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 13. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得 14. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得 15. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得
1. イントロダクション 2. 経済論文の書き方（輪読） 経済分析の考え方 3. 経済論文の書き方（輪読） 要因分析の手法 4. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（1） 5. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（2） 6. 経済論文の書き方（輪読） 回帰分析の方法（3） 7. 経済論文の書き方（輪読） 産業連関表の見方 8. 経済論文の書き方（輪読） 地域産業連関連関分析（1）	9. 経済論文の書き方（輪読） 地域産業連関連関分析（2） 10. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 11. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 12. グループ研究テーマの設定 経済分析手法習得 13. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得 14. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得 15. グループ研究テーマの分析・討議 経済分析手法習得			
【テキスト】 なし				
【参考図書・参考資料等】 産業連関分析入門—経済学入門シリーズ（日経文庫）ISBN-13: 978-4532108571				
【授業外学習】 岡山大学，下関市立大学との合同ゼミ（山田方谷の事績と地方創生をテーマとした）を計画。				
【成績評価の方法】 ゼミナールへの取組姿勢の評価による（100%）				

科目名 専門ゼミナールⅢ d (加賀美)		担当者 加賀美 太記
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 これまでマーケティングは大企業に特有の活動だと考えられてきました。しかし、21世紀を迎えたいま、地域の中小企業、あるいは協同組合やNPOなどからなる「非営利・協同セクター」もマーケティングに取り組むようになってきました。近年、こうした中小企業や非営利・協同セクターが、社会にとって重要な存在として注目されています。 共同研究と個々人の論文作成を通じて、マーケティングという視点から、そうした主体の可能性と問題点を探ることが、このゼミナールの課題です。</p>		
<p>【授業の概要】 3年次は(1) マーケティングに関するテキストを輪読しつつ、(2) 関西中四国地域の企業・組織を調査し、(3) 年度末にレポートをまとめます。 テキストの輪読では、報告者以外も必ず質問・論点を準備してもらいます。また、企業・組織調査に当たっては、可能な限り、学生主体で企画を進めます。 その他、詳細な授業計画は、受講生と適宜相談のうえ決定します。</p>		
<p>【到達目標】 ・本や資料、現地・現物から正確に情報を読み取り、文章にまとめられるようになる。 ・マーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業・組織のマーケティングの分析・考察ができるようになる。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テキストの輪読① 3. テキストの輪読② 4. テキストの輪読③ 5. テキストの輪読④ 6. テキストの輪読⑤ 7. テキストの輪読⑥ 8. テキストの輪読⑦ 9. テキストの輪読⑧ 10. テキストの輪読⑨ 11. テキストの輪読⑩ 12. 調査先の事前調査と選定① 13. 調査先の事前調査と選定② 14. 調査先の事前調査と選定③ 15. 講義のまとめ 		
<p>【テキスト】 テキストは学生と相談して決定します。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 必要に応じて、演習中に提示します。</p>		
<p>【授業外学習】 授業時での発表等を準備する事前検討や調査のミーティングなど。</p>		
<p>【成績評価の方法】 受講態度（輪読・討論における発言頻度・報告資料の内容など）75%、レポート25%で評価します。 3年次レポートの分担執筆と卒業論文の個人執筆が成績評価の前提です。</p>		

科目名 専門ゼミナールⅢ e (江)		担当者 江 向 華
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 専門知識の習得及び自主的調査・発表・研究能力の養成。		
【授業の概要】 ①経営戦略論に関するテキストを輪読し、議論をすすめる。担当者がレジユメを用意して、プレゼンテーションを行い、参加者全員でディスカッションを行う。 ②創造性をアップする思考法としてのアイデアマラソンを実施する。		
【到達目標】 基本的なテキストを用いて、経営戦略論の基礎を学ぶことを目的とする。プレゼンテーション・スキルを含めて、専門用語や基礎理論を習得して、基本的文献を理解し、議論できるようになることを目標とする。		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 経営戦略論について① 3. 経営戦略論について② 4. 文献の輪読；討議;解説① 5. 文献の輪読；討議;解説② 6. 文献の輪読；討議;解説③ 7. テーマ学習① 8. 文献の輪読；討議;解説④ 9. 文献の輪読；討議;解説⑤ 10. 文献の輪読；討議;解説⑥ 11. テーマ学習② 12. 文献の輪読；討議;解説⑦ 13. 文献の輪読；討議;解説⑧ 14. テーマ学習② 15. 春学期の総括		
【テキスト】 授業中に提示する。		
【参考図書・参考資料等】 特に指定しない。		
【授業外学習】 興味のある内容については自分で図書館やインターネット等で調べるなどして事前に調べた方が理解が深まる。		
【成績評価の方法】 授業への貢献度を重視し、さらに研究発表（40%）・課題（30%）・レポート（30%）等の成績によって総合的に評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅢf（三枝）		担当者 三 枝 省 三
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 卒論テーマ決定へアプローチを通じて、(1) 経営学に対する知識と認識の向上、(2) クリティカルシンキングの実地演習、(3) ものの見方の自由度を広げていく。そのプロセスで、色々なことに興味を持ち、世の中の多様性を知ることがテーマとする。 また、ゼミの運営を通じて、協調性と独自性のバランスが必要であることを認識する		
【授業の概要】 自己認識と興味を深めるための探索と吟味を繰り返す。その中で、より適切な方向を見つけていく。ゼミとしての活動（グループ）の視点と個人的な視点の双方を磨くために、適切なプレゼンと相互評価（批判）を繰り返し、テーマの適切さを吟味する		
【到達目標】 (1) 卒論テーマの仮決定 (2) リーダーシップ/フォロアシップの意識獲得		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 自己テーマ・課題の探索 (1) 3. 自己テーマ発表・討議 (1) 4. テーマ中間報告 (A1) 5. テーマ中間報告 (A2) 6. 読書/論文紹介 (R1) 7. アントレプレナーシップ輪講 (1) 8. アントレプレナーシップ輪講 (2) 9. 自己テーマ発表・討議 (2) 10. 読書/論文紹介 (R2) 11. ビジネスプランニング (1) 12. ビジネスプランニング (2) 13. 卒論ゼミ内報告 (B1) 14. 卒論ゼミ内報告 (B2) 15. 自己テーマ発表・討議 (3) とまとめ		
【テキスト】 1) 松重和美監修、三枝省三・竹本拓治編著、「アントレプレナーシップ教科書」、中央経済社（2016）		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で適時開示する。下記は一読されたし。 1) 野中郁次郎・徳岡晃一郎、「ビジネスモデルイノベーション」、東洋経済（2012）		
【授業外学習】 必要に応じて、学外への調査を考える。 また、「考えて調査し発表する」の繰り返しであり、予習は必須である		
【成績評価の方法】 講義の積極的参加（30%）+ 課題（発表、レポート）（70%）の総合評価		

科目名 専門ゼミナールⅢ g (寺前)		担当者 寺 前 俊 孝
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 大学は、社会に出る前に時間をかけて学ぶことの出来る最後の場所です。その中でもゼミナールで何を学び、何を考えたかは、その後の社会生活に大きな影響を与えます。本ゼミナールは、輪読やフィールドワークを通じて皆さんが多様な視点を身につけ、論理的な思考が出来るようになることを目指します。		
【授業の概要】 輪読の対象となる本は、マーケティングを中心として、経済学や戦略論など多岐に渡ります。それらの輪読を通じて、様々な理論や分析ツールを学び、皆さんが将来実際に社会でそれらを役立てることを目指しています。実際には、市場は絶えず変化を続け、非常に複雑であるため、理論的には正しい戦略行動をとったとしてもそれが成果に結びつかないこともあります。理論と実践は両輪であり、理論を学ぶだけでは十分ではありません。理論を前提とした上で現実を分析し、「なぜ」「どのように」といった問いを追究することをゼミ内で繰り返し行うことによって、論理的な思考能力を高めます。		
【到達目標】 理論を学び、事例を通じた理解を深めるためには、情報収集力や分析力、批判的思考力が必要です。ゼミの課題を通じてそれらを身に付けます。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 3. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 4. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 5. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 6. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 7. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 8. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 9. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 10. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 11. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 12. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 13. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 14. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 15. マーケティング関連図書の輪読と企業研究		
【テキスト】 ゼミ開始後、指定する。		
【参考図書・参考資料等】 授業中適宜指導する。		
【授業外学習】 夏季休暇中にゼミ合宿を実施する予定です。		
【成績評価の方法】 授業態度や授業への貢献度を見て総合的に評価します。なおゼミナールの運営上、原則全回出席を義務付けます。		

科目名 専門ゼミナールⅢh (真田)		担当者 真田正次
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本ゼミナールは、企業の財務諸表を使った「経営分析」の方法を学習していくことをテーマとしている。		
【授業の概要】 テキストを輪読し、毎回、学生に報告を行ってもらう。		
【到達目標】 経営分析を行うための前提となる知識として、財務会計について学び、会計理論・会計制度・会計実務に関する理解を深める。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 会計の種類と役割 3. 財務会計のシステムと基本原則 4. 企業の設立と資金調達 5. 仕入・生産活動 6. 4章分のまとめ 7. 販売活動 8. 設備投資と研究開発 9. 資金の管理と運用 10. 国際活動 11. 4章分のまとめ 12. 税金と配当 13. 財務諸表の作成と公開 14. 全体のまとめ 15. 企業分析への展開		
【テキスト】 桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣アルマ		
【参考図書・参考資料等】 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。		
【授業外学習】 理解を深めるために、サブゼミを実施する。		
【成績評価の方法】 レポートの提出（80%）、授業態度（20%）を総合的に評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅢ j (鈴木)		担当者 鈴木 新
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 このゼミでは、管理会計を中心にして経営を研究します。管理会計とは、経営管理に関する事柄について、会計を使って考えたり決めたりすることです。そのために、管理会計に関する知識を身に着けることはもちろん、実際に即してどのように管理会計を用いるかを研究していきます。		
【授業の概要】 3年次前期は、2年間にわたるゼミの導入部分として位置づけ、基礎知識を身に着けます。教科書を題材にして、それぞれ担当者を割当ててレポートを発表していきます。		
【到達目標】 管理会計の全体像を理解します。		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 輪読(1) 3. 輪読(2) 4. 輪読(3) 5. 輪読(4) 6. 輪読(5) 7. 輪読(6) 8. 輪読(7) 9. 輪読(8) 10. 輪読(9) 11. 輪読(10) 12. 輪読(11) 13. 輪読(12) 14. 輪読(13) 15. まとめ		
【テキスト】 適宜指示する。		
【参考図書・参考資料等】 適宜指示する。		
【授業外学習】 日商簿記検定2級以上を取得するよう努力すること。		
【成績評価の方法】 毎回のレポート(50点)とゼミへの貢献(50点)を基本点とし、それに簿記学習の進捗度(%)を掛けて評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅢⅠ（日置）		担当者 日 置 弘一郎
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 「企業と社会」に関わる領域を扱います。		
【授業の概要】 本ゼミナールでは企業と社会にかかわるテーマ：経営哲学，企業倫理，企業と社会論，企業の社会的責任に関する領域を取り扱います。 3年次には小グループに分かれた報告と質疑応答を中心として進めます。毎回のゼミの進め方は，a) テキストの指定した箇所をレジュメとしてまとめた発表と質疑応答，b) 先述したテーマにかかわるトピックスを取り上げた報告と質疑応答です。また，各自年度内に短い論文を執筆してもらいます。評価対象は毎回の発表・質疑応答・論文です。		
【到達目標】 企業と社会のテーマに関わる事象に関して興味を持ち，自主的な学習をすることができる。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 本の読み方とレポートの書き方 3. レジュメとプレゼン資料の作成の方法 4. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 5. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 6. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 7. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 8. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 9. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 10. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 11. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 12. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 13. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 14. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 15. 総括		
【テキスト】 授業内で適宜案内します。		
【参考図書・参考資料等】 授業内で適宜案内します。		
【授業外学習】 毎回授業の前までに前回の授業で指定された課題を行い，必要に応じて教員と受講者全員に配布できるようプリントアウトして講義に持参すること。		
【成績評価の方法】 毎回の発表（40%），質疑応答（30%），論文（30%）		

科目名 専門ゼミナールⅢ m (野本)		担当者 野 本 明 成
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 マーケティング・マネジメントについての基本的な概念を事例を通して習得することを目指します。また、マーケティング戦略の方法を習得することを目指します。		
【授業の概要】 各ゼミ生個人が特定の企業・業界を選択し適切なマーケティング戦略を研究する。また、チームごとに特定の企業・業界を選択し適切なマーケティング戦略を研究する。研究結果をその都度発表し、全員で討議する。		
【到達目標】 実際の企業のマーケティング戦略の策定を行うことにより、マーケティング・マネジメントの基本的な考え方およびマーケティング戦略を理解することを目指す。 4年次履修科目「専門ゼミナールⅤ」および「専門ゼミナールⅥ」の前提とします。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. マーケティング戦略の講義 (1) 3. マーケティング戦略の講義 (2) 4. マーケティング戦略の講義 (3) 5. ビジネス・プランニングの講義 (1) 6. ビジネス・プランニングの講義 (2) 7. ビジネス・プランの構築 (1) 8. ビジネス・プランの構築 (2) 9. ビジネス・プランの構築 (3) 10. ビジネス・プランの構築 (4) 11. 自己テーマの発表・討議 (1) 12. 自己テーマの発表・討議 (2) 13. 自己テーマの発表・討議 (3) 14. 自己テーマの発表・討議 (4) 15. まとめ		
【テキスト】 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』 コトラー&ケラー著、丸善出版。(ISBN:978-4-89471-659-9)		
【参考図書・参考資料等】 授業中に紹介します。		
【授業外学習】 テキストについてはあらかじめ読書し、ある程度理解しておく必要があります。		
【成績評価の方法】 発表、ゼミ活動への参加に基づいて評価する(100%)。 特に、テーマ発表、ゼミ活動への参加に基づいて、マーケティング・マネジメント、マーケティング戦略についてどの程度理解しているかに基づいて評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅢ n (林)		担当者 林 俊 克
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ・地域（岡山を中心とする東瀬戸経済圏）の文化・経済発展支援に関する実践的な研究を行う。 ・コミュニケーション力，セルフブランディング力，英語力を身につける。		
【授業の概要】 ・システムデザインマネジメントの研究と応用（主としてフューチャーセッション）を通じた地域活性化事例の創出 ・データサイエンス手法の研究と応用を通じた地域活性化事例の創出をテーマに，調査・分析からビジネスプランニング，企画作成，提案までを実践的に行う。 併せて，フェイスブックの活用や地域活動への参加などを通じて，コミュニケーション力，セルフブランディング力，英語力のトレーニングも行う。		
【到達目標】 商品・サービス開発やマーケティングに役立つ基礎的・実用的知識を身につけ，活用できるようになる。 グローカル人材になるために必要な入門的知識・技術を身につける。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. システムデザインマネジメントとは 3. データサイエンスとは 4. フューチャーセッションとは 5. 自主課題設定 6. 自主課題研究 7. 自主課題研究 8. 自主課題研究 9. 自主課題研究 10. 自主課題研究 11. 自主課題研究 12. 自主課題研究 13. 自主課題研究 14. 自主課題研究 15. 自主課題研究		
【テキスト】 担当教員が必要に応じてレジュメを配布する。（原則WEBにて配布）		
【参考図書・参考資料等】 ええ、会議が楽しいですが、なにか？—フューチャーセッションが会議を変える！2015/2 林 俊克 すぐできる！誰でもわかる！アクティブ・ラーニング—フューチャー・セッションでらくらく実践！—（就実大学グローバルブック）2016/4/29 林 俊克，玉有朋子 JMPによる多変量データ活用術2008/9 廣野 元久，林 俊克 Excelで学ぶテキストマイニング入門2002/10 林 俊克 JMPによる統計解析入門2006/12 田久 浩志，小島 隆矢		
【授業外学習】 毎回の授業・実習に関連した簡単な課題（所要時間30分以内を想定，原則WEBにて回答）		
【成績評価の方法】 各回の授業態度と課題提出：100%		

科目名 専門ゼミナールⅢ 〇 (三浦)		担当者 三 浦 紗綾子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 自分で考えるという能力を身につけることを目標に、多様な方法で学んでいく。		
[授業の概要] 目標達成のため、自分が興味あることを見つけ、それについてじっくり考えることを行っていく。具体的には輪読とゼミ論Ⅰ(個人論文)の準備を行う。 また、夏期休業中にはグループ論文を作成し、他大学の先生やゼミ生との合同合宿にてそれに関する発表・議論を行う。		
[到達目標] 自分で考える能力を身につけるのが専門ゼミナールⅢの目的である。		
[授業計画] 1. イントロダクション 2. 輪読① 3. 輪読② 4. 輪読③ 5. 輪読④ 6. 輪読⑤ 7. 輪読⑥ 8. ゼミ論Ⅰ発表 9. 輪読⑦ 10. 輪読⑧ 11. 輪読⑨ 12. 輪読⑩ 13. 輪読⑩ 14. 輪読⑪ 15. 輪読⑫		
[テキスト] 輪読を行う課題図書(複数冊)は初回講義で提示する。		
[参考図書・参考資料等] <思考力を鍛えるための読み方・書き方の参考に> 荻谷剛彦(2002)『知的複眼思考法』講談社。 <正しい文章の書き方の参考に> 本多勝一(1982)『日本語の作文技術』朝日新聞社。(2005年の新装版でもよい) <書く以外の表現力をつけるために> 鴻上尚史(2003)『あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント』講談社。		
[授業外学習] レジュメ作成の時間を要する。		
[成績評価の方法] 提出されたレジュメ、及びゼミナールでの討議の内容・参加態度について、目標に照らした達成度で評価する。レジュメの提出、ゼミナールでの討議参加のために、ゼミへの出席は必須である。		

科目名 専門ゼミナールⅢ p (八巻)		担当者 八巻 恵子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 専門ゼミナールⅢは観光現象についてとりあげる。観光は余暇の楽しみを創造し、人生を豊かにするものであると同時に、地域づくりを目指すための戦略として用いられることもある。観光をサービス産業の中のビジネスとしてみるのには観光の一側面でしかない。そのような大きな視座に立ちつつ、本ゼミでは特にエコロジーと持続可能性、文化の普遍的な価値についての理解を共通認識として、グローバル社会におけるさまざまな観光現象を取り上げながら討議をしてゆく。		
【授業の概要】 観光研究は学問分野横断的なアプローチをとる。文献や資料から体系的な理論学習を行なう。フィールドワークでは観光地や観光産業の現地を訪問し、文化人類学の質的調査の手法と分析方法を学び、観光に関連する社会現象についての情報収集力（マーケティング・リサーチのスキル）を身につける。ゼミでは共同研究を行い、共同執筆、学生シンポジウムやコンテストの参加にチャレンジし、ゼミ内外に向けて報告を行う。		
【到達目標】 4年次に卒業研究を個人で運営できるようになるための能力と技術として、特に、1) 読解力と文章力を鍛えてゆく。観光を共通テーマとしながら、理論学習と演習（フィールドワークやグループ討議）を繰り返し、2) 実社会の複雑でわかりにくい現象や情報を読み解くことができる力、世の中を分析し深く理解することができる高度な社会情報リテラシーを身につけた人材育成を目指す。		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 専門書の文献講読① 3. 専門書の文献講読② 4. 専門書の文献講読③ 5. 専門書の文献講読④ 6. 専門書の文献講読⑤ 7. 専門書の文献講読⑥ 8. 専門書の文献講読⑦ 9. 専門書の文献講読⑧ 10. 専門書の文献講読⑨ 11. 専門書の文献講読⑩ 12. 専門書の文献講読⑪ 13. フィールドワーク① 14. フィールドワーク① 15. フィールド報告会		
【テキスト】 大橋昭一・遠藤英樹・神田孝治編 (2014)『観光学ガイドブック—新しい知的領野への旅立ち』ナカニシヤ出版 ISBN-10: 4779508266/ISBN-13: 978-4779508264 大橋昭一・山田良治・神田孝治編 (2016)『ここからはじめる観光学—楽しさから知的的好奇心へ—』ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1123-3		
【参考図書・参考資料等】 八巻 恵子『国際線客室乗務員の仕事: サービスの経営人類学』東方出版, ISBN-10: 4862492223/ISBN-13: 978-4862492227 安村克己・堀野正人他『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-06037-5 他適宜紹介する。		
【授業外学習】 適宜指示する。		
【成績評価の方法】 ゼミへの積極的参加・ゼミへの貢献度（討議、共同研究の企画・運営、コンテストや学生シンポジウムなどの共同報告活動の企画・運営）60%、課題達成度（レポート、報告など）40%		

科目名 専門ゼミナールNa (青山)		担当者 青 山 允 隆
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 企業間関係に関する理論的な検討及びケーススタディを行う。 キーワード：商業，流通システム，チャネル戦略，ビジネスモデル，企業間関係，戦略的提携，産業財流通，イノベーション，市場志向性		
【授業の概要】 三年次，四年次を通してゼミに所属することを前提として講義を構成している。 1. 三年次前期：関連文献の輪読 2. 三年次後期：専門的な調査 3. 四年次：卒業論文執筆 本講義は2にあたる。		
【到達目標】 ・大学時代に専門的に学んだこととして「企業間関係について学んだ」と胸を張って言えるようになる。 ・同業者間の水平的な競争だけでなく，垂直的な利益の奪い合いという物の見方を身に着ける ・卒業論文のテーマを決定し，四年次の研究計画を立案することができる		
【授業計画】 1. 専門的な調査 2. 専門的な調査 3. 専門的な調査 4. 専門的な調査 5. 専門的な調査 6. 専門的な調査 7. 専門的な調査 8. 専門的な調査 9. 専門的な調査 10. 専門的な調査 11. 専門的な調査 12. 専門的な調査 13. 専門的な調査 14. 専門的な調査 15. 専門的な調査		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 指定しない。		
【授業外学習】 自らの研究テーマに則った予習を行う。		
【成績評価の方法】 講義に対する参加の程度，発表の質で判断する。それぞれ評価基準は初回講義で具体例を交えて詳細に説明する。 ①発表の質：報告前に到達目標や作業内容について調整し，その目標がどれだけ達成できたのか達成度で評価する。 ②参加の程度：毎回のゼミで他の報告者に対して行うコメントの積極性（回数）と内容（研究が進むコメントか）によって評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅣb (大倉)		担当者 大 倉 健
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 本ゼミナールでは、(1) 経営戦略論的な観点から、興味深く意味ある現象を自ら見出せるようなものを見方や考え方を身につけ、(2) その見出したものを他人に効果的に伝える力を身につける、ということを基本的なテーマにします。		
【授業の概要】 興味深い事実を自ら見出し、それを人に伝えることができるということは、経営活動の基礎をなす重要な力です。新しいビジネスの機会や組織の問題を見抜き、あるいは困っている仲間やあなた自身を勇気づけるためには、新しい事実やすでに知られていた事実の新たな側面に注目し、それに人の目を向けさせる力がなくてはなりません。本ゼミナールでは学生自身が自ら興味ある経営現象に主体的に取り組みながらこうした力を養ってもらいたいと思います。		
【到達目標】 次のような能力を身につけることを目標とします。(1) 統計その他の客観的なデータを使って現象を記述する。(2) 他人の話す内容を整理・解釈して、より意味のある知見を見出す。(3) 人前でちゃんと喋れる。効果的な演説や文章、プレゼンテーションを工夫する。(4) 自分と他人を前向きな気持ちにさせ、多少の逆境においても「心が折れる」ことなく物事を進める		
【授業計画】 1. 夏休み課題発表 (1) 2. 夏休み課題発表 (2) 3. テキスト輪読 (1) 4. テキスト輪読 (2) 5. テキスト輪読 (3) 6. テキスト輪読 (4) 7. 自主課題の設定 (1) 8. 自主課題の設定 (2) 9. テキスト輪読 (5) 10. 課題進捗報告 (1) 11. 課題進捗報告 (2) 12. 課題進捗報告 (3) 13. 課題進捗報告 (4) 14. 自主課題発表 (1) 15. 自主課題発表 (2)		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 指定しない。		
【授業外学習】 講義中に指示する。		
【成績評価の方法】 ゼミナールで出される課題の遂行 (50%)、ゼミナールにおける発言や積極性などの学習姿勢 (50%)		

科目名 専門ゼミナールⅣc (大崎)		担当者 大崎 泰正
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 現実の日本経済，地域経済の動きについて，経済学的に理解し，課題を整理したうえ，問題解決に向けて自分なりの政策立案ができるようになることを目標とする。		
【授業の概要】 ゼミナールはproactiveな学びの場であるので，自分なりの関心，課題をみつけてきて，それらについてゼミ生間で討議しながら，問題解決法を探るという形で行う。 マクロ経済学といえども現実の経済を分析する学問なので，実際の地域（津山市などが候補）や工場現場などでのフィールドサーベイを重視し，自分の目で観て，話を聞き，現状把握と政策立案に結びつけるスキルを身につける。		
【到達目標】 経済データ入手・処理の方法，フィールド調査の手順，聞き取り方法，回帰分析，産業連関分析など，社会に出てからも有用性が高い基本的な調査手法・分析手法を習得する。		
【授業計画】		
1. 自己研究テーマの設定① 関連論文輪読 2. 自己研究テーマの設定② 関連論文輪読 3. 自己研究テーマに関するデータ収集・分析① 関連論文輪読 4. 自己研究テーマに関するデータ収集・分析② 関連論文輪読 5. 自己研究テーマに関するデータ収集・分析③ 関連論文輪読 6. 自己研究テーマに関するデータ収集・分析④ 関連論文輪読 7. 自己研究テーマの分析・討議① 8. 自己研究テーマの分析・討議② 9. 自己研究テーマの分析・討議③ 10. 自己研究テーマの分析・討議④ 11. 自己研究テーマのとりまとめ① 12. 自己研究テーマのとりまとめ② 13. 自己研究テーマのとりまとめ③ 14. 自己研究テーマの発表・討議① 15. 自己研究テーマの発表・討議②		
【テキスト】 なし		
【参考図書・参考資料等】 『真・日本経済入門』 日本経済新聞社（I S B N：978-4-532-13457-0）		
【授業外学習】 特になし		
【成績評価の方法】 ゼミナールへの取組姿勢の評価による（100%）		

科目名 専門ゼミナールⅣd (加賀美)		担当者 加賀美 太記
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
<p>【授業のテーマ】 これまでマーケティングは大企業に特有の活動だと考えられてきました。しかし、21世紀を迎えたいま、地域の中小企業、あるいは協同組合やNPOなどからなる「非営利・協同セクター」もマーケティングに取り組むようになっていきます。近年、こうした中小企業や非営利・協同セクターが、社会にとって重要な存在として注目されています。 共同研究と個々人の論文作成を通じて、マーケティングという視角から、そうした主体の可能性と問題点を探ることが、このゼミナールの課題です。</p>		
<p>【授業の概要】 3年次は(1) マーケティングに関するテキストを輪読しつつ、(2) 関西中四国地域の企業・組織を調査し、(3) 年度末にレポートをまとめます。 テキストの輪読では、報告者以外も必ず質問・論点を準備してもらいます。また、企業・組織調査に当たっては、可能な限り、学生主体で企画を進めます。 その他、詳細な授業計画は、受講生と適宜相談のうえ決定します。</p>		
<p>【到達目標】 ・本や資料、現地・現物から正確に情報を読み取り、文章にまとめられるようになる。 ・マーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業・組織のマーケティングの分析・考察ができるようになる。</p>		
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期末課題の報告① 2. 前期末課題の報告② 3. テキストの輪読① 4. テキストの輪読② 5. テキストの輪読③ 6. テキストの輪読④ 7. テキストの輪読⑤ 8. テキストの輪読⑥ 9. 期末レポート中間報告① 10. 期末レポート中間報告② 11. テキストの輪読⑦ 12. テキストの輪読⑧ 13. テキストの輪読⑨ 14. テキストの輪読⑩ 15. 期末レポート報告会 		
<p>【テキスト】 テキストは学生と相談して決定します。</p>		
<p>【参考図書・参考資料等】 必要に応じて、演習中に提示します。</p>		
<p>【授業外学習】 授業時での発表等を準備する事前検討や調査のミーティングなど。</p>		
<p>【成績評価の方法】 受講態度（輪読・討論における発言頻度・報告資料の内容など）75%、レポート25%で評価します。 3年次レポートの分担執筆と卒業論文の個人執筆が成績評価の前提です。</p>		

科目名 専門ゼミナールNe (江)		担当者 江 向 華
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 専門知識の習得及び自主的調査・発表・研究能力の養成。		
【授業の概要】 (1) 春学期に引き続き、秋学期でも、経営戦略論に関するテキストを輪読し、議論をすすめる。担当者がレジюмеを用意して、プレゼンテーションを行い、参加者全員でディスカッションを行う。 (2) 卒業論文のテーマの絞り込み。 (3) 創造性をアップする思考法としてのアイデアマラソンを実施する。		
【到達目標】 学生が目的意識をもって自ら調べ、発表し、討論できるようになることを目的とする。同時に参加者が教員の指導の下で、それぞれの研究テーマを追究することを通して、論理的分析力・物事を複数の視点から捉える力(柔軟性)・課題発見力を身につけることを目標とする。		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 文献の輪読：討議;解説① 3. 文献の輪読：討議;解説② 4. 文献の輪読：討議;解説③ 5. グループ学習① 6. グループ学習② 7. グループ学習③ 8. 発表, 討議と評価① 9. 発表, 討議と評価② 10. 発表, 討議と評価③ 11. テーマ学習① 12. テーマ学習② 13. テーマ学習③ 14. テーマ学習④ 15. 秋学期の統括		
【テキスト】 授業中に提示する。		
【参考図書・参考資料等】 特に指定しない。		
【授業外学習】 興味のある内容については自分で図書館やインターネットなどで調べるなどして事前に調べた方が理解が深まる。		
【成績評価の方法】 授業への貢献度を重視し、さらに研究発表(40%)・課題(30%)・レポート(30%)等の成績によって総合的に評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅣf（三枝）		担当者 三 枝 省 三
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 卒論へのアプローチを通じて、(1) 経営学に対する知識と認識の向上、(2) クリティカルシンキングの実地演習、(3) ものの見方の自由度を広げていく。そのプロセスで、色々なことに興味を持ち、世の中の多様性を知ることをテーマとする。 また、ゼミの運営を通じて、リーダーシップとフォロアーシップを認識する		
【授業の概要】 自己認識と興味を深めるための探索と吟味を繰り返す。その中で、より適切な方向を見つけていく。ゼミとしての活動（グループ）の視点と個人的な視点の双方を磨くために、適切なプレゼンと相互評価（批判）を繰り返し、テーマの適切さを吟味する		
【到達目標】 (1) 調査、分析、執筆活動すすめ卒論の仕上げ意識した目標設定をしそれに向かって推進する。 (2) リーダーシップ/フォロアーシップの意識の高揚		
【授業計画】 1. 自己テーマに関する論文紹介・討議（RD1）：夏休みに読破した書籍/論文を紹介する 2. 自己テーマに関する論文紹介・討議（RD2）：夏休みに読破した書籍/論文を紹介する 3. ビジネスプランの仕上げと提案書作成（1）：グループ活動で作成したビジネスプランの仕上げ 4. ビジネスプランの仕上げと提案書作成（2）：BPコンテストへ提案 5. 卒論ゼミ内報告（C1）：4年生、3年生合同で中間報告会を実施する。 6. 卒論ゼミ内報告（C2）：3年生、4年生合同で中間報告会を実施する。 7. 卒論執筆推進（1）：報告プレゼンのブラッシュアップと執筆開始 8. 卒論執筆推進（2）：報告プレゼンのブラッシュアップと執筆推進 9. 卒論執筆推進（3）報告プレゼンのブラッシュアップと執筆推進 10. ゼミ内卒論発表会D1：中間点での発表 11. ゼミ内卒論発表会D2：中間点での発表 12. 卒論執筆推進（4）：報告プレゼン、ブラッシュアップと執筆推進 13. 卒論執筆推進（5）：報告プレゼン、ブラッシュアップと執筆推進 14. ゼミ内卒論発表会2：今期の活動の結果を報告する 15. まとめ		
【テキスト】 1) 松重和美監修、三枝省三・竹本拓治編著、「アントレプレナーシップ教科書」、中央経済社（2016）		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で適時開示する 1) 野中郁次郎・徳岡晃一郎、ビジネスモデルイノベーション、東洋経済（2012）2,800円 2) 河野豊弘編著、「新製品開発マネジメント 会社を変革する戦略と実行」ダイヤモンド社（2003）		
【授業外学習】 「考えて調査し発表する」の繰り返しである。自主的な予習は必須である		
【成績評価の方法】 講義の積極的参加（30%）+課題（発表、レポート）（70%）の総合評価		

科目名 専門ゼミナールⅣg (寺前)		担当者 寺 前 俊 孝
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 大学は、社会に出る前に時間をかけて学ぶことの出来る最後の場所です。その中でもゼミナールで何を学び、何を考えたかは、その後の社会生活に大きな影響を与えます。本ゼミナールは、輪読やフィールドワークを通じて皆さんが多様な視点を身につけ、論理的な思考が出来るようになることを目指します。		
【授業の概要】 輪読の対象となる本は、マーケティングを中心として、経済学や戦略論など多岐に渡ります。それらの輪読を通じて、様々な理論や分析ツールを学び、皆さんが将来実際に社会でそれらを役立てることを目指しています。実際には、市場は絶えず変化を続け、非常に複雑であるため、理論的には正しい戦略行動をとったとしてもそれが成果に結びつかないこともあります。理論と実践は両輪であり、理論を学ぶだけでは十分ではありません。理論を前提とした上で現実を分析し、「なぜ」「どのように」といった問いを追究することをゼミ内で繰り返し行うことによって、論理的な思考能力を高めます。		
【到達目標】 理論を学び、事例を通じた理解を深めるためには、情報収集力や分析力、批判的思考力が必要です。ゼミの課題を通じてそれらを身に付けます。		
【授業計画】 1. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 2. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 3. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 4. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 5. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 6. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 7. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 8. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 9. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 10. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 11. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 12. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 13. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 14. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 15. マーケティング関連図書の輪読と企業研究		
【テキスト】 前期終了後に提示します。		
【参考図書・参考資料等】 授業中適宜指導する。		
【授業外学習】 春休み期間中にも課題を出す予定です。しっかり取り組んでください。		
【成績評価の方法】 授業態度や授業への貢献度を見て総合的に評価します。なおゼミナールの運営上、原則全回出席を義務付けます。		

科目名 専門ゼミナールⅣh (真田)		担当者 真 田 正 次
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本ゼミナールでは、企業の財務諸表を使った「経営分析」の方法を学習します。		
【授業の概要】 企業分析を行ったテキストの輪読を行ったのち、具体的な企業の分析を行ってもらう。		
【到達目標】 企業分析の方法を理解するとともに、それを実際に使いこなせるようになること。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. テキスト輪読1—テキスト第1章 3. テキスト輪読2—テキスト第2章 4. テキスト輪読3—テキスト第4章 5. テキスト輪読4—テキスト第5章 6. テキスト輪読5—テキスト第8章 7. テキスト輪読6—テキスト第11章 8. 企業分析の手法 9. 企業分析1 10. 企業分析2 11. 企業分析3 12. 企業分析4 13. 企業分析5 14. 企業分析6 15. まとめ		
【テキスト】 徳賀芳弘編著『京都企業—歴史と空間の産物—』中央経済社。		
【参考図書・参考資料等】 適宜、指示する。		
【授業外学習】 サブゼミおよび他大学との交流会を実施する。		
【成績評価の方法】 レポートの作成（80%）、授業態度（20%）を総合的に評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅣ j (鈴木)		担当者 鈴木 新
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 このゼミでは、管理会計を中心にして経営を研究します。管理会計とは、経営管理に関する事柄について、会計を使って考えたり決めたりすることです。そのために、管理会計に関する知識を身に着けることはもちろん、実際に即してどのように管理会計を用いるかを研究していきます。		
【授業の概要】 管理会計の輪読文献を読んでいきます。		
【到達目標】 管理会計あるいは会計に関連させて卒業研究の研究テーマをきめます。		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 輪読(1) 3. 輪読(2) 4. 輪読(3) 5. 輪読(4) 6. 輪読(5) 7. 輪読(6) 8. 輪読(7) 9. 輪読(8) 10. 輪読(9) 11. 輪読(10) 12. 輪読(11) 13. 輪読(12) 14. 輪読(13) 15. まとめ		
【テキスト】 適宜指示する。		
【参考図書・参考資料等】 適宜指示する。		
【授業外学習】 日商簿記検定2級以上を取得するよう努力すること。		
【成績評価の方法】 毎回のレポート(50点)とゼミへの貢献(50点)を基本点とし、それに簿記学習の進捗度(%)を掛けて評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅣⅠ（日置）		担当者 日 置 弘一郎
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 「企業と社会」に関わる領域を扱います。		
【授業の概要】 本ゼミナールでは企業と社会にかかわるテーマ：経営哲学，企業倫理，企業と社会論，企業の社会的責任に関する領域を取り扱います。		
【到達目標】 企業と社会のテーマに関わる事象に関して興味を持ち，自主的な学習をすることができる。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 論文の書き方：テーマの探し方 3. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 4. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 5. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 6. 論文の書き方：構成 7. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 8. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 9. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 10. 論文の書き方：文章の書き方 11. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 12. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 13. テキストの指定した箇所とトピックスのプレゼンと質疑応答 14. 論文の発表 15. 論文の提出と総括		
【テキスト】 授業内で適宜案内します。		
【参考図書・参考資料等】 授業内で適宜案内します。		
【授業外学習】 毎回授業の前までに前回の授業で指定された課題を行い，必要に応じて教員と受講者全員に配布できるようプリントアウトして講義に持参すること。		
【成績評価の方法】 毎回の発表（40%），質疑応答（30%），論文（30%）		

科目名 専門ゼミナールⅣm (野本)		担当者 野 本 明 成
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム <input type="radio"/>
【授業のテーマ】 マーケティング・マネジメントについての基本的な概念を事例を通して習得することを目指します。また、マーケティング戦略の方法を習得することを目指します。		
【授業の概要】 各ゼミ生個人が特定の企業・業界を選択し適切なマーケティング戦略を研究する。また、研究結果をその都度発表し、全員で討議する。		
【到達目標】 実際の企業のマーケティング戦略の策定を行うことにより、マーケティング・マネジメントの基本的な考え方およびマーケティング戦略を理解することを目指す。 4年次履修科目の「専門ゼミナールⅤ」および「専門ゼミナールⅥ」の前提とします。		
【授業計画】 1. 自己テーマの発表・討議 (1) 2. 自己テーマの発表・討議 (2) 3. 自己テーマの発表・討議 (3) 4. マーケティング戦略の事例研究 (1) 5. マーケティング戦略の事例研究 (2) 6. 自己テーマの発表・討議 (4) 7. 自己テーマの発表・討議 (5) 8. 自己テーマの発表・討議 (6) 9. マーケティング戦略の事例研究 (3) 10. マーケティング戦略の事例研究 (4) 11. 自己テーマの発表・討議 (7) 12. 自己テーマの発表・討議 (8) 13. 自己テーマの発表・討議 (9) 14. レポートの発表 15. まとめ		
【テキスト】 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』 コトラー&ケラー著、丸善出版。(ISBN：978-4-89471-659-9)		
【参考図書・参考資料等】 授業中に紹介します。		
【授業外学習】 テキストについてはあらかじめ読書し、ある程度理解しておく必要があります。		
【成績評価の方法】 発表、ゼミ活動への参加に基づいて評価する(100%)。 特に、テーマ発表、ゼミ活動への参加に基づいて、マーケティング・マネジメント、マーケティング戦略についてどの程度理解しているかに基づいて評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅣn（林）		担当者 林 俊 克
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ・地域（岡山を中心とする東瀬戸経済圏）の文化・経済発展支援に関する実践的な研究を行う。 ・コミュニケーション力，セルフブランディング力，英語力を身につける。		
【授業の概要】 ・システムデザインマネジメントの研究と応用（主としてフューチャーセッション）を通じた地域活性化事例の創出 ・データサイエンス手法の研究と応用を通じた地域活性化事例の創出 をテーマに，調査・分析からビジネスプランニング，企画作成，提案までを実践的に行う。 併せて，フェイスブックの活用や地域活動への参加などを通じて，コミュニケーション力，セルフブランディング力，英語力のトレーニングも行う。		
【到達目標】 ・商品・サービス開発やマーケティングに役立つ基礎的・実用的知識を身につけ，活用できるようになる。 ・グローバル人材になるために必要な入門的知識・技術を身につける。		
【授業計画】 1. 自主課題研究 2. 自主課題研究 3. 自主課題研究 4. 自主課題研究 5. 自主課題研究 6. 自主課題研究 7. 自主課題研究 8. 自主課題研究 9. 自主課題研究 10. 自主課題研究 11. 自主課題研究 12. 自主課題研究 13. 自主課題研究 14. 自主課題研究 15. 自主課題研究		
【テキスト】 担当教員が必要に応じてレジユメを配布する。（原則WEBにて配布）		
【参考図書・参考資料等】 ええ，会議が楽しいですが，なにか？—フューチャーセッションが会議を変える！2015/2 林 俊克 すぐできる！誰でもわかる！アクティブ・ラーニング—フューチャー・セッションでらくらく実践！—（就実 大学グローバルブック）2016/4/29 林 俊克，玉有朋子 JMPによる多変量データ活用術2008/9 廣野 元久，林 俊克 Excelで学ぶテキストマイニング入門2002/10 林 俊克 JMPによる統計解析入門2006/12 田久 浩志，小島 隆矢		
【授業外学習】 毎回の授業・実習に関連した簡単な課題（所要時間30分以内を想定，原則WEBにて回答）		
【成績評価の方法】 各回の授業態度と課題提出：100%		

科目名 専門ゼミナールⅣ 〇 (三浦)		担当者 三 浦 紗綾子
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム 〇
[授業のテーマ] 自分で考える能力を身につけることを目標に、多様な方法で学んでいく。		
[授業の概要] 目標達成のため、自分が興味あることを見つけ、それについてじっくり考えることを行っていく。具体的にはゼミ論Ⅰの準備を行っていく。 春期休業中にはゼミ論の発表会を行う。		
[到達目標] 自分で考える能力を身につけるのが専門ゼミナールⅣの目的である。		
[授業計画] 1. ゼミ論発表① 2. ゼミ論発表② 3. ゼミ論発表③ 4. ゼミ論発表④ 5. ゼミ論発表⑤ 6. ゼミ論発表⑥ 7. ゼミ論発表⑦ 8. ゼミ論発表⑧ 9. ゼミ論発表⑨ 10. ゼミ論発表⑩ 11. ゼミ論発表⑪ 12. ゼミ論発表⑫ 13. ゼミ論発表⑬ 14. ゼミ論発表⑭ 15. ゼミ論発表⑮		
[テキスト] 特になし		
[参考図書・参考資料等] <思考力を鍛えるための読み方・書き方の参考に> 荻谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法』 講談社。 <正しい文章の書き方の参考に> 本多勝一 (1982) 『日本語の作文技術』 朝日新聞社。(2005年の新装版でもよい) <書く以外の表現力をつけるために> 鴻上尚史 (2003) 『あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント』 講談社。		
[授業外学習] レジュメ作成の時間を要する。		
[成績評価の方法] 提出されたレジュメ、及びゼミナールでの討議の内容・参加態度について、目標に照らした達成度で評価する。レジュメの提出、ゼミナールでの討議参加のために、ゼミへの出席は必須である。		

科目名 専門ゼミナールⅣp（八巻）		担当者 八巻 恵子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 専門ゼミナールⅣは観光現象についてとりあげる。観光は余暇の楽しみを創造し、人生を豊かにするものであると同時に、地域づくりを目指すための戦略として用いられることもある。観光をサービス産業の中のビジネスとしてみるのには観光の一側面でしかない。そのような大きな視座に立ちつつ、本ゼミでは特にエコロジーと持続可能性、文化の普遍的な価値についての理解を共通認識として、グローバル社会におけるさまざまな観光現象を取り上げながら討議をしてゆく。		
【授業の概要】 観光研究は学問分野横断的なアプローチをとる。文献や資料から体系的な理論学習を行なう。フィールドワークでは観光地や観光産業の現地を訪問し、文化人類学の質的調査の手法と分析方法を学び、観光に関連する社会現象についての情報収集力（マーケティング・リサーチのスキル）を身につける。ゼミでは共同研究を行い、共同執筆、学生シンポジウムやコンテストの参加にチャレンジし、ゼミ内外に向けて報告を行う。		
【到達目標】 4年次に卒業研究を個人で運営できるようになるための能力と技術として、特に、1) 読解力と文章力を鍛えてゆく。観光を共通テーマとしながら、理論学習と演習（フィールドワークやグループ討議）を繰り返し、2) 実社会の複雑でわかりにくい現象や情報を読み解くことができる力、世の中を分析し深く理解することができる高度な社会情報リテラシーを身につけた人材育成を目指す。		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 専門書の文献講読① 3. 専門書の文献講読② 4. 専門書の文献講読③ 5. 専門書の文献講読④ 6. 専門書の文献講読⑤ 7. 専門書の文献講読⑥ 8. 専門書の文献講読⑦ 9. 専門書の文献講読⑧ 10. 専門書の文献講読⑨ 11. 専門書の文献講読⑩ 12. 専門書の文献講読⑪ 13. フィールドワーク① 14. フィールドワーク② 15. フィールド報告会		
【テキスト】 日本文化人類学会監修（2011）『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社 ISBN-10: 4790715264/ISBN-13: 978-4790715269 真板昭夫・石森秀三他編（2011）『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社 ISBN-10: 4790715027/ISBN-13: 978-4790715023		
【参考図書・参考資料等】 敷田麻実編（2008）『地域からのエコツーリズム—観光・交流による持続可能な地域づくり』学芸出版社 ISBN-10: 4761524286/ISBN-13: 978-4761524289 岡本伸之編（2001）『観光学入門—ポスト・マス・ツーリズムの観光学』有斐閣 ISBN-10: 4641121303/ISBN-13: 978-4641121300 高橋一夫・吉田順一・大津正和（2010）『1からの観光』ISBN-10: 4502674109/ISBN-13: 978-4502674105 石井淳蔵・高橋一夫編（2011）『観光のビジネスモデル—利益を生み出す仕組みを考える』学芸出版社 ISBN-10: 4761525274/ISBN-13: 978-4761525279 小林天心『国際観光誘致のしかた—インバウンド・ツーリズム振興の基本』虹人社 ISBN-10: 4770900589/ISBN-13: 978-4770900586 梅棹忠夫（1999）『情報の文明学』中央公論新社 ISBN-10: 4122033985/ISBN-13: 978-4122033986 八巻 恵子『国際線客室乗務員の仕事: サービスの経営人類学』東方出版, ISBN-10: 4862492223/ISBN-13: 978-4862492227 他適宜紹介する。		
【授業外学習】 適宜指示する。		
【成績評価の方法】 ゼミへの積極的参加・ゼミへの貢献度（討議、共同研究の企画・運営、コンテストや学生シンポジウムなどの共同報告活動の企画・運営）60%、課題達成度（レポート、報告など）40%		

科目名 専門ゼミナールVa (青山)		担当者 青 山 允 隆
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 企業間関係に関する理論的な検討及びケーススタディを行う。 キーワード：商業，流通システム，チャネル戦略，ビジネスモデル，企業間関係，戦略的提携，産業財流通，イノベーション，市場志向性		
【授業の概要】 三年次，四年次を通してゼミに所属することを前提として講義を構成している。 1. 三年次前期：関連文献の輪読 2. 三年次後期：専門的な調査 3. 四年次：卒業論文執筆 本講義は3にあたる。		
【到達目標】 ・大学時代に専門的に学んだこととして「企業間関係について学んだ」と胸を張って言えるようになる。 ・同業者間の水平的な競争だけでなく，垂直的な利益の奪い合いという物の見方を身に着ける ・夏休み中の卒業論文報告会にて，卒業論文の内容がパワーポイントベースで報告できる程度の完成度まで研究を進める		
【授業計画】 1. 卒業論文の執筆指導 2. 卒業論文の執筆指導 3. 卒業論文の執筆指導 4. 卒業論文の執筆指導 5. 卒業論文の執筆指導 6. 卒業論文の執筆指導 7. 卒業論文の執筆指導 8. 卒業論文の執筆指導 9. 卒業論文の執筆指導 10. 卒業論文の執筆指導 11. 卒業論文の執筆指導 12. 卒業論文の執筆指導 13. 卒業論文の執筆指導 14. 卒業論文の執筆指導 15. 卒業論文の執筆指導		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 適宜指示する。		
【授業外学習】 卒業研究を各自で進める。		
【成績評価の方法】 講義に対する参加の程度，発表の質で判断する。それぞれ評価基準は初回講義で具体例を交えて詳細に説明する。 ①発表の質：報告前に到達目標や作業内容について調整し，その目標がどれだけ達成できたのか達成度で評価する。 ②参加の程度：毎回のゼミで他の報告者に対して行うコメントの積極性(回数)と内容(研究が進むコメントか)によって評価する。		

科目名 専門ゼミナールVb (大倉)		担当者 大倉 健
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 本ゼミナールでは、(1) 経営戦略論的な観点から、興味深く意味ある現象を自ら見出せるようなものの方 や考え方を身につけ、(2) その見出したものを他人に効果的に伝える力を身につける、ということを基本的な テーマにします。		
【授業の概要】 興味深い事実を自ら見出し、それを人に伝えることができるということは、経営活動の基礎をなす重要な力 です。新しいビジネスの機会や組織の問題を見抜き、あるいは困っている仲間やあなた自身を勇気づけるため には、新しい事実やすでに知られていた事実の新たな側面に注目し、それに人の目を向けさせる力がなくては なりません。本ゼミナールでは学生自身が自ら興味ある経営現象に主体的に取り組みながらこうした力を養っ てもらいたいと思います。4年次では卒業論文をメインとした作業をおこなってもらいます。		
【到達目標】 次のような能力を身につけることを目標とします。(1) 統計その他の客観的なデータを使って現象を記述す る。(2) 他人の話す内容を整理・解釈して、より意味のある知見を見出す。(3) 人前でちゃんと喋れる。効果 的な演説や文章、プレゼンテーションを工夫する。(4) 自分と他人を前向きな気持ちにさせ、多少の逆境にお いても「心が折れる」ことなく物事を進める。		
【授業計画】 1. 学習予定の確認 2. 輪読 (1) 3. 輪読 (2) 4. 輪読 (3) 5. 輪読 (4) 6. 卒業論文進捗報告 (1) 7. 卒業論文進捗報告 (2) 8. 卒業論文進捗報告 (3) 9. 卒業論文進捗報告 (4) 10. 卒業論文進捗報告 (5) 11. 卒業論文進捗報告 (6) 12. 卒業論文進捗報告 (7) 13. 卒業論文進捗報告 (8) 14. 卒業論文進捗報告 (9) 15. 夏期休業期課題設定		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 指定しない。		
【授業外学習】 各自の卒業研究を進めること。		
【成績評価の方法】 ゼミナールで出される課題の遂行 (50%)、ゼミナールにおける発言や積極性などの学習姿勢 (50%)		

科目名 専門ゼミナールVc (大崎)		担当者 大崎 泰正
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 現実の日本経済，地域経済の動きについて，経済学的に理解し，課題を整理したうえ，問題解決に向けて説得力をもった政策立案および論文作成ができるようになることを目標とする。		
【授業の概要】 ゼミナールはproactiveな学びの場であるので，自分なりの関心，課題をみつけてきて，それらについてゼミ生間で討議しながら，問題解決法を探るという形で行う。		
【到達目標】 論理の展開やエビデンスの提示におい説得力のある論文の作成能力を身につけること。 経済データ入手・処理の方法，フィールド調査の手順，聞き取り方法，回帰分析，産業連関分析など，社会に出てからも有用性が高い基本的な調査手法・分析手法を習得する。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 輪読 2. 輪読 3. 輪読 4. 輪読 5. 輪読 6. データ資料収集 7. データ資料収集 8. データ資料収集 9. データ資料収集 10. データ資料収集 11. データ資料収集 12. データ資料収集 13. データ資料収集 14. データ資料収集 15. データ資料収集 		
【テキスト】 なし		
【参考図書・参考資料等】 『地域経済学と地域政策』H・アームストロング ISBN4-947553-08-1 『地域のマーケティング』P・コトラー ISBN4-492-52083-X		
【授業外学習】 地方自治体でのフィールド調査。 岡山大学，下関市立大学との合同ゼミ（山田方谷の事績と地方創生をテーマとした）を計画。		
【成績評価の方法】 ゼミナールへの取組姿勢の評価による（100%）		

科目名 専門ゼミナールV d (加賀美)		担当者 加賀美 太記
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 前年度のゼミナールを踏まえて、受講生各自の研究課題に従って卒業論文を作成します。 卒業論文の作成を通じて、問題意識と関係した経営理論を修得するとともに、研究の計画から遂行までの経験を積むことを目的とします。		
【授業の概要】 本ゼミナールでは卒業論文の作成に取り組みます。 受講生が各自でテーマを設定し、問題意識の明確化、論文構成の構築など研究計画書を作成し、情報を収集します。また必要に応じて、テキストの輪読をおこないます。 その他、詳細な授業計画は、受講生と適宜相談のうえ決定します。		
【到達目標】 ・本や資料、現地・現物から正確に情報を読み取り、文章にまとめられるようになる。 ・マーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業・組織のマーケティングの分析・考察ができるようになる。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 卒業論文のテーマ発表 (1) 3. 卒業論文のテーマ発表 (2) 4. 研究計画書の作成 (1) 5. 研究計画書の作成 (2) 6. テキスト輪読 (1) 7. テキスト輪読 (2) 8. テキスト輪読 (3) 9. テキスト輪読 (4) 10. テキスト輪読 (5) 11. テキスト輪読 (6) 12. テキスト輪読 (7) 13. 研究の中間発表 (1) 14. 研究の中間発表 (2) 15. まとめ		
【テキスト】 テキストは受講生と相談して決定します。		
【参考図書・参考資料等】 必要に応じて提示します。		
【授業外学習】 授業時での発表等を準備する事前検討や調査のミーティングなど。		
【成績評価の方法】 受講時の課題報告・レポート：80%、受講姿勢（輪読・討論における発言回数、事前準備など）20% で評価します。		

科目名 専門ゼミナールVe (江)		担当者 江 向 華
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 専門知識の習得及び自主的調査・発表・研究能力の養成。		
[授業の概要] 四年ゼミでは、主に卒業論文の作成（先行研究のレビューや、調査方法の決定、企業調査など）を中心に進める予定である。		
[到達目標] 適切なデータ収集や、論文執筆等のスキルを身に着けることを目標とする。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の学習・発表・討議 2. 卒業論文の学習・発表・討議 3. 卒業論文の学習・発表・討議 4. 卒業論文の学習・発表・討議 5. 卒業論文の学習・発表・討議 6. 卒業論文の学習・発表・討議 7. 卒業論文の学習・発表・討議 8. 卒業論文の学習・発表・討議 9. 卒業論文の学習・発表・討議 10. 卒業論文の学習・発表・討議 11. 卒業論文の学習・発表・討議 12. 卒業論文の学習・発表・討議 13. 卒業論文の学習・発表・討議 14. 卒業論文の学習・発表・討議 15. 春学期の統括 		
[テキスト] 授業中に提示する。		
[参考図書・参考資料等] 特に指定しない。		
[授業外学習] 興味のある内容については自分で図書館やインターネットなどで調べるなどして事前に調べた方が理解が深まる。		
[成績評価の方法] 授業への貢献度を重視し、さらに研究発表（40%）・ディスカッション（30%）・レポート（30%）の成績によって総合的に評価する。		

科目名 専門ゼミナールVf（三枝）		担当者 三 枝 省 三
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 卒業論文作成を通じて、(1) 経営学に対する知識と認識の向上、(2) クリティカルシンキング力の向上、(3) 日本語作文能力の向上を図る。そのプロセスで業務・研究遂行の方法論を習得し、社会人の入り口意識を持つことをテーマとする		
【授業の概要】 テーマに即して、卒論執筆を推進する。ゼミとしての活動（グループ）の視点と個人的な視点の双方を磨くために、適切なプレゼンと相互評価（批判）を繰り返し、論文としての完成度を高める。		
【到達目標】 (1) 卒論の執筆完了見通し (2) 社会人としての入り口意識の構築		
【授業計画】 1. ガイダンス：方針と授業計画を説明する。アイデアマラソンの再開。 2. 卒論執筆推進 (1) 卒論を執筆するに当たり、プレゼンをする中でブラッシュアップを図る 3. 卒論執筆推進 (2) 当初の目標通り出来ているか確認をする 4. 卒論ゼミ内報告 (A1) 4年生、3年生合同で中間報告会を実施する。(4年はシナリオ) 5. 卒論ゼミ内報告 (A2) 3年生、4年生合同で中間報告会を実施する。(3年はテーマ) 6. 読書/論文紹介 (R1) 関連する専門書/論文を紹介する 7. 卒論執筆推進 (3) 卒論を執筆するに当たり、プレゼンをする中で課題をより深く考察する 8. 卒論執筆推進 (4) 卒論を執筆するに当たり、プレゼンをする中で課題をより深く考察する 9. 卒論執筆推進 (5) 卒論を執筆するに当たり、プレゼンをする中で課題をより深く考察する 10. 読書/論文紹介 (R2) 関連する専門書/論文を紹介する 11. 卒論執筆推進 (6) 卒論を執筆するに当たり、プレゼンをする中で課題をより深く考察する 12. 卒論執筆推進 (7) 卒論を執筆するに当たり、プレゼンをする中で課題をより深く考察する 13. 卒論ゼミ内報告 (B1) 4年生、3年生合同で中間報告会を実施する。(4年はシナリオ) 14. 卒論ゼミ内報告 (B2) 卒3年生、4年生合同で中間報告会を実施する。(3年はテーマ最終版) 15. 前期のまとめと、夏季休暇での学習事項の整理		
【テキスト】 適時議論の中で決めていく		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で適時開示する。下記は一読されたし。 1) 野中郁次郎・徳岡晃一郎、「ビジネスモデルイノベーション」、東洋経済（2012）		
【授業外学習】 必要に応じて、学外への調査を考える。 また、「考えて調査し発表する」の繰り返しであり、予習は必須である		
【成績評価の方法】 講義の積極的参加（30%）+ 課題（発表、レポート）（70%）の総合評価		

科目名 専門ゼミナールV g (寺前)		担当者 寺 前 俊 孝
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 大学は、社会に出る前に時間をかけて学ぶことの出来る最後の場所です。その中でもゼミナールで何を学び、何を考えたかは、その後の社会生活に大きな影響を与えます。本ゼミナールは、輪読やフィールドワークを通じて皆さんが多様な視点を身につけ、論理的な思考が出来るようになることを目指します。		
【授業の概要】 輪読の対象となる本は、マーケティングを中心として、経済学や戦略論など多岐に渡ります。それらの輪読を通じて、様々な理論や分析ツールを学び、皆さんが将来実際に社会でそれらを役立てることを目指しています。実際には、市場は絶えず変化を続け、非常に複雑であるため、理論的には正しい戦略行動をとったとしてもそれが成果に結びつかないこともあります。理論と実践は両輪であり、理論を学ぶだけでは十分ではありません。理論を前提とした上で現実を分析し、「なぜ」「どのように」といった問いを追究することをゼミ内で繰り返し行うことによって、論理的な思考能力を高めます。		
【到達目標】 理論を学び事例を通じて理解を深めるためには、情報収集力や分析力、批判的思考力が必要です。ゼミの課題を通じてそれらを身に付けます。		
【授業計画】 1. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 2. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 3. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 4. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 5. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 6. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 7. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 8. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 9. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 10. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 11. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 12. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 13. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 14. マーケティング関連図書の輪読と企業研究 15. マーケティング関連図書の輪読と企業研究		
【テキスト】 第1回の講義で提示します。		
【参考図書・参考資料等】 適宜指示します。		
【授業外学習】 休暇中にも課題を出す予定です。しっかり取り組んでください。		
【成績評価の方法】 授業態度や授業への貢献度を見て総合的に評価します。なおゼミナールの運営上、原則全回出席を義務付けます。		

科目名 専門ゼミナールVh (真田)		担当者 真 田 正 次
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 本ゼミナールは、3年次に学習した「経営分析」の方法を使って実際に企業の分析を行い、卒業研究へとつなげていくことをテーマとしています。		
【授業の概要】 学生が行った研究を、毎回、報告するとともに、他の学生および教員はそれに対してコメントを行う。		
【到達目標】 実際に企業の分析を行う中で、会計のみならず、戦略、組織、マーケティング等、いままで学習した知識を統合させるとともに、卒業論文を完成させる。		
【授業計画】 1. ガイダンス 2. 企業概要の分析 3. 研究報告 4. 企業戦略分析 5. 研究報告 6. 財務分析 7. 研究報告 8. 企業価値分析 9. 研究報告 10. 企業の独自性の分析 11. 研究報告 12. 研究報告 13. 研究報告 14. 研究報告 15. 研究報告		
【テキスト】 特に指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 特に指定しない。		
【授業外学習】 サブゼミおよび他大学との交流会を実施する。		
【成績評価の方法】 報告およびレポートを総合的に評価する。		

科目名 専門ゼミナールVi (杉山)		担当者 杉 山 慎 策
開講期 前期	単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ・ 主要な経営理論を再復習する。 ・ 卒論に向けた調査や資料集め，論点整理をする。		
【授業の概要】 ・ 毎回テキストの課題の発表を行う。 ・ 卒論の準備をする。		
【到達目標】 ・ 経営学の主要理論を理解し，活用できるようにする。 ・ 卒論に向けた資料の準備や論点の整理をする。		
【授業計画】 1. 演習の目的 2. お金にまつわる5つのビジネスモデル革新 3. ビジネスモデルとは何か 4. 近代ビジネスモデルの創生期 5. 近代ビジネスモデルの変革期 6. 世紀末，スピードとITによる創造期 7. リアルを巻き込んだ巨人たちの戦い，小チームの勃興 8. どうビジネスモデル革新を起こすのか？ 9. 今，日本から世界に挑戦できること 10. 資生堂のビジネスモデル 11. P & Gのビジネスモデル 12. 花王のビジネスモデル 13. ユニリバーのビジネスモデル 14. ロレアルのビジネスモデル 15. まとめ		
【テキスト】 ・ 『ビジネスモデル全史』 三谷宏治 (著) デイスクヴァー・トゥエンティワン ISBN 9784799315637		
【参考図書・参考資料等】 ・ 必要に応じて指示する。		
【授業外学習】 ・ 課題をまとめてパワーポイントで発表すること。		
【成績評価の方法】 講義中の発言や講義への参加 (40%)，毎回の課題発表 (60%)		

科目名 専門ゼミナールV j (鈴木)		担当者 鈴木 新
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 管理会計に関する研究テーマを設定し、卒業論文に向けて研究を進めます。		
[授業の概要] 各自の研究テーマに沿って研究を進めておき、ゼミでそれを報告し指導を受けます。		
[到達目標] 卒業論文のテーマを定め、必要な調査を実施します。		
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 研究報告(1) 3. 研究報告(2) 4. 研究報告(3) 5. 研究報告(4) 6. 研究報告(5) 7. 研究報告(6) 8. 研究報告(7) 9. 研究報告(8) 10. 研究報告(9) 11. 研究報告(10) 12. 研究報告(11) 13. 研究報告(12) 14. 研究報告(13) 15. まとめ		
[テキスト] なし		
[参考図書・参考資料等] なし		
[授業外学習] ゼミで報告するために長時間の授業外学習が必要です。		
[成績評価の方法] レポート50点、貢献度50点、簿記の進捗度(%)により評価します。		

科目名 専門ゼミナールV I (日置)		担当者 日 置 弘一郎
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム <input type="radio"/>
【授業のテーマ】 「企業と社会」に関わる領域に関する学びをさらに深める。		
【授業の概要】 専門ゼミナールIVで学んだことを発展させて、各自設定したテーマで研究を進め、集大成となる卒業論を仕上げるための指導を行う。		
【到達目標】 本授業の到達目標は以下の4つである。 ①自律的に学びを深める習慣を身につけること ②失敗や行き詰まりでも立ち止まり続けないこと ③学んだことを他者に魅力的に伝えること ④わかりやすい文章を作成すること		
【授業計画】 1. テキスト輪読と論文発表 2. テキスト輪読と論文発表 3. テキスト輪読と論文発表 4. テキスト輪読と論文発表 5. テキスト輪読と論文発表 6. テキスト輪読と論文発表 7. テキスト輪読と論文発表 8. テキスト輪読と論文発表 9. テキスト輪読と論文発表 10. テキスト輪読と論文発表 11. テキスト輪読と論文発表 12. テキスト輪読と論文発表 13. テキスト輪読と論文発表 14. テキスト輪読と論文発表 15. テキスト輪読と論文発表		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 適宜紹介する。		
【授業外学習】 授業は成果報告の場であるため、授業時間外の十分な取り組みが欠かせない。		
【成績評価の方法】 発表と質疑応答 (40%)、論文 (60%)		

科目名 専門ゼミナールVm (野本)		担当者 野本明成
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 マーケティング・マネジメントについての基本的な概念を事例を通して習得することを目指します。また、マーケティング戦略の方法を習得することを目指します。		
【授業の概要】 各ゼミ生個人が特定の企業・業界を選択し適切なマーケティング戦略を研究する。また、チームごとに特定の企業・業界を選択し適切なマーケティング戦略を研究する。研究結果をその都度発表し、全員で討議する。		
【到達目標】 実際の企業のマーケティング戦略の策定を行うことにより、マーケティング・マネジメントの基本的な考え方およびマーケティング戦略を理解することを目指す。それに基づいて卒業論文に仕上げます。 「社会でビジネスプロフェッショナルとして責任を果たせること」を目指します。		
【授業計画】 1. イントロダクション 2. マーケティング戦略の講義 (1) 3. マーケティング戦略の講義 (2) 4. マーケティング戦略の講義 (3) 5. ビジネス・プランニングの講義 (1) 6. ビジネス・プランニングの講義 (2) 7. マーケティング戦略の事例研究 (1) 8. マーケティング戦略の事例研究 (2) 9. マーケティング戦略の事例研究 (3) 10. マーケティング戦略の事例研究 (4) 11. 自己テーマの発表・討議 (1) 12. 自己テーマの発表・討議 (2) 13. 自己テーマの発表・討議 (3) 14. 自己テーマの発表・討議 (4) 15. まとめ		
【テキスト】 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』 コトラー&ケラー著、丸善出版。(ISBN:978-4-89471-659-9)		
【参考図書・参考資料等】 授業中に紹介します。		
【授業外学習】 テキストについてはあらかじめ読書し、ある程度理解しておく必要があります。		
【成績評価の方法】 発表、ゼミ活動への参加に基づいて評価する(100%)。 特に、テーマ発表、ゼミ活動への参加に基づいて、マーケティング・マネジメント、マーケティング戦略についてどの程度理解しているかに基づいて評価する。		

科目名 専門ゼミナールV n (林)		担当者 林 俊 克
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ・地域（岡山を中心とする東瀬戸経済圏）の文化・経済発展支援に関する実践的な研究を行う。 ・コミュニケーション力，セルフブランディング力，英語力を身につける。 ・学术论文を執筆できるだけの能力を身につける。		
【授業の概要】 ・システムデザインマネジメントの研究と応用（主としてフューチャーセッション）を通じた地域活性化事例の創出 ・データサイエンス手法の研究と応用を通じた地域活性化事例の創出 をテーマに，調査・分析からビジネスプランニング，企画作成，提案までを実践的に行う。 併せて，フェイスブックの活用や地域活動への参加などを通じて，コミュニケーション力，セルフブランディング力，英語力のトレーニングも行う。		
【到達目標】 ・学术论文を執筆できるだけの能力を身につける。 ・商品・サービス開発やマーケティングに役立つ基礎的・実用的知識を身につけ，活用できるようになる。 ・グローバル人材になるために必要な入門的知識・技術を身につける。		
【授業計画】 1. 自主課題研究 2. 自主課題研究 3. 自主課題研究 4. 自主課題研究 5. 自主課題研究 6. 自主課題研究 7. 自主課題研究 8. 自主課題研究 9. 自主課題研究 10. 自主課題研究 11. 自主課題研究 12. 自主課題研究 13. 自主課題研究 14. 自主課題研究 15. 自主課題研究		
【テキスト】 担当教員が必要に応じてレジュメを配布する。（原則WEBにて配布）		
【参考図書・参考資料等】 ええ，会議が楽しいですが，なにか？—フューチャーセッションが会議を変える！2015/2 林 俊克 すぐできる！誰でもわかる！アクティブ・ラーニング—フューチャー・セッションでらくらく実践！—（就実 大学グローバルブック）2016/4/29 林 俊克，玉有朋子 JMPによる多変量データ活用術2008/9 廣野 元久，林 俊克 Excelで学ぶテキストマイニング入門2002/10 林 俊克 JMPによる統計解析入門2006/12 田久 浩志，小島 隆矢		
【授業外学習】 毎回の授業・実習に関連した簡単な課題（所要時間30分以内を想定，原則WEBにて回答）		
【成績評価の方法】 各回の授業態度と課題提出：100%		

科目名 専門ゼミナールV o (三浦)		担当者 三 浦 紗綾子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 自分で考えるという能力を身につけることを目標に、多様な方法で学んでいく。		
【授業の概要】 目標達成のため、自分が興味あることを見つけ、それについてじっくり考えることを行っていく。具体的には輪読とゼミ論II (卒業論文) の準備を行う。 また、夏期休業中にはグループ論文を作成し、他大学の先生やゼミ生との合同合宿にてそれに関する発表・議論を行う。		
【到達目標】 自分で考える能力を身につけるのが専門ゼミナールVの目的である。		
【授業計画】 1. インTRODクシヨN 2. 輪読① 3. 輪読② 4. 輪読③ 5. 輪読④ 6. 輪読⑤ 7. 輪読⑥ 8. ゼミ論I発表 9. 輪読⑦ 10. 輪読⑧ 11. 輪読⑨ 12. 輪読⑩ 13. 輪読⑩ 14. 輪読⑪ 15. 輪読⑫		
【テキスト】 輪読を行う課題図書 (複数冊) は初回講義で提示する。		
【参考図書・参考資料等】 <思考力を鍛えるための読み方・書き方の参考に> 荻谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法』講談社。 <正しい文章の書き方の参考に> 本多勝一 (1982) 『日本語の作文技術』朝日新聞社。(2005年の新装版でもよい) <書く以外の表現力をつけるために> 鴻上尚史 (2003) 『あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント』講談社。		
【授業外学習】 レジュメ作成の時間を要する。		
【成績評価の方法】 提出されたレジュメ、及びゼミナールでの討議の内容・参加態度について、目標に照らした達成度で評価する。レジュメの提出、ゼミナールでの討議参加のために、ゼミへの出席は必須である。		

科目名 専門ゼミナールV p (八巻)		担当者 八 巻 恵 子
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 卒業研究		
[授業の概要] 各自の研究テーマに基づき論文執筆のための技術を身につける。フィールドワークを通じた情報収集の技術と定性情報を言語化する技術を身につけ、主体的に個人の研究を運営する		
[到達目標] 卒業論文の完成		
[授業計画] 1. ガイダンス：卒業研究論文の提出までの流れ 2. フィールド調査・アンケート調査実施についての注意事項 3. 卒業研究のタイトル決定，研究目的，研究方法の確認 4. 目次作成① 5. 目次作成② 6. 文献調査，資料収集，フィールド調査の実施，原稿執筆と中間報告① 7. 文献調査，資料収集，フィールド調査の実施，原稿執筆と中間報告② 8. 文献調査，資料収集，フィールド調査の実施，原稿執筆と中間報告③ 9. 文献調査，資料収集，フィールド調査の実施，原稿執筆と中間報告④ 10. 文献調査，資料収集，フィールド調査の実施，原稿執筆と中間報告⑤ 11. 卒業研究中間報告会① 12. 卒業研究中間報告会② 13. 卒業研究中間報告会③ 14. 卒業研究中間報告会④ 15. 卒業研究中間報告会⑤		
[テキスト] 各自のテーマに基づく参考文献や資料		
[参考図書・参考資料等] 各自の研究テーマに応じて適宜指示する		
[授業外学習] フィールドワーク，合宿，ワークショップ，講演会の参加など		
[成績評価の方法] 卒業研究中間報告会を通じた報告内容による評価（レポートとプレゼンテーション）		

科目名 専門ゼミナールⅥa (青山)		担当者 青山 允 隆
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 企業間関係に関する理論的な検討及びケーススタディを行う。 キーワード：商業，流通システム，チャネル戦略，ビジネスモデル，企業間関係，戦略的提携，産業財流通，イノベーション，市場志向性		
【授業の概要】 三年次，四年次を通してゼミに所属することを前提として講義を構成している。 1. 三年次前期：関連文献の輪読 2. 三年次後期：専門的な調査 3. 四年次：卒業論文執筆 本講義は3にあたる。		
【到達目標】 ・大学時代に専門的に学んだこととして「企業間関係について学んだ」と胸を張って言えるようになる。 ・同業者間の水平的な競争だけでなく，垂直的な利益の奪い合いという物の見方を身に着ける ・卒業論文を完成させることができる		
【授業計画】 1. 卒業論文の執筆指導 2. 卒業論文の執筆指導 3. 卒業論文の執筆指導 4. 卒業論文の執筆指導 5. 卒業論文の執筆指導 6. 卒業論文の執筆指導 7. 卒業論文の執筆指導 8. 卒業論文の執筆指導 9. 卒業論文の執筆指導 10. 卒業論文の執筆指導 11. 卒業論文報告会に向けた準備 12. 卒業論文報告会に向けた準備 13. 研究リテラシーの向上 14. 研究リテラシーの向上 15. 研究リテラシーの向上		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 適宜指示する。		
【授業外学習】 卒業研究を各自で進める。		
【成績評価の方法】 講義に対する参加の程度，発表の質で判断する。それぞれ評価基準は初回講義で具体例を交えて詳細に説明する。 ①発表の質：報告前に到達目標や作業内容について調整し，その目標がどれだけ達成できたのか達成度で評価する。 ②参加の程度：毎回のゼミで他の報告者に対して行うコメントの積極性（回数）と内容（研究が進むコメントか）によって評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅥb (大倉)		担当者 大 倉 健
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 本ゼミナールでは、(1) 経営戦略論的な観点から、興味深く意味ある現象を自ら見出せるようなものを見方や考え方を身につけ、(2) その見出したものを他人に効果的に伝える力を身につける、ということを基本的なテーマにします。		
【授業の概要】 興味深い事実を自ら見出し、それを人に伝えることができるということは、経営活動の基礎をなす重要な力です。新しいビジネスの機会や組織の問題を見抜き、あるいは困っている仲間やあなた自身を勇気づけるためには、新しい事実やすでに知られていた事実の新たな側面に注目し、それに人の目を向けさせる力がなくてはなりません。本ゼミナールでは学生自身が自ら興味ある経営現象に主体的に取り組みながらこうした力を養ってもらいたいと思います。		
【到達目標】 興味深い事実を自ら見出し、それを人に伝えることができるということは、経営活動の基礎をなす重要な力です。新しいビジネスの機会や組織の問題を見抜き、あるいは困っている仲間やあなた自身を勇気づけるためには、新しい事実やすでに知られていた事実の新たな側面に注目し、それに人の目を向けさせる力がなくてはなりません。本ゼミナールでは学生自身が自ら興味ある経営現象に主体的に取り組みながらこうした力を養ってもらいたいと思います。4年次では卒業論文をメインとした作業をおこなってもらいます。		
【授業計画】 1. 卒業研究進捗報告 2. 卒業研究進捗報告 3. 卒業研究進捗報告 4. 卒業研究進捗報告 5. 卒業研究進捗報告 6. 卒業研究進捗報告 7. 卒業研究進捗報告 8. 卒業研究進捗報告 9. 卒業研究進捗報告 10. 卒業研究進捗報告 11. 卒業研究進捗報告 12. 卒業研究進捗報告 13. 卒業研究進捗報告 14. 卒業研究進捗報告 15. 卒業研究進捗報告		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 指定しない。		
【授業外学習】 各自の卒業研究を進めること。		
【成績評価の方法】 ゼミナールで出される課題の遂行 (50%)、ゼミにおける発言や積極性などの学習姿勢 (50%)		

科目名 専門ゼミナールⅥc (大崎)		担当者 大崎 泰正		
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○		
【授業のテーマ】 現実の日本経済，地域経済の動きについて，経済学的に理解し，課題を整理したうえ，問題解決に向けて説得力をもった政策立案および論文作成ができるようになることを目標とする。				
【授業の概要】 ゼミナールはproactiveな学びの場であるので，自分なりの関心，課題をみつけてきて，それらについてゼミ生間で討議しながら，問題解決法を探るという形で行う。				
【到達目標】 論理の展開やエビデンスの提示におい説得力のある論文の作成能力を身につけること。 経済データ入手・処理の方法，フィールド調査の手順，聞き取り方法，回帰分析，産業連関分析など，社会に出てからも有用性が高い基本的な調査手法・分析手法を習得する。				
【授業計画】 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 論文構成の検討 2. 論文構成の検討 3. 論文構成の検討 4. 論文構成の検討 5. 論文構成の検討 6. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 7. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 8. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 10. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 11. 文章執筆 論文体裁の整備 12. 文章執筆 論文体裁の整備 13. 論文の最終チェック 14. プレゼンテーション 15. プレゼンテーション </td> </tr> </table>			1. 論文構成の検討 2. 論文構成の検討 3. 論文構成の検討 4. 論文構成の検討 5. 論文構成の検討 6. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 7. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 8. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討	9. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 10. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 11. 文章執筆 論文体裁の整備 12. 文章執筆 論文体裁の整備 13. 論文の最終チェック 14. プレゼンテーション 15. プレゼンテーション
1. 論文構成の検討 2. 論文構成の検討 3. 論文構成の検討 4. 論文構成の検討 5. 論文構成の検討 6. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 7. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 8. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討	9. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 10. グラフ・図表作成 構成・資料の再検討 11. 文章執筆 論文体裁の整備 12. 文章執筆 論文体裁の整備 13. 論文の最終チェック 14. プレゼンテーション 15. プレゼンテーション			
【テキスト】 なし				
【参考図書・参考資料等】 『地域経済学と地域政策』H・アームストロング ISBN4-947553-08-1 『地域のマーケティング』P・コトラー ISBN4-492-52083-X				
【授業外学習】 自治体，企業等のフィールド調査				
【成績評価の方法】 ゼミナールへの取組姿勢の評価による（100%）				

科目名 専門ゼミナールⅥd (加賀美)		担当者 加賀美 太記
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 前年度のゼミナールを踏まえて、受講生各自の研究課題に従って卒業論文を作成します。 卒業論文の作成を通じて、問題意識と関係した経営理論を修得するとともに、研究の計画から遂行までの経験を積むことを目的とします。		
【授業の概要】 ゼミナールⅤの内容を受けて、卒業論文の作成に向けて演習を進めます。進捗を報告し、論文の不十分点を明らかにしながら卒業論文作成を進めます。 その他、詳細な授業計画は、受講生と適宜相談のうえ決定します。		
【到達目標】 ・本や資料、現地・現物から正確に情報を読み取り、文章にまとめられるようになる。 ・マーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業・組織のマーケティングの分析・考察ができるようになる。		
【授業計画】 1. 夏季休暇課題および進捗状況の報告 (1) 2. 夏季休暇課題および進捗状況の報告 (2) 3. 中間発表 (1) 4. 中間発表 (2) 5. 中間発表 (3) 6. 中間発表 (4) 7. 卒業論文執筆 (1) 8. 卒業論文執筆 (2) 9. 卒業論文執筆 (3) 10. 卒業論文執筆 (4) 11. 卒論発表の準備 (1) 12. 卒論発表の準備 (2) 13. 卒論発表の準備 (3) 14. 卒業論文の振り返り 15. まとめ		
【テキスト】 テキストは受講生と相談して決定します。		
【参考図書・参考資料等】 必要に応じて提示します。		
【授業外学習】 授業時での発表等を準備する事前検討や調査のミーティングなど。		
【成績評価の方法】 受講時の課題報告・レポート：80%、受講姿勢（輪読・討論における発言回数、事前準備など）20% で評価します。		

科目名 専門ゼミナールⅥe (江)		担当者 江 向 華
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 専門知識の習得及び自主的調査・発表・研究能力の養成。		
【授業の概要】 四年ゼミでは、主に卒業論文の作成（先行研究のレビューや、調査方法の決定、企業調査など）を中心に進める予定である。		
【到達目標】 適切なデータ収集や、論文執筆等のスキルを身に着けることを目標とします。		
【授業計画】 1. 卒業論文作成 2. 卒業論文作成 3. 卒業論文作成 4. 卒業論文作成 5. 卒業論文作成 6. 卒業論文作成 7. 卒業論文作成 8. 卒業論文作成 9. 卒業論文作成 10. 卒業論文作成 11. 卒業論文作成 12. 卒業論文作成 13. 卒業論文作成 14. 卒業論文作成 15. 秋学期の統括		
【テキスト】 特に指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 授業中に提示する。		
【授業外学習】 興味のある内容については自分で図書館やインターネットなどで調べるなどして事前に調べた方が理解が深まる。		
【成績評価の方法】 講義;学生の発表;ディスカッション。		

科目名 専門ゼミナールⅥf (三枝)		担当者 三 枝 省 三
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 卒業論文作成を通じて、(1) 経営学に対する知識と認識の向上、(2) 柔軟性とクリティカルシンキング力の向上、(3) 日本語作文能力の向上を図る。そのプロセスで業務・研究遂行の方法論を習得し、社会人の入り口意識を持ちコミュニケーション力を向上することをテーマとする		
【授業の概要】 テーマに即して、卒論執筆を推進する。ゼミとしての活動(グループ)の視点と個人的な視点の双方を磨くために、適切なプレゼンと相互評価(批判)を繰り返し、論文としての完成度を高める。		
【到達目標】 (1) 卒論の執筆完了 (2) 社会人としての入り口意識のさらなる高揚		
【授業計画】 1. 自己テーマに関する論文紹介・討議 (1) 2. 自己テーマに関する論文紹介・討議 (2) 3. 卒論最終まとめ執筆 (8) 4. 卒論最終まとめ執筆 (9) 5. 卒論ゼミ内報告 (C1) 6. 卒論ゼミ内報告 (C2) 7. 卒論最終まとめ執筆 (10) 8. 卒論最終まとめ執筆 (11) 9. 卒論最終まとめ執筆 (12) 10. ゼミ内卒論発表会 (D1) 11. ゼミ内卒論発表会 (D2) 12. キャリア設計 (1) 13. キャリア設計 (2) 14. キャリア設計 (3) 15. まとめ		
【テキスト】 個人ベースで適時決める		
【参考図書・参考資料等】 講義の中で適時開示する 1) 安宅和人, イシューからはじめよ 知的生産の「シンプルな本質」, 英治出版, 2010 2) 藤岡和賀夫責任編集, プロデューサーの精神, 実業之日本社, 1997		
【授業外学習】 「考え, 調査し発表する」の繰り返しである。予習は必須である		
【成績評価の方法】 講義の積極的参加 (30%) + 課題 (発表, レポート) (70%) の総合評価		

科目名 専門ゼミナールⅥg (寺前)		担当者 寺 前 俊 孝
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 大学は、社会に出る前に時間をかけて学ぶことの出来る最後の場所です。その中でもゼミナールで何を学び、何を考えたかは、その後の社会生活に大きな影響を与えます。本ゼミナールは、輪読やフィールドワークを通じて皆さんが多様な視点を身につけ、論理的な思考が出来るようになることを目指します。		
【授業の概要】 輪読の対象となる本は、マーケティングを中心として、経済学や戦略論など多岐に渡ります。それらの輪読を通じて、様々な理論や分析ツールを学び、皆さんが将来実際に社会でそれらを役立てることを目指しています。実際には、市場は絶えず変化を続け、非常に複雑であるため、理論的には正しい戦略行動をとったとしてもそれが成果に結びつかないこともあります。理論と実践は両輪であり、理論を学ぶだけでは十分ではありません。理論を前提とした上で現実を分析し、「なぜ」「どのように」といった問いを追究することをゼミ内で繰り返し行うことによって、論理的な思考能力を高めます。		
【到達目標】 理論を学び、事例を通じた理解を深めるためには、情報収集力や分析力、批判的思考力が必要です。ゼミの課題を通じてそれらを身に付けます。		
【授業計画】 1. 卒業研究 2. 卒業研究 3. 卒業研究 4. 卒業研究 5. 卒業研究 6. 卒業研究 7. 卒業研究 8. 卒業研究 9. 卒業研究 10. 卒業研究 11. 卒業研究 12. 卒業研究 13. 卒業研究 14. 卒業研究 15. 卒業研究		
【テキスト】 適宜提示します。		
【参考図書・参考資料等】 授業中適宜指導する。		
【授業外学習】 休暇中にも課題を出す予定です。しっかり取り組んでください。		
【成績評価の方法】 授業態度や授業への貢献度を見て総合的に評価します。なおゼミナールの運営上、原則全回出席を義務付けます。		

科目名 専門ゼミナールⅥh (真田)		担当者 真 田 正 次
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 日本企業の財務諸表およびその他の企業情報を用いて、実際に企業分析を行い、卒業研究を完成させる。		
[授業の概要] 毎回、1名ないし2名の報告者が卒業研究の報告を行い、徹底的な議論を行う中で、問題点や改善点を明らかにする。		
[到達目標] 分析対象企業の特徴を理解し、実際の企業の分析を行う能力を身につけるとともに、卒業論文を完成させる。		
[授業計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究発表 2. 卒業研究発表 3. 卒業研究発表 4. 卒業研究発表 5. 卒業研究発表 6. 卒業研究発表 7. 卒業研究発表 8. 卒業研究発表 9. 卒業研究発表 10. 卒業研究完成 11. プレゼンテーション1 12. プレゼンテーション2 13. プレゼンテーション3 14. プレゼンテーション4 15. プレゼンテーション5 		
[テキスト] 特に指定しない。		
[参考図書・参考資料等] 特に指定しない。		
[授業外学習] サブゼミおよび他大学との交流会を実施する。		
[成績評価の方法] 平常点 平常点の評価は、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加		

科目名 専門ゼミナールⅥi (杉山)		担当者 杉 山 慎 策
開講期 後期	単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ・ 卒論の完成に取り組む。 ・ 経営学の主要な戦略論を再確認する。		
【授業の概要】 ・ 毎回テキストの項目をまとめて発表する。 ・ 発表された内容について議論する。 ・ 卒論の取組を発表し討議する。		
【到達目標】 ・ 卒論を完成させる。 ・ 経営学の主要な戦略理論を理解し活用できるようにする。		
【授業計画】 1. 演習の目的 2. 近代マネジメントの3つの源流 3. 近代マネジメントの創世 4. ポジショニング派の大発展 5. ケイパビリティ派の群雄割拠 6. ポジショニングとケイパビリティの統合と整合 7. 21世紀の経営環境と戦略諸論 8. 卒論中間発表 9. 最後の答え「アダプティブ戦略」 10. 全体俯瞰のためのB3Cフレームワーク 11. エクセレントカンパニー 12. ビジヨナリーカンパニー 13. ブルーオーシャン v s レッドオーシャン 14. 卒論の概要発表会 15. まとめ		
【テキスト】 ・ 『経営戦略全史』 三谷宏治 (著) デイスクヴァー・トゥエンティワン ISBN 9784799313138		
【参考図書・参考資料等】 ・ 必要に応じて指示する。		
【授業外学習】 ・ 課題をまとめてパワーポイントで発表すること。 ・ 卒論に必要な調査を実施すること。		
【成績評価の方法】 講義中の発言や講義への参加 (20%), 毎回の課題発表 (40%), 卒論の概要の発表 (40%)		

科目名 専門ゼミナールⅥ j (鈴木)		担当者 鈴木 新
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 管理会計に関する研究テーマを設定し、卒業論文に向けて研究を進めます。		
[授業の概要] 各自の研究テーマに沿って研究を進めておき、ゼミでそれを報告し指導を受けます。		
[到達目標] 卒業論文のテーマを定め、必要な調査を実施します。		
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 研究報告(1) 3. 研究報告(2) 4. 研究報告(3) 5. 研究報告(4) 6. 研究報告(5) 7. 研究報告(6) 8. 研究報告(7) 9. 研究報告(8) 10. 研究報告(9) 11. 研究報告(10) 12. 研究報告(11) 13. 研究報告(12) 14. 研究報告(13) 15. まとめ		
[テキスト] なし		
[参考図書・参考資料等] なし		
[授業外学習] ゼミで報告するために長時間の授業外学習が必要です。		
[成績評価の方法] レポート50点、貢献度50点、簿記の進捗度(%)により評価します。		

科目名 専門ゼミナールⅥⅠ（日置）		担当者 日 置 弘一郎
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 「企業と社会」に関わる領域に関する学びをさらに深める。		
【授業の概要】 専門ゼミナールⅤで学んだことを発展させて、各自設定したテーマで研究を進め、集大成となる卒業論を仕上げるための指導を行う。		
【到達目標】 本授業の到達目標は以下の4つである。 ①自律的に学びを深める習慣を身につけること ②失敗や行き詰まりでも立ち止まり続けないこと ③学んだことを他者に魅力的に伝えること ④わかりやすい文章を作成すること		
【授業計画】 1. 論文中間発表 2. 論文に関するディスカッション 3. 論文に関するディスカッション 4. 論文に関するディスカッション 5. 論文に関するディスカッション 6. 論文に関するディスカッション 7. 論文に関するディスカッション 8. 論文に関するディスカッション 9. 論文に関するディスカッション 10. 論文に関するディスカッション 11. 論文発表 12. 論文発表 13. 論文発表 14. 論文発表 15. 論文発表		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 適宜紹介する。		
【授業外学習】 授業は成果報告の場であるため、授業時間外の十分な取り組みが欠かせない。		
【成績評価の方法】 発表と質疑応答（40%）、論文（60%）		

科目名 専門ゼミナールⅥm (野本)		担当者 野 本 明 成
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム <input type="radio"/>
【授業のテーマ】 マーケティング・マネジメントについての基本的な概念を事例を通して習得することを目指します。また、マーケティング戦略の方法を習得することを目指します。		
【授業の概要】 各ゼミ生個人が特定の企業・業界を選択し適切なマーケティング戦略を研究する。また、チームごとに特定の企業・業界を選択し、適切なマーケティング戦略を研究する。研究結果をその都度発表し、全員で討議する。		
【到達目標】 実際の企業のマーケティング戦略の策定を行うことにより、マーケティング・マネジメントの基本的な考え方およびマーケティング戦略を理解することを目指す。それに基づいて卒業論文に仕上げます。「社会でビジネスプロフェッショナルとして責任を果たせること」を目指します。		
【授業計画】 1. 自己テーマの発表・討議 (1) 2. 自己テーマの発表・討議 (2) 3. 自己テーマの発表・討議 (3) 4. マーケティング戦略の事例研究 (1) 5. マーケティング戦略の事例研究 (2) 6. 自己テーマの発表・討議 (4) 7. 自己テーマの発表・討議 (5) 8. 自己テーマの発表・討議 (6) 9. 自己テーマの発表・討議 (7) 10. 自己テーマの発表・討議 (8) 11. 自己テーマの発表・討議 (9) 12. マーケティング戦略の事例研究 (1) 13. マーケティング戦略の事例研究 (2) 14. マーケティング戦略の事例研究 (3) 15. まとめ		
【テキスト】 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』 コトラー&ケラー著、丸善出版。(ISBN：978-4-89471-659-9)		
【参考図書・参考資料等】 授業中に紹介します。		
【授業外学習】 テキストについてはあらかじめ読書し、ある程度理解しておく必要があります。		
【成績評価の方法】 発表、ゼミ活動への参加に基づいて評価する(100%)。 特に、テーマ発表、ゼミ活動への参加に基づいて、マーケティング・マネジメント、マーケティング戦略についてどの程度理解しているかに基づいて評価する。		

科目名 専門ゼミナールⅥn (林)		担当者 林 俊 克
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 ・地域（岡山を中心とする東瀬戸経済圏）の文化・経済発展支援に関する実践的な研究を行う。 ・コミュニケーション力，セルフブランディング力，英語力を身につける。 ・学術論文を執筆できるだけの能力を身につける。		
【授業の概要】 ・システムデザインマネジメントの研究と応用（主としてフューチャーセッション）を通じた地域活性化事例の創出 ・データサイエンス手法の研究と応用を通じた地域活性化事例の創出 をテーマに，調査・分析からビジネスプランニング，企画作成，提案までを実践的に行う。 併せて，フェイスブックの活用や地域活動への参加などを通じて，コミュニケーション力，セルフブランディング力，英語力のトレーニングも行う。		
【到達目標】 ・学術論文を執筆できるだけの能力を身につける。 ・商品・サービス開発やマーケティングに役立つ基礎的・実用的知識を身につけ，活用できるようになる。 ・グローバル人材になるために必要な入門的知識・技術を身につける。		
【授業計画】 1. 自主課題研究 2. 自主課題研究 3. 自主課題研究 4. 自主課題研究 5. 自主課題研究 6. 自主課題研究 7. 自主課題研究 8. 自主課題研究 9. 自主課題研究 10. 自主課題研究 11. 自主課題研究 12. 自主課題研究 13. 自主課題研究 14. 自主課題研究 15. 自主課題研究		
【テキスト】 担当教員が必要に応じてレジュメを配布する。（原則WEBにて配布）		
【参考図書・参考資料等】 ええ，会議が楽しいですが，なにか？—フューチャーセッションが会議を変える！2015/2 林 俊克 すぐできる！誰でもわかる！アクティブ・ラーニング—フューチャー・セッションでらくらく実践！—（就実 大学グローバルブック）2016/4/29 林 俊克，玉有朋子 JMPによる多変量データ活用術2008/9 廣野 元久，林 俊克 Excelで学ぶテキストマイニング入門2002/10 林 俊克 JMPによる統計解析入門2006/12 田久 浩志，小島 隆矢 学生へのメッセージ		
【授業外学習】 毎回の授業・実習に関連した簡単な課題（所要時間30分以内を想定，原則WEBにて回答）		
【成績評価の方法】 各回の授業態度と課題提出：100%		

科目名 専門ゼミナールⅥo (三浦)		担当者 三 浦 紗綾子
開講期 後期	単位 2単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 自分で考える能力を身につけることを目標に、多様な方法で学んでいく。		
[授業の概要] 目標達成のため、自分が興味あることを見つけ、それについてじっくり考えることを行っていく。具体的にはゼミ論Ⅱ(卒業論文)の準備を行っていく。 春期休業中にはゼミ論の発表会を行う。		
[到達目標] 自分で考える能力を身につけるのが専門ゼミナールⅥの目的である。		
[授業計画] 1. ゼミ論発表① 2. ゼミ論発表② 3. ゼミ論発表③ 4. ゼミ論発表④ 5. ゼミ論発表⑤ 6. ゼミ論発表⑥ 7. ゼミ論発表⑦ 8. ゼミ論発表⑧ 9. ゼミ論発表⑨ 10. ゼミ論発表⑩ 11. ゼミ論発表⑪ 12. ゼミ論発表⑫ 13. ゼミ論発表⑬ 14. ゼミ論発表⑭ 15. ゼミ論発表⑮		
[テキスト] 特になし		
[参考図書・参考資料等] <思考力を鍛えるための読み方・書き方の参考に> 荻谷剛彦(2002)『知的複眼思考法』講談社。 <正しい文章の書き方の参考に> 本多勝一(1982)『日本語の作文技術』朝日新聞社。(2005年の新装版でもよい) <書く以外の表現力をつけるために> 鴻上尚史(2003)『あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント』講談社。		
[授業外学習] レジュメ作成の時間を要する。		
[成績評価の方法] 提出されたレジュメ、及びゼミナールでの討議の内容・参加態度について、目標に照らした達成度で評価する。レジュメの提出、ゼミナールでの討議参加のために、ゼミへの出席は必須である。		

科目名 専門ゼミナールⅥp (八巻)		担当者 八 巻 恵 子
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 卒業研究		
[授業の概要] 各自の研究テーマに基づき論文執筆のための技術を身につける。フィールドワークを通じた情報収集の技術と定性情報を言語化する技術を身につけ、主体的に個人の研究を運営する		
[到達目標] 卒業論文の完成		
[授業計画] 1. ガイダンス：卒業研究論文の提出までの流れ確認 2. 目次の確認 3. 中間報告会① 4. 中間報告会② 5. 卒業研究の個別指導① 6. 卒業研究の個別指導② 7. 卒業研究の個別指導③ 8. 卒業研究の個別指導④ 9. 卒業研究の個別指導⑤ 10. 卒業研究の個別指導⑥ 11. 最終確認① 12. 最終確認② 13. 提出論文の口頭試問① 14. 提出論文の口頭試問② 15. 総評		
[テキスト] 各自のテーマに基づく参考文献や資料		
[参考図書・参考資料等] 各自の研究テーマに応じて適宜指示する		
[授業外学習] フィールドワーク，合宿，ワークショップ，講演会の参加など		
[成績評価の方法] 卒業研究の内容による評価		

科目名 留学プログラム		担当者 林 俊 克
開講期 後期	単位 8 単位	e-learningシステム ○
[授業のテーマ] 半期にわたる留学経験を通じて、グローバル視点で思考・行動することのできる素養を身につける。		
[授業の概要] ・留学先の授業に参加するとともに、自ら課題を設定し達成する。 ・本プログラムの受講（コース決定）に際して考慮する要件は以下のとおり。 ①心身ともに健康で留学に耐えられること ②一般社会人としての常識を有すること ③TOEIC 620点以上に相当する語学力があること ④渡航費と生活費が負担できること		
[到達目標] ・異文化を尊重し積極的に交流する意欲と能力を開発する。 ・自国とは異なる経済文化圏に関する経営的知見を深める。 ・自ら課題を解決する主体性を育む。 ・外国語コミュニケーション能力を高める。		
[授業計画] 1. 事前指導の受講 2. 準備講座への参加 3. プロジェクトマネジメント講座への参加 4. 提携大学への留学 5. 自ら設定した課題の遂行 6. 担当教員への定期的な進捗報告		
[テキスト] 担当教員が適宜案内する。		
[参考図書・参考資料等] 担当教員が適宜案内する。		
[授業外学習] 留学先国の文化理解についてのレポート 経営学関連の知識・技能の習得と実践についてのレポート グローバル的視野拡大のための自主課題レポート ITスキルを用いた上記課題に関するプレゼンテーション の作成を適宜進める。		
[成績評価の方法] 留学先国の文化理解についてのレポート（2000字程度）：25% 経営学関連の知識・技能の習得と実践についてのレポート（2000字程度）：25% グローバル的視野拡大のための自主課題レポート（2000字程度）：25% ITスキルを用いた上記課題に関するプレゼンテーション（10枚程度）：25% ※評価はルーブリック（達成度評価）方式で採点する。 なお、成績評価には含まれないが、これとは別に留学報告書の提出が単位認定の必須要件となる。		

科目名 長期インターンシップ	担当者 寺 本 佳 苗	
開講期 後期	単位 8 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 社会で活躍するためには、学部教育の早い段階で主体性を養い、社会を知ることでその後の学びを見通すことが必要である。長期インターンシッププログラムでは、様々な課題を解決する場を提供する。そこで失敗や成功の経験をし、さらにロールモデルとの触れ合いを通じて、社会人に必要とされる価値基準（行動規範）と自分自身との価値基準との違いを見て、どのようなマインドや視点の獲得が必要かを認識することが本実習の目的である。		
【授業の概要】 インターンシップの各派遣先において、設定されている研修プログラムに取り組む。内容については、Webclass上の専門実習募集要項を確認すること。なお、インターンシップを履修するためには、①「専門ゼミナールⅠ」の単位を取得し、②準備講座へ出席している必要がある。		
【到達目標】 ①社会・企業の実態に触れること ②経営学の専門知識を修得し実践すること ③主体性を持って経営学的課題に取り組むこと ④自らの考えをまとめ表現する能力を身につけること		
【授業計画】 1. 【インターンシップの流れ】 「専門ゼミナールⅠ」「インターンシップ準備講座」にて事前指導 ↓ インターンシップ先でのオリエンテーション ↓ 長期インターンシッププログラム実施 ※毎週金曜日は「専門ゼミナールⅡ」に出席すること ゼミには、日報、ウィークリー・レポート（週1度）、マンスリー・レポート（月1度）を持参すること インターンシップ実施中は担当者に日報の確認をして頂くこと ↓ レポート（下記①～③の課題レポート）、長期インターンシップ報告書、企業からの評価の提出 インターンシップに関するプレゼンテーション（下記④の課題）の実施 ↓ 成績評価・単位認定		
【テキスト】 指定しない。		
【参考図書・参考資料等】 指定しない。		
【授業外学習】 課題レポートⅠ～Ⅳを各自計画的に進めること。		
【成績評価の方法】 成績評価の対象は、本実習の到達目標にならって下記4点とする。 ①派遣先企業や関連産業の文化理解の課題（25%、2000字程度） ②インターンシップ運営委員会から認定を受けた企業別の研修課題（25%、2000字程度） ③自主課題による地域経済に関する視野拡大の課題（25%、2000字程度） ④ITスキルを用いた上記①、②、③の課題に関するプレゼンテーション 以上の課題は、単位の実質化のため、達成目標に対する到達度をルーブリック方式で採点する。 なお、成績評価には含まれないが、長期インターンシップ報告書と派遣先企業からの評価（就実大学長期インターンシップ評価報告書）の提出が単位認定の要件となるため、指定された期日までに必ず提出すること。		

資格課程

医療秘書

科目名 臨床検査と薬の知識		担当者 荒木博陽
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 臨床検査の目的、方法などの知識について理解する。併せて、薬の作用と副作用及び体内における吸収、代謝、排泄、または薬の投与の仕方等について学ぶ。		
【授業の概要】 医療秘書として知っておくべき基本的な臨床検査値と薬の名称及び薬理作用について講義する。		
【到達目標】 ・医療現場での診察、検査および治療に関わる臨床検査値を列挙し、それらの意味や基準値について説明できる。 ・各診療科における専門用語や薬剤名を列挙し、それらの意味と薬理作用を説明できる。		
【授業計画】 1. はじめに：臨床検査について 2. 臨床検査のいろいろ（Ⅰ） 3. 臨床検査のいろいろ（Ⅱ） 4. 医薬品の基礎知識 5. 薬の特徴（薬理作用と薬物動態） 6. 中枢神経系に作用する薬物と臨床検査値 7. 循環器系に作用する薬物と臨床検査値 8. 消化器系に作用する薬物と臨床検査値 9. 呼吸器系に作用する薬剤と臨床検査値 10. 代謝系に作用する薬剤と臨床検査値 11. 脂質異常症と臨床検査値 12. 感染症治療薬と臨床検査値 13. 癌に作用する薬剤と臨床検査値 14. 目に作用する薬剤と臨床検査値 15. その他の疾患に作用する薬剤と臨床検査値		
【テキスト】 中上光雄（代表著者）／日本医師会編，最新医療秘書講座 からだの構造と機能 臨床検査と薬の知識，株式会社メヂカルフレンド社，ISBN 978-4-8392-2168-3		
【参考図書・参考資料等】 適宜，紹介する。		
【授業外学習】 毎回の講義内容を復習し，臨床検査値と薬物の作用について理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 定期試験（70%）および講義に取り組む態度及び小テスト（30%）を総合的に評価する。		

科目名 医療にかかわる用語		担当者 毎 熊 隆 誉
開講期 後期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 医療秘書は患者の疾病、健康、および家族環境や地域医療に関する情報を理解し、病院や診療所における医療情報を適切に保管・管理して動かさなければならない。本講義では、患者に係る医療情報を、病院や診療所における診療、検査、治療、および臨床研究に役立てることが出来るようになるために、医療情報に関する知識を深め、その適切な取り扱い方について学ぶ。		
【授業の概要】 医療秘書として知っておくべき基本的な医学・医療用語、および保健や福祉など地域医療にかかわる用語についても解説していく。		
【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・患者の症状や身体機能にかかわる用語を列挙し、それらの意味を説明できる。 ・医療現場における診療、検査および治療にかかわる医療用語を列挙し、それらの意味と取り扱われる場面に ついて説明できる。 ・特定の診療科における専門用語を列挙し、それらの意味を説明できる。 ・患者情報や医療情報の重要性とそれらを取り扱う（保管・整理・使用）際の注意点について概説できる。 		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接と身体診察の課程と基本用語 2. 症状・診断にかかわる用語 3. 身体の解剖・生理にかかわる用語 4. 一般内科領域の用語 5. 一般外科・消化器外科・がん領域の用語 6. 循環器内科・心臓血管外科領域の用語 7. 脳神経外科・整形外科・リハビリテーション科領域の用語 8. 神経内科・精神神経科・耳鼻咽喉科領域の用語 9. 呼吸器科・感染症領域の用語 10. 産科・婦人科・泌尿器科領域の用語 11. 小児科領域の用語 12. 皮膚科・形成外科・眼科領域の用語 13. 検査・医薬品にかかわる用語 14. 保険・福祉・社会保障制度にかかわる用語 15. まとめ 		
【テキスト】 佐藤弥（代表著者）/日本医師会監修, 医療秘書講座3 医療にかかわる用語 コミュニケーション論, 株式会社メヂカルフレンド社, ISBN 978-4-8392-2169-0		
【参考図書・参考資料等】 適宜, 紹介する		
【授業外学習】 毎回の授業内容を予習復習し、関連資料を調査することで医療にかかわる専門用語の意味を理解しておくこと。		
【成績評価の方法】 定期試験（70%）および講義に取り組む態度と課題（30%）を総合的に評価する。		

科目名 コミュニケーション論		担当者 八 卷 恵 子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○ 講義で使うパワーポイント資料は 講義後にWebclassに掲載する。
【授業のテーマ】 医療秘書は治療の人間関係の形成をサポートするスタッフである。人間を対象とする専門組織の一員として、チームに不可欠なコミュニケーション力を身につけるために、理論学習と実技を通して技術を獲得する。		
【授業の概要】 自己理解・他者理解を通じて人間理解を深め、人間関係構築のためのコミュニケーションの理論を学び、演習を繰り返して基本的な技術を実践的に身につける。		
【到達目標】 医師や医療機関の経営者、管理者の活動を的確に補佐し、専門的知識・技能と豊かな人間性を兼ね備えた医療秘書についての理解を深めることを目標とする。コミュニケーション力はあらゆる分野で重要だが、とりわけビジネスにおいての技術の基本を理解して身につけることが目標である。		
【授業計画】 1. オリエンテーション 2. 印象とコミュニケーション 3. コミュニケーションの能力と医療組織への影響 4. コミュニケーションの基礎知識 5. 事実・考え・感情 6. 主訴は何か 7. コミュニケーション・プロセス 8. 自己覚知 9. 4つの窓 10. 確認しながら聴く 11. 共感力と対話力 12. 対話における留意点 13. コミュニケーションの記号化 14. 障がいのある人とのコミュニケーション 15. 患者・家族とのコミュニケーション		
【テキスト】 日本医師会監修『医療にかかわる用語・コミュニケーション論』メヂカルフレンド社、ISBN 978-4-8392-2169-0		
【参考図書・参考資料等】 津村俊充, 山口真人『人間関係トレーニングー私を育てる教育への人間学的アプローチ』 カール・ロジャーズ『クライアント中心療法』		
【授業外学習】 毎回の授業の前までに授業計画で示している部分について、テキストを読んでおくこと。 Webclassを使った自宅学習については適宜指示する。		
【成績評価の方法】 試験・レポート60%, 受講態度（実技への積極性）40%。 受講態度には、特に講義中のグループワークやロールプレイングの積極的な参加、ならびに課題の達成と技術向上を重視して評価することを含む。		

科目名 医療秘書概論		担当者 小原悦子
開講期 前期	単位 2単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 医師及びその診療に係る業務補佐を行い、医師及び医療関係者が本来の仕事がスムーズに行えるよう、医療秘書の役割や業務について学ぶことを目的とする。		
【授業の概要】 医療秘書の仕事の全体像を理解し、医療秘書の意義、立場、役割や業務について学ぶ。 講義だけでなく、学生への質問や意見を聞く双方向の授業とする。 また、現役医療スタッフをゲストスピーカーとして迎え、現場の話聞く。		
【到達目標】 医療秘書にふさわしい対応ができる医療秘書として、その役割や業務について学び、医療秘書としての心構えをもつことを目的とする。日本医師会認定医療秘書の医療秘書概論の試験に合格できることを目的とする。		
【授業計画】 1. 医療秘書とは何か 2. 医療秘書の歴史 3. 医療機関の種類 4. チーム医療・地域連携について 5. 医療機関における業務の流れ ※ゲストスピーカーによる講義 6. 病院情報システム管理 ※ゲストスピーカーによる講義 7. 医療秘書の形態 ※ゲストスピーカーによる講義 8. 医療秘書の業務 ※ゲストスピーカーによる講義 9. 医療秘書に求められる資質と能力・技術 10. 組織の一員としての意識 11. 医療秘書に求められるマナー 12. 仕事の進め方 13. これからの医療秘書 14. 医療秘書認定試験問題演習① 15. 医療秘書認定試験問題演習②		
【テキスト】 テキスト：医療秘書学概論 編集者：日本医師会 出版社：メヂカルフレンド社		
【参考図書・参考資料等】 なし		
【授業外学習】 地域や社会へ目を向け、医療、福祉の身近な問題に興味をもつことが望ましい。 新聞やニュースに興味をもつこと。		
【成績評価の方法】 定期試験70%、課題提出30%		

科目名 医療秘書実務 I		担当者 小 原 悦 子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 医療秘書としての身だしなみ、接遇、電話応対、受付業務、文書作成、文書管理などの庶務的業務や環境整備などを学ぶ。		
【授業の概要】 医療秘書として求められる幅広い具体的な実務を知識として理解し、実務や演習により習得する。		
【到達目標】 知識を実務としてできることを目的とする。 日本医師会医療秘書認定試験の医療秘書実務に合格することを目的とする。		
【授業計画】 1. 第一印象と身だしなみ 2. 挨拶、お辞儀、名刺交換 3. 聞き方、話し方 4. 敬語の基本 5. 言葉使い 6. 時と場に応じた言葉使い 7. 接遇と接遇の流れ 8. 受付、取り次ぎ、案内 9. 茶菓の接待、見送り 10. 医療機関での応対 11. 学会会場、慶弔関係における受付 12. 電話を受ける、かける 13. 電話を取り次ぐ、伝言を受ける 14. 電話応対の応用 15. 医療秘書認定試験問題演習		
【テキスト】 テキスト：医療秘書学概論 編集者：日本医師会 出版社：メヂカルフレンド社		
【参考図書・参考資料等】 なし		
【授業外学習】 授業で学習したことを自宅学習し、身につけるよう努力すること。		
【成績評価の方法】 定期試験70%、実技試験30%		

科目名 医療秘書実務Ⅱ		担当者 小原悦子
開講期 前期	単位 1単位	e-learningシステム ×
【授業のテーマ】 スケジュール管理, 会議, 文書作成から管理まで, 医療秘書の業務として必要な知識や実務を具体的に学ぶ。		
【授業の概要】 基本的な知識を知り, その知識を元に実際に相手に好感を与えながらできるように, ロールプレイングや演習を繰り返し行う。		
【到達目標】 知識を実務として行えることを目的とする。 日本医師会医療秘書認定試験に合格することを目的とする。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 文書作成の基本 2. 社外文書 3. 社内文書 4. 医療文書の作成 5. 受発信業務 6. 秘文書の取り扱い 7. E-mail 8. 文書管理 9. 医療情報の管理 10. 会議の準備 11. 会議中の対応 12. スケジュール管理 13. アポイントメントの取り方と受け方 14. 出張業務 15. 総合演習 		
【テキスト】 医療秘書学概論・実務 医療情報処理学 医療関係法規概論 編集／中村健壽 出版社／メヂカルフレンド社 ISBN：978-4-8392-2170-6		
【参考図書・参考資料等】 なし		
【授業外学習】 授業で学んだ知識を復習し, 習得すること。		
【成績評価の方法】 定期試験60%, 提出物30%		

科目名 医療情報処理学		担当者 原 田 龍 宜
開講期 前期	単位 2 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 医療業務に携わる者が必要となる情報技術について講義する。また、合わせて社会人として必須事項となるインターネットと関連した知識について学ぶ。(医療秘書)		
【授業の概要】 教科書『医療秘書概論』と『最新情報トピックス』の中で関連した部分を基本として、それに則した内容で講義を行う。		
【到達目標】 医療ロジスティクス／説明責任／インフォームドコンセント／EBM／RCTとメタアナリシス／クリニカルパス／DPC／カルテの構成／レセプト／レセプト病名／ORCA／紙カルテの運用／インターネットの仕組み／個人情報の取扱／電子メール／マルウェア／知的財産権／著作権／コンピュータと心体		
【授業計画】 1. 医療情報学とは 2. 説明責任とインフォームドコンセント 3. EBM 4. クリニカルパスとDPC 5. カルテの意味と整理法 6. レセプト 7. ORCA 8. 個人情報の取扱 9. メール利用について 10. Wikipediaなどの情報 11. コンピュータウイルス 12. インターネットを巡るトラブル 13. 知的財産権 14. ネット詐欺 15. コンピュータ利用での身体への影響		
【テキスト】 『最新医療秘書講座 5 医療秘書概論・実務/医療情報学/医療関係法規』、メヂカルフレンド社（新版）		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 授業で習った内容をインターネットなどを用いて詳細に調査しておくこと。		
【成績評価の方法】 受講態度（50%）と期末試験（50%）		

科目名 医療情報処理 I		担当者 原 田 龍 宜
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 医療に従事するために必要な情報技術の中で、主にワードプロセッサの技術について学ぶ。コンピュータを用いた実習授業である。(医療秘書)		
【授業の概要】 Microsoft WORD2010の基礎的な技術を修得することを目標とする。MOS検定スペシャリスト（一般）レベルを到達目標とする。		
【到達目標】 （すべてWORDについて）画面表示／保護／バージョン管理／共有／互換モード／テンプレート／段落の書式／スタイル／ナビゲーションウィンドウ／ジャンプ・検索・置換／インデント／タブ／文字・行・段落間隔／作表／行と列の操作／セルの結合／並び替え／箇条書き／段落番号／ページレイアウト／改ページ／セクション区切り／段組／テーマ／クイックパーツ／背景／ヘッダー・フッター／画像／スクリーンショット／図形／ワードアート／クリップアート／テキストボックス／スペルチェック／オートコレクト／コメント／脚注／目次／差し込み印刷		
【授業計画】 1. ウィンドウの表示設定 2. 文書の保護と共有 3. テンプレートの利用 4. フォントと段落インデント・タブの設定 5. 表の作成 6. 箇条書きと段落番号 7. 箇条書き 8. 段落番号 9. ページレイアウトの設定 10. ヘッダー・フッター 11. 図の挿入と作図 12. 文書校正機能の利用 13. ハイパーリンクの適用 14. 差し込み印刷の利用 15. まとめ		
【テキスト】 『Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2010 対策テキスト& 問題集（よくわかるマスター）』, FOM出版, ISBN-13: 978-4893118974		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 授業外でMOS検定の受験をすることを強く望む。		
【成績評価の方法】 受講態度（50%）と授業中に指示された提出物（50%）		

科目名 医療情報処理Ⅱ		担当者 原 田 龍 宜
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 医療に従事するために必要な情報技術の中で、主に表計算ソフトの技術について学ぶ。コンピュータを用いた実習授業である。(医療秘書)		
【授業の概要】 Microsoft Excel2010の基礎的な技術を修得することを目標とする。MOS検定スペシャリスト（一般）レベルを到達目標とする。		
【到達目標】 (Excelの) ワークシートの操作／印刷設定／ツールバー・リボンのカスタマイズ／ブックのプロパティの設定／データのコピー貼り付け／オートフィル／ハイパーリンク／セルの書式設定／セルの結合／行や列の非表示／スタイル／演算記号と数式／関数の利用／グラフ作成／作図／SmartArt／スパークライン／ブックの共有／オートフィルタ／並替／条件付き書式		
【授業計画】 1. Excelの環境管理 2. データセルの作成 3. セルの書式設定 4. ワークシートの管理 5. ビックの管理 6. 数式や関数の適用 7. グラフの作成 8. SmartArtとスパークライン 9. データの共有 10. データの抽出 11. 並べ替え 12. 条件付き書式 13. 模擬試験 14. 模擬試験 15. 模擬試験		
【テキスト】 Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2010 対策テキスト& 問題集 （よくわかるマスター），FOM出版，ISBN-13: 978-4893118967		
【参考図書・参考資料等】		
【授業外学習】 授業外でMOS検定の受験をすることを強く望む。		
【成績評価の方法】 受講態度（50%）と授業中に指示された提出物（50%）		

科目名 医療情報処理Ⅲ		担当者 川上 望・上田 恭子
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム
【授業のテーマ】 日医標準レセプトソフト（ORCA）、電子カルテ（Hi-SEED）等について演習を通じて学ぶ。		
【授業の概要】 レセプトコンピュータと電子カルテの動き、診療録や診療情報提供書について学習する。		
【到達目標】 日医標準レセプトソフト（ORCA）の入力操作、電子カルテのオーダー入力、代行入力、診療情報提供書の作成等を理解する。		
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保険診療のしくみ（上田） 2. レセプトコンピュータの概要（川上） 3. レセプトコンピュータと電子カルテの違い／電子カルテについて（上田） 4. 日医標準レセプトソフト（ORCA）患者登録・受付登録（川上） 5. 日医標準レセプトソフト（ORCA）操作の流れ（川上） 6. 診療録について（上田） 7. 日医標準レセプトソフト（ORCA）病名登録・診療行為（川上） 8. 日医標準レセプトソフト（ORCA）診療行為・訂正・DO（川上） 9. 電子カルテ（Hi-SEED）実践 所見（上田） 10. 電子カルテ（Hi-SEED）実践 オーダー（上田） 11. 電子カルテ（Hi-SEED）実践 修正（上田） 12. 医療文書について（診断書等作成）（上田） 13. 日医標準レセプトソフト（ORCA）レセプトチェック・レセプト作成・総括表（川上） 14. 日医標準レセプトソフト（ORCA）例題問題（川上） 15. 日医標準レセプトソフト（ORCA）最終確認（川上） 		
【テキスト】 別途指示する。		
【参考図書・参考資料等】 適宜指示する。		
【授業外学習】 適宜指示する。		
【成績評価の方法】 受講態度（50%）、内容理解（毎回授業の最後に小テストを行います）（50%）		

科目名 実務研修		担当者 八巻 恵子・小原 悦子
開講期 前期	単位 3単位	e-learningシステム ○
【授業のテーマ】 医療秘書の実務研修を病院の中で行う。医療の専門職としての医療秘書の業務や職業を体験的に理解するために、実務家から職業現場で指導を受ける。		
【授業の概要】 病院での5日間の実務研修。事前研修と事後研修は大学にて行う。		
【到達目標】 ①医療専門職としての医療秘書の業務について実践的に理解する，②医療現場で実務家から専門性の高い指導を受けることにより医療秘書の知識や役割についての理解を深める。		
【授業計画】 1. 事前研修（8月10日頃を予定） 2. 実務研修（9月前半～半ばの5日間を予定） 3. 事後研修：報告会（9月中を予定） 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.		
【テキスト】 必要な資料は適宜配布する。		
【参考図書・参考資料等】 大友達也編著『実習生のためのガイドブック』社会保険研究所。大友達也『医療事務実習の手引き』ヘルス・システム研究所。		
【授業外学習】 実習事前チェック表，実習計画書，実習日誌などの決められた書類の作成他。		
【成績評価の方法】 実務研修を行った病院の担当者による評価（50%），実習日誌（20%），報告会（30%）		

科目名 実務演習Ⅰ		担当者 田 辺 貴久子
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 診療報酬請求事務の講義・演習を行い、処理能力を養成する。		
[授業の概要] 診療報酬点数表を理解し、各項目の点数算定と診療報酬明細書について実践的に学ぶ。 ※テキストについては、改訂があるため、新テキスト購入の必要あり。		
[到達目標] 診療報酬算定における算定定理を理解し、正しく算定することができる。 各項目における診療報酬明細書の確認、点数欄への記載ができる。		
[授業計画] 1. オリエンテーション 講義概要～診療報酬請求事務とは・診療報酬点数とは～ 2. 診療報酬請求事務 ～初診料と再診料①～ 3. 診療報酬請求事務 ～初診料と再診料②～ 4. 診療報酬請求事務 ～投薬①～ 5. 診療報酬請求事務 ～投薬②～ 6. 診療報酬請求事務 ～注射①～ 7. 診療報酬請求事務 ～注射②～ 8. 診療報酬請求事務 ～検査①～ 9. 診療報酬請求事務 ～検査②～ 10. 診療報酬請求事務 ～検査③～ 11. 診療報酬請求事務 ～病理診断～ 12. 診療報酬請求事務 ～まとめ・診療報酬明細書記載①～ 13. 診療報酬請求事務 ～まとめ・診療報酬明細書記載②～ 14. 試験対策① 15. 試験対策②		
[テキスト] 編著者名 (株)ニチイ学館 書 名 医療事務講座 医科テキスト1・3・4 医療事務講座 医科スタディブック1 出版社 (株)東京丸の内出版 発行年 平成28年5月 編著者名 (株)社会保険研究所 書 名 医療事務講座 医科スタディブック2※改訂があるため、新テキスト 購入の必要あり。 出版社 (株)ニチイ学館 発行年 平成28年5月		
[参考図書・参考資料等]		
[授業外学習] 毎回の授業までに前回授業について、テキストを読んでおくこと 1 項目の学習ごとに点数算定復習プリントにて算定練習を行うこと（要提出）		
[成績評価の方法] 定期試験（100％）による評価		

科目名 実務演習Ⅱ		担当者 田 辺 貴久子
開講期 前期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 診療報酬請求事務の講義・演習を行い、処理能力を養成する。		
[授業の概要] 診療報酬点数表を理解し、各項目の点数算定と診療報酬明細書について実践的に学ぶ。 ※テキストについては、改訂があるため、新テキスト購入の必要あり。		
[到達目標] 診療報酬算定における算定定理を理解し、正しく算定することができる。 各項目における診療報酬明細書の確認、点数欄への記載ができる。		
[授業計画] 1. 診療報酬請求事務 ～画像診断①～ 2. 診療報酬請求事務 ～画像診断②～ 3. 診療報酬請求事務 ～処置①～ 4. 診療報酬請求事務 ～処置②～ 5. 診療報酬請求事務 ～リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療～ 6. 診療報酬請求事務 ～手術①～ 7. 診療報酬請求事務 ～手術②～ 8. 診療報酬請求事務 ～麻酔①～ 9. 診療報酬請求事務 ～麻酔②～ 10. 診療報酬請求事務 ～まとめ・診療報酬明細書記載①～ 11. 診療報酬請求事務 ～まとめ・診療報酬明細書記載②～ 12. 診療報酬請求事務 ～まとめ・診療報酬明細書記載③～ 13. 試験対策① 14. 試験対策② 15. 試験対策③		
[テキスト] 編著者名 (株)ニチイ学館 書 名 医療事務講座 医科テキスト3・4 医療事務講座 医科スタディブック1 出版社 (株)東京丸の内出版 発行年 平成28年5月 編著者名 (株)社会保険研究所 書 名 医療事務講座 医科スタディブック2※改訂があるため、新テキスト 購入の必要あり。 出版社 (株)ニチイ学館 発行年 平成28年5月		
[参考図書・参考資料等] 書 名 診療点数早見表[医科] (2016年4月版) 発行所 医学通信社 発行 2016年4月22日第1版第1刷 編集協力 杉本恵申 発行人 清水 尊		
[授業外学習] 毎回の授業までに前回授業について、テキストを読んでおくこと 1項目の学習ごとに点数計算復習プリントにて算定練習を行うこと		
[成績評価の方法] 定期試験 (80%)・宿題の提出 内容の理解 (20%) による評価		

科目名 実務演習Ⅲ		担当者 田 辺 貴久子
開講期 後期	単位 1 単位	e-learningシステム ×
[授業のテーマ] 診療報酬請求事務の講義・演習を行い、処理能力を養成する。		
[授業の概要] 診療報酬点数表を理解し、各項目の点数算定と診療報酬明細書について実践的に学ぶ。		
[到達目標] 診療報酬算定における算定定理を理解し、正しく算定することができる。 各項目における診療報酬明細書の確認、点数欄への記載ができる。		
[授業計画] 1. 診療報酬請求事務 ～医学管理等①～ 2. 診療報酬請求事務 ～医学管理等②～ 3. 診療報酬請求事務 ～在宅医療①～ 4. 診療報酬請求事務 ～在宅医療②～ 5. 診療報酬請求事務 ～入院～ 6. 診療報酬請求事務 ～まとめ・診療報酬明細書記載①～ 7. 診療報酬請求事務 ～まとめ・診療報酬明細書記載②～ 8. 診療報酬請求事務 ～算定定理まとめ①～ 9. 診療報酬請求事務 ～算定定理まとめ②～ 10. 診療報酬請求事務 ～算定定理まとめ③～ 11. 試験対策① 12. 試験対策② 13. 試験対策③ 14. 試験対策④ 15. 試験対策⑤		
[テキスト] 編著者名 (株)ニチイ学館 書 名 医療事務講座 医科テキスト3, 4 医療事務講座 医科スタディブック1 出版社 (株)東京丸の内出版 発行年 平成28年5月 編著者名 (株)社会保険研究所 書 名 医療事務講座 医科スタディブック2 出版社 (株)ニチイ学館 発行年 平成28年5月		
[参考図書・参考資料等] 書 名 診療点数早見表[医科] (2016年4月版) 発行所 医学通信社 発行 2016年4月22日第1版第1刷 編集協力 杉本恵申 発行人 清水 尊		
[授業外学習] 毎回の授業までに前回の授業について、テキストを読んでおくこと 1項目の学習ごとに点数算定復習プリントにて算定練習を行うこと		
[成績評価の方法] 定期試験同等のレポート提出 (80%)・宿題の提出 内容の理解 (20%) による評価		

索 引

英字

General English 1 a・b・c	97	からだの構造と機能 (=人体の構造と機能)	13
General English 2 a・b・c	98	環境と生命 (=病気と環境)	41
General English 3 a・b・c	99	環境と地球 (=化学と環境問題)	12
General English 4 a・b・c	100	観光人類学	181
General English 5a	101	観光マネジメント	164
General English 5b	102	漢字検定 1・2	45
General English 6 a	103	漢詩文の表現と心	43
General English 6 b	104	漢詩文の表現と思想	44
General English 7 a	105		
General English 7 b	106	き	
General English 8 a	107	企業財務分析論	174
General English 8 b	108	企業と社会	165
		企業論	156
		技術戦略論	192
		基礎経営論	7
		基礎経済学 (=経済と生活)	6
		キャリアデザイン論 (=キャリアデザイン論A)	37
		教育学概論 (中等)	67
		教育心理学 (人文・心理)	68
		教職論 (人文) (=教師論)	66
		協同組合論	160
		金融概論	154
		金融政策論	175
		け	
		経営学入門	140
		経営史入門	151
		経営戦略論 I	190
		経営戦略論入門	152
		経営組織論 I	191
		経営哲学入門	153
		経済学入門	142
		経済史	172
		経済統計分析	185
		原価計算	161
		健康・スポーツと社会 (=スポーツと社会)	28
		健康と衛生 (=健康と食品)	9
		健康と栄養	10
		現代教育の諸問題	57
		現代人とこころの障害 a・b	16
		現代生活と化学 (=生命と生活の化学)	40
		現代都市の魅力診断 a・b	56
		現代の女性環境	62
		現代の哲学と思想	53
あ			
アジアの民族誌	55		
い			
EU経済論	159		
異文化コミュニケーション 1～4	63		
医療関係法規概論	269		
医療情報処理 I	266		
医療情報処理 II	267		
医療情報処理 III	268		
医療情報処理学	265		
医療にかかわる用語	260		
医療秘書概論	262		
医療秘書実務 I	263		
医療秘書実務 II	264		
インターンシップ 1	38		
インターンシップ 2	39		
え			
英文ビジネスプレゼンテーション入門	147		
お			
欧米の世界と文化	77		
か			
会計学入門	138		
化学の世界と歴史	11		
価値開発工学論	186		
学校制度論	69		
からだの化学と生物学 (=いきものと物質)	42		

現代の倫理 (=現代人の倫理と価値観)	60
こ	
国際ビジネス入門	148
こころの健康科学 a・b	15
ことばの科学	73
コミュニケーション論	261
コラボレーション学修1 (いのちとは?)	78
コラボレーション学修2 (=生活に役立つ統計)	8
コンピューターリテラシー a・b	17
さ	
サービス・マーケティング	182
サービス人材論	157
財務会計	173
茶道1 a・b	48
茶道2 a・b	49
し	
思考・発想法入門	144
市場情報分析	188
自然地理学	64
実務演習 I	271
実務演習 II	272
実務演習 III	273
実務研修	270
社会学概論A (ジェンダーと社会)	5
社会学の世界と歴史	4
社会統計学	143
生涯学習概論 I (大学用)	70
商業学	179
商業学入門	149
証券市場論入門	155
消費者行動論 I	178
情報処理演習 1 a・b・c	22
情報処理演習 2 a・b	23
情報処理演習 2 c・d	24
情報と社会	18
情報と表現	21
情報と文化 a	19
情報と文化 b	20
初級簿記	145
女性の生活と歴史	61
書道 1 a・b	46

書道 2 a・b	47
人権の現代的課題 a・b	1
新製品開発論	183
身体運動と健康の科学 a・b (=スポーツと健康)	27
心理学 1	58
心理学 2	59
人類学の世界と歴史	54
す	
スタートアップ就実	72
スポーツ 2 a	29
スポーツ 2 b	30
スポーツ 2 c	31
スポーツ 2 d	32
スポーツ 3 a	33
スポーツ 3 b	34
スポーツ 4 a	35
スポーツ 4 b・c	36
せ	
政治学概論	75
税法概論	167
生命機能のプログラム (～命と病～)	14
専門ゼミナール I	196
専門ゼミナール II	197
専門ゼミナール III a (青山)	199
専門ゼミナール III b (大倉)	200
専門ゼミナール III c (大崎)	201
専門ゼミナール III d (加賀美)	202
専門ゼミナール III e (江)	203
専門ゼミナール III f (三枝)	204
専門ゼミナール III g (櫻木)	205
専門ゼミナール III h (真田)	206
専門ゼミナール III j (鈴木)	207
専門ゼミナール III l (寺本)	208
専門ゼミナール III m (野本)	209
専門ゼミナール III n (林)	210
専門ゼミナール III o (三浦)	211
専門ゼミナール III p (八巻)	212
専門ゼミナール IV a (青山)	213
専門ゼミナール IV b (大倉)	214
専門ゼミナール IV c (大崎)	215
専門ゼミナール IV d (加賀美)	216
専門ゼミナール IV e (江)	217

専門ゼミナールIVf (三枝)	218	中級簿記	146
専門ゼミナールIV g (櫻木)	219	中国語入門 1	109
専門ゼミナールIV h (真田)	220	中国語入門 2	110
専門ゼミナールIV j (鈴木)	221	中国語入門 3	111
専門ゼミナールIV l (寺本)	222	中国語入門 4	112
専門ゼミナールIV m (野本)	223	中国の市場と企業	158
専門ゼミナールIV n (林)	224	長期インターンシップ	258
専門ゼミナールIV o (三浦)	225		
専門ゼミナールIV p (八巻)	226	つ	
専門ゼミナールVa (青山)	227	ツーリズム・コミュニケーション	162
専門ゼミナールV b (大倉)	228		
専門ゼミナールV c (大崎)	229	て	
専門ゼミナールV d (加賀美)	230	データサイエンス入門	137
専門ゼミナールV e (江)	231		
専門ゼミナールV f (三枝)	232	と	
専門ゼミナールV g (櫻木)	233	ドイツ語講読入門 1	83
専門ゼミナールV h (真田)	234	ドイツ語講読入門 2	84
専門ゼミナールVi (杉山)	235	ドイツ語文法入門 1	81
専門ゼミナールVIa (青山)	242	ドイツ語文法入門 2	82
専門ゼミナールVI b (大倉)	243	導入ゼミナール I	195
専門ゼミナールVI c (大崎)	244	導入ゼミナール II	196
専門ゼミナールVI d (加賀美)	245	特別講義 I	176
専門ゼミナールVI e (江)	246	特別講義II シリコンバレーとイノベーション	177
専門ゼミナールVI f (三枝)	247	図書館概論 (大学用)	71
専門ゼミナールVI g (櫻木)	248		
専門ゼミナールVI h (真田)	249	に	
専門ゼミナールVI i (杉山)	250	日本語 1 (留学生・帰国子女のみ)	133
専門ゼミナールVI j (鈴木)	251	日本語 2 (留学生・帰国子女のみ)	134
専門ゼミナールVI l (寺本)	252	日本語 3 (留学生・帰国子女のみ)	135
専門ゼミナールVI m (野本)	253	日本語 4 (留学生・帰国子女のみ)	136
専門ゼミナールVI n (林)	254	日本国憲法 a・b	3
専門ゼミナールVI o (三浦)	255	日本事情 3 (留学生・帰国子女のみ)	25
専門ゼミナールVI p (八巻)	256	日本事情 4 (留学生・帰国子女のみ)	26
専門ゼミナールV j (鈴木)	236	日本伝統の折紙の科学	79
専門ゼミナールV l (寺本)	237	日本文化論 1	50
専門ゼミナールV m (野本)	238	日本文化論 2	51
専門ゼミナールV n (林)	239		
専門ゼミナールV o (三浦)	240	の	
専門ゼミナールV p (八巻)	241	農業経営論	163
		農業経済学入門	150
		農村調査	189
ち		は	
地域マーケティング論	184	博物館概論	65
地球と宇宙のサイエンス	76		
知的所有権	166		

ハンゲル講読入門 1 a・b・e	130
ハンゲル講読入門 2 a・b・d・e	131
ハンゲル講読入門 2 c	132
ハンゲル文法入門 1 a	125
ハンゲル文法入門 1 b・d・e	126
ハンゲル文法入門 1 c	127
ハンゲル文法入門 2 a	128
ハンゲル文法入門 2 b・e	129

ひ

ビジネス・エコノミクス (=経営経済学)	170
ビジネス・プランニング	187

ふ

フランス語講読入門 1 a	91
フランス語講読入門 1 b	92
フランス語講読入門 2 a	93
フランス語講読入門 2 b	94
フランス語講読入門 2 c	95
フランス語講読入門 2 d	96
フランス語文法入門 1 a	85
フランス語文法入門 1 b	86
フランス語文法入門 1 c	87
フランス語文法入門 1 d	88
フランス語文法入門 2 a	89
フランス語文法入門 2 b	90
プロジェクト・マネジメント	193

ほ

法学	2
法と経済	171
ポピュラー音楽の歴史	52

ま

マーケティング・コミュニケーション	180
マーケティング入門	139
マーケティングリサーチ入門	141
マクロ経済学	169

み

ミクロ経済学	168
--------	-----

り

リーダーシップ論	194
----------	-----

留学対策講座 (英語) 1 a	113
留学対策講座 (英語) 1 b	114
留学対策講座 (英語) 2 a	115
留学対策講座 (英語) 2 b	116
留学対策講座 (英語) 3 a	117
留学対策講座 (英語) 3 b	118
留学対策講座 (英語) 4 a	119
留学対策講座 (英語) 4 b	120
留学対策講座 (中国語) 1	121
留学対策講座 (中国語) 2	122
留学対策講座 (中国語) 3	123
留学対策講座 (中国語) 4	124
留学プログラム	257
臨床検査と薬の知識	259

ろ

労働と社会	74
-------	----

SYLLABUS 2018

就実大学経営学部

